

茨城県教育財団文化財調査報告第152集

北浦複合団地造成事業地内  
埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

木工台遺跡 2  
(下 卷)

平成 11 年 7 月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第152集

# 北浦複合団地造成事業地内 埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

ほっくだい  
木工台遺跡 2  
(下 卷)

平成 11 年 7 月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

# 目 次

## — 下 卷 —

1 壑穴住居跡……………	397
(第213～256号住居跡)	
2 鍛冶工房跡……………	545
3 掘立柱建物跡及び柱穴群……………	547
4 土 坑……………	560
5 地下式墳……………	573
6 溝……………	581
7 不明遺構……………	586
8 遺構外出土遺物……………	589
第4節 ま と め……………	601
付 章……………	619
写真図版	

## 下 卷 挿 図 目 次

第300図 第213号住居跡実測図……………	397	第315図 第218B号住居跡実測図……………	417
第301図 第213号住居跡出土遺物実測図……………	398	第316図 第218B号住居跡出土遺物実測図……………	418
第302図 第214号住居跡実測図……………	401	第317図 第219号住居跡実測図……………	420
第303図 第214号住居跡出土遺物実測図……………	402	第318図 第219号住居跡出土遺物実測図……………	421
第304図 第215号住居跡実測図……………	403	第319図 第220号住居跡実測図……………	423
第305図 第215号住居跡出土遺物実測図……………	404	第320図 第220号住居跡出土遺物実測図……………	423
第306図 第216号住居跡実測図(1)……………	405	第321図 第221号住居跡実測図……………	424
第307図 第216号住居跡実測図(2)……………	406	第322図 第221号住居跡出土遺物実測図……………	425
第308図 第216号住居跡出土遺物実測図(1)……………	407	第323図 第222号住居跡実測図……………	427
第309図 第216号住居跡出土遺物実測図(2)……………	408	第324図 第222号住居跡出土遺物実測図……………	428
第310図 第217号住居跡実測図……………	410	第325図 第223号住居跡実測図……………	429
第311図 第217号住居跡出土遺物実測図……………	411	第326図 第223号住居跡出土遺物実測図……………	429
第312図 第218A号住居跡実測図……………	413	第327図 第224A号住居跡実測図……………	431
第313図 第218A号住居跡出土遺物実測図(1)……………	414	第328図 第224A号住居跡出土遺物実測図……………	432
第314図 第218A号住居跡出土遺物実測図(2)……………	415	第329図 第224B号住居跡実測図……………	434

第 330 图	第224 B号住居跡出土遺物実測図	435	第 368 图	第235号住居跡出土遺物実測図(9)	481
第 331 图	第225号住居跡実測図	437	第 369 图	第236 A号住居跡実測図	488
第 332 图	第225号住居跡出土遺物実測図(1)	438	第 370 图	第236 A号住居跡出土遺物実測図	489
第 333 图	第225号住居跡出土遺物実測図(2)	439	第 371 图	第236 B号住居跡実測図(1)	491
第 334 图	第226号住居跡実測図	441	第 372 图	第236 B号住居跡実測図(2)	492
第 335 图	第228号住居跡実測図	442	第 373 图	第236 B号住居跡出土遺物実測図	493
第 336 图	第228号住居跡出土遺物実測図	443	第 374 图	第237 A号住居跡実測図	495
第 337 图	第229号住居跡実測図	444	第 375 图	第237 A号住居跡出土遺物実測図	496
第 338 图	第229号住居跡出土遺物実測図	445	第 376 图	第237 B号住居跡実測図	498
第 339 图	第230 A号住居跡実測図(1)	447	第 377 图	第237 B号住居跡出土遺物実測図(1)	499
第 340 图	第230 A号住居跡実測図(2)	448	第 378 图	第237 B号住居跡出土遺物実測図(2)	500
第 341 图	第230 A号住居跡出土遺物実測図	448	第 379 图	第237 D号住居跡実測図	501
第 342 图	第230 B号住居跡実測図	450	第 380 图	第237 D号住居跡出土遺物実測図	503
第 343 图	第230 B号住居跡出土遺物実測図	451	第 381 图	第238号住居跡実測図	505
第 344 图	第231号住居跡実測図	452	第 382 图	第238号住居跡出土遺物実測図	506
第 345 图	第231号住居跡出土遺物実測図	453	第 383 图	第240号住居跡実測図	508
第 346 图	第232号住居跡実測図	455	第 384 图	第240号住居跡出土遺物実測図	509
第 347 图	第232号住居跡出土遺物実測図	456	第 385 图	第241号住居跡実測図	510
第 348 图	第233号住居跡実測図	458	第 386 图	第242号住居跡実測図	511
第 349 图	第233号住居跡出土遺物実測図	460	第 387 图	第243号住居跡実測図	512
第 350 图	第234 A号住居跡実測図	461	第 388 图	第243号住居跡出土遺物実測図	513
第 351 图	第234 A号住居跡出土遺物実測図	462	第 389 图	第244 A号住居跡・出土遺物実測図	515
第 352 图	第234 B号住居跡実測図	463	第 390 图	第244 C号住居跡実測図	516
第 353 图	第234 B号住居跡出土遺物実測図	464	第 391 图	第245号住居跡実測図	517
第 354 图	第234 C号住居跡出土遺物実測図	465	第 392 图	第245号住居跡出土遺物実測図	518
第 355 图	第234 C号住居跡実測図	466	第 393 图	第246号住居跡実測図	519
第 356 图	第234 D号住居跡実測図	467	第 394 图	第246号住居跡出土遺物実測図	520
第 357 图	第234 D号住居跡出土遺物実測図	468	第 395 图	第247号住居跡実測図	521
第 358 图	第235号住居跡実測図(1)	470	第 396 图	第247号住居跡出土遺物実測図	522
第 359 图	第235号住居跡実測図(2)	471	第 397 图	第248号住居跡実測図(1)	523
第 360 图	第235号住居跡出土遺物実測図(1)	473	第 398 图	第248号住居跡実測図(2)	524
第 361 图	第235号住居跡出土遺物実測図(2)	474	第 399 图	第248号住居跡出土遺物実測図	524
第 362 图	第235号住居跡出土遺物実測図(3)	475	第 400 图	第249号住居跡実測図	526
第 363 图	第235号住居跡出土遺物実測図(4)	476	第 401 图	第249号住居跡出土遺物実測図	527
第 364 图	第235号住居跡出土遺物実測図(5)	477	第 402 图	第250号住居跡実測図	528
第 365 图	第235号住居跡出土遺物実測図(6)	478	第 403 图	第250号住居跡出土遺物実測図	529
第 366 图	第235号住居跡出土遺物実測図(7)	479	第 404 图	第251号住居跡実測図	530
第 367 图	第235号住居跡出土遺物実測図(8)	480	第 405 图	第251号住居跡出土遺物実測図	531

第406図	第252号住居跡実測図	532	第427図	土坑・第1号井戸状遺構実測図(2)	567
第407図	第252号住居跡出土遺物実測図	532	第428図	土坑出土遺物実測図(1)	568
第408図	第253号住居跡実測図	533	第429図	土坑出土遺物実測図(2)	569
第409図	第253号住居跡出土遺物実測図	535	第430図	土坑出土遺物実測図(3)	570
第410図	第254号住居跡・出土遺物実測図	536	第431図	第1・2号地下式竈実測図	574
第411図	第255号住居跡実測図	538	第432図	溝・出土遺物実測図	584
第412図	第255号住居跡出土遺物実測図	538	第433図	第1号不明遺構・出土遺物実測図	587
第413図	第256号住居跡実測図	539	第434図	第2号不明遺構実測図	588
第414図	第256号住居跡出土遺物実測図	540	第435図	第2号不明遺構出土遺物実測図	589
第415図	第3号鍛冶工房跡実測図	546	第436図	遺構外出土遺物実測図(1)	590
第416図	第3号鍛冶工房跡出土遺物実測図	547	第437図	遺構外出土遺物実測図(2)	591
第417図	第2号掘立柱建物跡・出土遺物 実測図	548	第438図	遺構外出土遺物実測図(3)	592
第418図	第3号掘立柱建物跡実測図	549	第439図	遺構外出土遺物実測図(4)	593
第419図	第4号掘立柱建物跡実測図	550	第440図	遺構外出土遺物実測図(5)	594
第420図	第5号掘立柱建物跡実測図	551	第441図	遺構外出土遺物実測図(6)	595
第421図	第6号掘立柱建物跡・出土遺物 実測図	553	第442図	遺構外出土遺物実測図(7)	596
第422図	第7号掘立柱建物跡実測図	554	第443図	木工台3～5期の土器群	608
第423図	第8号掘立柱建物跡実測図	556	第444図	木工台6～8期の土器群	609
第424図	第9・10号掘立柱建物跡・出土遺物 実測図	557	第445図	木工台9～11期の土器群	610
第425図	柱穴群実測図	559	第446図	木工台12～14期の土器群	611
第426図	土坑実測図(1)	566	第447図	木工台15～18期の土器群	612
			第448図	木工台遺跡集落変遷図1	613
			第449図	木工台遺跡集落変遷図2	615

## 下 卷 表 目 次

表2	木工台遺跡住居跡一覧表	541	表5	木工台遺跡土坑一覧表	575
表3	木工台遺跡掘立柱建物跡一覧表	558	表6	木工台遺跡溝一覧表	585
表4	木工台遺跡柱穴群柱穴計測表	558			

## 写真図版目次

P L 1	木工台遺跡遠景, 木工台遺跡全景	P L 3	第109A号住居跡竈遺物出土状況, 第109B号住居跡, 第109B号住居跡遺物出土状況
P L 2	第108号住居跡, 第108号住居跡遺物出土状況, 第109A号住居跡	P L 4	第110A号住居跡, 第110A号住居跡遺物出

- 土狀況, 第110A号住居跡竈遺物出土狀況
- P L 5 第110B号住居跡, 第111号住居跡, 第111号住居跡遺物出土狀況
- P L 6 第112·113·114号住居跡, 第112号住居跡, 第112号住居跡遺物出土狀況, 第112号住居跡竈
- P L 7 第112号住居跡遺物出土狀況, 第113号住居跡, 第114号住居跡遺物出土狀況
- P L 8 第115号住居跡, 第115号住居跡遺物出土狀況, 第116A号住居跡
- P L 9 第118号住居跡, 第118号住居跡竈遺物出土狀況, 第119号住居跡
- P L 10 第120A·120C·120D·120E号住居跡, 第120C号住居跡遺物出土狀況, 第120E号住居跡遺物出土狀況, 第120E号住居跡竈遺物出土狀況
- P L 11 第121号住居跡, 第121号住居跡遺物出土狀況, 第122号住居跡
- P L 12 第122号住居跡遺物出土狀況, 第123A号住居跡, 第123A号住居跡遺物出土狀況
- P L 13 第125A·125B·125C号住居跡遺物出土狀況, 第126A·126B号住居跡, 第126A·126B号住居跡遺物出土狀況
- P L 14 第127A·127B·127C·127D号住居跡, 第127A·127B·127C·127D号住居跡遺物出土狀況, 第127C号住居跡, 第127A号住居跡遺物出土狀況, 第127C号住居跡竈遺物出土狀況
- P L 15 第127D号住居跡, 第128号住居跡遺物出土狀況, 第128号住居跡遺物出土狀況
- P L 16 第128号住居跡遺物出土狀況, 第130号住居跡, 第130号住居跡遺物出土狀況
- P L 17 第131号住居跡遺物出土狀況, 第131号住居跡竈遺物出土狀況, 第132A号住居跡
- P L 18 第132A·132B·133号住居跡, 第132A号住居跡遺物出土狀況, 第132A号住居跡遺物出土狀況, 第132A号住居跡竈遺物出土狀況, 第133号住居跡
- P L 19 第133号住居跡遺物出土狀況
- P L 20 第133号住居跡竈遺物出土狀況, 第134A·134B号住居跡, 第134A号住居跡遺物出土狀況
- P L 21 第134C·134D号住居跡, 第135A号住居跡, 第135A号住居跡遺物出土狀況
- P L 22 第135A·135B·136C号住居跡, 第135B号住居跡, 第135B·136C号住居跡遺物出土狀況, 第135B号住居跡竈遺物出土狀況, 第136C号住居跡遺物出土狀況
- P L 23 第136A号住居跡, 第136B号住居跡, 第136B号住居跡遺物出土狀況
- P L 24 第136D·136E号住居跡, 第137号住居跡, 第137号住居跡遺物出土狀況
- P L 25 第138B·138C号住居跡, 第138B号住居跡遺物出土狀況, 第138C号住居跡, 第138C号住居跡遺物出土狀況
- P L 26 第138A号住居跡, 第138A号住居跡遺物出土狀況, 第139号住居跡
- P L 27 第139号住居跡遺物出土狀況, 第140号住居跡
- P L 28 第141号住居跡, 第141号住居跡遺物出土狀況, 第142号住居跡竈遺物出土狀況
- P L 29 第144号住居跡, 第144号住居跡遺物出土狀況, 第144号住居跡竈
- P L 30 第144号住居跡遺物出土狀況, 第145A号住居跡, 第145B号住居跡
- P L 31 第145C·145D号住居跡, 第148号住居跡遺物出土狀況, 第148号住居跡竈遺物出土狀況
- P L 32 第149号住居跡, 第149号住居跡遺物出土狀況
- P L 33 第149号住居跡竈遺物出土狀況, 第150A号住居跡, 第150B号住居跡
- P L 34 第150B号住居跡遺物出土狀況, 第150C号住居跡
- P L 35 第150C号住居跡竈遺物出土狀況, 第150D号住居跡, 第151号住居跡

- P L 36 第151号住居跡遺物出土狀況, 第152号住居跡
- P L 37 第152号住居跡遺物出土狀況, 第153号住居跡, 第153号住居跡遺物出土狀況
- P L 38 第154号住居跡, 第154号住居跡遺物出土狀況
- P L 39 第155A号住居跡, 第155B号住居跡, 第156号住居跡
- P L 40 第156号住居跡遺物出土狀況, 第157号住居跡
- P L 41 第157号住居跡遺物出土狀況, 第158号住居跡
- P L 42 第158号住居跡遺物出土狀況
- P L 43 第158号住居跡遺物出土狀況, 第160号住居跡
- P L 44 第160号住居跡遺物出土狀況, 第161A号住居跡
- P L 45 第161B号住居跡, 第162号住居跡, 第163号住居跡
- P L 46 第163号住居跡遺物出土狀況, 第163号住居跡竈遺物出土狀況, 第164・165号住居跡
- P L 47 第164・165号住居跡遺物出土狀況, 第164号住居跡遺物出土狀況, 第165号住居跡遺物出土狀況
- P L 48 第165号住居跡竈遺物出土狀況, 第166A・166B号住居跡, 第166A号住居跡遺物出土狀況
- P L 49 第166A号住居跡遺物出土狀況, 第166B号住居跡
- P L 50 第166B号住居跡竈遺物出土狀況, 第167号住居跡, 第168号住居跡
- P L 51 第168号住居跡遺物出土狀況
- P L 52 第168B号住居跡, 第169号住居跡, 第170A号住居跡
- P L 53 第171号住居跡, 第171号住居跡遺物出土狀況
- P L 54 第171号住居跡遺物出土狀況, 第172号住居跡, 第172号住居跡遺物出土狀況
- P L 55 第173号住居跡, 第173号住居跡遺物出土狀況
- P L 56 第173号住居跡遺物出土狀況, 第174号住居跡, 第174号住居跡遺物出土狀況
- P L 57 第174号住居跡遺物出土狀況, 第177号住居跡, 第178号住居跡
- P L 58 第178号住居跡遺物出土狀況, 第179号住居跡
- P L 59 第179号住居跡遺物出土狀況
- P L 60 第181A・181B号住居跡, 第181A号住居跡, 第181A号住居跡遺物出土狀況
- P L 61 第181B号住居跡, 第181B号住居跡遺物出土狀況, 第182号住居跡遺物出土狀況
- P L 62 第182号住居跡, 第183A号住居跡遺物出土狀況, 第183B号住居跡
- P L 63 第186A・186B号住居跡遺物出土狀況, 第186A・186B号住居跡, 第186C・186D号住居跡, 第186B号住居跡竈遺物出土狀況
- P L 64 第188A号住居跡, 第188A号住居跡竈遺物出土狀況, 第188B号住居跡
- P L 65 第188B号住居跡遺物出土狀況, 第189A号住居跡, 第193A号住居跡
- P L 66 第193A号住居跡遺物出土狀況, 第193B号住居跡遺物出土狀況, 第193C号住居跡, 第193A・193B・193C号住居跡
- P L 67 第194号住居跡, 第194号住居跡竈袖部遺物出土狀況, 第200号住居跡
- P L 68 第202号住居跡, 第203D号住居跡, 第204号住居跡
- P L 69 第204号住居跡遺物出土狀況, 第205号住居跡
- P L 70 第205号住居跡竈遺物出土狀況, 第208号住居跡遺物出土狀況
- P L 71 第208号住居跡遺物出土狀況, 第209A・209B号住居跡, 第209A号住居跡遺物出土狀況
- P L 72 第209B号住居跡遺物出土狀況, 第210号住居跡, 第210号住居跡遺物出土狀況

- P L 73 第211号住居跡, 第211号住居跡遺物出土狀況, 第213号住居跡
- P L 74 第213号住居跡遺物出土狀況, 第214号住居跡
- P L 75 第214号住居跡遺物出土狀況, 第215号住居跡
- P L 76 第216号住居跡, 第216号住居跡遺物出土狀況
- P L 77 第217号住居跡, 第217号住居跡遺物出土狀況, 第218A号住居跡
- P L 78 第218B号住居跡遺物出土狀況, 第218A号住居跡遺物出土狀況, 第218A号住居跡遺物出土狀況, 第218B号住居跡
- P L 79 第219号住居跡, 第219号住居跡遺物出土狀況, 第220号住居跡
- P L 80 第221号住居跡, 第224B号住居跡遺物出土狀況, 第225号住居跡
- P L 81 第225号住居跡遺物出土狀況, 第229号住居跡遺物出土狀況, 第230A号住居跡
- P L 82 第230B号住居跡, 第231号住居跡, 第232号住居跡
- P L 83 第232号住居跡遺物出土狀況, 第232号住居跡遺物
- P L 84 第233号住居跡, 第233号住居跡遺物出土狀況
- P L 85 第234A号住居跡, 第234B号住居跡, 第234B号住居跡遺物出土狀況
- P L 86 第234B号住居跡遺物出土狀況, 第234C号住居跡, 第234C号住居跡遺物出土狀況
- P L 87 第235号住居跡, 第235号住居跡遺物出土狀況
- P L 88 第236A号住居跡, 第236B号住居跡, 第236B号住居跡遺物出土狀況
- P L 89 第236B号住居跡遺物出土狀況, 第236B号住居跡遺物出土狀況, 第237A号住居跡
- P L 90 第237A号住居跡遺物出土狀況, 第237A号住居跡遺物出土狀況, 第237A号住居跡遺物出土狀況, 第237A号住居跡遺物出土狀況
- P 1 内羽口出土狀況
- P L 91 第237B号住居跡, 第237B号住居跡遺物出土狀況
- P L 92 第237D号住居跡, 第237D号住居跡遺物出土狀況, 第238号住居跡
- P L 93 第3号鍛冶工房跡, 第3号鍛冶工房跡P1, 第241号住居跡
- P L 94 第242号住居跡, 第243号住居跡, 第243号住居跡遺物出土狀況
- P L 95 第243号住居跡遺物出土狀況, 第244A・244B号住居跡, 第244B号住居跡
- P L 96 第245号住居跡, 第245号住居跡遺物出土狀況, 第246号住居跡
- P L 97 第247号住居跡, 第248号住居跡, 第249号住居跡
- P L 98 第250号住居跡, 第251号住居跡, 第252号住居跡
- P L 99 第253号住居跡, 第253号住居跡遺物出土狀況
- P L 100 第253号住居跡遺物出土狀況, 第254号住居跡, 第254号住居跡遺物出土狀況
- P L 101 第255号住居跡, 第255号住居跡遺物出土狀況, 第256号住居跡
- P L 102 第2~5, 7~10号掘立柱建物跡
- P L 103 柱穴群, 第182号土坑, 第221号土坑, 第456号土坑, 第1号地下式墳, 第2号地下式墳
- P L 104 第457号土坑, 第178号土坑, 第395号土坑, 第250号土坑, 第251号土坑, 第252号土坑, 第450号土坑, 第460号土坑
- P L 105 第451号土坑, 第1号并戸遺構, 第35~37号溝, 第40号溝, 第44号溝, 第47号溝
- P L 106 第108・109A・109B・110号住居跡出土遺物
- P L 107 第110・111・112号住居跡出土遺物
- P L 108 第112・113・114・115号住居跡出土遺物
- P L 109 第115・116A・116B・118・119・120A~120E号住居跡出土遺物
- P L 110 第120E・121・122・123A号住居跡出土遺物
- P L 111 第120E・124号住居跡出土遺物



- P L 112 第125A · 125B · 126A · 126B · 127A ~ 127D · 128号住居跡出土遺物
- P L 113 第129 · 131 · 132A · 132B · 133号住居跡出土遺物
- P L 114 第133号住居跡出土遺物
- P L 115 第133 · 134A · 134B号住居跡出土遺物
- P L 116 第134B · 134C · 135A · 135B · 136A · 136B号住居跡出土遺物
- P L 117 第136C · 136D · 137 · 138A · 138B号住居跡出土遺物
- P L 118 第139 · 141 · 142 · 144 · 145A号住居跡出土遺物
- P L 119 第148 · 149 · 150A · 150B号住居跡出土遺物
- P L 120 第150B ~ 150D · 151 ~ 154号住居跡出土遺物
- P L 121 第157 · 158号住居跡出土遺物
- P L 122 第158号住居跡出土遺物
- P L 123 第160 · 161A · 163 ~ 165号住居跡出土遺物
- P L 124 第165 · 166A · 166B号住居跡出土遺物
- P L 125 第166B · 167 · 168A · 169A · 170 · 171号住居跡出土遺物
- P L 126 第171 · 172号住居跡出土遺物
- P L 127 第173 · 174号住居跡出土遺物
- P L 128 第174 · 177 ~ 179号住居跡出土遺物
- P L 129 第179 · 181A · 181B · 183A号住居跡出土遺物
- P L 130 第183A · 183B · 184 · 186A号住居跡出土遺物
- P L 131 第186A · 186B · 187A · 188B号住居跡出土遺物
- P L 132 第188B · 190 · 193A · 193B · 194号住居跡出土遺物
- P L 133 第193D · 194 · 200 · 202 · 203D · 204号住居跡出土遺物
- P L 134 第204 · 205 · 208号住居跡出土遺物
- P L 135 第208号住居跡出土遺物
- P L 136 第208号住居跡出土遺物
- P L 137 第208 · 209A · 209B · 210 · 211 · 213号住居跡出土遺物
- P L 138 第213 ~ 216号住居跡出土遺物
- P L 139 第216, 217号住居跡出土遺物
- P L 140 第217 · 218A · 218B号住居跡出土遺物
- P L 141 第218A · 219 · 221 · 222 · 224A · 224B号住居跡出土遺物
- P L 142 第224B · 225号住居跡出土遺物
- P L 143 第229 · 230A · 230B · 231 · 232号住居跡出土遺物
- P L 144 第232 · 233 · 234A号住居跡出土遺物
- P L 145 第233 · 235号住居跡出土遺物
- P L 146 第235号住居跡出土遺物
- P L 148 第235号住居跡出土遺物
- P L 149 第235号住居跡出土遺物
- P L 150 第235号住居跡出土遺物
- P L 151 第235号住居跡出土遺物
- P L 152 第235号住居跡出土遺物
- P L 153 第235号住居跡出土遺物
- P L 154 第235号住居跡出土遺物
- P L 155 第235号住居跡出土遺物
- P L 156 第235 · 236A号住居跡出土遺物
- P L 157 第236A · 236B · 237A · 237B · 237D号住居跡出土遺物
- P L 158 第237D · 238 · 243号住居跡出土遺物
- P L 159 第244 ~ 251 · 253号住居跡出土遺物
- P L 160 第253 · 255号住居跡, 182 · 221 · 451号土坑, 不明遺構出土遺物
- P L 161 第183 · 370 · 451 · 462号土坑, 36号溝, 遺構外出土遺物
- P L 162 住居跡出土遺物
- P L 163 住居跡出土遺物
- P L 164 住居跡, 土坑, 遺構外出土遺物
- P L 165 住居跡, 溝, 遺構外出土遺物
- P L 166 遺構外出土遺物
- P L 167 住居跡出土土製品
- P L 168 住居跡, 土坑出土土製品
- P L 169 住居跡出土土製品

P L 170 住居跡、土坑、遺構外出土土製品

P L 171 住居跡、土坑、遺構外出土土製品

P L 172 住居跡出土土製品

P L 173 住居跡、遺構外出土土製品、石製品

P L 174 住居跡、遺構外出土石製品

P L 175 住居跡、溝出土石製品

P L 176 住居跡、遺構外出土石製品

P L 177 住居跡、土坑、溝出土鉄製品

P L 178 住居跡、土坑出土鉄製品

P L 179 住居跡、掘立柱建物跡、遺構外出土鉄製品、銅製品

P L 180 椀形滓

第213号住居跡 (第300図)

位置 調査区の南部, G 2 d 9 区。

規模と平面形 長軸3.81m, 短軸3.72mの方形である。

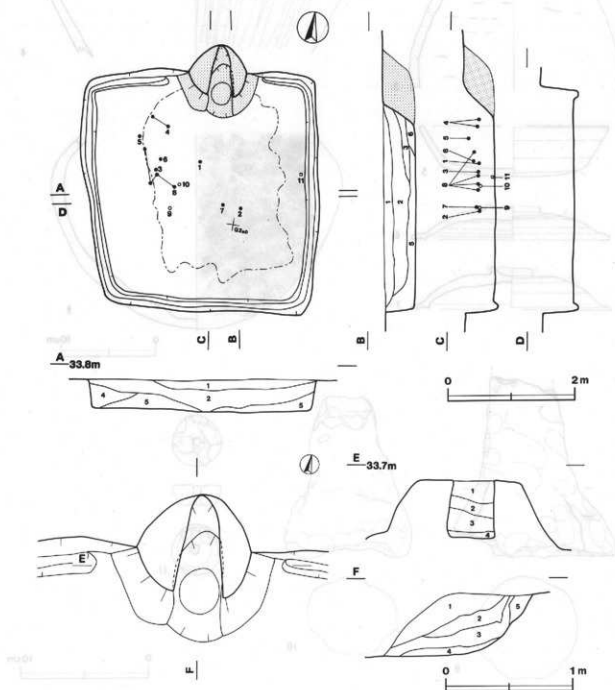
主軸方向 N-12°-W

壁 壁高は40~50cmで, 外傾して立ち上がる。

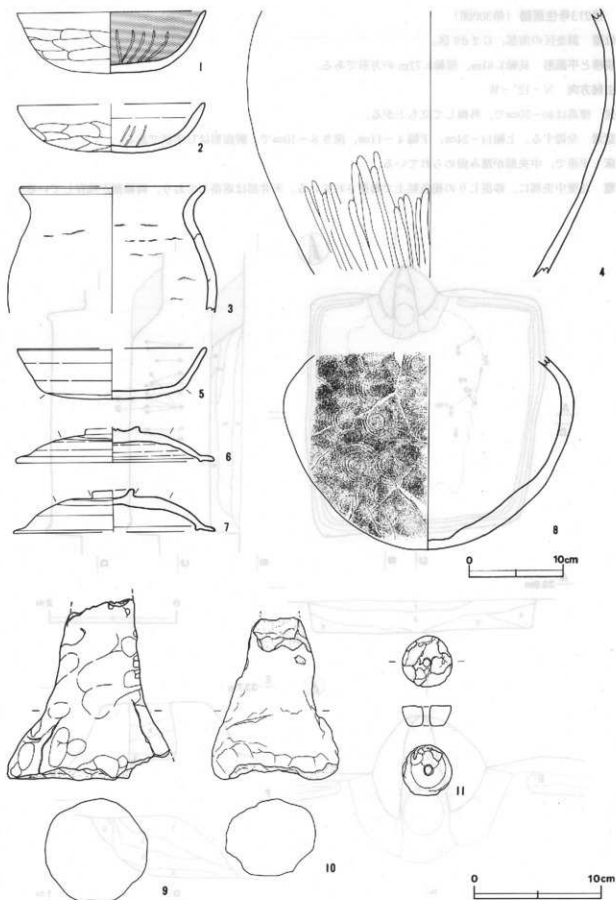
壁溝 全周する。上幅14~24cm, 下幅4~11cm, 深さ8~10cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。



第300図 第213号住居跡実測図



第301図 第213号住居跡出土遺物実測図

図説 縄文時代 土器・金属器

規模は、煙道部から突き口部まで116cm、両袖最大幅135cm、壁外への掘り込みは44cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

**覆土層解説**

- 1 褐色 焼土粒子少量、炭化・ローム・粘土粒子微量
- 2 灰褐色 粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土・炭化・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土・炭化粒子少量、焼土小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量

覆土 6層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

**土層解説**

- 1 褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化・ローム小ブロック微量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

遺物 土師器片185点（坏片31点、甕片154点）、須恵器片14点（坏片11点、甕片3点）、土製支脚2点、石製紡錘車1点、鉄滓150g、含鉄滓200gが出土している。覆土上層では、第301図5の須恵器坏が中央部北西側から出土している。覆土中層では、1、2の土師器坏、7の須恵器蓋、9、10の土製支脚が中央部から、4の土師器甕が中央部北西側から、3の土師器甕、6の須恵器蓋、8の須恵器甕が中央部西側から出土している。1、2、6は逆位の状態で出土している。床面では、11の石製紡錘車が東壁部から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀初頭と考えられる。

**第213号住居跡出土遺物観察表**

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色面・焼成	備考
第301図 1	土師器 坏	A 14.9	口縁部一部欠損。丸底。体部内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面放射状のへう磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1271 95% 覆土中 PL137 二次焼成
		B 4.9				
2	土師器 坏	A [14.7]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾し口唇部は内側ぎ伏で、内面に弱い稜を持つ。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面放射状のへう磨き。	長石・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P1272 60% 覆土中 PL137 二次焼成
		B 3.9				
3	土師器 甕	A [14.6]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面に輪襖み痕。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P1274 20% 覆土中
		B (10.0)				
4	土師器 甕	B (21.3)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面下位へう磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P1273 5% 覆土中
5	須恵器 坏	A [14.8]	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロロナデ。底部回転へう割り。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P1275 30% 覆土中
		B 3.9				
6	須恵器 蓋	A 15.7	口縁部一部欠損。つまみはボタン状である。天井部は低く丸く、口縁部内面に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面クロロナデ。天井部回転へう割り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P1276 75% 覆土中 PL138
		B (2.8)				
		F 4.3				
		G (0.4)				
7	須恵器 蓋	A [15.0]	口縁部一部欠損。つまみはボタン状である。天井部は低く丸く、口縁部内面に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面クロロナデ。天井部回転へう割り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P1277 20% 覆土中
		B 3.4				
		F [3.2]				
		G 0.6				
8	須恵器 甕	B (20.5)	底部から体部片。丸底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面同心円状の叩き目、内面ナデ。	長石・石英 黄灰色 普通	P1278 30% 覆土中 PL138

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第302図9	支 脚	(14.3)	(12.0)	-	(1180.7)	覆 土 中	DP1105 80% PL173
10	支 脚	(12.9)	(10.0)	-	(619.4)	覆 土 中	DP1106 80%

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
11	紡 錘 車	3.9	1.6	0.7	(33.5)	滑 石 床 面	Q1015 PL176	

### 第214号住居跡 (第302図)

位置 調査区の南部，G 2 f 8 区。

規模と平面形 長軸3.34m，短軸3.19の方形である。

主軸方向 N-11°-E

壁 壁高は47～54cmで，垂直に立ち上がる。

壁溝 南西コーナー部を除いて廻っている。上幅11～24cm，下幅3～9cm，深さ2～6cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット P1は長径36cm，短径31cmの楕円形，深さ21cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に，砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部から焚き口部まで111cm，両袖最大幅128cm，壁外への掘り込みは54cmである。袖の内壁は，火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は，床面をわずかに掘りくぼめており，火熱を受け赤変硬化している。煙道部は，外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 覆土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子微量
- 3 暗 赤 褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子微量

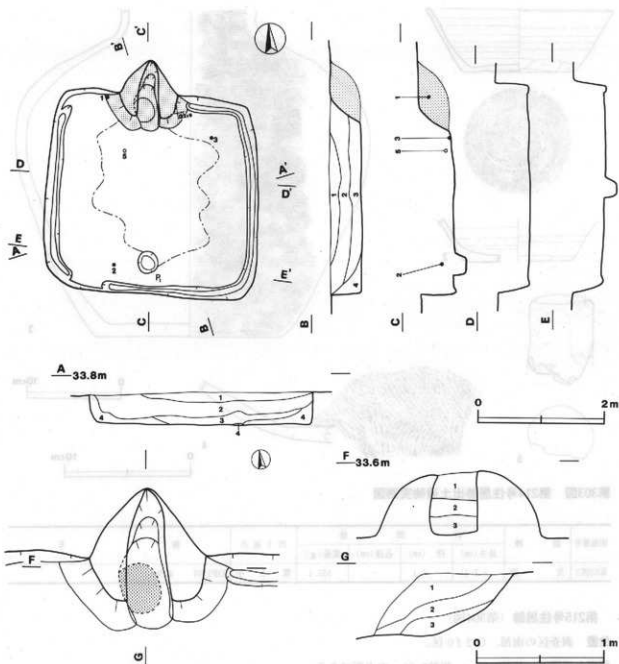
覆土 4層からなり，ロームブロックやローム粒子を含む人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗 褐 色 ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
- 3 暗 褐 色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量

遺物 土師器片190点(坏片9点，高坏片1点，甕片180点)，須恵器片19点(坏片19点)，土製支脚1点，縄文土器片16点が出土している。覆土上層では，第303図1の須恵器坏が竈の西側から斜位の状態でも出土している。覆土下層では，2の須恵器坏が南壁部から，5の土製支脚が中央部から出土している。床面では，3の須恵器甕が北東コーナー部から横位の状態でも出土している。4は須恵器甕の底部から体部片で，内面に同心円の当て具痕が施されている。

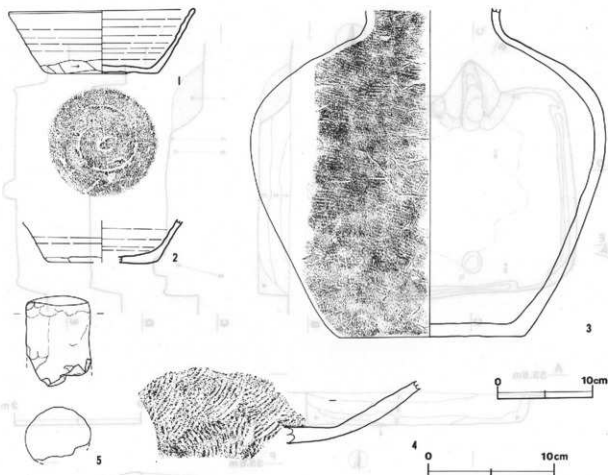
所見 本跡は，覆土中にローム小ブロック・ローム粒子を含む層が堆積していることなどから，人為的に埋め戻されたものと思われる。時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と考えられる。



第302図 第214号住居跡実測図

第214号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第303図 1	環須恵器	A 14.7 B 5.0 C 8.7	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロナダ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、周縁二方向の手持ちヘラ削り。底部ヘラ記号。	長石・石英・雲母にふい黄色 普通	P 1279 80% 覆土中 PL138
2	環須恵器	B (3.4) C [ 8.4]	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面クロナダ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母にふい黄色 普通	P 1280 20% 覆土中
3	壺須恵器	B (34.6) C 19.5	底部から頸部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部はわずかに外反して立ち上がる。	頸部ナダ。体部外面横位の平行明き、底部ナダ。内面器面刺離。	長石・石英・雲母・小礫にふい黄褐色 普通	P 1281 80% 床面 PL138



第303図 第214号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第303図5	支脚	(7.1)	5.1	-	155.1	覆土中	DP1107 40%

第215号住居跡 (第304図)

位置 調査区の南部, G 2 f 0 区。

規模と平面形 長軸3.63m, 短軸3.60mの方形である。

主軸方向 N-88°-E

壁 壁高は40~46cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

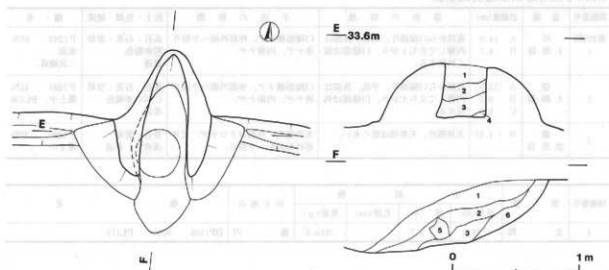
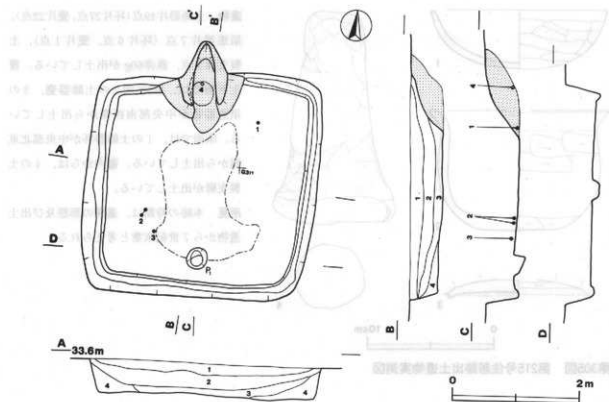
壁溝 全周する。上幅23~36cm, 下幅6~16cm, 深さ4~8cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット P1は長径35cm, 短径32cmの楕円形, 深さ4~8cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで145cm, 両袖最大幅119cm, 壁外への掘り込みは54cmである。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床部は, 床面をわずかに掘りくぼめており, 火熱を受け赤変硬化している。土製支脚が, 火床部に立てられ, その周囲を粘土で覆った状態で出土している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。





第304図 第215号住居跡実測図

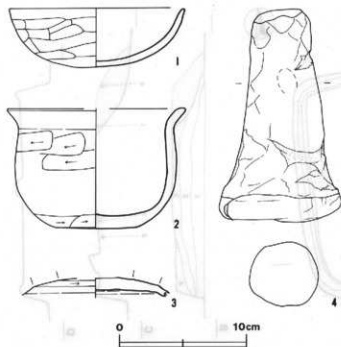
竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・ローム・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土中・小ブロック・粘土粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 粘土粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子多量, 粘土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子微量

覆土 4層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量



遺物 土師器片49点(坏片27点, 甍片22点), 須恵器片7点(坏片6点, 甍片1点), 土製支脚2点, 鉄滓60gが出土している。覆土下層では, 第305図2の土師器甍, 3の須恵器蓋が中央部南西側から出土している。床面では, 1の土師器坏が中央部北東側から出土している。甍内からは, 4の土製支脚が出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から7世紀末葉と考えられる。

第305図 第215号住居跡出土遺物実測図

第215号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第305図 1	坏 土師器	A 14.0 B 4.7	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は短く外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ, 内面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	F1283 65% 床面 二次焼成
2	甍 土師器	A [14.0] B 9.5 C 6.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ, 内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	F1284 45% 覆土中 PL138
3	蓋 須恵器	B (1.5)	天井部片。天井部は低く丸い。	天井部内・外面ロクロナデ, 天井部外面回転ヘラ削り。	長石・雲母 浅黄色 普通	F1285 35% 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備	考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
4	支脚	16.8	[9.7]	-	(910.4)	甍内	DP1109 90%	PL173

第216号住居跡(第306・307図)

位置 調査区の南部, G3f2区。

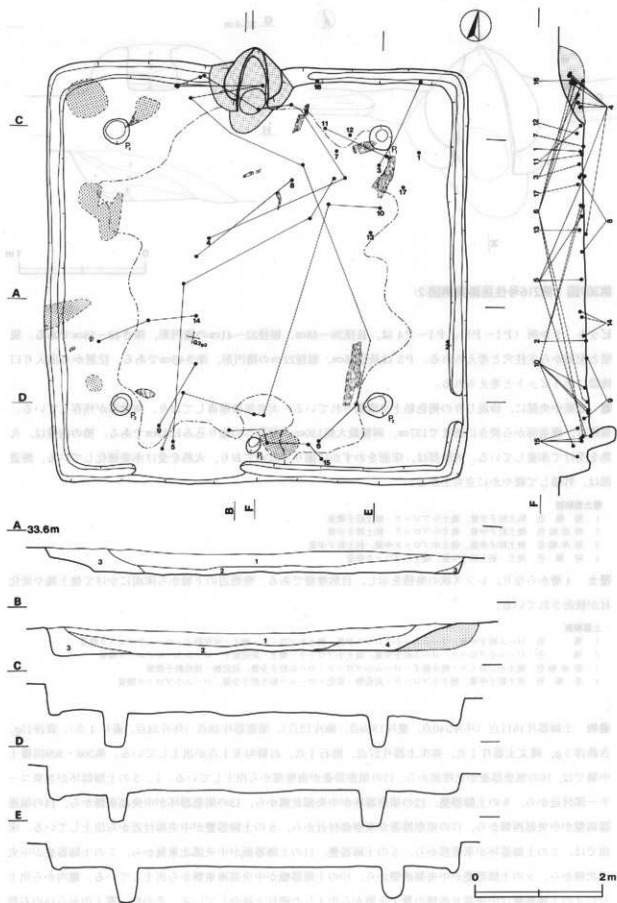
規模と平面形 長軸6.59m, 短軸6.29mの方形である。

主軸方向 N-13°-W

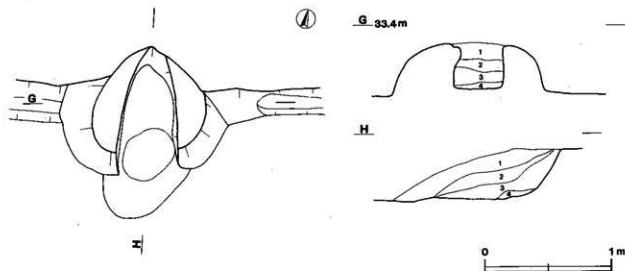
壁 壁高は31~43cmで, 外傾して立ち上がる。

甍溝 南壁下と南東コーナー付近を除いて巡っている。上幅24~32cm, 下幅11~18cm, 深さ4~10cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。



第306图 第216号住居跡実測图(1)



第307図 第216号住居跡実測図(2)

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、長径36~48cm、短径32~41cmの楕円形、深さ43~58cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径26cm、短径21cmの楕円形、深さ43cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から吹き口部まで137cm、両袖最大幅130cm、壁外への掘り込みは33cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

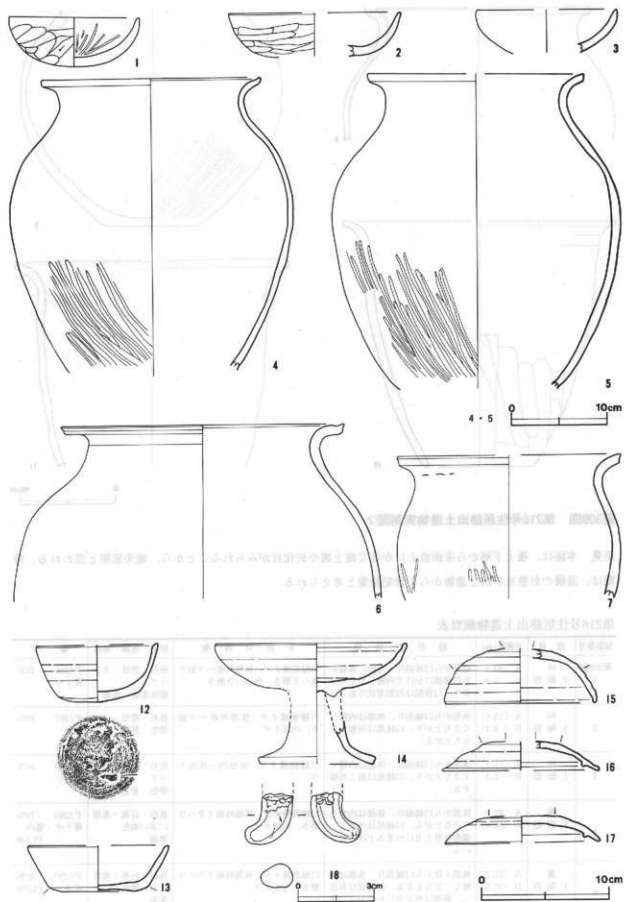
- 1 暗褐色 粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土中ブロック中量、粘土粒子少量
- 4 暗褐色 焼土・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量

覆土 4層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。壁周辺の下層から床面にかけて焼土塊や炭化材が検出されている。

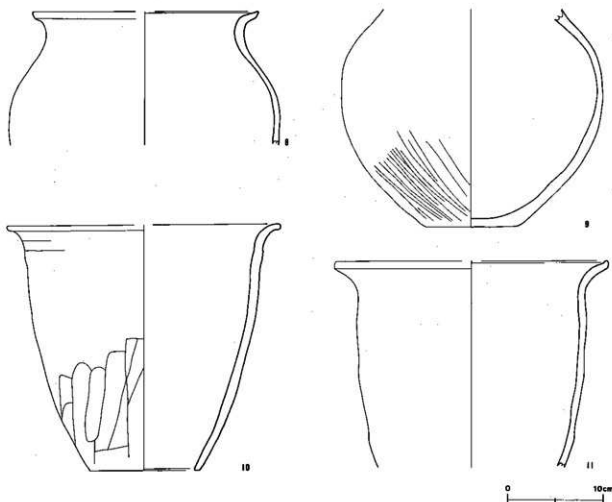
土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム大・小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム大・中ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子微量
- 4 赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・炭化・ローム・粘土粒子少量、ローム小ブロック微量

遺物 土師器片1611点 (坏片240点、甕片1359点、甗片12点)、須恵器片38点 (坏片34点、蓋片4点)、鉄滓15g、含鉄滓5g、縄文土器片1点、弥生土器片27点、磨石1点、石製勾玉1点が出土している。第308・309図覆土中層では、16の須恵器蓋が北壁部から、15の須恵器蓋が南壁部から出土している。1、3の土師器坏が北東コーナー付近から、6の土師器甕、12の須恵器坏が中央部北側から、13の須恵器坏が中央部東側から、14の須恵器高盤が中央部西側から、17の須恵器蓋が東壁部付近から、8の土師器甕が中央部付近から出土している。床面では、2の土師器坏が東壁部から、5の土師器甕、11の土師器甗が中央部北東側から、7の土師器甕が中央部北側から、9の土師器甕が中央部南側から、10の土師器甗が中央部南東側から出土している。竈内から出土した4の土師器甕は中央部北西側の覆土下層から出土した破片と接合している。その他、覆土中から18の石製勾玉が出土している。



第308图 第216号住居跡出土遺物実測図(1)



第309図 第216号住居跡出土遺物実測図(2)

所見 本跡は、覆土下層から床面直上にかけて焼土塊や炭化材がみられることから、焼失家屋と思われる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から7世紀後葉と考えられる。

第216号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第308図 1	坏 土師器	A 10.3 B 3.9	底部から口縁部片、丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がり、口唇部は内側ぎ状である。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、後へラ磨き、内面へラ磨き。	長石・雲母・スコリア 暗灰黄色 普通	P1286 45% 覆土中
2	坏 土師器	A [13.6] B (3.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・雲母 橙色 普通	P1287 40% 床面
3	坏 土師器	A [11.2] B (3.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外傾する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P1288 40% 覆土中
4	薬 土師器	A 23.0 B (30.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、頸部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面下半へラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P1289 70% 覆土中・甕内 PL138
5	薬 土師器	A [22.3] B (33.2)	体部下位から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、頸部は外上方にわずかにつまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面下半へラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P1290 50% 床面 PL138

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第308図 6	甕 土師器	A 22.3	体部上位から口縁部片。体部は内 彎して立ち上がる。口縁部は外反 し、端部は外上方につまみ上げら れている。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1291 30% 覆土中 PL139
		B (13.7)				
7	甕 土師器	A [17.6]	体部中位から口縁部片。体部は内 彎して立ち上がる。口縁部は外反 し、端部は外上方につまみ上げら れている。	口縁部横ナデ。体部外面中位から へつ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 1293 20% 床面
		B (11.3)				
第309図 8	甕 土師器	A [23.6]	体部上位から口縁部片。体部は内 彎して立ち上がる。口縁部は外反 し、端部は外上方につまみ上げら れている。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 1292 10% 覆土中 PL139
		B (13.6)				
9	甕 土師器	B (22.6)	底部から体部片。平底。体部は内 彎して立ち上がる。	体部外面へつ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 1294 30% 床面
		C 9.6				
10	甗 土師器	A [28.5]	底部から口縁部片。無底式。体部 は内彎して立ち上がる。口縁部は 外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へつ磨り、 内面ナデ。	長石・石英・スコ リア にぶい橙色 普通	P 1295 40% 床面
		B 25.7				
		C 11.4				
11	甗 土師器	A [28.4]	体部から口縁部片。体部は内彎し て立ち上がる。口縁部は外反し、 端部は外上方につまみ上げられて いる。	口縁部横ナデ。体部外面へつ磨り、 内面ナデ。	長石・石英・スコ リア 橙色 普通	P 1296 20% 床面
		B (21.5)				
第308図 12	坏 須恵器	A [ 9.8]	底部から口縁部片。平底。体部か ら口縁部にかけて外傾して立ち上 がる。	口縁部。体部内・外面ロクロナデ。 底部回転へつ磨り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P 1297 65% 覆土内 PL139
		B 4.5				
		C 6.3				
13	坏 須恵器	A [11.2]	底部から口縁部片。平底。体部か ら口縁部にかけて外傾して立ち上 がる。	口縁部。体部内・外面ロクロナデ。 体部下端回転へつ磨り。底部回転 へつ磨り。体部内・外面器面寛れ。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P 1299 45% 覆土中 PL139 二次焼成
		B 3.6				
		C [ 5.8]				
14	高 須恵器	A 15.2	胴部から坏部片。胴部は短くラッ パ状に開く。坏部から口縁部にか けて内彎して立ち上がり、口縁部 内面に凹線を持つ。端部は丸い。	坏部、胴部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 黄灰色 普通	P 1300 50% 覆土内 PL139
		B [ 7.6]				
		D [ 9.0]				
		E [ 4.0]				
15	甕 須恵器	A 12.0	天井部から口縁部片。外肩部から 口縁部にかけて下降する。端部は 丸い。	口縁部。天井部内・外面ロクロナ デ。天井部上位回転へつ磨り。	長石 灰色 普通	P 1298 60% 覆土中
		B ( 4.3)				
16	甕 須恵器	A [12.4]	天井部から口縁部片。天井部は低 く丸く、内側に短いかえりを持つ。	口縁部。天井部内・外面ロクロナ デ。天井部上位回転へつ磨り。	長石・雲母 灰黄色 普通	P 1301 45% 覆土中
		B ( 2.4)				
17	甕 須恵器	A [12.2]	天井部から口縁部片。天井部は低 く丸く、口縁部内面に短いかえり を持つ。	口縁部。天井部内・外面ロクロナ デ。天井部上位回転へつ磨り。 つまみ部刺離。	長石 黄灰色 普通	P 1302 40% 覆土中
		B ( 2.1)				

図版番号	器種	計 測 値					石 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
18	勾 玉	( 2.0)	1.3	0.9	-	( 4.4)	瑪 瑙	覆 土 中	Q1017 90% PL173

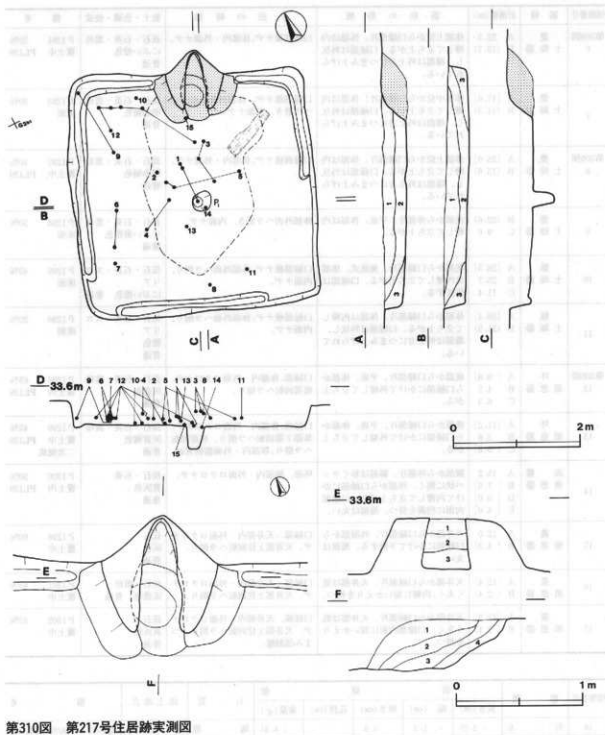
### 第217号住居跡 (第310図)

位置 調査区の南部，G 3 h 1区。

規模と平面形 長軸3.85m，短軸3.80mの方形である。

主軸方向 N-20°-E

壁 壁高は30~37cmで、外傾して立ち上がる。



第310図 第217号住居跡実測図

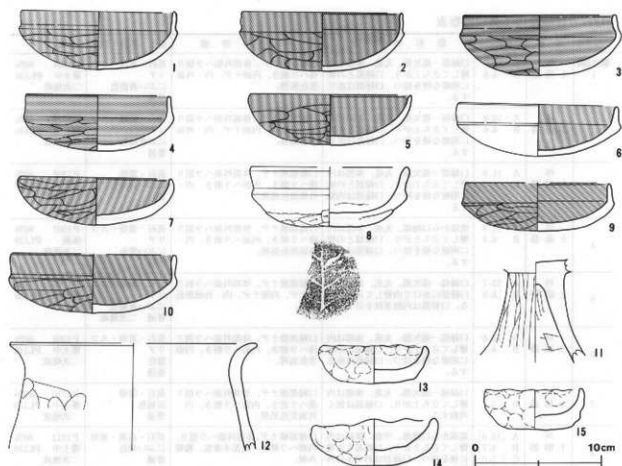
壁溝 南東コーナー部と南西コーナー部付近の壁下を除いて巡っている。上幅18~34cm、下幅6~13cm、深さ4~6cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット P1は径31cmの円形、深さ34cmであるが、性格は不明である。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで111cm、両袖最大幅129cm、壁外への掘り込みは38cmである。袖の内壁は、火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は、床面を6cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。





第311図 第217号住居跡出土遺物実測図

煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- 1 灰褐色 粘土粒子中量、焼土・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、灰微量
- 4 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土・粘土粒子微量

覆土 3層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

遺物 土師器片312点(坏片87点、堯片225点)、鉄滓5g、縄文土器片6点、弥生土器片2点が出土している。覆土上層では、第311図2、3、5の土師器片、13の手捏土器が中央部付近から、6の土師器片が中央部西側から、7の土師器片が西コーナー部から、8の土師器片、11の土師器高坏が南東壁部から出土している。2、3は正位、5、7は逆位、13は横位、8は斜位の状態でも出土している。覆土下層では、1の土師器片が中央部から、9の土師器片、12の土師器片が北コーナー部付近から出土している。床面では、4の土師器片が中央部から逆位の状態、10の土師器片が北コーナー部付近から、14の土師器片手捏土器が中央部付近から、15の土師器片手捏土器が竈前方部から出土している。ほとんどの出土遺物は二次焼成をうけている。

所見 本跡の出土遺物は二次焼成をうけていることから焼失したと思われる。時期は、遺物の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。

第217号住居跡出土土物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色面・焼成	備考
第311図 1	坏 土師器	A 12.0 B 4.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部との境 に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立 する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り 後へラ磨き。内面ナデ。内・外面 黒色処理。	長石・雲母・スコ リア にぶい黄褐色 普通	P1304 98% 覆土中 PL139 二次焼成
2	坏 土師器	A 12.8 B 4.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部との境 に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立 する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り 後へラ磨き。内面ナデ。内・外面 黒色処理。	長石・雲母・スコ リア にぶい黄褐色 普通	P1306 95% 覆土中 PL140 二次焼成
3	坏 土師器	A 11.9 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部との境 に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾 する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り 後へラ磨き。内面へラ磨き。内・ 外面黒色処理。	長石・雲母 普通	P1306 90% 覆土中 PL140 二次焼成
4	坏 土師器	A 11.3 B 4.4	底部から口縁部。丸底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部との境 に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾 する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り 後へラ磨き。内面へラ磨き。内・ 外面黒色処理。	長石・雲母・スコ リア にぶい褐色 普通	P1307 90% 灰附 PL139 二次焼成
5	坏 土師器	A 12.7 B 4.0	口縁部一部欠損。丸底。体部から 口縁部にかけて内壁して立ち上 る。口縁部は内傾ぎ状を呈する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り 後ナデ。内面ナデ。内・外面黒色 処理。	長石・雲母・スコ リア にぶい黄褐色 普通 二次焼成	P1308 95% 覆土中 PL139
6	坏 土師器	A 12.6 B 4.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部との境 に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立 する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り 後へラ磨き。内面へラ磨き。内面 黒色処理。	長石・雲母・スコ リア 褐色 普通	P1309 80% 覆土中 PL140 二次焼成
7	坏 土師器	A 11.8 B 3.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部は短く 内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り 後へラ磨き。内面へラ磨き。内・ 外面黒色処理。	長石・雲母 灰褐色 普通	P1310 90% 覆土中 PL139 二次焼成
8	坏 土師器	A [12.6] B 4.7 C [5.0]	底部から口縁部。平底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部との境 に稜を持つ。口縁部はわずかに内 傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面へラ磨き。底部木葉痕。輪積 み外。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P1312 60% 覆土中 PL139 二次焼成
9	坏 土師器	A [11.4] B 3.8	底部から口縁部。丸底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部との境 に明瞭な稜を持つ。口縁部は内 傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り 後へラ磨き。内面へラ磨き。内・ 外面黒色処理。	長石・雲母・スコ リア にぶい褐色 普通	P1311 60% 覆土中 PL139 二次焼成
10	坏 土師器	A [13.0] B 4.7	底部から口縁部。丸底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部との境 に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り 後へラ磨き。内面へラ磨き。内・ 外面黒色処理。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P1313 60% 灰附 PL139 二次焼成
11	高坏 土師器	B (8.1) E (7.2)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面へラ削り後、ナデ。内面 へラナデ。	長石・雲母・スコ リア にぶい褐色 普通	P1314 20% 覆土中
12	宽 土師器	A [19.5] B (8.3)	体部から口縁部片。体部は内壁し て立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。外面一部器面剥離。	長石・雲母・スコ リア 明赤褐色 普通	P1315 20% 覆土中 二次焼成
13	手捏土師 土師器	A 8.2 B 3.1 C 3.2	底部から口縁部片。丸底。体部か ら口縁にかけて内壁して立ち上 がる。	体部内・外面ナデ。外面指痕痕。	長石・雲母 灰色 普通	P1316 85% 覆土中 PL139 二次焼成
14	手捏土師 土師器	A 10.0 B 3.7	底部から口縁部片。丸底。体部か ら口縁にかけて内壁して立ち上 がる。	体部内・外面ナデ。外面指痕痕。	長石・雲母 にぶい赤褐色 不良	P1317 70% 灰附 二次焼成
15	手捏土師 土師器	A 7.6 B 3.3 C 3.7	底部から口縁部片。丸底。体部か ら口縁にかけて内壁して立ち上 がる。	体部内・外面ナデ。外面指痕痕。	長石・雲母 灰黄褐色 普通	P1318 70% 灰附 二次焼成

## 第218A号住居跡 (第312区)

位置 調査区の南部，G 2 h 8 区。

重複関係 本跡が，第218B号住居跡の東壁部を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.92m，短軸3.68m の方形である。

主軸方向 N-2°-E

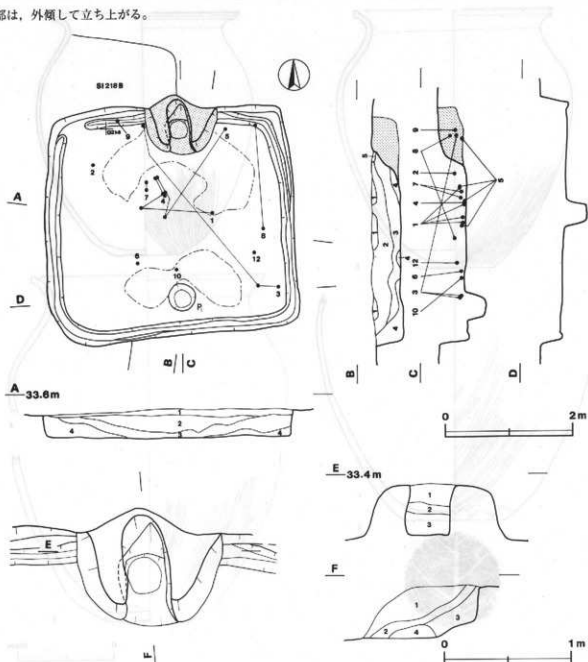
壁 壁高は32~43cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北西コーナー部を除いて巡っている。上幅18~26cm、下幅5~13cm、深さ4~5cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、竈前方と出入り口ピット付近が踏み固められている。

ピット P1は長径45cm、短径43cmの楕円形、深さ36cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで95cm、両袖最大幅105cm、壁外への掘り込みは20cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して立ち上がる。



第312図 第218A号住居跡実測図

甕土層解説

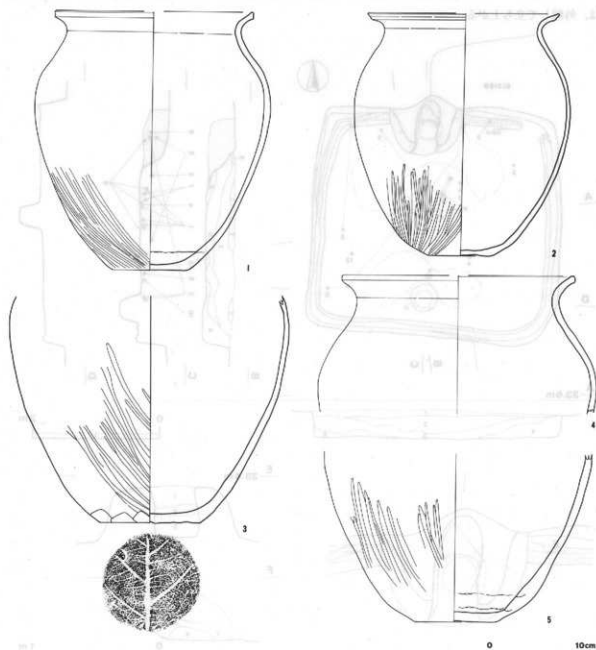
- 1 暗褐色 焼土中ブロック・焼土・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量、焼土中ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、粘土粒子微量

覆土 5層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化・ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土中ブロック・炭化物・ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 5 褐色 ローム・粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量

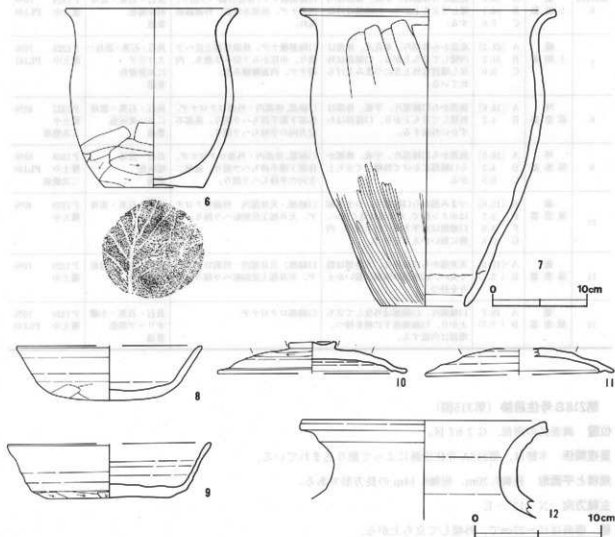
遺物 土師器片358点(坏片36点、甕片322点)、須恵器片8点(坏片5点、甕片2点、蓋片1点)が出土して



第313図 第218A号住居跡出土遺物実測図(1)

いる。第313・314図覆土中層では、2の土師器甕が北西コーナー部付近から横位の状態、8の須恵器甕が東壁部から、12の須恵器甕が南東コーナー部から出土している。覆土下層では、1、4の土師器甕、7の土師器甕が中央部から、3の土師器甕が竈の西側から、6の土師器甕、10の須恵器甕が中央部南側から、9の須恵器甕が北西コーナー部から出土している。床面では、5の土師器甕が中央部から出土している。6は横位、9は正位の状態出土している。その他、覆土中から11の須恵器蓋が出土している。

所見 遺物の大部分は、出土状況から北壁側から投棄されたものと思われる。本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と考えられる。



第314図 第218A号住居跡出土遺物実測図(2)

第218A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第313図 1	土師器 甕	A [27.7] B 35.8 C 10.4	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、肩部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面下平ヘラ磨き、内面ナデ。内面輪積み痕。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	P 1319 60% 覆土中 PL140
2	土師器 甕	A [26.4] B 33.6 C 9.0	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。外面一部器面削痕。	長石・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P 1320 60% 覆土中 PL140 二次焼成

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第313図 3	甕 土師器	B (24.6) C 10.3	底部から体部片。平底。体部は内 壁して立ち上がる。	体部外面中位から下位へラ磨き体 部下端へラ磨り、内面ナデ。底部 本葉痕。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P1321 40% 覆土中
4	甕 土師器	A [24.4] B (14.4)	体部から口縁部片。体部は内壁し て立ち上がる。口縁部は外反し、 肩部は外上方につまみ上げられて いる。	口縁部ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P1322 20% 覆土中
5	甕 土師器	B (17.6) C 8.7	底部から体部片。平底。体部は内 壁して立ち上がる。	体部外面下位へラ磨き、内面ナデ。 内面輪痕み痕。	長石・雲母 灰褐色 普通	P1323 40% 床面
第314図 6	甕 土師器	A 13.6 B 14.1 C 7.8	底部から体部片。平底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部は外反 する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ磨り、 内面ナデ。底部本葉痕。外面唇面 寛れ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1324 70% 覆土中 PL140
7	甕 土師器	A [27.2] B 31.2 C 9.0	底部から体部片。單孔式。体部は 内壁して立ち上がる。口縁部は外 反し肩部は外上方につまみ上げら れている。	口縁部横ナデ。体部外面上位へラ 磨り、中位から下位へラ磨き、内 面ナデ。内面輪痕み痕。	長石・石英・雲母・ スコリア にふい黄褐色 普通	P1325 70% 覆土中 PL141
8	坏 須恵器	A [14.6] B 4.2	底部から口縁部片。平底。体部は 外傾して立ち上がり、口縁部はわ ずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。 体部下端手持ちへラ磨り。底部不 定方向の手持ちへラ磨り。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P1327 45% 覆土中 二次焼成
9	坏 須恵器	A [16.0] B 4.3 C 9.5	底部から口縁部片。平底。体部か ら口縁部にかけて外傾して立ち上 がる。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。 体部下端手持ちへラ磨り。底部二 方向の手持ちへラ磨り。	長石・雲母 暗灰色 普通	P1326 65% 覆土中 PL140
10	甕 須恵器	A [15.0] B 2.5 F 3.8 G 0.6	つまみ部から口縁部片。つまみ部 はボタン状で、天井部は低く丸い。 口縁部は水平方向に折り曲げ、内 側に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面クロコナ デ。天井部上位位転へラ磨り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P1328 40% 覆土中
11	甕 須恵器	A [15.0] B ( 2.1)	天井部から口縁部片。天井部は低 く丸い。口縁部の内側に短いかえ りを持つ。	口縁部、天井部内・外面クロコナ デ。天井部上位位転へラ磨り。	長石・石英・雲母 暗灰色 普通	P1329 10% 覆土中
12	甕 須恵器	A 19.7 B ( 7.7)	口縁部片。口縁部は外反して立ち 上がり、口縁部直下に轡を持つ。 肩部は内傾する。	口縁部クロコナデ。	長石・石英・小礫 オリーブ黒色 普通	P1330 10% 覆土中 PL140

### 第218B号住居跡(第315図)

位置 調査区の南部，G 2 h7 区。

重複関係 本跡は，第218A号住居跡によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸7.20m，短軸6.14mの長方形である。

主軸方向 N-12°-E

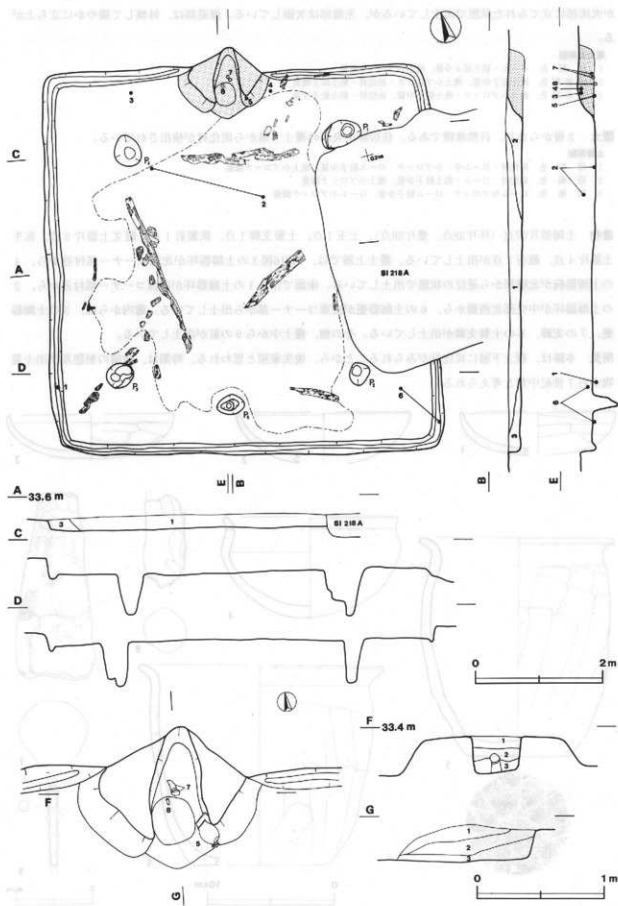
壁 壁高は15~27cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅14~27cm，下幅5~10cm，深さ6~8cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は，長径38~65cm，短径30~42cmの楕円形，深さ65~73cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径46cm，短径32cmの楕円形，深さ39cmの楕円形である。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に，砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部から焚き口部まで111cm，両袖最大幅144cm，壁外への掘り込みは36cmである。袖の内壁は，火熱を受けて赤変している。火床部は，床面をわずかに掘りこぼめており，火熱を受け赤変硬化している。支脚



第315図 第218B号住居跡実測図

国成宮跡出土土器類全図 218/15 国成宮跡

が火床部に立てられた状態で出土しているが、先端部は欠損している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- 1 暗褐色 ローム・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化材・粘土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化材・粘土粒子少量

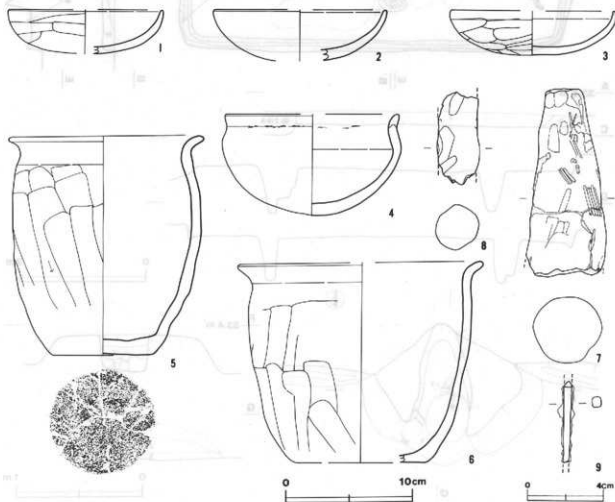
覆土 3層からなり、自然堆積である。住居跡中央部の覆土下層から炭化材が検出されている。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化材・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 2 暗褐色 炭化材・ローム・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

遺物 土師器片67点(坏片38点、甕片29点)、土玉1点、土製支脚1点、鉄製釘1点、縄文土器片9点、弥生土器片4点、砺石1点が出土している。覆土上層では、第316図3の土師器坏が北西コーナー部付近から、4の土師器碗が北壁部から逆位の状態で出土している。床面では、1の土師器坏が南西コーナー部付近から、2の土師器坏が中央部北西側から、6の土師器甕が南東コーナー部から出土している。竈内からは、5の土師器甕、7の支脚、8の土製支脚が出土している。その他、覆土中から9の釘が出土している。

所見 本跡は、覆土下層に炭化材がみられることから、焼失家屋と思われる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から7世紀中葉と考えられる。



第316図 第218B号住居跡出土遺物実測図



第218B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第316図 1	坏土師器	A [12.2] B (3.5)	体部から口縁部片。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後へラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・スコリア にふい橙色 普通	P 1331 30% 灰面
2	坏土師器	A [13.6] B (4.0)	体部から口縁部片。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部内面ナデ。外面器面荒れ。	長石・石英 黒色 普通	P 1332 30% 灰面 二次焼成
3	坏土師器	A [13.0] B 3.5	体部から口縁部片。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後へラ磨き、内面ナデ。	長石・スコリア にふい黄橙色 普通	P 1333 10% 覆土中 二次焼成
4	輪土師器	A [13.7] B 8.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部内面ナデ。外面器面荒れ。口縁部内・外面に輪積み痕。	長石・石英 にふい橙色 普通	P 1334 70% 覆土中 PL140 二次焼成
5	壺土師器	A 15.4 B 17.3 C 8.1	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のへラ削り、内面ナデ。底部木炭痕。外面器面荒れ。	長石・石英・雲母 にふい赤褐色 不良	P 1335 80% 覆土中 PL140 二次焼成
6	壺土師器	A [19.8] B 16.0 C [10.4]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のへラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい赤褐色 普通	P 1336 50% 灰面 PL140 普通

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
7	支脚	(14.9)	[ 6.8]	-	(400.4)	覆内	DP1110 80%
8	支脚	( 7.3)	3.4	-	(84.6)	覆内	DP1111 30%

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	釘	( 4.3)	0.9	0.5	( 3.6)	覆土中	M1025 96% FL179

## 第219号住居跡 (第317図)

位置 調査区の南部，G 2 e 6 区。

規模と平面形 長軸4.33m，短軸4.11mの方形である。

主軸方向 N-5°-W

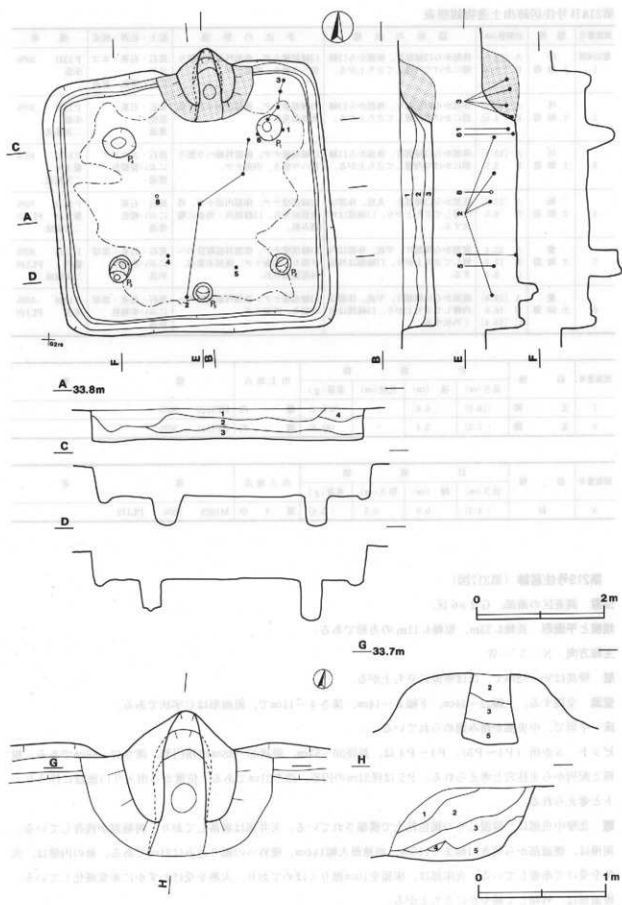
壁 壁高は50~52cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅22~34cm，下幅8~14cm，深さ4~11cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は，長径36~53cm，短径35~48cmの楕円形，深さ47~66cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径31cmの円形，深さ31cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に，砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部から焚き口部まで116cm，両袖最大幅144cm，壁外への掘り込みは31cmである。袖の内壁は，火熱を受けて赤変している。火床部は，床面を10cm掘りくぼめており，火熱を受けわずかに赤変硬化している。煙道部は，外傾して緩やかに立ち上がる。



第317图 第219号住居跡实测图

覆土層解説

- 1 灰 褐色 粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化・炭化粒子微量
- 2 灰 褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 4 赤 褐色 焼土粒子多量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土中ブロック・炭化・粘土粒子少量

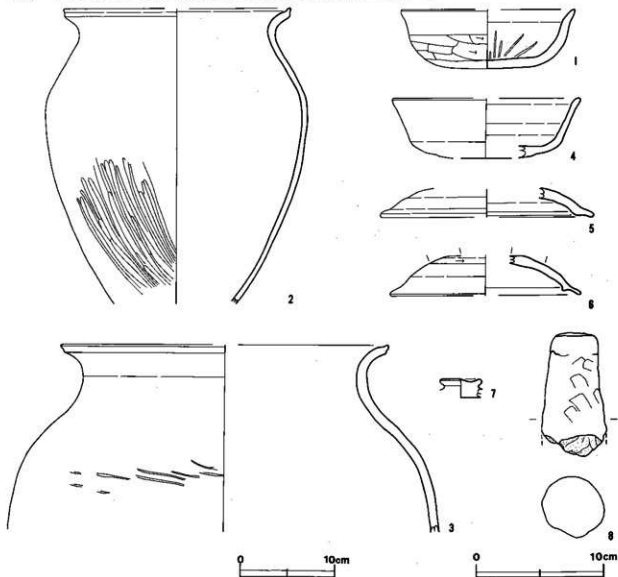
覆土 4層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム大・中・小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム大・中ブロック・ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子・ローム大・中・小ブロック微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム大・中ブロック微量

遺物 土師器片428点(坏片93点、甕片332点、瓶1点、手捏土器2点)、須恵器片16点(坏片13点、蓋片1点、甕片2点)、土製支脚1点、縄文土器片1点、弥生土器片1点、磨石1点が出土している。覆土上層では、第318図2の土師器甕が中央部付近から、5の須恵器蓋が中央部南側から、8の土製支脚が中央部付近から出土している。覆土下層では、1の土師器坏が中央部北東側から、3の土師器甕が北東コーナー部から、6の須恵器蓋が中央部北東側から出土している。床面では、4の須恵器坏が中央部南側から出土している。その他、覆土中から7の須恵器蓋が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と考えられる。



第318図 第219号住居跡出土遺物実測図

第219号住居跡出土土物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第318回 1	坏 土器	A [13.7] B 4.6	底部から口縁部片、丸底。体部は内脛して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面放射状のへう磨き。	長石・スコリア 明赤褐色 普通	P1337 50% 覆土中 PL141
2	壺 土器	A (23.8) B (31.0)	体部から口縁部片。体部は内脛して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面下半へう磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア にぶい褐色 普通	P1338 50% 覆土中 PL141
3	壺 土器	A (25.8) B (14.7)	体部から口縁部片。体部は内脛して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P1339 20% 覆土中
4	坏 須恵器	A [14.8] B 4.7 C [ 6.6]	体部から口縁部片。二次底部面。体部は外脛して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。	長石・石英 灰色 普通	P1340 20% 床面
5	壺 須恵器	A [16.7] B ( 2.2)	天井部から口縁部片。天井部は低く丸い。口縁部は外反し、内脛に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面クロコナデ。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P1341 15% 覆土中
6	壺 須恵器	A [15.1] B ( 3.1)	天井部から口縁部片。天井部は低く丸い。口縁部の内側に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面クロコナデ。天井部上位回転へう割り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P1342 20% 覆土中
7	壺 須恵器	B ( 1.5) P 3.2 G 0.5	つまみ部片。つまみ部はボタン状である。	つまみ部内・外面クロコナデ。	長石・石英・雲母 灰オリーブ色 普通	P1343 5% 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
8	支 脚	( 9.8)	( 5.2)	-	(205.4)	覆土中	DP1112 40%

第220号住居跡 (第319回)

位置 調査区の南部、G 2 d5 区。

規模と平面形 長軸3.95m、短軸3.92mの隅丸方形である。

主軸方向 N-81°-E

壁 壁高は18~24cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められた部分は見られない。

ピット 7か所 (P1~P7)。P1~P6は、長径30~48cm、短径28~46cmの楕円形、深さ37~69cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P7は径25cmの円形、深さ24cmである。補助柱穴と考えられる。

炉 P6付近の床面に、熱を受けわずかに赤化した部分が見られたが、位置から炉として捉えることはできなかった。

覆土 3層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

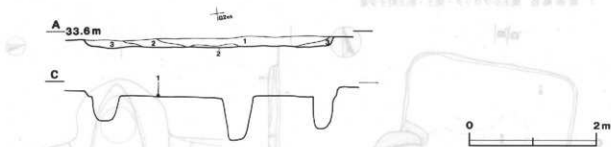
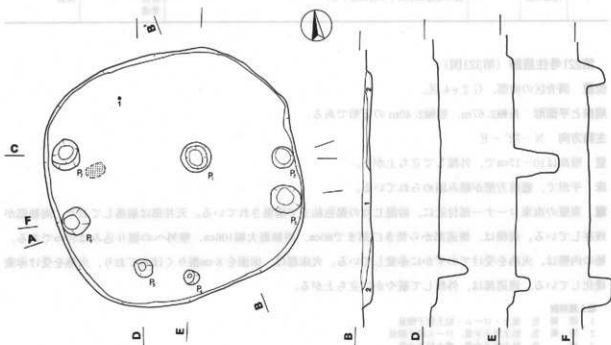
土層解説

- 1 層 色 焼土・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 層 色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 3 層 色 ローム粒子少量

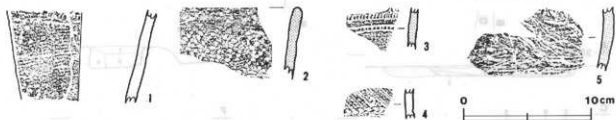
遺物 縄文土器片19点である。床面では、第320回1の縄文土器深鉢が北壁の床面から出土している。2~5は縄文土器深鉢である。2は口縁部片で単節RLの縄文が施されている。5は胴部片で無節Rの縄文が施されている。3は胴部片で縄文を地文とし、横方向に爪形文を施している。4は胴部片で縄文を地文とし、横方向

に爪形文を配し、縦方向に竹管による円形刺突文が施されている。2, 3, 5は胎土に横線を含む。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文前期（黒浜期）と考えられる。



第319図 第220号住居跡実測図



第320図 第220号住居跡出土遺物実測図

第220号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第320図 1	深鉢 縄文土器	B (7.1)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。文様は地文にLRの単筋縄文を施し連続爪形文を二段に配する。	長石・雲母・繊維 橙色 普通	P1344 5% 床面

第221号住居跡 (第321図)

位置 調査区の南部, G 2 e 4 区。

規模と平面形 長軸2.67m, 短軸2.40m の方形である。

主軸方向 N-72°-E

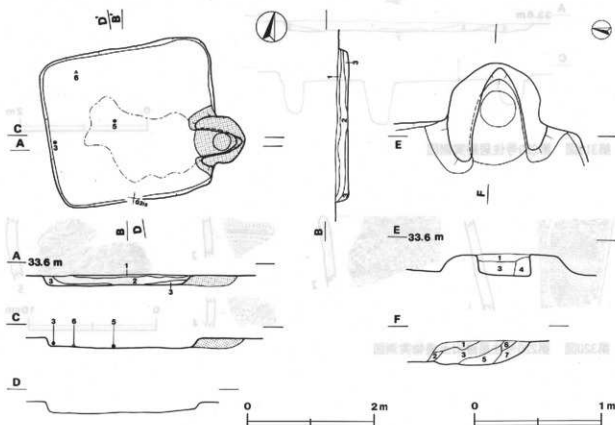
壁 壁高は10~17cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 竈前方部が踏み固められている。

竈 東壁の南東コーナー部付近に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで80cm, 両袖最大幅106cm, 壁外への掘り込みは50cmである。袖の内壁は, 火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は, 床面を8cm掘りくぼめており, 火熱を受け赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土・ローム・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 3 暗褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量
- 4 暗褐色 粘土粒子多量, ローム粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土大ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量



第321図 第221号住居跡実測図

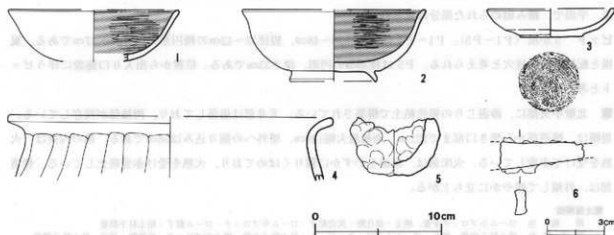
覆土 3層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片87点(坏片1点, 高台付坏片11点, 甕片75点), 須恵器片3点(坏片2点, 蓋片1点), 刀子1点, 縄文土器片5点, 弥生土器片2点が出土している。覆土下層では, 第322図3の土師器小皿が西壁部から, 6の刀子が北西コーナー部から出土している。床面では, 5の土師器手捏土器が中央部から横位の状態出土している。覆土中からは, 1, 2の土師器高台付碗, 4の土師器甕が出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から10世紀中葉と考えられる。



第322図 第221号住居跡出土遺物実測図

第221号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第322図 1	高台付碗 土師器	A [13.5] B (4.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。内面黒色処理。	長石・雲母・スコリア に灰い・褐色 普通	F1345 10% 覆土中
2	高台付碗 土師器	A [14.4] B 5.7 D [6.7] E 0.9	高台部から口縁部片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。高台部貼付。内面黒色処理。	長石・雲母・スコリア 褐色 普通	F1346 30% 覆土中
3	小皿 土師器	A [10.0] B 2.2 C 5.0	底部から口縁部片。平底, 体部から口縁部にかけて緩やかに内彎して立ち上がる。	口縁部, 体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・角閃石 に灰い・黄褐色 普通	F1347 60% 覆土中 PL141
4	甕 土師器	A [25.8] B (4.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し, 端部は外上方にわずかにつまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のへラ削り。内面ナデ。	長石・石英・雲母 に灰い・赤褐色 普通	F1348 5% 覆土中
5	手捏土器 土師器	A 5.9 B 4.5	底部から口縁部片。丸底, 体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ナデ。外面凹凸。	長石 明黄褐色 普通	F1349 95% 床面

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第324図6	刀子	(4.5)	1.6	0.6	(10.3)	覆土中	M1026	95%	PI177

### 第222号住居跡(第323図)

位置 調査区の南東部, G 2 g 3 区。

規模と平面形 長軸4.30m, 短軸4.11mの方形である。

主軸方向 N-14°-E

壁 壁高は15~40cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅13~23cm, 下幅7~15cm, 深さ6~10cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 踏み固められた部分は見られない。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は, 長径36~48cm, 短径32~42cmの楕円形, 深さ33~47cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径36cmの円形, 深さ33cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで122cm, 両袖最大幅120cm, 壁外への掘り込みは56cmである。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床部は, 床面をわずかに掘りくぼめており, 火熱を受け赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 覆土層解部

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量, 焼土中ブロック・炭化物・炭化・粘土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土中・小ブロック少量, ローム小ブロック・ローム・粘土粒子微量
- 4 におい赤褐色 焼土粒子多量, 粘土粒子微量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・粘土粒子微量

覆土 5層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

#### 土層解部

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量

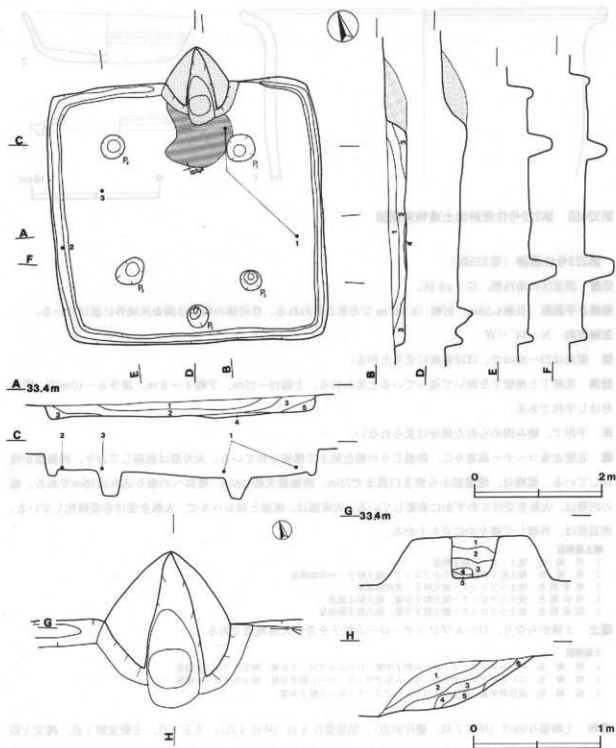
遺物 土師器片285点(坏片26点, 甕片258点, 甗片1点), 須恵器片8点(坏片8点), 磁石1点, 鉄滓10g, 合鉄滓19g, 縄文土器片31点, 弥生土器片27点が出土している。覆土下層では, 第324図1の土師器甗が竈の前方部から出土している。床面では, 2の須恵器坏が西壁部から, 3の須恵器甗が中央部西側から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と考えられる。

### 第222号住居跡出土遺物観察表

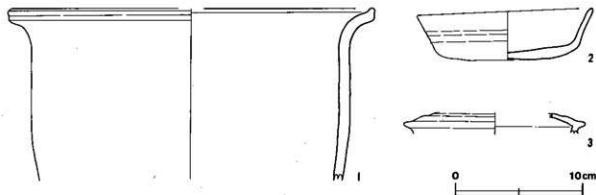
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第324図1	土師器	A [27.8] B (13.6)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎して立ち上がる。口縁部は外反し, 縁部は外上方につきまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面稜位のヘラ削り, 内面ナデ。	長石・石英・雲母 におい灰色 普通	P1350 10% 覆土中





第323図 第222号住居跡実測図

採取番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第324図 2	須恵器	A 13.8 B 4.1 C 5.4	底部から口縁部片。平底。二次底面を持つ。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちへら削り。	長石・石英・小礫 灰黄色 普通	P1351 80% 床面
3	須恵器	B (1.6)	天井部から口縁部片。天井部は低く丸い。口縁部は水平方向にわずかに折り曲げ、内側にかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。	長石 灰色 普通	P1352 10% 床面 PL141



第324図 第222号住居跡出土遺物実測図

### 第223号住居跡 (第325図)

位置 調査区の南西部, G1c8区。

規模と平面形 長軸4.58m, 短軸(3.31)mで方形と思われる。住居跡の西側は調査区域外に延びている。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は23~30cmで, ほほ垂直に立ち上がる。

壁溝 東壁下と南壁下を除いて巡っているとされる。上幅15~27cm, 下幅4~8cm, 深さ8~10cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 踏み固められた部分は見られない。

竈 北壁北東コーナー部寄りに, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで71cm, 両袖最大幅126cm, 壁外への掘り込みは16cmである。袖の内壁は, 火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は, 床面と同レベルで, 火熱を受け赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 覆土層解説

- 1 黒褐色 焼土・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 粘土粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 粘土粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 粘土粒子極微量

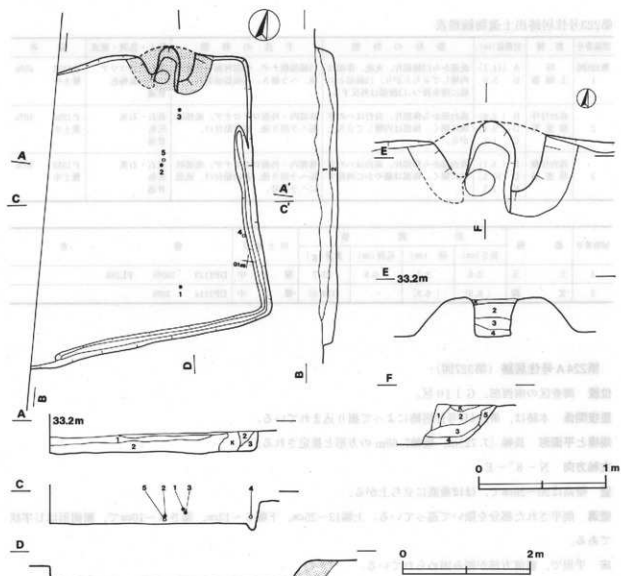
覆土 3層からなり, ロームブロック・ローム粒子を含む人為堆積である。

#### 土層解説

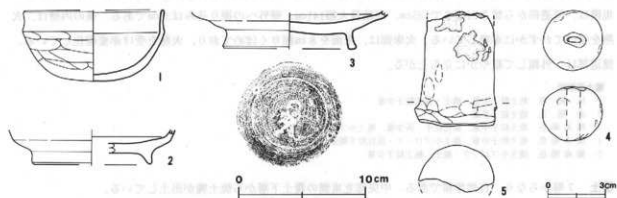
- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 3 暗褐色 炭化材中量, 焼土小・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片99点(坏片7点, 甕片92点), 須恵器片4点(坏片4点), 土玉1点, 土製支脚1点, 縄文土器片47点, 弥生土器片1点, 石鏃1点が出土している。覆土中層では, 第326図1の土師器坏が中央部南東側から出土しているが流れ込んだ遺物である。3の須恵器高台盤が北側中央部から出土している。覆土下層では, 2の須恵器高台付坏, 5の土製支脚は中央部から, 4の土玉が東壁部から出土している。

所見 本跡は, 覆土中にロームブロック・ローム粒子を含む層が堆積していることなどから人為的に埋め戻されたものと思われる。本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と考えられる。



第325图 第223号住居跡実測図



第326图 第223号住居跡出土遺物実測図

第223号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第326図 1	坏 土師器	A [11.1] B 5.6	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り後、へう磨き。内面磨面荒れ。	灰石・スコリアにふい黄褐色普通	P1355 45% 覆土中
2	高台付坏 須恵器	B (2.8) D [9.4] E 1.1	高台部から体部片。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう割り後、高台貼付け。	灰石・石英 灰色 普通	P1354 10% 覆土中
3	高台付 須恵器	B (3.1) D [10.5] E 1.5	高台部から体部片。高台はハの字状に開く。体部は緩やかに外彎する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう割り後、高台貼付け。底部にへう記号。	灰石・石英 灰色 普通	P1353 30% 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
4	土 玉	2.8	3.1	0.8	27.7	DP1113 100% PL168	
5	支 脚	(8.9)	[6.8]	-	(174.0)	DP1114 30%	

第224A号住居跡(第327図)

位置 調査区の南西部, G1f0区。

重複関係 本跡は、第224B号住居跡によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸 [7.72]m, 短軸7.68mの方形と推定される。

主軸方向 N-8°-E

壁 壁高は20~26cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 削平された部分を除いて巡っている。上幅13~25cm, 下幅5~12cm, 深さ6~10cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、竈前方部が踏み固められている。

ピット 4か所(P1~P4)。P1~P4は、長径66~82cm, 短径57~69cmの楕円形、深さ65~75cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで135cm, 両袖最大幅141cm, 壁外への掘り込みは36cmである。袖の内壁は、火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は、床面を8cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

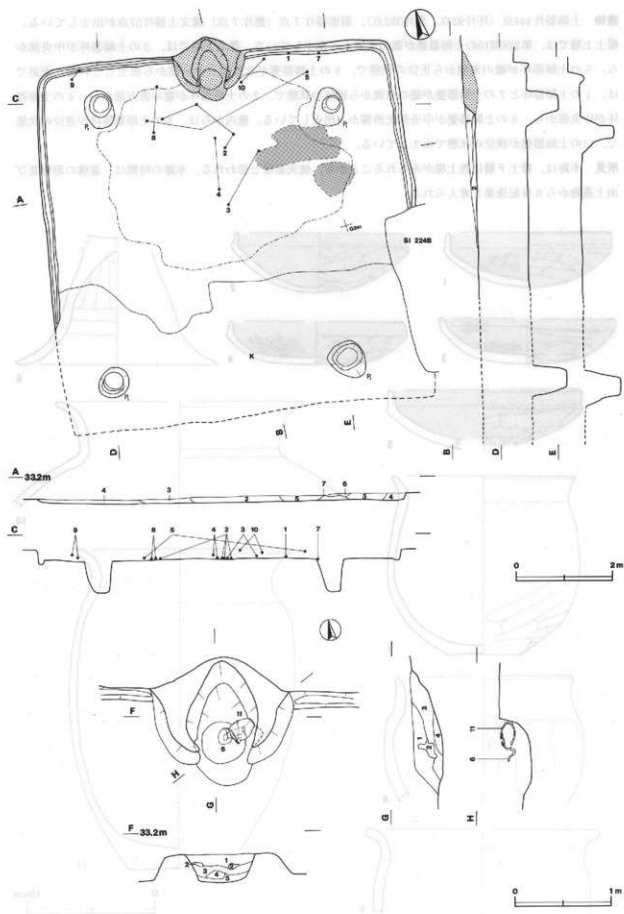
竈土層解説

- 1 灰褐色 粘土粒子中量, 焼土・炭化粒子少量
- 2 赤褐色 焼土粒子多量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・灰少量, 焼土小ブロック少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量

覆土 7層からなり、自然堆積である。中央部北東側の覆土下層から焼土塊が出土している。

土層解説

- |       |                                  |        |                             |
|-------|----------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 4 褐色   | ローム小ブロック・ローム粒子中量            |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量   | 5 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量              |
| 3 褐色  | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量              | 6 褐色   | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量         |
|       |                                  | 7 赤褐色  | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化物・ローム粒子微量 |

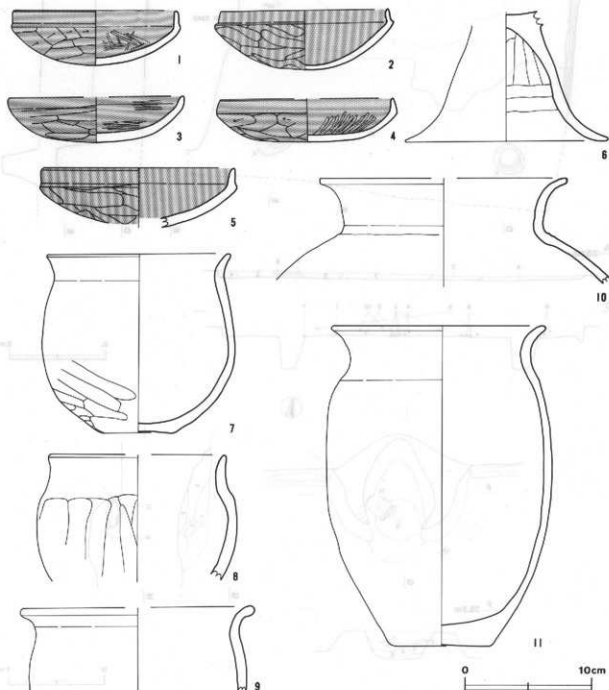


第327図 第224A号住居跡実測図

国史実証館出土物図録 A 152 国史実証館

遺物 土師器片444点（坏片92点，堯片352点），須恵器片7点（堯片7点）縄文土器片57点が出土している。覆土上層では，第328図10の土師器甕が竈の東側から出土している。覆土下層では，3の土師器坏が中央部から，5の土師器坏が竈の東側から正位の状態，9の土師器甕が北西コーナー部から出土している。床面では，1の土師器坏と7の土師器甕が竈の東側から斜位の状態，2の土師器坏が竈の前方部から，4の土師器坏が中央部から，8の土師器甕が中央部北西側から出土している。竈内からは，6の土師器高坏が逆位の状態，11の土師器甕が横位の状態で出土している。

所見 本跡は，覆土下層に焼土塊がみられることから，焼失家屋と思われる。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から6世紀後半と考えられる。



第328図 第224 A号住居跡出土遺物実測図

図所実録図号A-433頁 図121頁

第224A号住居跡出土遺物観察表

調査番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色画・焼成	備考
第328図 1	坏 土師器	A 12.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに内傾して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面へう磨き。内・外面黒色処理。	長石・スコリア にぶい棕色 普通	P1356 98% 床面 PL141
		B 4.9				
2	坏 土師器	A 13.2	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内彎する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P1357 80% 床面 PL141
		B 4.7				
3	坏 土師器	A [13.7]	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外彎する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面へう磨き。内・外面黒色処理。	長石・スコリア 灰褐色 普通	P1360 20% 覆土中
		B 3.8				
4	坏 土師器	A [13.7]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内彎する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面へう磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母 黒色 普通	P1359 25% 床面
		B 3.5				
5	坏 土師器	A 14.9	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・石英 黒褐色 普通	P1358 70% 覆土中 PL141
		B (4.7)				
6	高 土師器	B (10.3)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内面ナデ。外面器面割離。内面輪痕み痕。	長石・石英 明赤褐色 普通	P1361 50% 覆内
		D 16.0				
		E 9.1				
7	壺 土師器	A 13.5	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。外面器面荒れ。	長石・石英 明赤褐色 不良	P1363 70% 床面 PL141
		B 14.1				
		C 5.8				
8	壺 土師器	A [13.6]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。内面器面荒れ。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P1365 15% 床面
		B (10.0)				
9	壺 土師器	A [18.4]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。内面器面荒れ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1364 15% 覆土中
		B (6.6)				
10	壺 土師器	A [19.6]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は角である。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り後ナデ、内面ナデ。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P1366 20% 覆土中
		B (8.4)				
11	壺 土師器	A 16.9	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面器面磨離。内面器面割離。	長石・石英 赤褐色 不良	P1362 70% 覆内 PL141
		B 25.3				
		C 7.9				

## 第224B号住居跡 (第329図)

位置 調査区の南西部, G 2 g1 区。

重複関係 本跡が、第224A号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.52m, 短軸3.24mの方形である。

主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は18~20cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット P1は径36cmの円形、深さ20cmである。位置から出入り施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで114cm, 両袖最大幅116cm, 壁外への掘り込みは14cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。支脚が、焚き口部から横位の状態で出土している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- 1 灰褐色 粘土粒子中量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 灰褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化・粘土粒子・灰微量
- 5 暗赤褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 粘土粒子微量
- 7 黒褐色 焼土・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化材微量

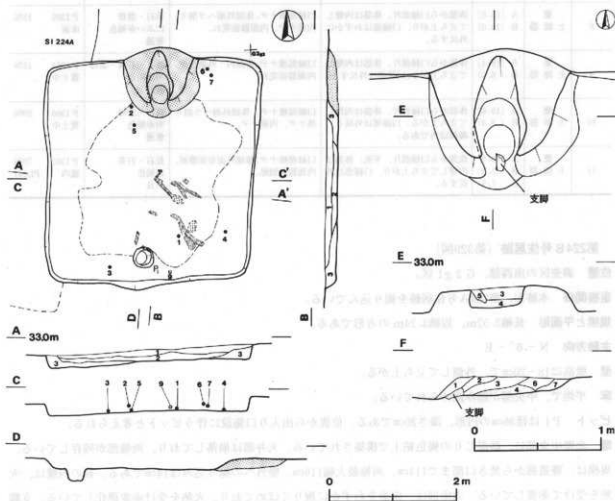
覆土 3層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。住居跡中央部南東側の下層から焼土塊や炭化材が検出されている。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 炭化材・ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化材微量

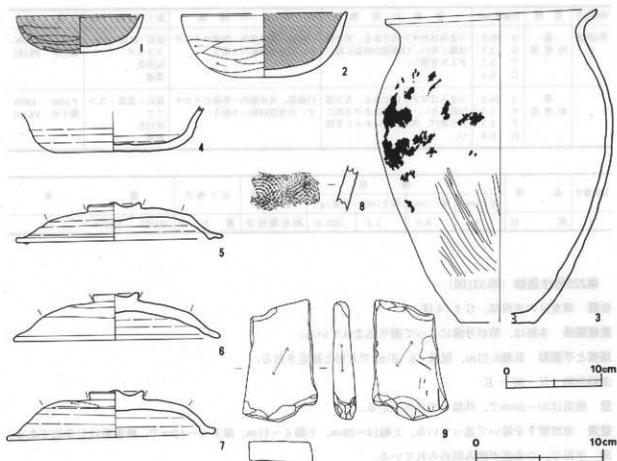
遺物 土師器片96点(坏片12点, 甕片83点, 瓶片1点), 須恵器片5点(坏片3点, 蓋片2点), 砥石1点, 縄文土器片3点が出土している。覆土下層では, 第330図2の土師器坏が竈西袖部付近から, 3の土師器甕, 9の砥石が南壁部から, 6, 7の須恵器蓋が北東コーナー部から出土している。6は逆位, 7は正位で出土している。床面では, 1の土師器坏が中央部南側から逆位の状態で, 4の須恵器坏が南東コーナー部から, 5の須恵器蓋が中央部北側から逆位の状態で出土している。8の須恵器甕の体部片は, 外面に同心円文も叩きが施されている。

所見 本跡は, 覆土下層に焼土塊や炭化材がみられることから, 焼失家屋と思われる。時期は, 遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と考えられる。



第329図 第224号住居跡実測図





第330図 第224 B号住居跡出土遺物実測図

第224 B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色面・焼成	備考
第330図 1	坏 土器	A 10.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎して立ち上がり、口縁部は外傾 する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り、 内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコ リア にぶい橙色 普通	P1367 90% 床面 PL141
		B 2.9				
2	坏 土器	A [13.2]	体部から口縁部片。丸底。体部は 内彎して立ち上がり、口縁部は外 傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り、 内面ナデ。内面黒色処理。	長石・雲母・スコ リア 橙色 普通	P1368 60% 覆土中
		B 5.0				
3	壺 土器	A 22.3	底部から口縁部片。平底。体部は 内彎して立ち上がる。口縁部は外 反し端部は外上方につまみ上げら れている。	口縁部横ナデ。体部外面下半へウ 磨き、内面ナデ。外面保付着。	長石・石英・雲母・ス コリア 橙色 普通	P1369 60% 覆土中 保付着
		B 32.8				
		C [7.8]				
4	坏 須恵器	B (3.4)	底部から体部片。平底。体部は外 傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部一 方向の手持ちヘラ割り。	長石・雲母 灰黄色 普通	P1370 40% 床面
		C [8.5]				
5	壺 須恵器	A 16.2	つまみはボタン状である。天井部 は低く丸い。口縁部は水平方向に 折り曲げ、内側に短いかえりを持 つ。	口縁部、天井部内・外面ロクロナ デ。天井部回転へウ割り。	長石・石英・雲母・ス コリア 灰黄色 普通	P1371 100% 床面 PL141
		B 3.2				
		F 4.2				
		G 0.4				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第330図 6	蓋 須恵器	A 10.2	つまみはボタン状である。天井部は低く丸い。口縁部の内面に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア 灰黄色 普通	P1372 70% 覆土中 PL142
		B 3.7				
		F 3.7				
		G 0.6				
7	蓋 須恵器	A 16.2	つまみはボタン状である。天井部は低く丸い。口縁部は水平方向に折り曲げ、内側に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。	長石・雲母・スコリア 灰白色 普通	P1386 100% 覆土中 PL142
		B 3.7				
		F 4.3				
		G 0.8				

図版番号	器種	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
9	砥 石	9.5	6.0	1.6	(129.4)	緑色凝灰岩	覆 土 中	Q1023 PL174

### 第225号住居跡 (第331図)

位置 調査区の南西部，G 2 i 4 区。

重複関係 本跡は，第47号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸8.21m，短軸 (8.16)m で方形と推定される。

主軸方向 N-30°-E

壁 壁高は30~50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 西壁下を除いて巡っている。上幅14~26cm，下幅6~11cm，深さ6~12cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は，長径37~49cm，短径33~36cmの楕円形，深さ74~82cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径50cm，短径44cmの楕円形，深さ51cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北東壁中央部に，砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，煙道部と両袖部が残存している。規模は，煙道部から焚き口部まで128cm，両袖最大幅119cm，壁外への掘り込みは50cmである。袖の内壁は，火熱を受けて赤変している。火床部は，床面をわずかに掘りくぼめており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，外傾して緩やかに立ち上がる。

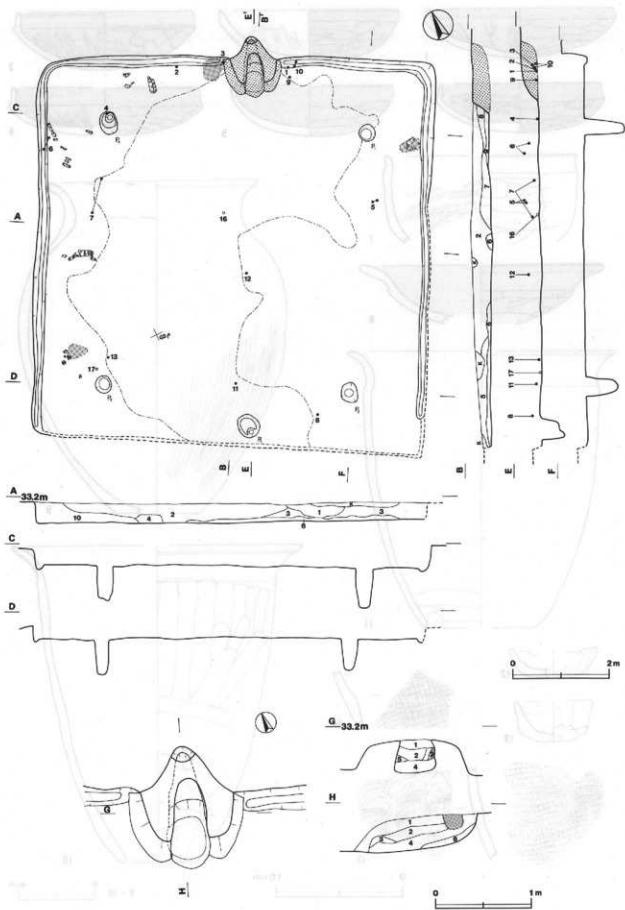
#### 甕土層解説

- 1 灰褐色 粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量，炭化粒子微量
- 3 褐色 粘土粒子多量，焼土粒子少量，焼土中ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量，粘土粒子少量
- 6 暗暗赤褐色 焼土粒子・灰少量，炭化粒子微量

覆土 10層からなり，自然堆積である。北西壁部の覆土下層から焼土塊や炭化材が検出されている。

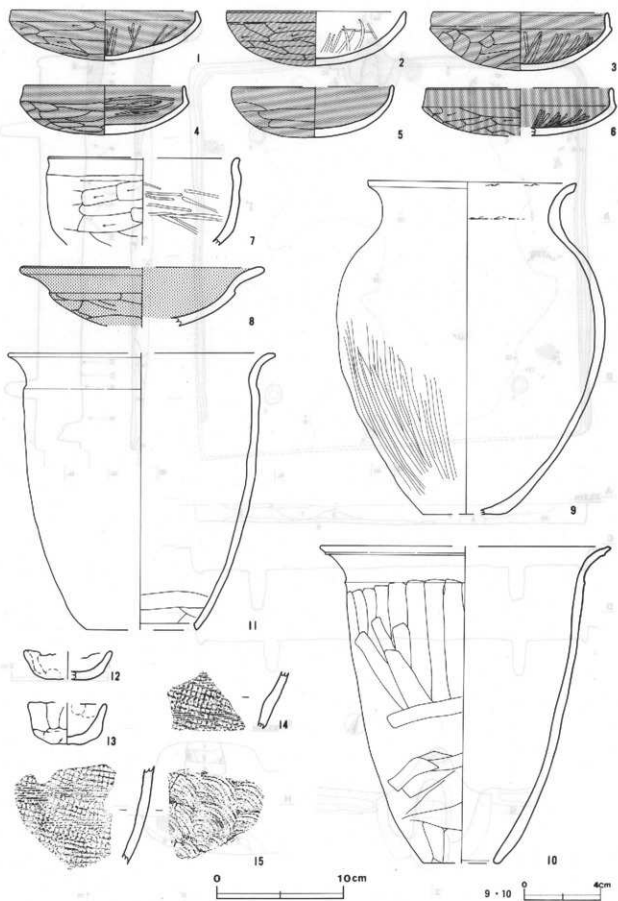
#### 土層解説

- 1 黒褐色 炭化・ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，焼土・炭化粒子極微量
- 4 暗褐色 炭化・ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 5 褐色 ローム小ブロック多量，ローム粒子中量
- 6 黒褐色 ローム粒子中量，焼土・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 8 灰褐色 ローム粒子少量，焼土・粘土粒子微量
- 9 黒褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 10 暗褐色 焼土・ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量



第331图 第225号住居跡实测图

1. 国海美神能土山城跡分科工部局 国立大蔵

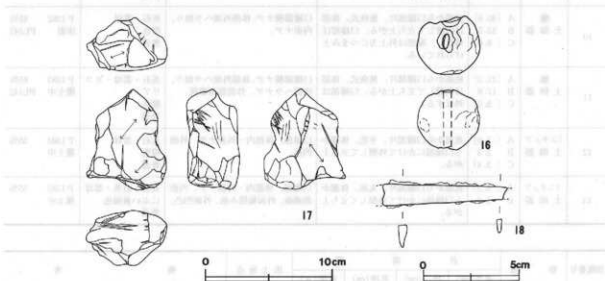


第332图 第225号住居跡出土遺物実測図(1)

国文学研究資料館蔵 図1129

遺物 土師器片1256点(坏片283点, 高坏片6点, 甕片883点, 甌片84点), 須恵器片19点(甕片19点), 土玉1点, 刀子1点, 砥石1点, 含鉄滓287g, 縄文土器片46点, 弥生土器片29点が出土している。第332, 333図覆土上層では, 5の土師器坏が中央部東側から, 6の土師器坏が北西壁部付近から, 8の土師器高坏が南西コーナーから, 12の土師器ミニチュア土器が中央部から斜位の状態で出土している。覆土下層では, 2, 3の土師器坏が竈西側から, 7の土師器甕が北西壁部付近から, 11の土師器甕が中央部南西側から, 13の土師器ミニチュア土器, 17の砥石が西コーナー部から出土している。2は正位, 3は逆位, 13は横位の状態で出土している。床面では, 1の土師器坏, 9の土師器甕, 10の土師器甕が竈東側から, 4の土師器坏が北コーナー部付近から, 16の土玉が中央部から出土している。4は逆位, 9は横位の状態で出土している。その他, 覆土中から18の刀子が出土している。14, 15の須恵器甕の体部片である。14は外面に格子目叩き後, カキ目調整が施されている。15は外面に格子目叩き後, カキ目調整, 内面に同心円の当て具痕が施されている。14は第209A号住居跡出土の15の須恵器甕片と同一個体である。

所見 本跡は, 覆土下層に焼土塊や炭化材がみられることから, 焼失家屋と思われる。時期は, 遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。



第333図 第225号住居跡出土遺物実測図(2)

第225号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計面積(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第332図 1	土師器 坏	A 14.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り後へう磨き, 内面放射状のへう磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母にふい褐色普通	P1373 98% 床面 PL142 二次焼成
		B 3.9				
2	土師器 坏	A 14.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り後へう磨き, 内面へう磨き。外面黒色処理。	長石・石英・スコリア 明黄褐色普通	P1374 98% 覆土中 PL142 二次焼成
		B 4.3				
3	土師器 坏	A 13.9	口縁部から体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り後へう磨き, 内面放射状のへう磨き。内・外面黒色処理。	長石・スコリア 褐色普通	P1375 90% 覆土中 PL142 内面・外面一部に二次焼成
		B 4.6				

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第332図 4	坏 土 脚 器	A 12.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部との境 に弱い稜を持つ。口縁部は内傾す る。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り 後、へラ磨き、内面へラ磨き。内・ 外面黒色処理。内面磨面荒れ。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P1376 90% 床面 PL142 二次焼成
		B 4.0				
5	坏 土 脚 器	A [12.7]	底部から口縁部片。体部は内壁し て立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P1377 50% 覆土中 二次焼成
		B 4.0				
6	坏 土 脚 器	A [14.8]	底部から口縁部片。丸底。体部は 内壁して立ち上がり、口縁部との 境に鋭い稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り 後へラ磨き。内面放射状のへラ磨 き。内・外面黒色処理。	長石・雲母 褐色 普通	P1378 30% 覆土中 二次焼成
		B (3.8)				
7	柄 七 脚 器	A [15.0]	体部から口縁部片。体部は内壁し て立ち上がり、口縁部は短く外反 する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り 後へラ磨き。内面へラ磨き。	長石・スコリア 暗褐色 普通	P1379 20% 覆土中
		B (6.9)				
8	高 土 脚 器	A [19.1]	口縁部。体部は内壁して立ち上 がり、口縁部との境に明瞭な稜を持 つ。口縁部は大きく外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り 後ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。 普通	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1380 5% 覆土中 流れ込み
		B (4.2)				
9	壺 土 脚 器	A 21.9	底部一部欠損。平底。体部は内壁 して立ち上がる。口縁部は外反し、 肩部はわずかに外上方につまみ上 げられている。	口縁部横ナデ。体部外面中位から 下位にかけてへラ磨き。内面ナデ。 外面磨面平坦。内面輪痕み残。	長石・石英・雲母・ スコリア 橙色 普通	P1381 90% 床面 PL142
		B 35.2				
		C [9.0]				
10	瓶 土 脚 器	A [30.6]	底部から口縁部片。無底式。体部 は内壁して立ち上がる。口縁部は 外反し、肩部は外上方につまみ上 げられている。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・雲母 橙色 普通	P1382 45% 床面 PL142
		B 33.5				
		C [8.0]				
11	瓶 土 脚 器	A [21.2]	底部から口縁部片。無底式。体部 は内壁して立ち上がる。口縁部は 外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面へラナデ。外面磨面平坦。	長石・雲母・スコ リア 橙色 普通	P1383 65% 覆土中 PL142
		B 17.8				
		C [9.0]				
12	ミニチュア 土 脚 器	A [7.0]	底部から口縁部片。平底。体部か ら口縁部にかけて外傾して立ち上 がる。	口縁部。体部内・外面ナデ。外面 凹凸。	長石・雲母 橙褐色 普通	P1384 55% 覆土中
		B 2.3				
		C [3.4]				
13	ミニチュア 土 脚 器	A [6.3]	底部から口縁部片。丸底。体部か ら口縁部にかけて外傾して立ち上 がる。	口縁部。体部内・外面ナデ。内面 指痕残。外面輪痕み残。外面凹凸。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P1385 55% 覆土中
		B 3.2				

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第333図16	土 玉	3.2	3.3	0.8	(31.7)	床 面	DP1115 90% PL168

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
17	紙 石	8.0	6.4	4.3	182.3	凝 灰 岩	覆 土 中	Q1024

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
18	刀 子	(6.5)	1.5	0.5	(5.6)	覆 土 中	M1027 95% PL177

第226号住居跡 (第334図)

位置 調査区の南西部, G 2 j 2 区。

規模と平面形 長軸 [3.50]m, 短軸 [3.23]m の方形と推定される。

主軸方向 不明

壁 壁高は28cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北東コーナー部から東壁下にかけて一部巡っている。上幅17~24cm, 下幅5~11cm, 深さ5~7cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 北東コーナー付近に踏み固められた部分が見られる。

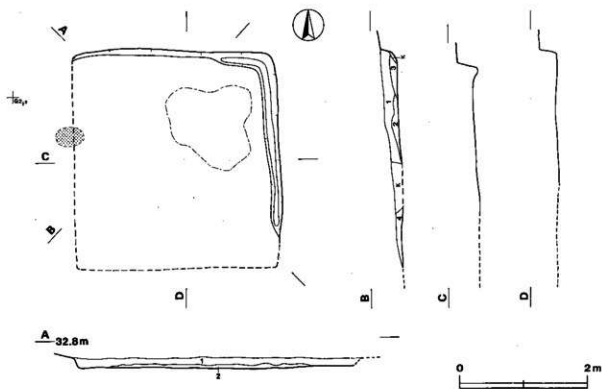
覆土 4層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 炭化・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片58点 (葉片58点), 縄文土器片3点が出土しているが, ほとんどが細片のため図示できるものはない。

所見 本跡は, 南西側が削平されているため竈が確認できなかった。出土遺物が細片のため, 時期は不明である。



第334図 第226号住居跡実測図

第228号住居跡 (第335図)

位置 調査区の南西中央部, H 2 c 4 区。

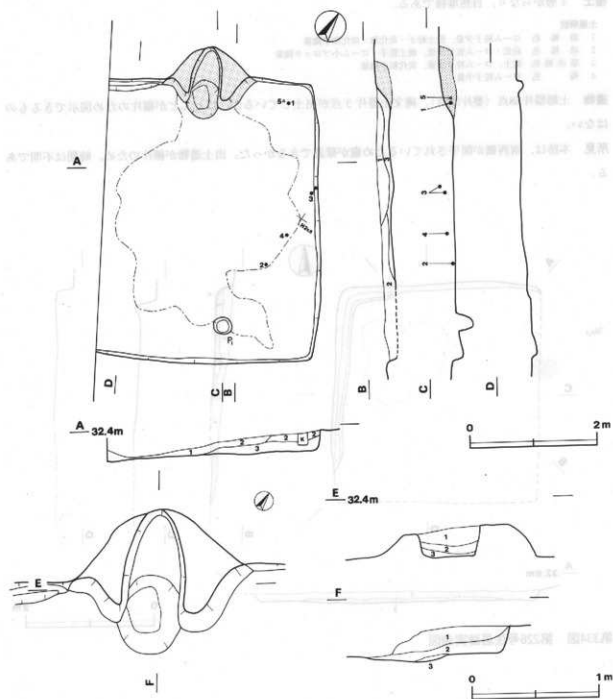
規模と平面形 長軸4.46m, 短軸 (3.44)mの長方形と推定される。

主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は6~18cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北西壁下に一部通っている。上幅20cm, 下幅7cm, 深さ10cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。



第335図 第228号住居跡実測図



ピット P1は径30cmの円形、深さ25cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北西壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで115cm、両袖最大幅120cm、壁外への掘り込みは10cmである。袖の内壁は、火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は、床面を10cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・粘土粒子微量
- 2 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 3 褐色 焼土・ローム・粘土粒子中量

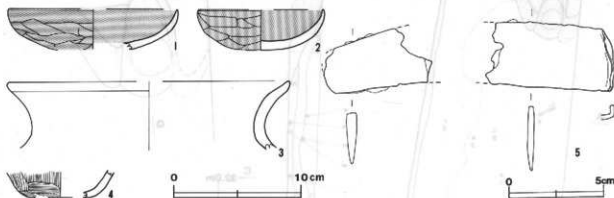
覆土 3層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量

遺物 土師器片99点(坏片17点、甕片82点)、須恵器片1点(甕片1点)、鉄鎌1点、鉄滓55g、含鉄滓50g、縄文土器片1点、ナイフ形石器1点が出土している。覆土上層では、第336図3の土師器甕が北東壁部から出土している。覆土下層では、1の土師器坏、5の鉄製鎌が北コーナー部から出土している。床面では、2の土師器坏が中央部東側から出土している。その他、覆土中から4の土師器甕が出土しているが、流れ込んだ遺物である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から7世紀中葉と考えられる。



第336図 第228号住居跡出土遺物実測図

第228号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第336図 1	坏 土師器	A [13.3] B (3.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・雲母 黒褐色 普通	P 1387 30% 覆土中
2	坏 土師器	A [9.7] B 3.3	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・雲母 褐灰色 普通	P 1388 30% 床面
3	甕 土師器	A [22.2] B (5.3)	口縁部片。口縁部は外反し、肩部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 1389 5% 覆土中

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第336図 4	甕 土師甕	B ( 2.1) C [ 5.0]	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面刷毛目。内面器面刺摩。	長石・石英・雲母・スコリアにふい橙色普通	P1390 5% 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備	考
		長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
5	鉢	(15.3)	3.7	0.5	(24.0)	覆土中	M1028	95%

### 第229号住居跡 (第337図)

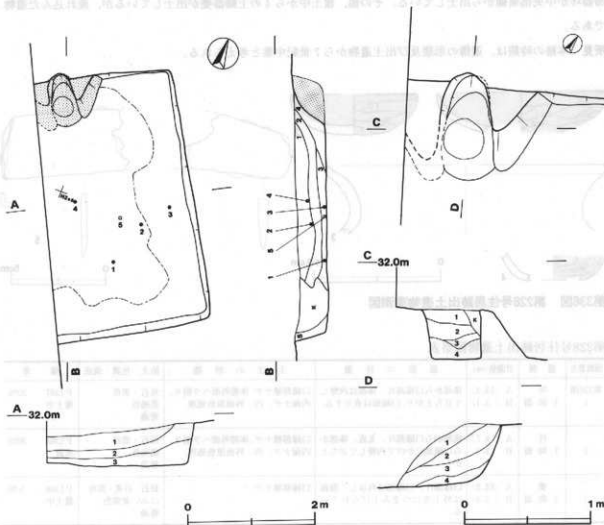
位置 調査区の南西部, H 2 d 5 区。

規模と平面形 長軸4.12m, 短軸(2.33)mの方形と推定される。

主軸方向 N-28°-W

壁 壁高48~64cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。



第337図 第229号住居跡実測図

竈 北西壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、東側袖部が覆土を受け  
ている。規模は、煙道部から吹き口部まで85cm、両袖最大幅96cm、壁外への掘り込みは10cmである。袖の内壁  
は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。  
煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量
- 3 褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量

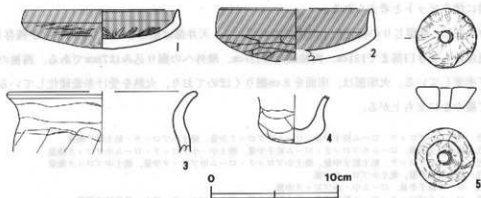
覆土 5層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム中・小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片485点(坯片71点、変片414点)、石製紡錘車1点、縄文土器片6点が出土している。覆土上層  
では、第338図2の土師器環が中央部東側から、4の土師器ミニチュア土器が斜位の状態で中央部から出土し  
ている。覆土下層では、1の土師器環が中央部南東側から正位の状態で、3の土師器壺が北東壁部から出土し  
ている。床面では、5の石製紡錘車が中央部東側から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀中葉と考えられる。



第338図 第229号住居跡出土遺物実測図

第229号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第338図 1	土師器 環	A 12.2	底部から口縁部片。丸底。体部は 内彎して立ち上がり、口縁部との 境に弱い稜を持つ。口縁部は直立 する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ割り 後ヘラ磨き、内面放射状のヘラ磨 き。内・外面黒色処理。	長石・雲母 黒褐色 普通	P 1391
		B 3.1				覆土中 PL143
2	土師器 環	A [12.0]	体部から口縁部片。体部は内彎し て立ち上がり、口縁部との境に弱 い稜を持つ。口縁部はわずかに内 傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ割り 後ヘラ磨き、内面へラ磨き。内・ 外面黒色処理。	長石・雲母 黒褐色 普通	P 1392
		B (4.0)				覆土中 二次焼成
3	壺 土師器	A [15.0] B (4.7)	体部から口縁部片。体部は内彎し て立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ割り、 内面ナデ。	長石・雲母 に白い遺色 普通	P 1393 3% 覆土中 二次焼成

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第338図 4	ミニチュア 土師器	B (3.8)	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部はわず かに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へウナデ、 内面ナデ。	長石、石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P1394 98% 覆土中 PL143

図版番号	器種	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
5	結 縄 車	4.7	1.7	0.9	45.3	粘 板 岩	床 面	Q1026 PL176

### 第230A号住居跡 (第339・340図)

位置 調査区の南部，H2 b6区。

重複関係 本跡が，第230B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸6.24m，短軸6.14mの方形である。

主軸方向 N-46°-W

壁 壁高17～43cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅13～22cm，下幅3～7cm，深さ6～16cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット 5か所 (P1～P5)。P1～P4は，長径68～85cm，短径65～70cmの楕円形，深さ70～82cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径38cm，短径31cmの楕円形，深さ26cmの楕円形である。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北西壁中央部に，砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部から焚き口部まで131cm，両袖最大幅127cm，壁外への掘り込みは78cmである。西袖の内壁は，火熱を受けて赤変している。火床部は，床面を8cm掘りくぼめており，火熱を受け赤変硬化している。煙道部は，外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 覆土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土小ブロック・粘土粒子微量
- 2 におい褐色 粘土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土中・小ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粘土粒子中量，焼土小ブロック・ローム中ブロック少量，焼土中ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
- 5 褐色 ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量
- 6 灰褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，粘土粒子少量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 7 灰褐色 粘土粒子中量，焼土小ブロック・ローム小ブロック少量，焼土中ブロック・ローム粒子微量
- 8 灰褐色 ローム・粘土粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土・粘土粒子微量

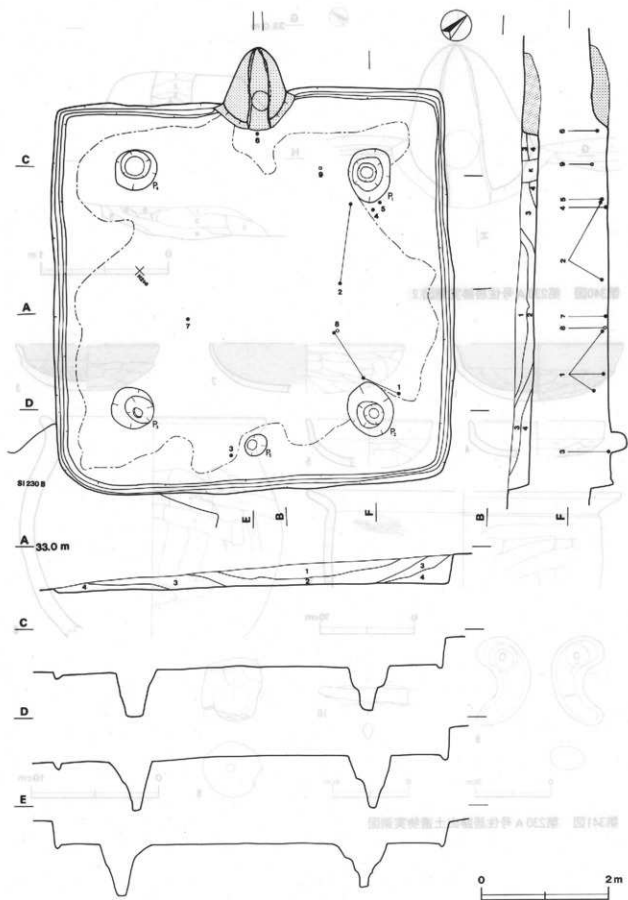
覆土 4層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

#### 土層解説

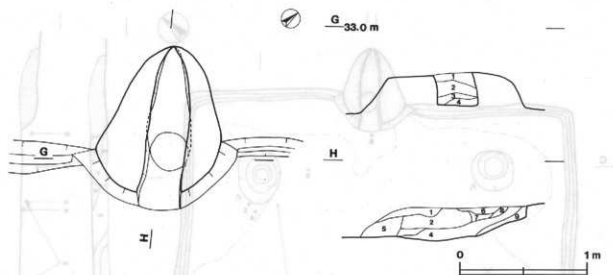
- 1 暗褐色 ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量

遺物 土師器片521点 (坏片105点，甕片416点)，須恵器片3点 (長頸瓶片2点，甕片1点)，管状土錘1点，刀子1点，勾玉1点，縄文土器片2点が出土している。覆土上層では，第341図1の土師器坏が中央部東側から，6の土師器甕が甕付近から，9の勾玉が中央部北側から出土している。覆土中層では，5の土師器坏が中央部北側から出土している。覆土下層では，2の土師器坏が中央部北東側から，3の土師器坏が南東壁部から，7の土師器瓶が中央部南側から，8の管状土錘が中央部東側から出土している。床面では，4の土師器坏が中央部北側から出土している。その他，覆土中では，10の刀子が出土している。

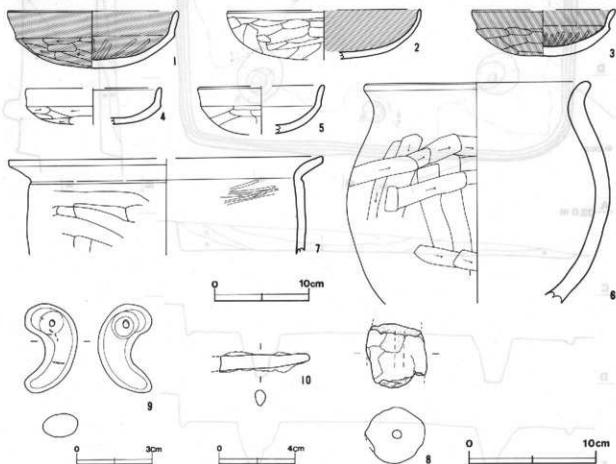
所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。



第339图 第230A号住居跡実測图(1)



第340图 第230 A号住居跡实测图(2)



第341图 第230 A号住居跡出土遺物实测图

第230 A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第341図 1	坏 土師器	A 13.5 B 4.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り後へう磨き、内面放射状のへう磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母にふい橙色普通	F1395 80% 覆土中 PL143 二次焼成
2	坏 土師器	A [15.2] B (3.9)	体部から口縁部片。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にふい橙色普通	F1396 40% 覆土中 二次焼成
3	坏 土師器	A [11.4] B 3.6	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面放射状のへう磨き。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母にふい橙色普通	F1397 50% 覆土中 二次焼成
4	坏 土師器	A [10.7] B (2.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。	長石・雲母・スコリアにふい橙色普通	F1398 25% 床面 二次焼成
5	坏 土師器	A [10.0] B (3.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。	長石・雲母 灰青褐色 普通	F1399 25% 覆土中 二次焼成
6	壺 土師器	A 17.9 B (17.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。外面一部彫面刺彫。	長石・石英・雲母にふい橙色普通	F1400 70% 覆土中 PL143 普通
7	瓶 土師器	A [33.0] B (10.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾し、頸部はわずかに外上方につまみ上げている。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面へう磨き。	長石・石英・雲母にふい橙色普通	F1401 10% 覆土中 二次焼成

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
8	管状土師	(5.1)	(4.7)	0.7	(81.4)	覆土中	DP1116 20%

図版番号	器種	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
9	勺 玉	3.6	1.3	0.9	-	(8.4)	滑石	覆土中	Q1027 90%

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
10	刀 子	(4.8)	1.2	0.6	(3.5)	覆土中	M1029 95%

第230 B号住居跡 (第342図)

位置 調査区の南部，H 2 d 6区。

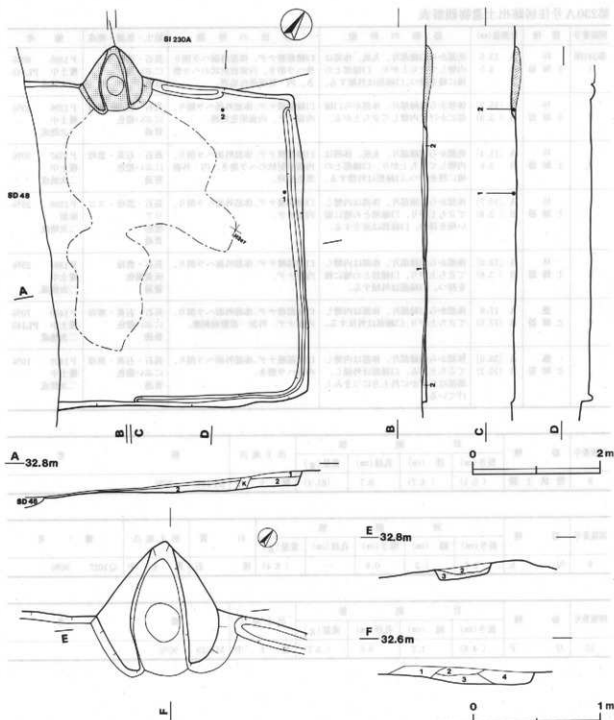
重複関係 本跡は、第230 A号住居跡と第48号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.17m，短軸(4.16)mの方形と推定される。

主軸方向 N-35°-W

壁 壁高5~28cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北コーナー部付近から南東壁下中央部にかけて半周する。上幅13~25cm，下幅4~10cm，深さ7~8cmで、断面形はU字状である。



第342図 第230B号住居跡実測図

床 平土で、竈前方部は踏み固められている。土床の表面は厚さ約10cmの層があり、その下に砂層がある。竈の内部は、火熱を受けてわずかに赤変している。火床面は、床面を8cm掘りくぼめており、火熱を受け赤硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。



覆土層解説

- 1 暗褐色 ローム・粘土粒子少量
- 2 にぶい赤褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、粘土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

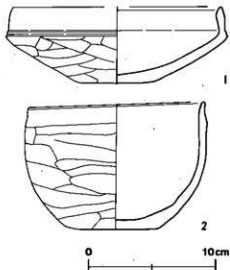
覆土 2層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片57点(坏片17点、甕片40点)、須恵器片1点(甕片1点)が出土している。床面では、第343図1の土師器坏が北東壁部から、2の土師器鉢が北コーナー部付近から正位の状態で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀前半と考えられる。



第343図 第230B号住居跡出土遺物実測図

第230B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第343図 1	土師器 坏	A [16.1]	底部から口縁部片。平底。体部はわずかに内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な線をもち、口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へうろ削り、保ナデ、内面ナデ。	長石・雲母 明褐色 普通	P1402 55% 床面 PL143
		B 6.0				
		C 6.0				
2	鉢 土師器	A 14.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へうろ削り、内面へうろ磨き。	長石・雲母 赤褐色 普通	P1403 3% 床面 PL143
		B 10.1				
		C 7.3				

第231号住居跡(第344図)

位置 調査区の南部、H 2 a7区。

重複関係 本跡は、第47号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.96m、短軸3.61mの方形である。

主軸方向 N-102°-E

壁 壁高16~30cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅16~24cm、下幅6~11cm、深さ4~8cmで、断面形はU字状である。

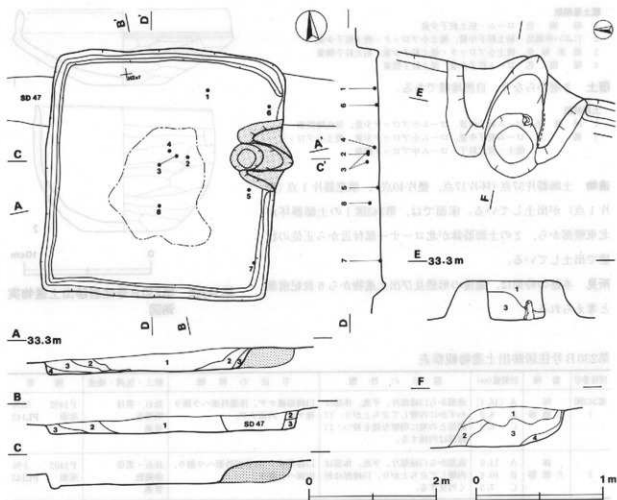
床 平坦で、中央部は踏み固められている。

竈 東壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。

規模は、煙道部から焚き口部まで98cm、両袖最大幅106cm、壁外への掘り込みは23cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。土製支脚が火床部中央付近に立った状態で出土している。煙道部は、外傾して立ち上がる。

覆土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土中・小ブロック・粘土粒子少量
- 4 暗褐色 焼土・ローム粒子少量



第344図 第231号住居跡実測図

覆土 4層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

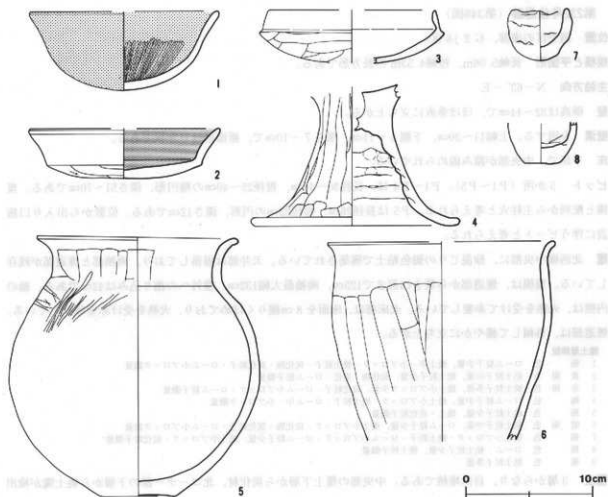
遺物 土師器片89点(坏片12点、甕片76点、高坏片1点)、縄文土器片1点、弥生土器片1点が出土している。

覆土中層では、第345図2、3の土師器坏、8のミニチュア土器が中央部付近から出土している。2は逆位、8は正位の状態で出土している。覆土下層では、1の土師器坏が中央部北東側から、4の土師器高坏が中央部付近から出土している。1は逆位の状態です。床面では、5の土師器甕が竈の前方部から逆位の状態です。6の土師器甕が北東コーナー部付近から、7のミニチュア土器が南東コーナー部付近から正位の状態です。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀中葉と考えられる。

第231号住居跡出土遺物観察表

採取番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第345図 1	坏 土師器	A 15.0 B 6.1	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナテ。体部外面へう閉り後ナテ、内面放射状のへう磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1404 65% 覆土中 PL143



第345図 第231号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第345図 2	坏 土 鉢器	A [15.2] B 4.0	底部から口縁部片。丸底。体部はわずかに内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 スコーリア 黒褐色 普通	P1405 覆土中 二次焼成
3	坏 土 鉢器	A [13.2] B (4.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内彎する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後へラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1406 覆土中 二次焼成
4	高 土 鉢器	B (11.1) D 16.6 E 10.1	脚部片。脚部はツバ状に開く。	脚部外面へラ削り、内面ナデ。輪積み及び指頭痕。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1407 覆土中
5	壺 土 鉢器	A 15.9 B 20.6 C 5.8	底部から口縁部片。平底。体部は球形状を呈し、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。脚部外面縦位へラ削り。体部外面へラ磨き、内面ナデ。外面器面刺摩。	長石・石英・雲母 赤褐色 不良	P1408 床面 PL143
6	甌 土 鉢器	A [18.0] B (15.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のへラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P1409 床面
7	ミニチュア 土 鉢器	A 4.5 B 4.1	丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部。体部内・外面ナデ。内・外面輪積み痕。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P1410 床面 PL143
8	ミニチュア 土 鉢器	B (3.2) C 2.6	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。内面輪積み痕。	長石・雲母 黄灰色 普通	P1411 覆土中

### 第232号住居跡 (第346図)

位置 調査区の南部, G2j8区。

規模と平面形 長軸5.06m, 短軸4.53mの長方形である。

主軸方向 N-63°-E

壁 壁高は32~44cmで, ほほ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅11~30cm, 下幅5~11cm, 深さ7~10cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は, 長径30~44cm, 短径25~40cmの楕円形, 深さ51~70cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P5は長径26cm, 短径22cmの円形, 深さ12cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北西壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部と煙道部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで125cm, 両袖最大幅132cm, 壁外への掘り込みは42cmである。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床部は, 床面を8cm掘りくぼめており, 火熱を受け赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 覆土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黄褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物・炭化・ローム粒子微量
- 3 赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中・小ブロック微量
- 5 褐色 粘土粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 7 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム・粘土粒子少量, 焼土粒子微量
- 9 褐色 粘土粒子多量

覆土 3層からなり, 自然堆積である。中央部の覆土下層から炭化材, 北コーナー部の下層から焼土塊が検出されている。

#### 土層解説

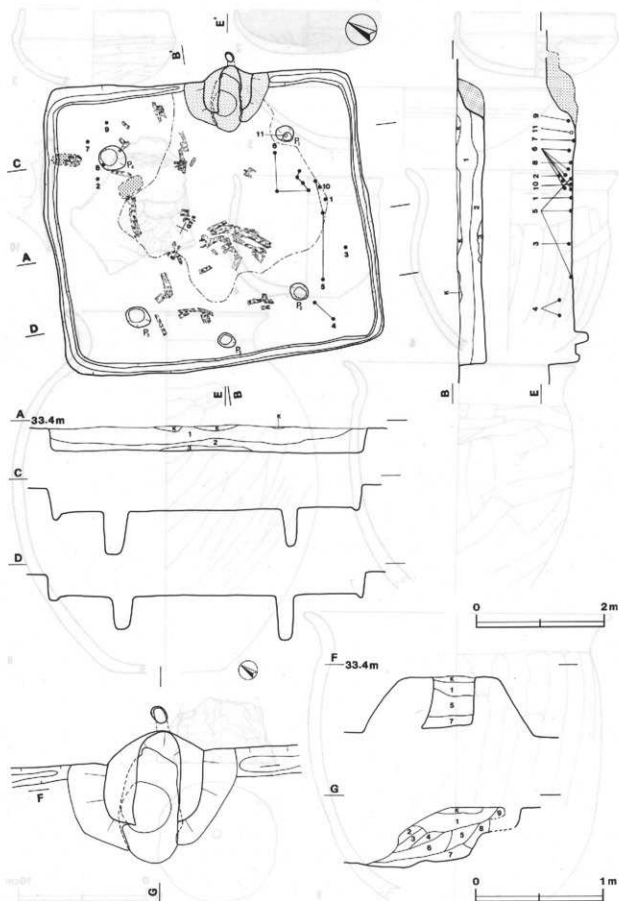
- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土・炭化・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化材・炭化物微量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子・炭化材・炭化物少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片257点 (坏片8点, 甕片249点), 土製支脚1点, 縄文土器片12点が出土している。覆土中層では, 第347図2の土師器坏が北コーナー部から, 4の土師器碗が南コーナー部付近から出土している。覆土下層では, 9の土師器甕が北コーナー部から, 11の土製支脚が中央部東側から出土している。床面では, 1の土師器坏, 3の土師器坏, 5の土師器高坏, 6の土師器甕, 10の土師器瓶が南東壁部付近から, 8の土師器甕, 7の甕が北コーナー部から出土している。1は逆位の状態で出土している。

所見 本跡は, 覆土下層から床面にかけて焼土塊や炭化材がみられることから, 焼失家屋と思われる。本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から6世紀中葉と考えられる。

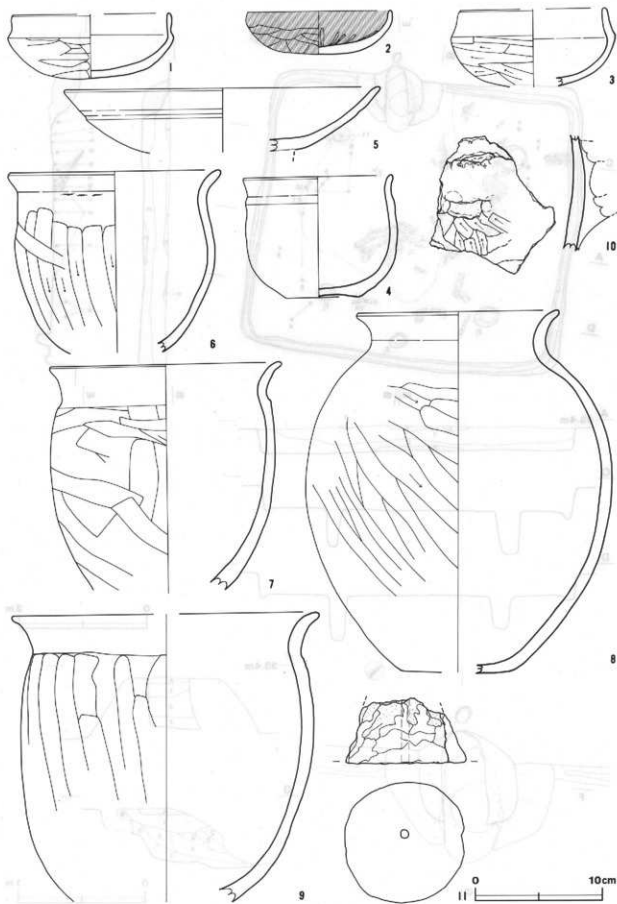
### 第232号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第347図 1	土師器 坏	A [12.2]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に明瞭な線を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面ナデ。	長石・石英・雲母にふい黄褐色普通	P1412 70% 床面 PL143
		B 5.0				
2	土師器 坏	A 11.4	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母・スクリア 灰褐色 普通	P1413 80% 覆土中 PL144
		B 3.3				



第346图 第232号住居跡実測图

図解資料集 土佐県立総合資料館 図146



第347图 第232号住居跡出土遺物実測図

図面実測器土伊232番 昭和41年

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第347図 3	坏 土 師 器	A [11.4] B (6.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1414 30% 床面
4	陶 土 師 器	A 11.8 B 9.5 C 5.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部内面ナデ。外面器面寛れ。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 不良	P1416 40% 覆土中 二次焼成
5	高 坏 土 師 器	A 25.0 B (5.1)	坏部片。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。	長石 にふい褐色 普通	P1415 70% 床面 PL144 二次焼成
6	甕 土 師 器	A 16.8 B (14.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のへラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部に輪轆み痕。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P1420 80% 床面 PL143
7	甕 土 師 器	A 18.2 B (17.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P1419 80% 床面
8	甕 土 師 器	A 15.9 B 28.6 C [8.6]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P1417 85% 床面 PL144
9	甕 土 師 器	A [24.8] B (22.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のへラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1418 80% 覆土中 PL144
10	瓶 上 師 器	-	把手部一部欠損片。把手は環状を呈する。	把手部貼付け後、ナデ。	長石・石英・雲母 オリーブ黒色 普通	P1421 5% 床面

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量(g)		
11	支 脚	(5.0)	9.4	0.7	(338.2)	覆 土 中	DP1117 20%

### 第233号住居跡 (第348図)

位置 調査区の南部、H2j2区。

規模と平面形 長軸4.70m、短軸4.41mの方形である。

主軸方向 N-3°-W

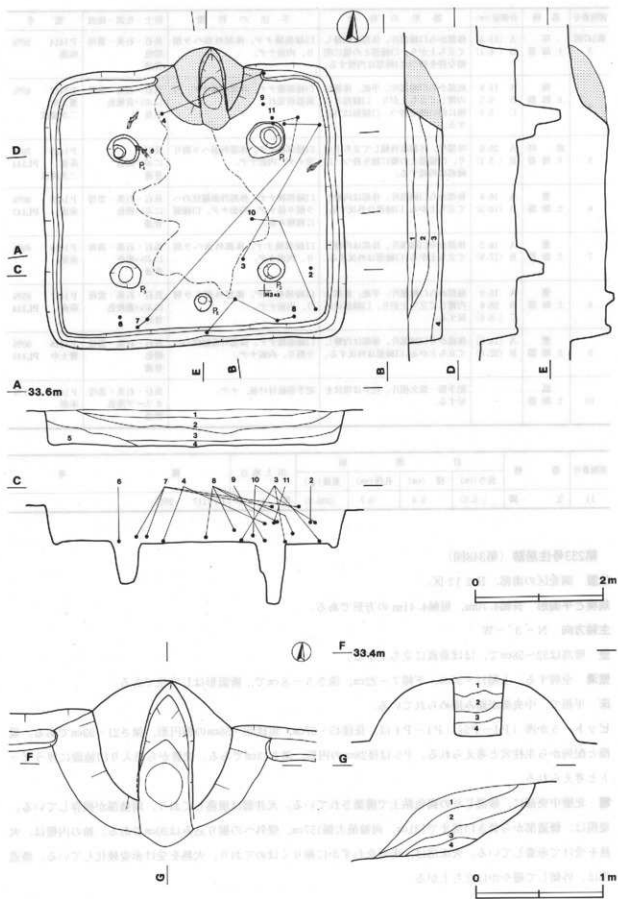
壁 壁高は52~58cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅12~30cm、下幅7~22cm、深さ5~8cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長径45~67cm、短径38~56cmの楕円形、深さ21~93cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径28cmの円形、深さ13cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

甕 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで131cm、両袖最大幅157cm、壁外への掘り込みは30cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。



第348图 第233号住居跡実測図



覆土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム・粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム・粘土粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 4 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、ローム粒子少量、焼土大・中ブロック・炭化物・炭化粒子微量

覆土 5層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。東壁部と竈の前方部の覆土下層から炭化材や焼土塊が検出されている。

土層解説

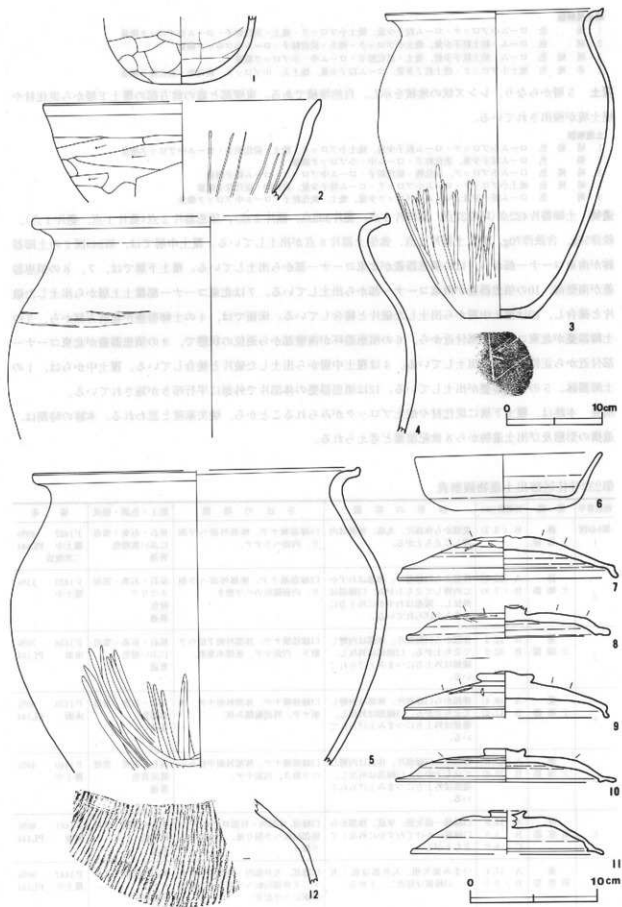
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック、炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片422点(坏片27点、高坏片1点、甕片392点、瓶片2点)、須恵器片2点(蓋片1点、甕片1点)、鉄滓50g、含鉄滓70g、縄文土器片2点、弥生土器片6点が出土している。覆土中層では、第349図2の土師器鉢が南東コーナー部から、11の須恵器蓋が北東コーナー部から出土している。覆土下層では、7、8の須恵器蓋が南壁部、10の須恵器蓋が南東コーナー部から出土している。7は北東コーナー部覆土上層から出土した破片と接合し、10は覆土中層から出土した破片と接合している。床面では、4の土師器甕が竈前方部から、3の土師器甕が北東コーナー部付近から、6の須恵器坏が南壁部から逆位の状態で、9の須恵器蓋が北東コーナー部付近から正位の状態でも出土している。4は覆土中層から出土した破片と接合している。覆土中からは、1の土師器鉢、5の土師器甕が出土している。12は須恵器甕の体部片で外面に平行叩きが施されている。

所見 本跡は、覆土下層に炭化材や焼土ブロックがみられることから、焼失家屋と思われる。本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀前半と考えられる。

第233号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第349図 1	鉢 土師器	B (5.3)	底部から体部片。丸底。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラナデ。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P1422 40% 覆土中 PL144 二次焼成
2	鉢 土師器	A [22.0] B (7.9)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、踵部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面縦位のへラ磨き。	長石・石英・雲母 スコリア 棕色 普通	P1423 15% 覆土中
3	甕 土師器	A 22.6 B 32.3	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、踵部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面下位へラ磨き、内面ナデ。底部木炭痕。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P1438 70% 床面 PL144
4	甕 土師器	A [28.4] B (17.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、踵部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面ナデ、内面ナデ。外面輪積み痕。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P1439 30% 床面 PL144
5	甕 土師器	A [25.8] B (23.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、踵部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面中位からへラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通	P1440 40% 覆土中
6	坏 須恵器	A 14.8 B 4.3 C 8.0	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけてわずかに外反して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロロナデ。底部回転へラ削り後、一方向のへラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P1441 80% 床面 PL144
7	蓋 須恵器	A 17.4 B (3.5)	つまみ部欠損。天井部は低く丸い。口縁部は直垂し、下がる。	口縁部、天井部内・外面クロロナデ。天井部回転へラ削り。天井部外面にへラ記号。	長石・石英・スコリア 灰褐色 普通	P1442 90% 覆土中 PL144



第349図 第233号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第349図 8	蓋 須恵器	A 16.1 B (2.5) F 4.3 G 0.8	つまみ部から口縁部片。つまみはボタン状である。天井部は低く丸い。口縁部は水平方向に折り曲げ、内面に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘタ削り。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P 1443 80% 覆土中 PL145
9	蓋 須恵器	A [16.3] B 3.8 F [4.4] G (1.1)	つまみ部から口縁部片。つまみはボタン状である。天井部は低く丸い。口縁部は屈曲し、下がる。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘタ削り。天井部外面にヘタ記号。	長石・スコリア 灰黄褐色 普通	P 1444 65% 床面 PL145
10	蓋 須恵器	A 17.4 B 2.7 F 3.3 G 0.7	つまみ部から口縁部片。つまみはボタン状である。天井部は低く丸い。口縁部は水平方向に折り曲げ、内面に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘタ削り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P 1445 80% 覆土中 PL145
11	蓋 須恵器	A [15.2] B 3.8 F [3.0] G 0.5	つまみ部から口縁部片。つまみはボタン状である。天井部は頂部が平坦で、外面部はならだかに下降する。口縁部は内面に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘタ削り。	長石・石英 灰色 普通	P 1446 25% 覆土中

27000 50000 100000 150000 200000 250000 300000 350000 400000 450000 500000 550000 600000 650000 700000 750000 800000 850000 900000 950000 1000000

第234 A号住居跡(第350図) 東京都台東区北千住6丁目1番地

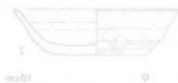
位置 調査区の南東部、G 3 16区。

重複関係 本跡が、第234 B号住居跡を掘り込んでいる。

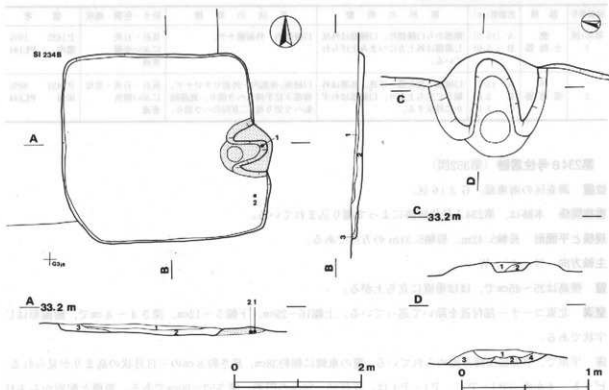
規模と平面形 長軸3.01m、短軸2.95mの方形である。

主軸方向 N-89°-E

壁 壁高は8~12cmで、外傾して立ち上がる。



土出坑掘削分A145層 器1枚層  
図面実寸表



第350図 第234 A号住居跡実測図

床 平坦で、踏み固められた部分は見られない。

竈 東壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は削平されているが、両袖部は残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで83cm、両袖最大幅94cm、壁外への掘り込みは20cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

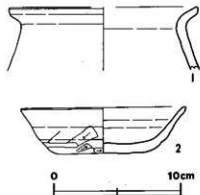
竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量

覆土 3層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量



第351図 第234A号住居跡出土  
遺物実測図

遺物 土師器片73点（坏片24点、寛片49点）が出土している。床面では、第351図2の須恵器坏が南東コーナー部付近から正位の状態では出土している。竈内からは、1の土師器片が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀と考えられる。

第234A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第351図 1	土師器 寛	A [15.0]	胴部から口縁部片。口縁部は外反し、頸部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 にふい赤褐色 普通	P1425 10% 竈内 PL144
		B (5.0)				
2	坏 須恵器	A 13.1	口縁部 部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面口縁ナデ。 体部下位手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、二方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 にふい橙褐色 普通	P1424 98% 床面 PL144
		B 3.6				
		C 7.0				

第234B号住居跡（第352図）

位置 調査区の南東部、G3i6区。

重複関係 本跡は、第234A号住居跡によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.42m、短軸5.31mの方形である。

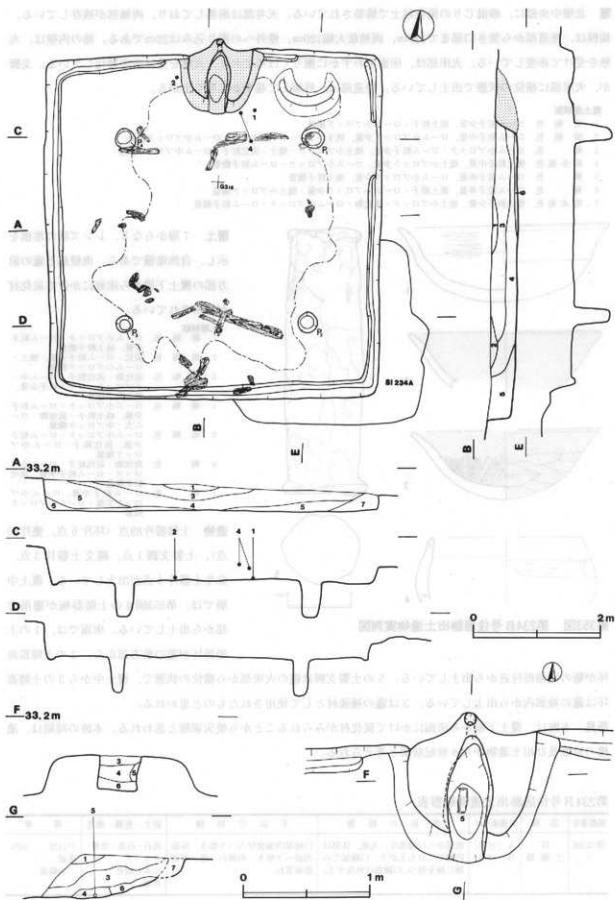
主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は25~45cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北東コーナー部付近を除いて廻っている。上幅16~29cm、下幅5~12cm、深さ4~8cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。竈の東側に幅約38cm、高さ約8cmの三日月状の高まりが見られる。

ピット 4か所（P1~P4）。P1~P4は、長径26~36cmの円形、深さ53~60cmである。規模と配列から柱穴と考えられる。

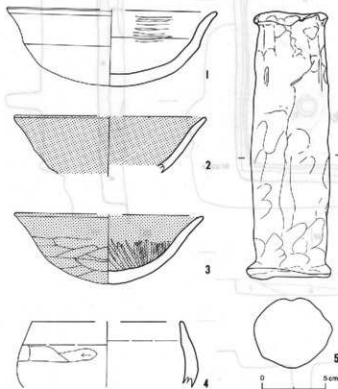


第352図 第234号住居跡実測図

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで120cm、両袖最大幅120cm、壁外への掘り込みは22cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤硬化している。支脚が、火床部に横位の状態で出土している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック微量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子微量



覆土 7層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。南壁部と竈の前方部の覆土下層から床面にかけて炭化材が検出されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化・ローム粒子少量、焼土・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・ローム大・中ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 6 褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量・ローム大ブロック微量

遺物 土師器片89点(坏片9点、甍片80点)、土製支脚1点、縄文土器片3点、弥生土器片4点が出土している。覆土中層では、第353図4の土師器碗が竈前方部から出土している。床面では、1の土師器坏が竈の前方部から、2の土師器高坏が竈の西袖部付近から出土している。5の土製支脚は竈の火床部から横位の状態で、覆土中から3の土師器坏は竈の袖部内から出土している。3は竈の補強材として使用されたものと思われる。

第353図 第234B号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡は、覆土下層から床面にかけて炭化材がみられることから焼失家屋と思われる。本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀前葉と考えられる。

第234B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第353図 1	坏 土師器	A [16.6] B 6.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内面横位のへろ磨き。体部内面へろ磨き。内面の一部と外面器面荒れ。	長石・石英・雲母・スコリア に白い橙褐色 普通	P1426 40% 床面 二次焼成

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第353図 2	高坏土器	A [15.0] B (4.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう閉り後ナデ、内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英 棕色 普通	P1427 20% 床面
3	坏土器	A [14.9] B 5.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へう閉り後ナデ。内面放射状のへう磨き。内・外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P1437 50% 窠内
4	碗土器	A [11.6] B (5.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へう閉り後ナデ。内面ナデ。	長石・雲母 にふい赤褐色 普通	P1428 15% 覆土中 二次焼成

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
5	支脚	21.0	6.7	-	903.9	窠内 DP1118	100% PL173

### 第234C号住居跡(第355図)

位置 調査区の南東部、H3j5区。

重複関係 本跡が、第234D号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.58m、短軸3.45mの方形である。

主軸方向 N-78°-E

壁 壁高は30~35cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南東コーナー部と南壁下の一部を除いて巡っている。上幅17~24cm、下幅4~8cm、深さ4~11cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

貯蔵穴 南西コーナーに付設され、は長径67cm、短径51cmの楕円形、深さ23cmである。性格は不明である。

#### 貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

竈 東壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、煙道部と両袖部が残存している。

規模は、煙道部から焚き口部まで105cm、両袖最大幅88cm、壁外への掘り込みは64cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を8cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

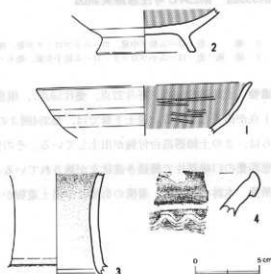
#### 竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム・粘土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 5 褐色 粘土ブロック多量

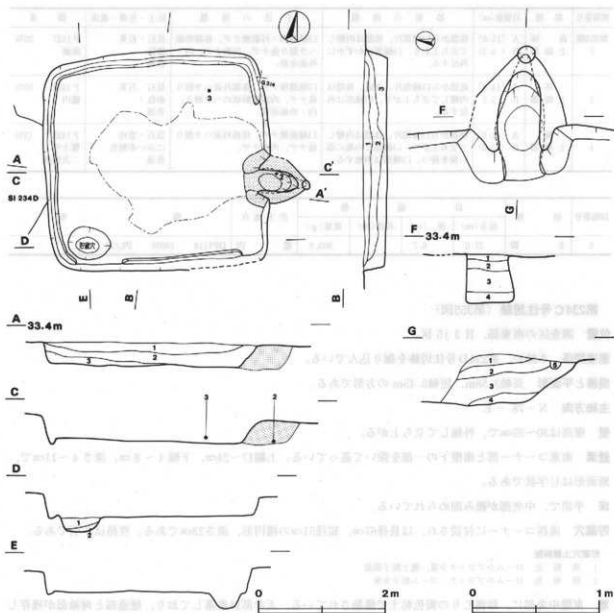
覆土 3層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量



第354図 第234C号住居跡出土遺物実測図



第355図 第234C号住居跡実測図

- 2 堀 色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量  
 3 堀 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量

遺物 土師器片86点(坏片27点、甍片59点)、須恵器片22点(坏片15点、甍片7点)、含鉄滓10g、縄文土器片1点が出土している。覆土下層では、第354図3の須恵器長頸瓶が北東コーナー部から出土している。竈内からは、2の土師器高台付椀が出土している。その他、覆土中から1の土師器高台付椀が出土している。4は須恵器甍の口縁部片で柳掻き波状文が施されている。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から10世紀前葉と考えられる。



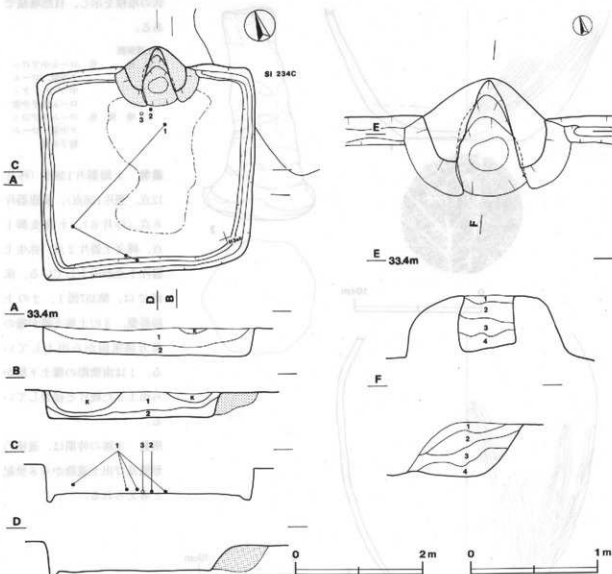
第234C号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第354図 1	高台付椀 土器	A { 17.0 B ( 3.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にふい・褐色普通	P1430 10% 靑土中 二次焼成
2	高台付椀 土器	B { 3.4 D 7.9 E 1.3	高台部から体部片。高台部はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。高台貼付け。	長石・石英・雲母にふい・褐色普通	P1431 20% 靑土中 二次焼成
3	長頸 灰陶器	B ( 8.0)	頸部片。頸部はわずかに外反して立ち上がる。	頸部内・外面ロクロナデ。内面上位灰積。	長石・黒い吹き出し 灰黄色普通	P1432 5% 靑土中 黒敷90号窯式

第234D号住居跡 (第356図)

位置 調査区の南東部、G 3 j 4 区。

重複関係 本跡は、第234C号住居跡によって掘り込まれている。



第356図 第234D号住居跡実測図

規模と平面形 長軸3.38m, 短軸3.26mの方形である。

主軸方向 N-18°-E

壁 壁高は42~45cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅18~28cm, 下幅7~13cm, 深さ7~11cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に、砂泥じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで94cm, 両袖最大幅131cm, 壁外への掘り込みは32cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を8cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

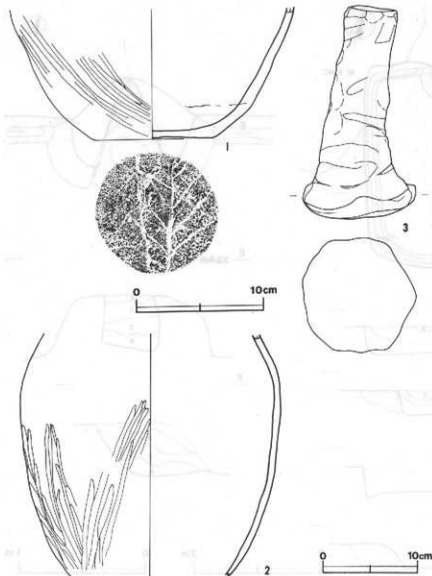
- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 2 褐色 ローム中・小ブロック少量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量

覆土 2層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量

遺物 土師器片138点(坏片12点, 甕片126点), 須恵器片8点(坏片8), 土製支脚1点, 縄文土器片2点, 弥生土器片1点が出土している。床面では、第357図1, 2の土師器甕, 3の土製支脚が竈の前方部床面から出土している。1は南壁際の覆土下層から出土した破片と接合している。所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀と考えられる。



第357図 第234D号住居跡出土遺物実測図

### 第234D号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第357図 1	壺 土師器	B (10.3) C 9.6	底部から体部下位片。平底。体部は内脣して立ち上がる。	体部外面へラ磨き。内面ナデ。底部未焼成。内面輪復み板。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 1433 30% 床面
2	壺 土師器	B (25.6)	体部上位から下位片。体部は内脣して立ち上がる。	体部外面中位から下位にかけてへラ磨き。内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい赤褐色 普通	P 1434 30% 床面

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
3	支脚	16.9	9.0	-	681.6	床面	DP1119	100%	PL172

### 第235号住居跡 (第358・359図)

位置 調査区の南東部, H 3 b 5 区。

規模と平面形 長軸4.86m, 短軸4.83mの方形である。

主軸方向 N-4°-E

壁 壁高は38~58cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅18~33cm, 下幅5~14cm, 深さ8~12cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は, 長径55~68cm, 短径50~59cmの楕円形, 深さ47~62cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径45cm, 短径36cmの楕円形, 深さ31cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで106cm, 両袖最大幅106cm, 壁外への掘り込みは46cmである。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床面は, 床面をわずかに掘りくはめており, 火熱を受け赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 竈土層解説

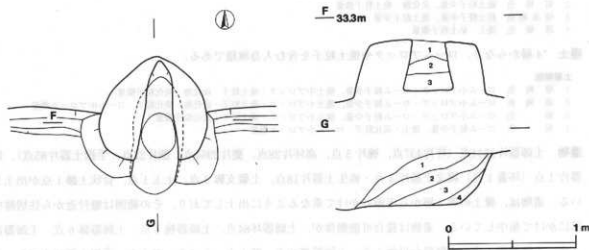
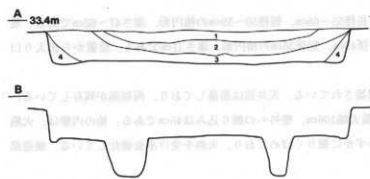
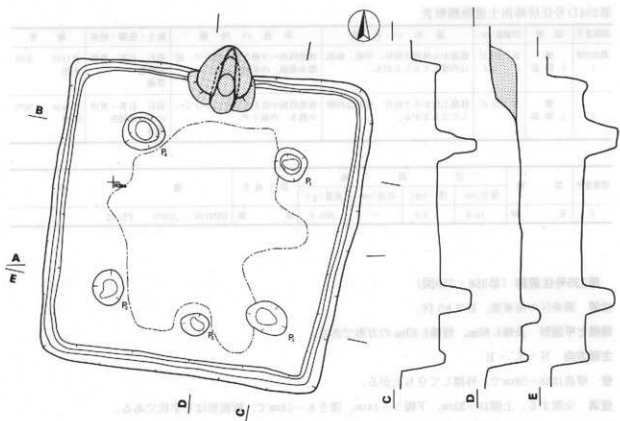
- 1 褐色 ローム・粘土粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量, 炭化物・粘土粒子微量
- 3 暗赤褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量
- 4 暗褐色 焼土・粘土粒子微量

覆土 4層からなり, ロームブロックや焼土粒子を含む人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量

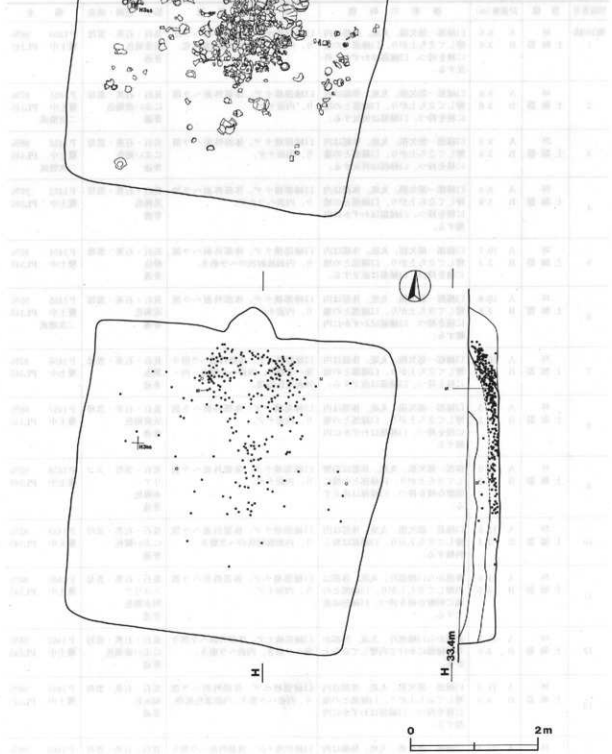
遺物 土師器片3544点(坯片437点, 碗片3点, 高坏片28点, 壺片2964点, 瓶片27点, 手捏土器片85点), 須恵器片1点(坏蓋1点) 縄文土器片4点・弥生土器片18点, 土製支脚3点, 土玉1点, 管状土錘1点が出土している。遺物は, 覆土の第3層から床面にかけて重なるように出土しており, その範囲は竈付近から住居跡中央部にかけて集中している。遺物は接合可能個体が, 土師器環84点, 土師器椀4点, 土師器鉢6点, 土師器高坏3点, 土師器壺1点, 土師器台付鉢1点, 土師器甕30点, 瓶1点, ミニチュア1点, 手捏土器40点であった。



第358図 第235号住居跡実測図(1)

1. 土器類 (土器、瓦) 2. 石器類 (石器、石片) 3. 骨角器類 (骨器、角器) 4. 金属器類 (金属器) 5. 土質類 (土質) 6. 植物遺存物 (植物遺存物) 7. 動物遺存物 (動物遺存物) 8. 貨幣類 (貨幣) 9. 文書類 (文書) 10. 其他 (其他)

第235号住居跡出土状況図(2)

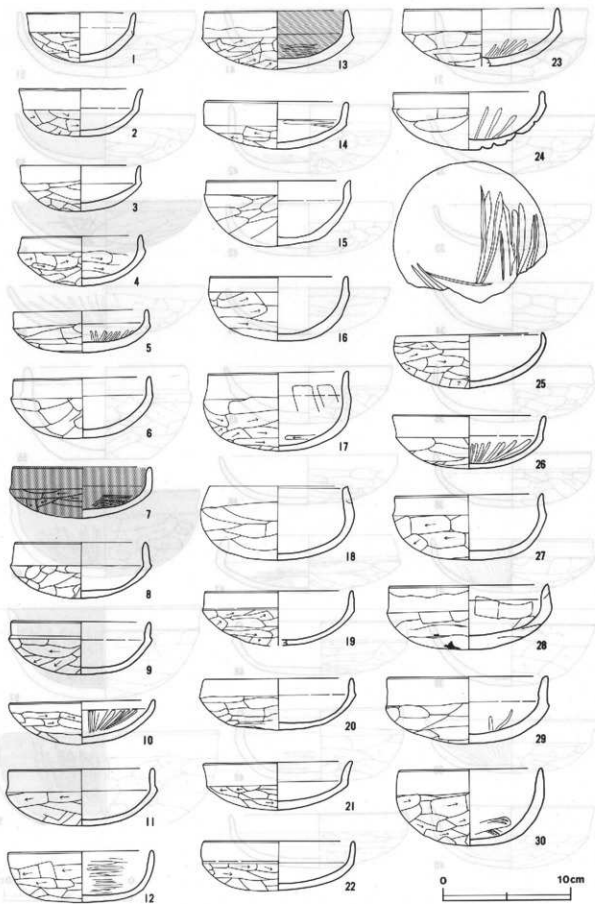


第359図 第235号住居跡遺物出土状況図(2)

所見 本跡は、覆土中にローム小ブロック・ローム粒子を多く含んでいることから、人為的に埋め戻されたものと思われる。遺物は、本跡が廃棄された後に竈棚から大量に投棄されたと思われる。器種は、坏、甕、手捏土器等が多く、その中で坏、手捏土器は完形品が多い。これらのことから、遺物の大量廃棄は、単なる廃棄ではなく祭祀的意味合いを持つものと考えられる。本跡の時期は、遺物の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。

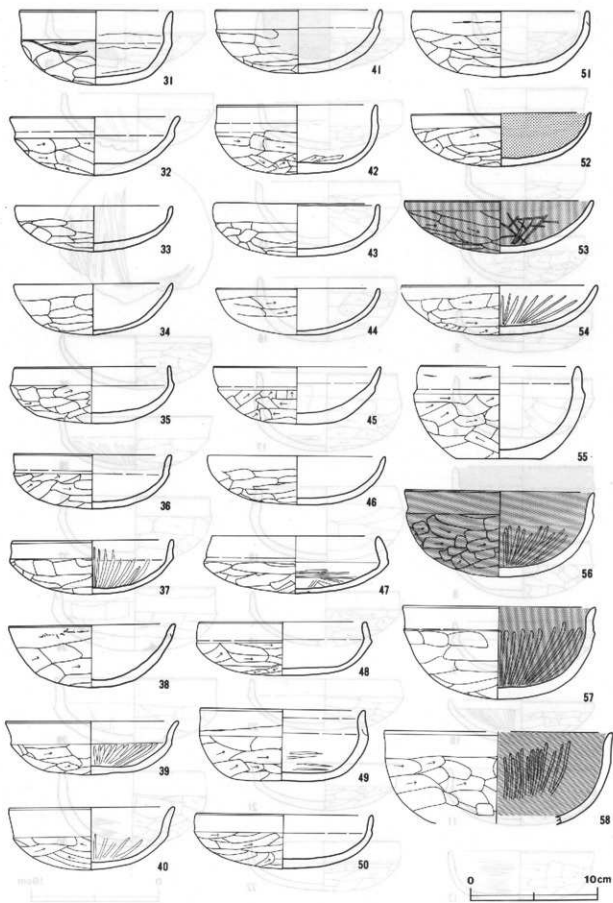
### 第235号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計量値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第360図 1	坏 土師器	A 8.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。口縁部輪積み気。	長石・石英・雲母 明黄褐色 普通	P1450 98% 覆土中 PL145
		B 3.8				
2	坏 土師器	A 9.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 ぶい黄褐色 普通	P1451 97% 覆土中 PL145 二次焼成
		B 3.8				
3	坏 土師器	A 9.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 ぶい褐色 普通	P1452 98% 覆土中 PL145 二次焼成
		B 3.6				
4	坏 土師器	A 9.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P1453 97% 覆土中 PL145
		B 3.9				
5	坏 土師器	A 10.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P1454 95% 覆土中 PL145
		B 3.3				
6	坏 土師器	A 10.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P1455 95% 覆土中 PL145 二次焼成
		B 4.8				
7	坏 土師器	A 10.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母 黒色 普通	P1456 93% 覆土中 PL145
		B 4.1				
8	坏 土師器	A 10.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P1457 98% 覆土中 PL145
		B 4.3				
9	坏 土師器	A 11.0	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・雲母・スコリア 赤褐色 普通	P1458 95% 覆土中 PL145
		B 4.2				
10	坏 土師器	A 11.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は広く外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 ぶい褐色 普通	P1459 95% 覆土中 PL145
		B 3.4				
11	坏 土師器	A 11.0	体部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 スコリア 明赤褐色 普通	P1460 80% 覆土中 PL145
		B 4.5				
12	坏 土師器	A 11.5	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 ぶい赤褐色 普通	P1462 98% 覆土中 PL145
		B 4.0				
13	坏 土師器	A 11.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1461 98% 覆土中 PL145
		B 4.3				
14	坏 土師器	A 11.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1463 98% 覆土中 PL145
		B 3.8				



第360图 第235号住居跡出土遺物実測図(1)

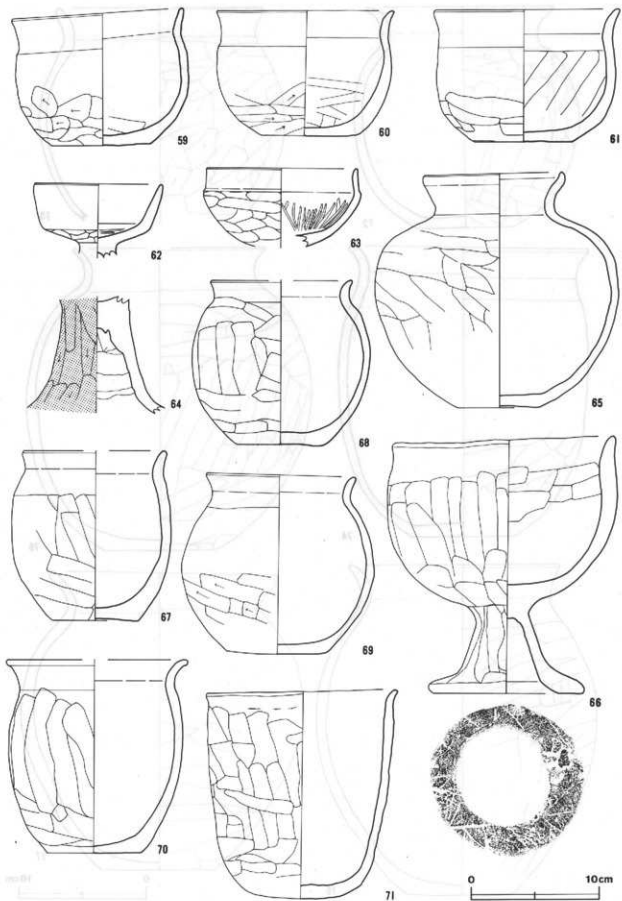
縄文時代前期の土器の形制と年代 図136



第361图 第235号住居跡出土遺物実測図(2)

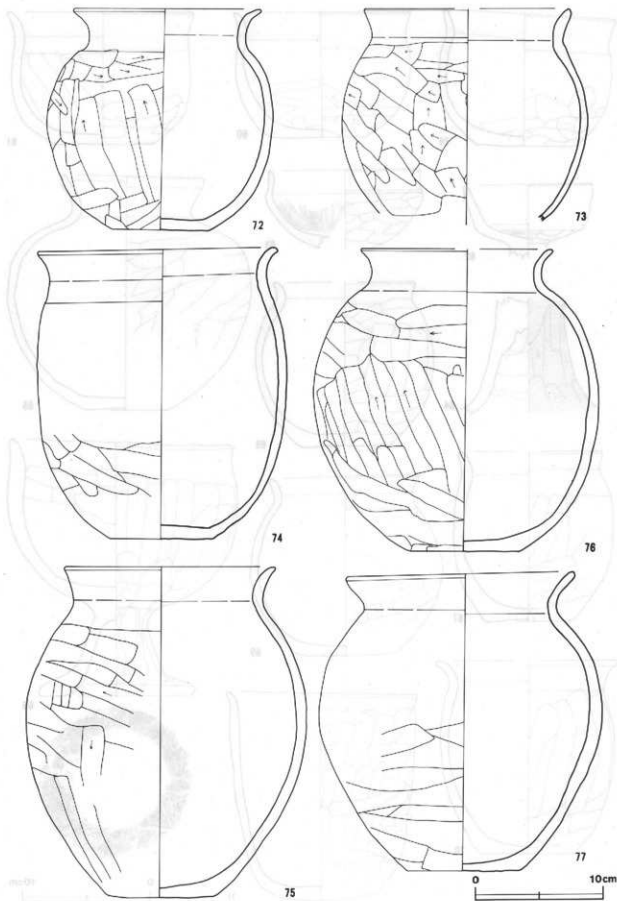
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58





第362图 第235号住居跡実測图(3)

大塚古墳出土の土器実測図(3)

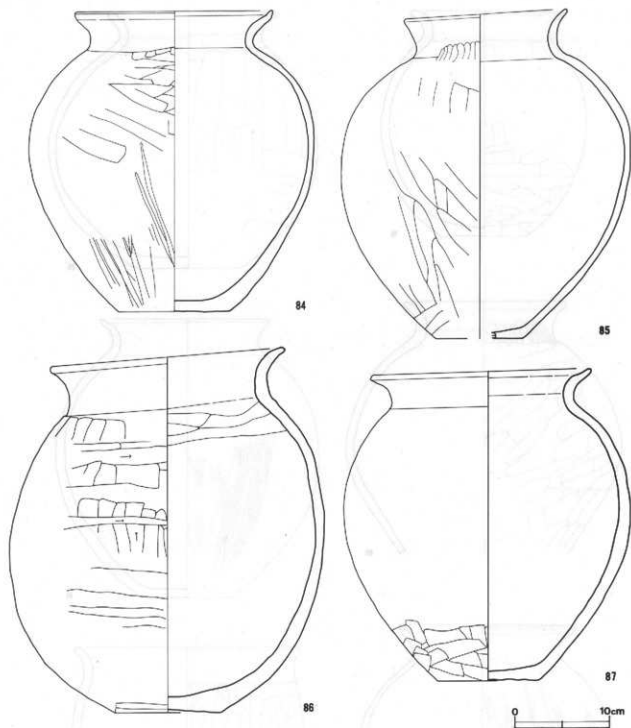


第363图 第235号住居跡出土遺物実測図(4)

《新編 青森県史》第2巻 歴史編

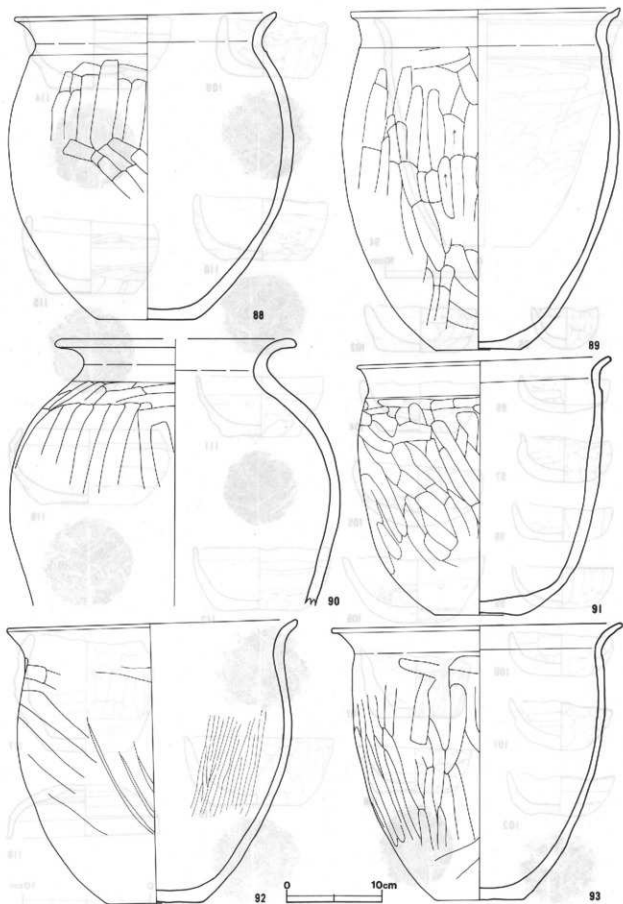


第364图 第235号住居跡出土遺物実測図(5)



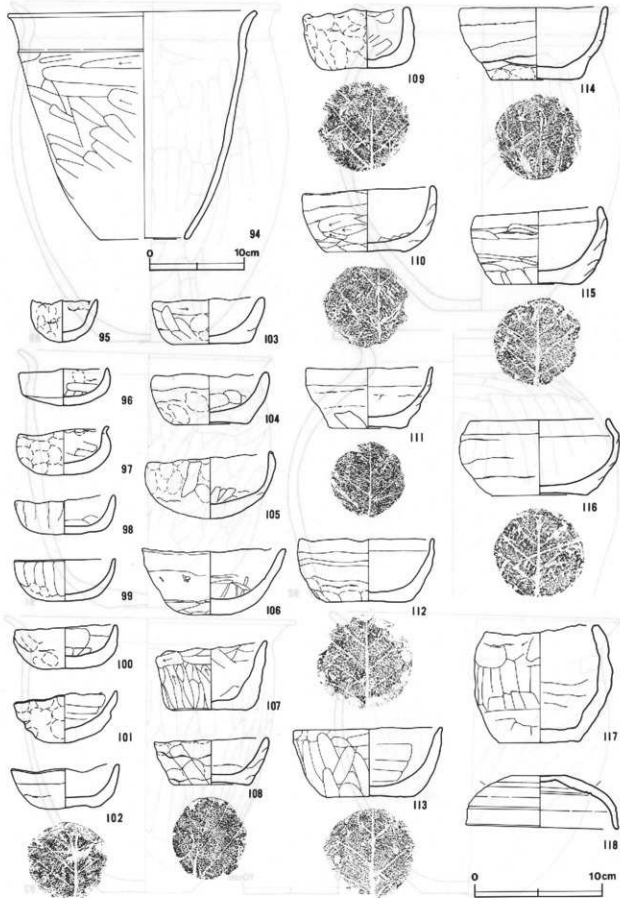
第365図 第235号住居跡出土遺物実測図(6)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第365図 15	坏 土 加 器	A 11.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎して立ち上がり、口縁部との境 に弱い稜を持つ。口縁部は内傾き 状で直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P 1464 93% 覆土中 PL145
		B 5.2				
16	坏 土 器	A 10.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎して立ち上がり、口縁部との境 に弱い稜を持つ。口縁部は直立す る。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P 1465 92% 覆土中 PL145
		B 5.1				



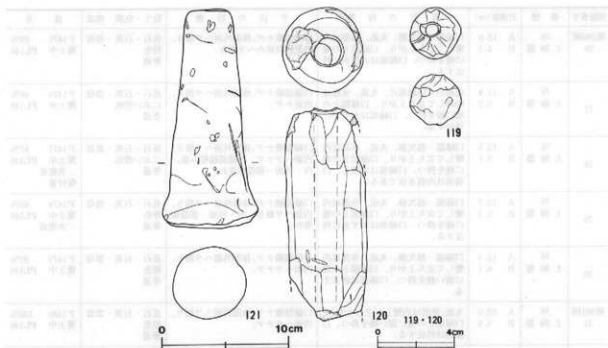
第366图 第235号住居跡出土遺物実測図(7)

1 国史院蔵出土品 2 国史院蔵 3 国史院蔵



第367图 第235号住居跡出土遺物実測図(8)

京都府立総合資料館 京都市立総合資料館



第368図 第235号住居跡出土遺物実測図(9)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第360図 17	坏 土 師 器	A 11.2 B 6.2	底部から口縁部片、丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ張り、内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 にふい橙色 普通	P1466 85% 覆土中 PL146
18	坏 土 師 器	A 11.0 B 5.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ張り、内面ナデ。外面器面荒れ。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P1467 98% 覆土中 PL146
19	坏 土 師 器	A 11.3 B (4.3)	底部から口縁部片、丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ張り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア にふい橙色 普通	P1468 75% 覆土中 PL146
20	坏 土 師 器	A 11.8 B 4.1	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ張り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい橙色 普通	P1469 85% 覆土中 PL146
21	坏 土 師 器	A 11.8 B 3.7	底部から口縁部片、丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ張り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい赤褐色 普通	P1470 88% 覆土中 PL146 二次焼成
22	坏 土 師 器	A 11.8 B 4.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに内彎する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ張り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P1471 98% 覆土中 PL146 二次焼成
23	坏 土 師 器	A 12.2 B (4.5)	底部から口縁部片、丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ張り、内面へウ磨き。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1472 80% 覆土中
24	坏 土 師 器	A 11.9 B 4.6	底部から口縁部。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ張り、内面放射状のヘラ磨き。底部摩耗痕。	長石・石英・雲母 橙褐色 普通	P1473 80% 覆土中 PL146 二次焼成
25	坏 土 師 器	A 11.5 B 4.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内彎する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ張り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい赤褐色 普通	P1474 93% 覆土中 PL146

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第360図 26	坏 土師器	A 12.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎して立ち上がり、口縁部との境 に稜を持つ。口縁部はわずかに外 反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面放射状のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1475 95% 覆土中 PL146
		B 4.3				
27	坏 土師器	A 11.8	底部から口縁部片。丸底。体部は 内彎して立ち上がり、口縁部との 境に稜を持つ。口縁部はわずかに 外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P1476 80% 覆土中 PL146
		B 5.2				
28	坏 土師器	A 12.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎して立ち上がり、口縁部との境 に稜を持つ。口縁部は内傾し、口 唇部は内開き状である。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ヘラナデ。口縁部輪積み状。 内・外面一部磨面荒れ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1477 97% 覆土中 PL146 二次焼成 底付着
		B 5.1				
29	坏 土師器	A 12.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎して立ち上がり、口縁部との境 に稜を持つ。口縁部はわずかに外 反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面へラ磨き。内・外面一部磨面 荒れ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1478 85% 覆土中 PL146 二次焼成
		B 5.3				
30	坏 土師器	A 11.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎して立ち上がり、口縁部との境 に弱い稜を持つ。口縁部は直立す る。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1479 99% 覆土中 PL146
		B 6.1				
第361図 31	坏 土師器	A 12.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、 口縁部との境に弱い稜を持つ。口 縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1480 100% 覆土中 PL146
		B 5.9				
32	坏 土師器	A 13.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎して立ち上がり、口縁部との境 に明瞭な稜を持つ。口縁部は外反 する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 1481 PL 146 90% 覆土中 二次焼成
		B 4.7				
33	坏 土師器	A 12.2	口縁部一部欠損。丸底。体部から 口縁部にかけて内彎して立ち上 がる。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1482 99% 覆土中 PL146
		B 3.6				
34	坏 土師器	A 12.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎して立ち上がり、口縁部はわず かに外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P1483 98% 覆土中 PL146 二次焼成
		B 4.1				
35	坏 土師器	A 12.2	口縁部及び体部一部欠損。丸底。 体部は内彎して立ち上がり、口縁 部との境に明瞭な稜を持つ。口縁 部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母 浅黄褐色 普通	P1484 90% 覆土中 PL146
		B 4.5				
36	坏 土師器	A 12.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎して立ち上がり、口縁部との境 に明瞭な稜を持つ。口縁部はわず かに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい赤褐色 普通	P1485 85% 覆土中 PL146
		B 4.3				
37	坏 土師器	A 12.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、 口縁部との境に稜を持つ。口縁部 はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り 後へラ磨き。内面放射状のヘラ磨 き。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P1486 100% 覆土中 PL147 二次焼成
		B 4.3				
38	坏 土師器	A 13.2	口縁部一部欠損。丸底。体部から 口縁部にかけて内彎して立ち上 がる。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。外面輪積み状。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1487 97% 覆土中 PL147 二次焼成
		B 4.9				
39	坏 土師器	A 13.6	底部から口縁部片。丸底。体部は 内彎して立ち上がり、口縁部との 境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外 反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面放射状のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P1488 88% 覆土中 PL147 二次焼成
		B 4.2				
40	坏 土師器	A 12.0	底部から口縁部片。丸底。体部は 内彎して立ち上がり、口縁部との 境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外 反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面放射状のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P1489 80% 覆土中 PL147 二次焼成
		B 4.9				
41	坏 土師器	A 12.2	底部から口縁部片。丸底。体部は 内彎して立ち上がり、口縁部との 境に稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1490 85% 覆土中 PL147
		B 5.0				
42	坏 土師器	A 12.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎して立ち上がり、口縁部との境 に弱い稜を持つ。口縁部は外反す る。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P1491 94% 覆土中 PL147
		B 6.6				



図版番号	器 種	計器値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第361図 43	坏 土 師 器	A 13.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部との境 に弱い稜を持つ。口縁部は内彎す る。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P 1492 85% 覆土中 PL147
		B 4.2				
44	坏 土 師 器	A 13.0	底部から口縁部片。丸底。体部は 内壁して立ち上がり、口縁部は外 傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P 1493 70% 覆土中 PL147
		B 3.7				
45	坏 土 師 器	A [13.2]	底部から口縁部片。平底。体部は 内壁して立ち上がり、口縁部との 境に弱い稜を持つ。口縁部は内彎す る。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。底部へラ削り。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P 1494 70% 覆土中 PL147
		B 4.5				
		C 4.6				
46	坏 土 師 器	A 14.1	底部から口縁部片。丸底。体部か ら口縁部にかけて内壁して立ち上 がる。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・雲母・スコ リア 褐色 普通	P 1495 89% 覆土中 PL147
		B 3.9				
47	坏 土 師 器	A 13.3	丸底。体部は内壁して立ち上がり、 口縁部との境に稜を持つ。口縁部 は内彎する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面へラ削り後へラ磨き。	長石・石英・雲母・ スコリア 灰褐色 普通	P 1496 100% 覆土中 PL147
		B 4.5				
48	坏 土 師 器	A 12.2	丸底。体部は内壁して立ち上がり、 口縁部との境に弱い稜を持つ。口 縁部は内彎する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母 スコリア にふい黄褐色 普通	P 1497 100% 覆土中 PL147
		B 4.2				
49	坏 土 師 器	A 13.1	口縁部一部欠損。平底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部との境 に弱い稜を持つ。口縁部は外反す る。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面へラ磨き。口縁部に輪轆み痕。	長石・雲母 灰黄褐色 普通	P 1498 96% 覆土中 PL147
		B 5.8				
50	坏 土 師 器	A 14.0	底部から口縁部片。丸底。体部は 内壁して立ち上がり、口縁部との 境に稜を持つ。口縁部は直立す る。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。口縁部に輪轆み痕。	長石・雲母 にふい黄褐色 普通	P 1500 89% 覆土中 PL147
		B 4.3				
51	坏 土 師 器	A 13.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部は直立 する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・雲母 にふい黄色 普通	P 1499 90% 覆土中 PL147 二次焼成
		B 5.3				
52	坏 土 師 器	A 14.2	底部から口縁部片。丸底。体部は 内壁して立ち上がり、口縁部はわ ずかに外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。体部内面赤影。	長石・雲母・スコ リア にふい褐色 普通	P 1501 80% 覆土中 PL147
		B 4.3				
53	坏 土 師 器	A 14.9	底部から口縁部片。丸底。体部は 内壁して立ち上がり、口縁部は短 く外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面へラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコ リア 黄褐色 普通	P 1502 85% 覆土中 PL148
		B 4.2				
54	坏 土 師 器	A 15.4	底部から口縁部片。丸底。体部は 内壁して立ち上がり、口縁部は短 く外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面放射状のヘラ磨き。	長石・雲母・スコ リア にふい褐色 普通	P 1503 80% 覆土中 PL148
		B 3.9				
55	碗 土 師 器	A [12.5]	底部から口縁部片。平底。体部は 内壁して立ち上がり、口縁部との 境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直 立する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。底部へラ削り。口縁部 に輪轆み痕。	長石・雲母 にふい褐色 普通	P 1504 65% 覆土中 PL148
		B 7.4				
		C 6.7				
56	碗 土 師 器	A 14.9	底部から口縁部片。丸底。体部は 内壁して立ち上がり、口縁部との 境に明瞭な稜を持つ。口縁部はわ ずかに外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面放射状のヘラ磨き。内・外面 黒色処理。	長石・雲母 灰黄褐色 普通	P 1505 80% 覆土中
		B 6.8				
57	碗 土 師 器	A 25.2	底部から口縁部片。丸底。体部は 内壁して立ち上がり、口縁部との 境に稜を持つ。口縁部は外反す る。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面放射状のヘラ磨き。内面黒色 処理。	長石・雲母・スコ リア 褐色 普通	P 1506 90% 覆土中 PL148
		B 7.4				
58	碗 土 師 器	A [18.0]	体部から口縁部片。体部は内壁し て立ち上がり、口縁部との境に稜 を持つ。口縁部はわずかに外反す る。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面放射状のヘラ磨き。内面黒色 処理。	長石・石英・雲母・ スコリア 褐色 普通	P 1507 50% 覆土中 PL148
		B (7.2)				
第362図 59	鉢 土 師 器	A 13.6	口縁部欠損。平底。体部は内壁し て立ち上がり、口縁部との境に弱 い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面へラナデ。	長石・雲母 褐色 普通	P 1508 96% 覆土中 PL148 二次焼成
		B 10.9				
		C 7.8				
60	鉢 土 師 器	A 14.0	底部から口縁部片。平底。体部は 内壁して立ち上がり、口縁部との 境に弱い稜を持つ。口縁部は外反 する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面へラナデ。	長石・雲母 黄灰色 普通	P 1509 96% 覆土中 二次焼成
		B 10.0				
		C 7.8				

採取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第362図 61	鉢 土師器	A 14.6	平底。体部は内彎して立ち上がり、 口縁部との境に弱い稜を持つ。口 縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面へラナデ。	長石・雲母 褐色 普通	P1510 100% 覆土中 PL148 二次焼成
		B 10.5				
		C 7.8				
62	高土師器	A 10.1	坏部片。坏部は底部外面で屈曲し、 体部から口縁部にかけて外傾して 立ち上がる。	肩部外面へラ削り後、ナデ、内面 へラ磨き。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P1511 50% 覆土中 PL148
		B (5.3)				
		E (1.2)				
63	高土師器	A 12.0	坏部片。坏部は内彎して立ち上がり 口縁部との境に明瞭な稜を持つ。 口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り 後段位のへラ磨き、内面放射状の へラ磨き。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1512 40% 覆土中 PL148
		B (6.2)				
64	高土師器	E (9.3)	胴部片。胴部はラッパ状に開く。	胴部内・外面へラ削り。外面赤彩。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P1513 30% 覆土中
65	壺 土師器	A 11.0	体部一部欠損片。平底。体部は内 彎して立ち上がり、口縁部は外反 し、肩部は上方につまみ上げている。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り 後内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア 褐色 普通	P1514 70% 覆土中 PL148
		B 18.6				
		C 6.5				
66	台付鉢 土師器	A 17.6	胴部一部欠損。胴部はラッパ状に 開く。鉢部は内彎して立ち上がり、 口縁部は外反する。	鉢部は口縁部横ナデ、体部外面へ ラ削り、内面へラナデ。胴部は接 地面に木葉痕、内面へラ削り。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P1515 85% 覆土中 PL148
		B 20.4				
		D 12.3				
		E 6.5				
67	高土師器	A [11.4]	底部から口縁部片。平底。体部は 内彎して立ち上がり、口縁部は外 反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P1516 85% 覆土中 PL148
		B 13.1				
		C 6.8				
68	高土師器	A [11.1]	底部から口縁部片。平底。体部は 球状を呈し、口縁部との境に弱い 稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア にふい黄褐色 普通	P1517 60% 覆土中
		B 13.4				
		C 6.9				
69	高土師器	A 12.0	底部から口縁部片。平底。体部は 球状を呈し、口縁部との境に弱い 稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア 褐色 普通	P1518 60% 覆土中 PL148
		B 14.0				
		C 8.0				
70	高土師器	A [14.4]	底部から口縁部片。平底。体部は 内彎して立ち上がり、口縁部との 境に弱い稜を持つ。口縁部は外反 する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア にふい褐色 普通	P1519 85% 覆土中 PL149
		B 15.3				
		C 7.3				
71	高土師器	A 15.2	底部から口縁部片。丸底。体部は わずかに内彎するが、垂直気味に 立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。口縁部に輪縁み渡。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1520 98% 覆土中 PL149
		B 16.6				
第363図 72	高土師器	A 14.8	底部から口縁部片。平底。体部は 球状を呈し、口縁部の境に稜を持つ。 口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア 褐色 普通	P1521 90% 覆土中 PL149
		B 17.5				
		C 7.6				
73	高土師器	A [16.2]	体部から口縁部片。体部は球状を 呈し、口縁部の境に稜を持つ。口 縁部は外反し、肩部はわずかに上 方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア 褐色 普通	P1522 70% 覆土中 PL149
		B (16.7)				
74	高土師器	A 18.9	底部から口縁部片。平底。体部は 内彎して立ち上がり、口縁部の境 に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア にふい褐色 普通	P1523 80% 覆土中 PL149
		B 23.2				
		C 8.0				
75	高土師器	A 16.6	体部一部欠損。平底。体部は内彎 して立ち上がり、口縁部は外反す る。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア 明赤褐色 普通	P1524 70% 覆土中 PL149
		B 26.3				
		C 8.3				
76	高土師器	A [15.1]	底部から口縁部片。平底。体部は 球状を呈し、口縁部の境に弱い稜 を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア にふい褐色 普通	P1525 60% 覆土中 PL149
		B 23.9				
		C 8.8				
77	高土師器	A 18.0	底部から口縁部片。平底。体部は 内彎して立ち上がり、口縁部は外 反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。外面磨面単純。	長石・石英・雲母・ スコリア にふい黄褐色 普通	P1526 75% 覆土中 PL149
		B 23.6				
		C 8.8				

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第364図 78	甍 土 師 器	A 16.1	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部の境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア に濃い褐色 普通	P 1527 99% 覆土中 PL149
		B 23.9				
		C 8.9				
79	甍 土 師 器	A [17.7, 27.1]	底部から口縁部片。体部は球状を呈し、口縁部の境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 1528 60% 覆土中 PL150
		B 27.1				
		C 11.0				
80	甍 土 師 器	A 17.1 B (26.6)	体部から口縁部片。体部は球状を呈する。口縁部は外反し、肩部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部外面へウ割り後、ナデ、内面ナデ。体部外面へウ割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P 1529 50% 覆土中 PL150
		B 26.6				
		C (26.6)				
81	甍 土 師 器	A 17.6 B 29.4 C 9.2	底部から口縁部片。体部は球状を呈し、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反し、肩部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 に濃い黄褐色 普通	P 1530 90% 覆土中 PL150
		B 29.4				
		C 9.2				
82	甍 土 師 器	A 18.6 B 28.7 C 8.5	底部から口縁部片。体部は球状を呈し、口縁部の境に弱い稜を持つ。口縁部は外反し、肩部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P 1531 90% 覆土中 PL150
		B 28.7				
		C 8.5				
83	甍 土 師 器	A 23.5 B (22.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部の境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 に濃い褐色 普通	P 1537 80% 覆土中 PL152
		B (22.0)				
		C (22.0)				
第365図 84	甍 土 師 器	A 20.8 B 31.7 C 11.7	底部から口縁部片。体部は球状を呈し、口縁部の境に弱い稜を持つ。口縁部は外反し、肩部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り後へウ割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア に濃い褐色 普通	P 1532 80% 覆土中 PL150
		B 31.7				
		C 11.7				
85	甍 土 師 器	A 17.2 B 34.6 C 9.1	底部から口縁部片。体部は球状を呈し、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 褐色 普通	P 1533 80% 覆土中 PL150
		B 34.6				
		C 9.1				
86	甍 土 師 器	A 24.7 B 38.5 C 11.2	底部から口縁部片。体部は卵形を呈し、口縁部の境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り、内面へウ割り。	長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P 1535 80% 覆土中 PL151
		B 38.5				
		C 11.2				
87	甍 土 師 器	A 23.1 B 32.8 C 10.5	底部から口縁部片。体部は球状を呈する。口縁部は外反し、肩部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り後ナデ、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア に濃い褐色 普通	P 1534 75% 覆土中 PL149
		B 32.8				
		C 10.5				
第366図 88	甍 土 師 器	A 27.4 B 32.3 C 10.0	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部の境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り、内面へウ割り。底部ナデ。	長石・石英・雲母・明赤褐色 普通	P 1541 80% 覆土中 PL152
		B 32.3				
		C 10.0				
89	甍 土 師 器	A 28.3 B 35.9 C 9.1	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部の境に稜を持つ。口縁部は外反し、肩部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り、内面へウ割り。底部ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 褐色 普通	P 1542 95% 覆土中 PL151
		B 35.9				
		C 9.1				
90	甍 土 師 器	A [25.4] B (28.2)	体部から口縁部片。体部は球形状を呈し、口縁部の境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り、内面ナデ。	長石・石英・スコリア に濃い黄褐色 普通	P 1536 20% 覆土中 PL151
		B (28.2)				
		C (28.2)				
91	鉢 土 師 器	A 26.6 B 27.3 C 9.4	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部の境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P 1538 80% 覆土中 PL151
		B 27.3				
		C 9.4				
92	鉢 土 師 器	A 30.5 B 29.4 C 10.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り後ナデ、内面縦位のへウ割り。底部ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア に濃い褐色 普通	P 1540 80% 覆土中 PL151
		B 29.4				
		C 10.0				
93	鉢 土 師 器	A 30.6 B 20.1 C 9.5	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は大きく外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 褐色 普通	P 1539 85% 覆土中 PL151
		B 20.1				
		C 9.5				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第367図 94	瓶 土師器	A 28.3	底部から口縁部。無底式。体部は、内彎して立ち上がり、口縁部の境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ、体部外面へラ削り、内面へラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 赤褐色 普通	P1543 50% 覆土中 PL152
		B 24.0				
		C [ 9.3]				
95	ミニチュア 土師器	A 5.2	丸底。体部から口縁にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ナデ。外面凹凸。輪襷み痕。	長石・石英・雲母 内赤褐色 普通	P1544 99% 覆土中 PL152 鉢のミニチュア
		B 3.4				
96	手捏土器 土師器	A 7.0	丸底。体部は緩やかに内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ナデ、内面指ナデ。輪襷み痕。	長石・石英・雲母 内赤褐色 普通	P1545 100% 覆土中 PL152
		B 3.0				
97	手捏土器 土師器	A 7.0	丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ナデ、内面指ナデ。体部外面指痕。輪襷み痕。	長石・石英・雲母 内赤褐色 普通	P1546 100% 覆土中 PL152
		B 3.9				
98	手捏土器 土師器	A 8.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は緩やかに内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ナデ、内面指ナデ。	長石・石英・雲母 内赤褐色 普通	P1547 95% 覆土中 PL152
		B 3.1				
99	手捏土器 土師器	A 8.0	口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ナデ。体部外面指痕。	長石・石英・雲母 内赤褐色 普通	P1548 98% 覆土中 PL152
		B 3.2				
100	手捏土器 土師器	A 8.1	丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ナデ。体部外面指痕。輪襷み痕。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1549 100% 覆土中 PL152
		B 3.5				
101	手捏土器 土師器	A 8.1	口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ナデ。外面にへラ削り痕。	長石・石英・雲母 内赤褐色 普通	P1550 98% 覆土内
		B 4.2				
102	手捏土器 土師器	A 8.6	平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面輪襷み痕。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通	P1551 100% 覆土中 PL152
		B 3.4				
		C 5.4				
103	手捏土器 土師器	A 8.8	平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面指痕。輪襷み痕。底部ナデ。	長石・石英・雲母 内赤褐色 普通	P1552 100% 覆土中 PL152
		B 3.6				
		C 6.0				
104	手捏土器 土師器	A 9.0	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ナデ、内面へラナデ。体部外面輪襷み痕。指痕。底部ナデ。	長石・石英・雲母 内赤褐色 普通	P1553 95% 覆土中 PL152
		B 4.1				
		C 6.1				
105	手捏土器 土師器	A 10.0	口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部、体部外面ナデ、内面へラナデ。体部外面指痕。輪襷み痕。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1554 99% 覆土中 PL152
		B 5.3				
106	手捏土器 土師器	A 11.4	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外彎する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ、内面へラ磨き。体部外面輪襷み痕。	長石・石英・雲母 内赤褐色 普通	P1555 90% 覆土中 PL152
		B 5.3				
		C 4.3				
107	手捏土器 土師器	A 8.7	平底。体部から口縁部にかけて外彎して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面指ナデ。	長石・石英・雲母 内赤褐色 普通	P1556 100% 覆土中 PL152
		B 5.4				
		C 5.9				
108	手捏土器 土師器	A 9.0	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけてわずかに内彎して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ナデ。体部外面指痕。輪襷み痕。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 内赤褐色 普通	P1556 99% 覆土中 PL152
		B 3.8				
		C 5.9				
109	手捏土器 土師器	A 8.6	平底。体部から口縁部にかけて直立して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ナデ。体部外面に指痕。輪襷み痕。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 内赤褐色 普通	P1557 100% 覆土中 PL152
		B 4.8				
		C 6.8				
110	手捏土器 土師器	A 10.5	平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部内・外面指ナデ。体部下底へラ削り。外面に輪襷み痕。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 内赤褐色 普通	P1558 100% 覆土中 PL152
		B 5.2				
		C 6.3				
111	手捏土器 土師器	A 10.1	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面輪襷み痕。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1560 100% 覆土中 PL152
		B 4.8				
		C 6.0				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第367図 112	手捏土器 土 師 器	A 10.6	口縁部一部欠損。平底。体部は内 斡して立ち上がり、口縁部は直立 する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。 外面輪積み痕。指痕。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P 1561 98% 覆土中 PL152
		B 5.0				
		C 6.7				
113	手捏土器 土 師 器	A 11.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内 斡して立ち上がり、口縁部はわず かに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のナ デ、内面ヘラナデ。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P 1562 95% 覆土中 PL154
		B 5.4				
		C 7.0				
114	手捏土器 土 師 器	A 10.71	突出した平底。体部から口縁部に かけて内斡して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面5段の輪 積み痕。下端に指ナデ、内面ナデ。 底部木葉痕。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P 1563 100% 覆土中 PL154
		B 5.8				
		C 7.2				
115	手捏土器 土 師 器	A 9.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内 斡して立ち上がり、口縁部は内傾 する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。 体部外面輪積み痕。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P 1564 99% 覆土中 PL154
		B 6.1				
		C 6.8				
116	手捏土器 土 師 器	A 10.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内 斡して立ち上がり、口縁部との境 に線を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。 体部外面輪積み痕。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P 1565 99% 覆土中 PL154
		B 6.0				
		C 7.8				
117	手捏土器 土 師 器	A 8.9	口縁部一部欠損。平底。体部から 口縁部にかけて内斡して立ち上 がる。	口縁部ナデ。体部外面縦位のヘラ ナデ、内面ナデ。体部外面輪積 み痕。底部ナデ。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P 1566 95% 覆土中 PL154
		B 9.2				
		C 6.3				
118	坏 蓋 須 恵 器	A 11.9	口縁部一部欠損。天井部は平坦で、 体部から口縁部にかけて内斡し て下開する。口縁部との境に沈 溝を持つ。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 天井部、体部上位にかけて回転 へ開り、天井部から体部にか けて自然熱。	長石・石英 灰色 普通	P 1567 99% 覆土中
		B 4.3				

図版番号	器種	計 測 値				出土地点	備 考		
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第368図119	土 玉	2.7	3.7	0.7	(15.0)	覆 土 中	DP1156	90%	PL169
120	管 状 土 師	(11.2)	4.2	1.9	(197.8)	覆 土 中	DP1121	90%	PL170
121	支 脚	16.9	7.6	-	552.5	覆 土 中	DP1122	100%	PL172

### 第236 A号住居跡 (第369図)

位置 調査区の南部，H 3 c 2 区。

重複関係 本跡が、第236 B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸 [4.84]m，短軸3.16mの長方形である。

主軸方向 N-82°-E

壁 壁高は28~38cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、竈前部と中央部の一部分が踏み固められている。

竈 東壁の南東コーナー部寄りに、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から突き口部まで110cm，両袖最大幅118cm，壁外への掘り込みは77cmである。両袖部は残存していないが、雲母片岩が竈前方から中央部にかけて出土していることから、袖部の補強材に雲母片岩を使用して構築されていたと思われる。袖の内壁は、火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。支脚は火床部中央とその南側の2か所であり、中央の支脚は土師器壺の口縁部を逆位に立て、南側の支脚は土製の羽子を転用して使用している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子微量

- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、粘土粒子微量
- 4 暗褐色 焼土・粘土粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量

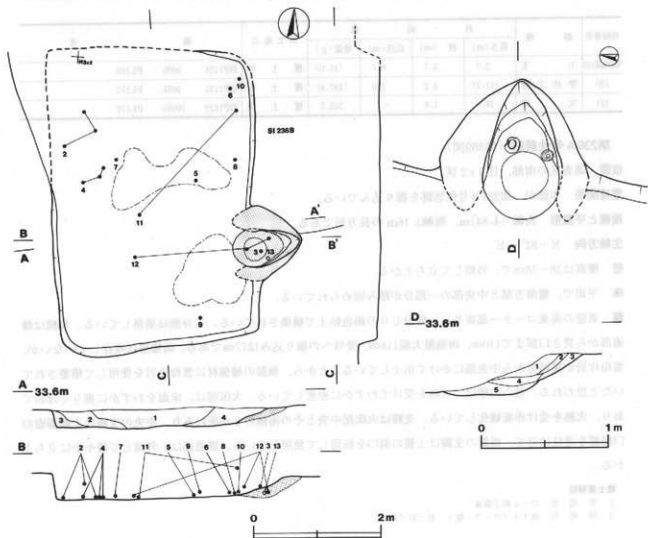
覆土 5層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

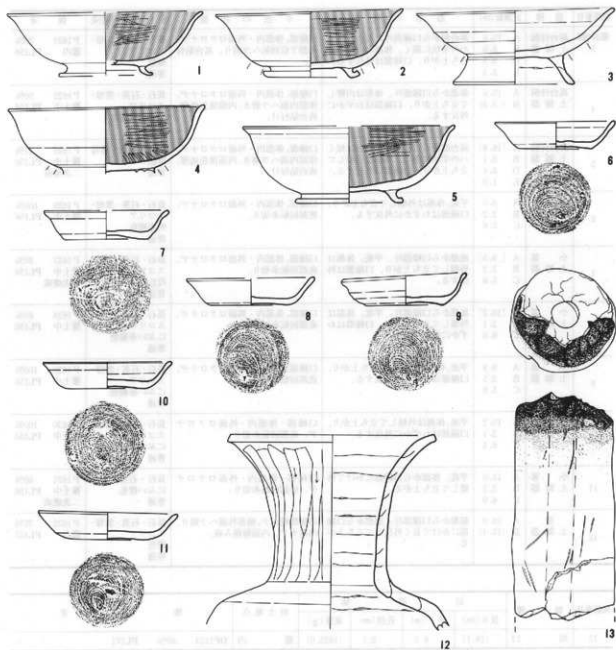
- 1 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量

遺物 土師器片168点（坏片42点、高台付坏片5点、小皿片5点、甕片116点）、須恵器片2点（甕片2点）、羽口1点、含鉄滓200g、鉄滓1,360gが出土している。覆土下層では、第370図4の土師器高台付碗が西壁部中央付近から、2の土師器高台付碗が北西コーナー部付近から、5の土師器高台付碗が中央部東側から、7の土師器小皿が中央部北西側から正位の状態で出土している。11の土師器小皿が中央部付近から、6、10の土師器小皿が北東コーナー部から逆位の状態で出土している。8の土師器小皿が東壁部から、9の土師器小皿が南壁部東側付近から逆位の状態で出土している。竈内から3の土師器高台付碗、12の土師器蓋、13の羽口が出土している。12は中央部付近の下層から出土した破片と接合している。

所見 本跡内から羽口、鉄滓が出土しているが、鍛冶関連の施設は確認されなかった。時期は、遺構の形態及び出土遺物から10世紀後葉と考えられる。



第369図 第236A号住居跡実測図



第370図 第236 A号住居跡出土遺物実測図

第236 A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第370図 1	高台付碗 土器	A [15.6]	高台部から口縁部片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面へつ磨き。内面黒色処理。高台貼付け。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1621 50% 履土中 PL156 二次焼成
		B 5.0				
		C [7.4]				
		E 0.9				
2	高台付碗 土器	A 14.8	高台部から口縁部片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下位回転へら削り、内面へつ磨き。内面黒色処理。高台貼付け。	長石・石英・雲母・スコリア 灰褐色 普通	P1623 80% 履土中 PL156 二次焼成
		B 5.3				
		D 6.8				
		E 0.8				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第370図 3	高台付 土器	A 15.6	高台部から口縁部片。高台は長くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下位回転ヘテ削り。高台貼付け。	長石・石英・雲母・スクリア 褐色 普通	P1624 70% 壺内 PL156
		B 6.0				
		D 9.5				
		E 2.3				
4	高台付 土器	A 15.6	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘテ磨き。内面黒色処理。高台貼付け。	長石・石英・雲母・スクリア にぶい黄褐色 普通	P1622 50% 覆土中 PL156
		B (5.3)				
5	高台付 土器	A [16.8]	高台部から口縁部片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘテ磨き。内面黒色処理。高台貼付け。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1625 45% 覆土中 PL156 二次焼成
		D 8.4				
		E 1.0				
6	小 土器	A 9.5	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転削り。	長石・石英・雲母・スクリア 明赤褐色 普通	P1626 100% 覆土中 PL156
		B 2.2				
		C 5.6				
7	小 土器	A [ 9.5]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転削り。	長石・石英・雲母・スクリア 褐色 普通	P1627 80% 覆土中 PL156 二次焼成
		B 2.2				
		C 5.6				
8	小 土器	A [10.2]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転削り。	長石・石英・雲母・スクリア にぶい赤褐色 普通	P1628 60% 覆土中 PL156
		B 2.1				
		C 6.0				
9	小 土器	A 9.9	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転削り。	長石・石英・雲母・スクリア にぶい赤褐色 普通	P1629 100% 覆土中 PL156
		B 2.5				
		C 5.8				
10	小 土器	A 10.2	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転削り。	長石・石英・雲母・スクリア にぶい赤褐色 普通	P1630 100% 覆土中 PL156
		B 2.1				
		C 6.4				
11	小 土器	A 11.0	平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転削り。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P1631 80% 覆土中 PL156 二次焼成
		B 2.2				
		C 6.0				
12	壺 土器	A 16.0	頸部から口縁部片。頸部から口縁部にかけて長く外反して立ち上がる。	口縁部傾ナデ。頸部外面ヘテ削り、内面ナデ。内面輪積み痕。	長石・石英・雲母・スクリア 褐色 普通	P1632 25% 壺内 PL157
		B (15.4)				

図版番号	器種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
13	羽 口	(18.1)	8.3	2.1	(1035.0)	壺 内 DP1124	80% PL171

### 第236 B号住居跡 (第371・372図)

位置 調査区の南部，H3c2区。

重複関係 本跡は、第236A号住居跡によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.78m，短軸5.62mの方形である。

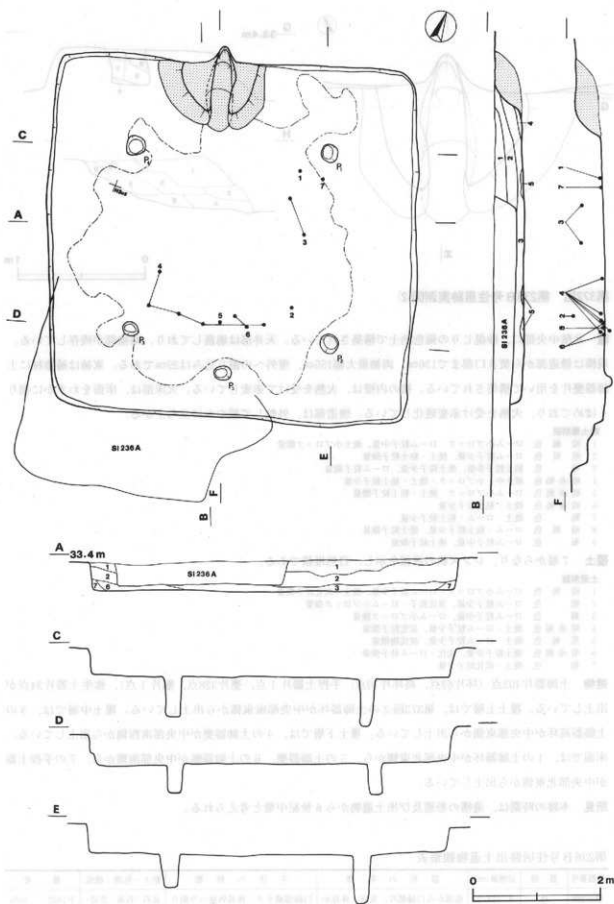
主軸方向 N-21°-W

壁 壁高は42~52cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

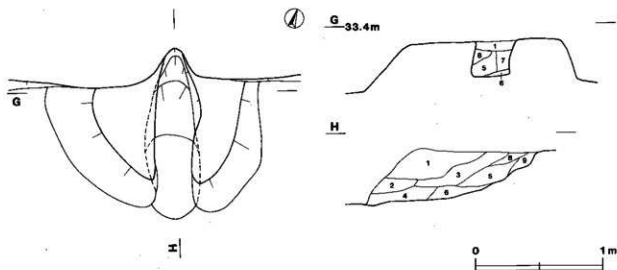
床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長径26~32cm，短径20~31cmの楕円形，深さ43~74cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径26cm，短径21cmの楕円形，深さ10cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。





第371图 第236B号住居跡实测图(1)



第372図 第236B号住居跡実測図(2)

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで136cm、両袖最大幅155cm、壁外への掘り込みは29cmである。東袖は補強材に土師器甕片を用いて構築されている。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・粘土粒子微量
- 3 褐色 粘土粒子少量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土・粘土粒子少量
- 5 暗赤褐色 ローム小ブロック・焼土・粘土粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量
- 7 褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量
- 8 暗褐色 ローム・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量

覆土 7層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

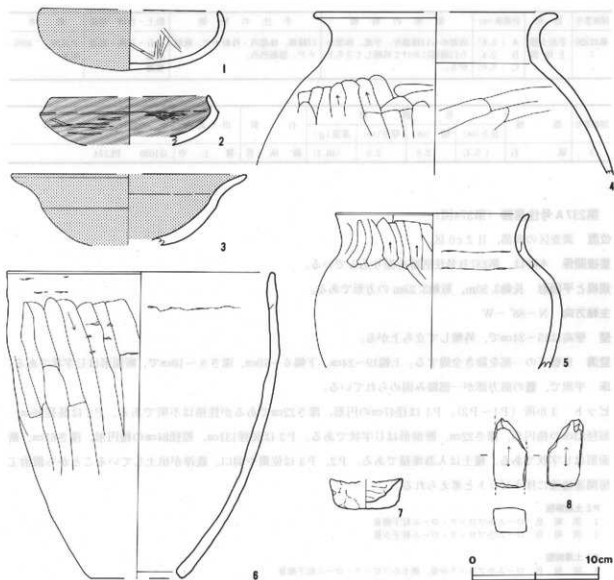
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 黒褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化物微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
- 7 褐色 焼土・炭化粒子少量

遺物 土師器片402点（坏片62点、高坏片10点、手捏土器片1点、甕片328点、瓶片1点）、弥生土器片34点が出土している。覆土上層では、第373図2の土師器坏が中央部南東側から出土している。覆土中層では、3の土師器高坏が中央部東側から出土している。覆土下層では、4の土師器甕が中央部南西側から出土している。床面では、1の土師器坏が中央部北東側から、5の土師器甕、6の土師器瓶が中央部南側から、7の手捏土器が中央部北東側から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀中葉と考えられる。

第236B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第373図 1	坏 土師器	A [14.0] B 4.7	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内傾して立ち上がる	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り段ナデ、内面へラ磨き。外面赤彩。	長石・石英・雲母・スコリア に多い赤褐色 普通	P1633 40% 床面 二次焼成



第373図 第236B号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第373図 2	坏 土 罍 器	A [12.6] B (3.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ磨き、内面へラ磨き。内・外面黒色気味。	長石・石英・雲母・スコリア 黒褐色 普通	P 1634 30% 覆土中
3	高 坏 土 罍 器	A [18.6] B (5.6)	坏部片。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 針状炭化物 明赤褐色 普通	P 1635 30% 覆土中
4	壺 土 罍 器	A [19.2] B (12.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラナデ。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P 1637 20% 覆土中
5	壺 土 罍 器	A 15.3 B (12.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。体部内・外面ナデ。内面輪轆み痕。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P 1636 40% 床面 PL157
6	甗 土 罍 器	A 20.5 B 24.3 C [7.2]	体部下部一欠損。半孔式。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内彎する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面輪轆み痕。	長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P 1638 75% 床面 PL157

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第373図 7	手捏土器 土器	A [ 5.6] B 2.4 C [ 5.0]	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ナデ。底部ナデ。器面凸凸。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1639 45% 床面

図版番号	器種	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
8	砥 石	(3.4)	2.6	2.0	(48.3)	凝 灰 岩	覆 土 中	Q1030 PL174

### 第237A号住居跡(第374図)

位置 調査区の南部，H2c0区。

重複関係 本跡は，第237B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.50m，短軸3.23mの方形である。

主軸方向 N-88°-W

壁 壁高は15~24cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下の一部を除き全周する。上幅19~24cm，下幅6~10cm，深さ8~10cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，竈の前方部が一部踏み固められている。

ピット 3か所(P1~P3)。P1は径47cmの円形，深さ22cmであるが性格は不明である。P2は長径96cm，短径83cmの楕円形，深さ22cm，断面形はU字状である。P3は長径131cm，短径84cmの楕円形，深さ61cm，断面形はU字状である。覆土は人為堆積である。P2，P3は位置や羽口，鉄滓が出土していることから鍛冶工房関連施設に伴うピットと考えられる。

#### P2土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

#### P3土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

竈 東壁中央部に，砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚き口部まで110cm，両袖最大幅89cm，壁外への掘り込みは54cmである。両袖は残存していないが，雲母片岩が両袖部から直立した状態で検出されており，袖部の補強材に用いられたものと考えられる。袖の内壁は，火熱を受けて赤変している。火床部は，床面を14cm掘りくぼめており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，外傾して緩やかに立ち上がる。

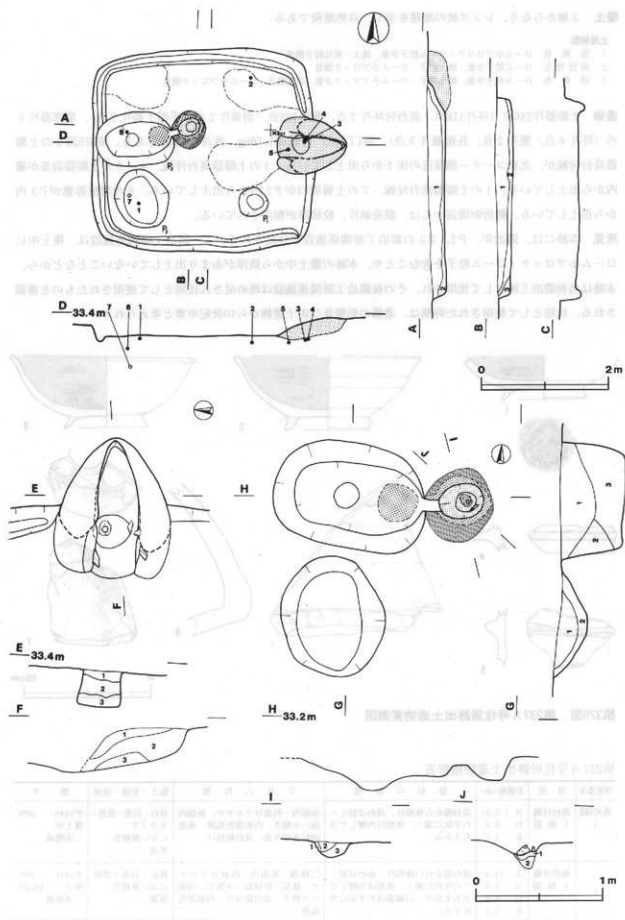
#### 竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量，焼土中・小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量

鍛冶炉 中央部に位置し，長径45cm，短径39cmの楕円形で，床面を16cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は，火熱を受け赤変硬化し，炉底には坩形滓が残存する。

#### 鍛冶炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子少量
- 2 黒褐色 焼土・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子中量，ローム粒子微量



第374图 第237A号住居跡实测图

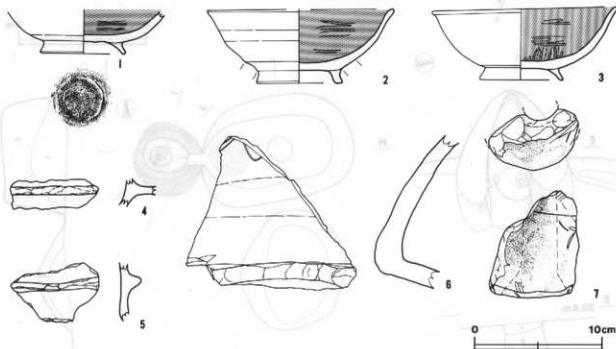
覆土 3層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片246点(坏片118点, 高台付坏片2点, 甕片122点, 羽釜片2点, 手握土器片2点), 須恵器片9点(坏片4点, 甕片2点, 長頸瓶片3点), 羽口1点, 含鉄滓1,766g, 鉄滓1,980gである。第375図2の土師器高台付碗が, 北東コーナー部分付近の床下から出土している。3の土師器高台付碗, 4, 5の土師器羽釜が甕内から出土している。1の土師器高台付碗, 7の土製羽口がP2内から出土している。6の須恵器甕がP3内から出土している。鍛冶炉周辺からは, 鍛造剥片, 粒状滓が検出されている。

所見 本跡には, 鍛冶炉, P2, P3の鍛冶工房関係施設が付設されている。鍛冶工房関連施設は, 覆土中にローム小ブロック・ローム粒子を含むことや, 本跡の覆土中から鉄滓があまり出土していないことなどから, 本跡は当初鍛冶工房として使用され, その後鍛冶工房関連施設は埋め戻され住居として使用されたものと推測される。住居として使用された時期は, 遺構の形態及び出土遺物から10世紀中葉と考えられる。



第375図 第237A号住居跡出土遺物実測図

第237A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第375図 1	高台付碗 土師器	B (5.0) D 6.8 E 1.0	高台部から体部片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。内面黒色処理。底部回転糸切り後, 高台貼付け。	長石・石英・雲母・スコリアにふい黄褐色 普通	P1640 50% 覆土中 二次焼成
2	高台付碗 土師器	A [14.8] B 5.3 D 6.8 H 1.1	高台部から口縁部片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。体部下位回転へラ磨り。内面へラ磨き。高台貼付け。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にふい黄褐色 普通	P1641 50% 床下 PL157 二次焼成

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第375図 3	高台付碗 土器	A 14.5 B 5.8 D 5.5 E 1.0	高台部から口縁部片。高台は短くハの字状に開く。体部は内脣して立ち上がる。口縁部はわずかに外反し端部は丸い。	口縁部・体部内・外面ロクロナテ。体部内面へツ磨き。高台貼付け。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・スロリア 褐色 普通	P1642 65% 甕内 PL157 二次焼成
4	羽釜 土器	B (2.2)	鈔部片。	内・外面ナテ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P1643 5% 甕内 PL157
5	羽釜 土器	B (4.6)	鈔部片。	内・外面ナテ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P1644 5% 甕内 PL157
6	須恵器	B (12.1)	胴部から口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナテ、外面波状文。	長石・石英 オリーブ黒色 普通	P1672 10% 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
7	羽口	(8.4)	(7.0)	[2.6]	(129.5)	SI-237 A	DP1125	20%	PL171

### 第237B号住居跡（第376図）

位置 調査区の南部，H2b0区。

重複関係 本跡は，第237A，237D号住居跡，第350号土坑によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸7.28m，短軸[5.54]mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-45°-W

壁 壁高は7～35cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，踏み固められた部分は見られない。

炉 ほぼ中央部に位置し，長径84cm，短径56cmの楕円形で，床面を6cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は，火熱を受けわずかに赤変硬化している。

#### 炉土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量

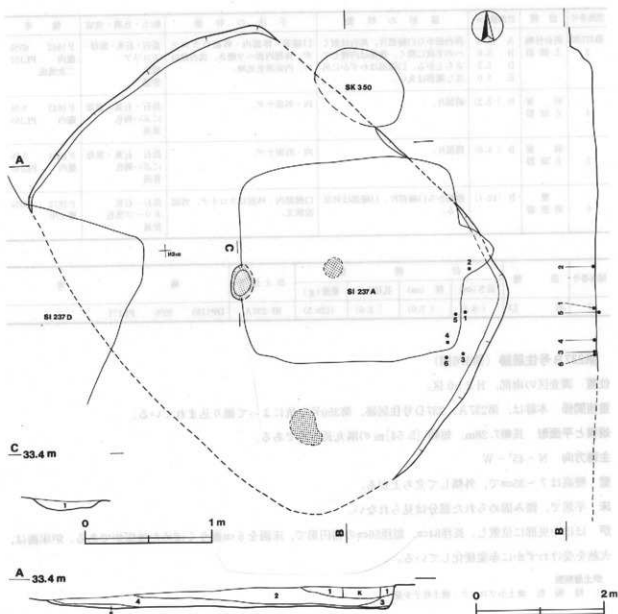
覆土 5層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化材・炭化物・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大・中ブロック微量

遺物 縄文土器片3点，弥生土器片292点である。第377，378図覆土下層では，4の弥生土器の広口壺が南東壁部から，2の弥生土器甕が東コーナー部付近から出土している。床面では，1，5の弥生土器広口壺が東コーナー部付近から，3，6の弥生土器広口壺が南東壁部から出土している。7は弥生土器の胴部片で付加条一種付加1条の縄文が施されている。

所見 当跡の中央部と南コーナー部付近の床面直上から焼土塊が検出された。時期は，遺構の形態及び出土遺物から弥生時代中期末葉と考えられる。1～3は銚子市佐野原遺跡出土の弥生土器に類似する。4は南関東系の土器と考えられ搬入品と思われる。

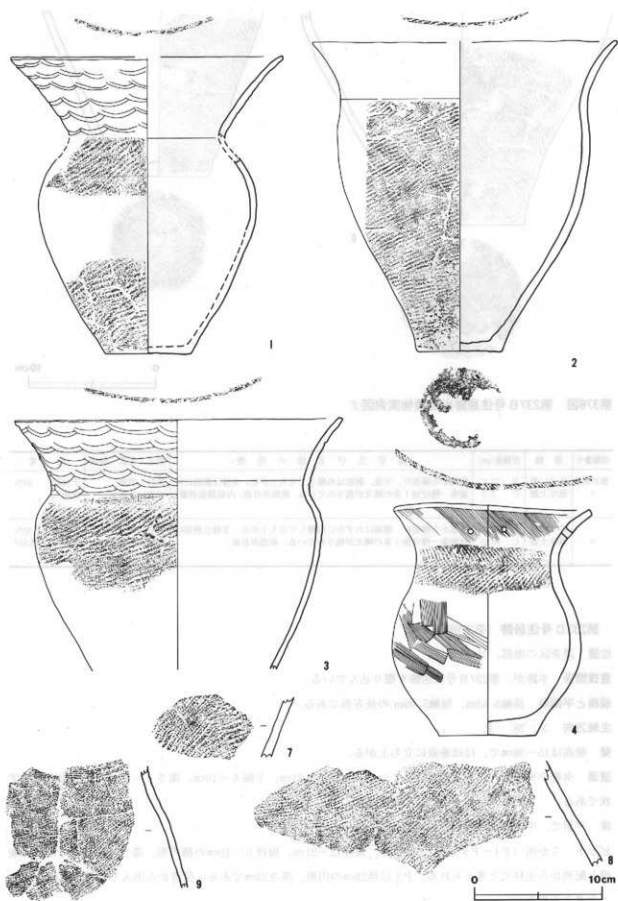


第376図 第237B号住居跡実測図

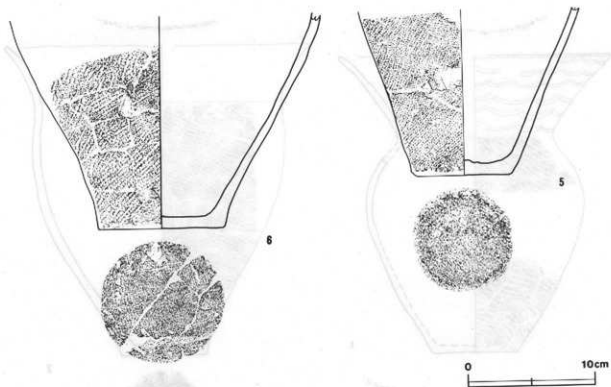
第237B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第377図 1	広口壺 弥生土器	A [21.5]	底部から口縁部片。平底。胴部は内燻して立ち上がり、口縁部は外燻する。文様は口縁部に櫛歯2本の連続文を六段に配し、胴部には付加条一種付加1条の縄文が施されている。	長石・雲母 赤色 普通	P 1647 床面 PL157
		B [23.4]			
		C 6.7			
2	壺 弥生土器	A [23.8]	底部から口縁部片。平底。胴部は内燻して立ち上がり、口縁部は外反する。文様は口縁部に櫛歯2本の連続文を六段に配し、口唇部と胴部には付加条一種付加1条の縄文が施されている。底部布目痕。	長石・雲母 赤色 普通	P 1649 覆土中 PL157
		B 24.5			
		C 6.6			
3	広口壺 弥生土器	A 25.9	胴部から口縁部片。胴部は内燻して立ち上がり、口縁部は大きく外反する。文様は口縁部に櫛歯2本の連続文を5段に配し、口唇部と胴部には付加条一種付加1条の縄文が施されている。	長石・雲母 黒褐色 普通	P 1650 床面 PL157
		B (19.8)			
4	広口壺 弥生土器	A 15.6	底部から口縁部片。平底。胴部は内燻して立ち上がり、口縁部は外反する。文様は口唇部に単節LRの縄文が施され、口縁部と胴部にハケ目、胴部に単節LRとRLの縄文が羽状に施されている。口縁部に2対の孔あり。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P 1648 覆土中 PL157
		B 18.4			
		C 7.6			





第377图 第237B号住居跡出土遺物実測図(1)



第378図 第237B号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第378図 5	広口壺 弥生土器	B (13.6) C 7.2	底部から胴部片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。文様は胴部に付加糸一種付加1条の縄文が施されている。底部布目痕。内面器面剥離。	長石・雲母 にふい赤褐色 不良	P1645 40% 床面
6	広口壺 弥生土器	B (16.8) C 10.0	底部から胴部片。胴部はわずかに内傾して立ち上がる。文様は胴部に付加糸一種付加1条の縄文が施されている。底部布目痕。	長石・雲母 暗灰黄色 普通	P1646 40% 床面 PL157

### 第237D号住居跡 (第379図)

位置 調査区の南部，H2c8区。

重複関係 本跡が，第237B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸5.63m，短軸5.00mの長方形である。

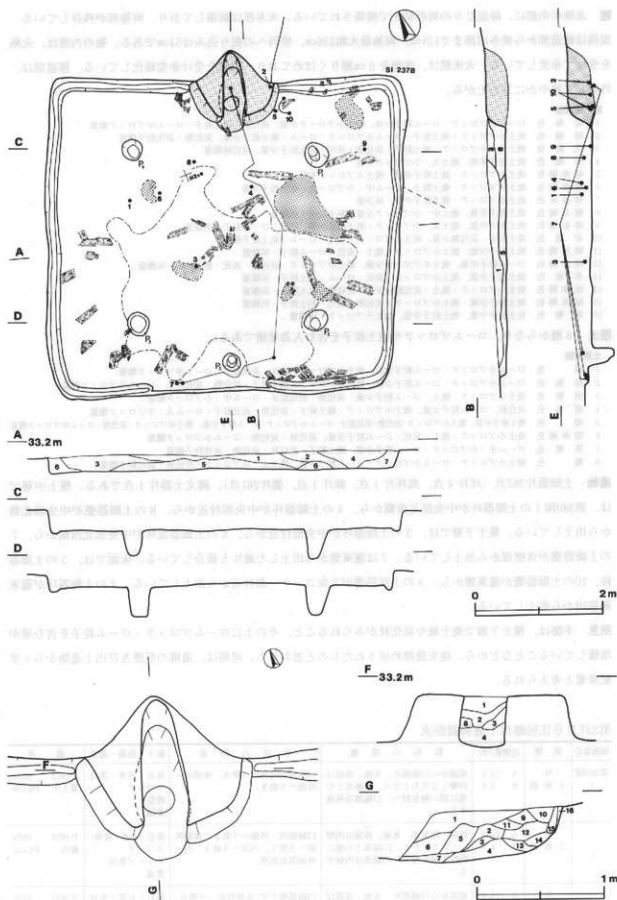
主軸方向 N-28°-E

壁 壁高は15～38cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 内壁中央部の一部を除いて巡っている。上幅12～21cm，下幅6～10cm，深さ5～10cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1～P5)。P1～P4は，長径12～21cm，短径6～10cmの楕円形，深さ5～10cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径28cmの円形，深さ33cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第379图 第237D号住居跡実測图

■ 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から突き口部まで131cm、両袖最大幅136cm、壁外への掘り込みは51cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を6cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 覆土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量、炭化物・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土大・小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化・粘土粒子少量、炭化材微量
- 4 赤褐色 焼土粒子多量、焼土大・小ブロック中量
- 5 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子中量、焼土大ブロック少量
- 6 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子・ローム中・小ブロック・粘土粒子少量
- 7 暗赤灰色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、灰少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土中・小ブロック少量、粘土粒子・灰微量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土大・小ブロック・粘土粒子少量、炭化・ローム粒子・灰微量
- 10 赤褐色 焼土粒子・炭化物少量、焼土小ブロック・炭化・ローム・粘土粒子微量
- 11 暗赤褐色 粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子・灰微量
- 12 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック少量、焼土中ブロック・炭化物・炭化・粘土粒子・灰微量
- 13 赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化・ローム・粘土粒子・灰微量
- 14 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量、炭化物・粘土粒子・灰微量
- 15 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化・粘土粒子・灰微量
- 16 赤褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・灰微量

覆土 8層からなり、ロームブロックや焼土粒子を含む人為堆積である。

#### 土層解説

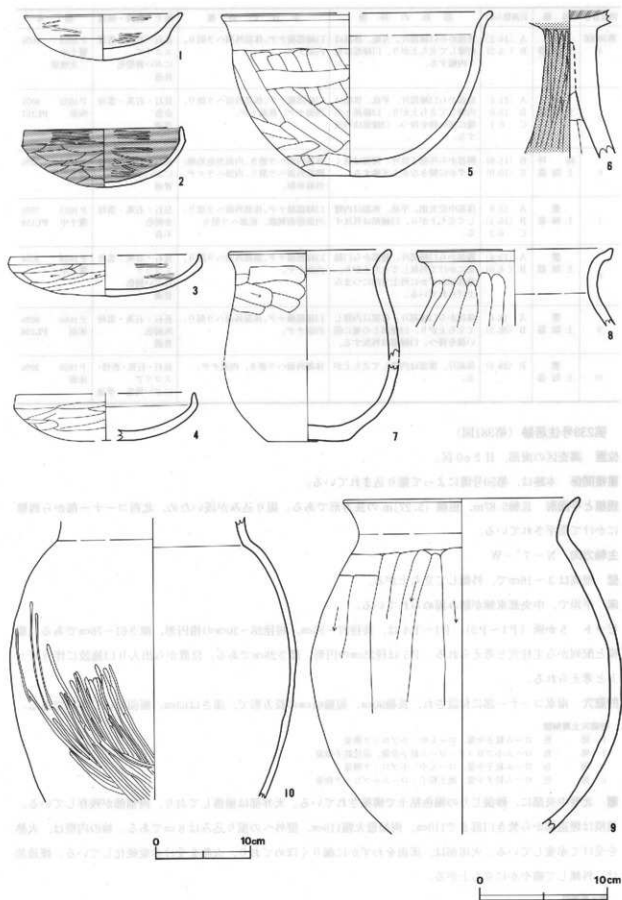
- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 4 暗褐色 炭化材、ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム大・中ブロック微量
- 5 褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土中ブロック・炭化材・ローム中ブロック微量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量、炭化材・炭化物・ローム小ブロック微量
- 7 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子微量
- 8 褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土大・小ブロック・炭化材・炭化粒子微量

遺物 土師器片267点（坏片4点、高坏片1点、鉢片1点、甕片261点）、縄文土器片1点である。覆土中層では、第380図1の土師器坏が中央部北西側から、4の土師器坏が中央部付近から、8の土師器甕が中央部北側から出土している。覆土下層では、3の土師器坏が中央部付近から、6の土師器高坏が中央部北西側から、7の土師器甕が南壁部から出土している。7は竈東側から出土した破片と接合している。床面では、5の土師器鉢、10の土師器甕が竈東側から、9の土師器甕が北東コーナー部付近から出土している。2の土師器坏が竈東袖部内から出土している。

所見 本跡は、覆土下層で焼土塊や炭化材がみられること、その上にロームブロック・ローム粒子を含む層が堆積していることなどから、焼土後埋め戻されたものと思われる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。

第237D号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第380図 1	坏 土師器	A 12.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に深い稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内外面ヘラ磨き。体部内・外面ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通	P1652 60% 覆土中 PL158
		B 3.6				
2	坏 土師器	A 12.3	体部・部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を成す。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ磨り。内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母 スコリア オリーブ黒色 普通	P1654 95% 竈内 PL158
		B 4.5				
3	坏 土師器	A [14.8]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部横ナテ。体部外面ヘラ磨り、内面ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P1651 45% 覆土中
		B 3.2				



第380图 第237D号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第380図 4	坏 土師器	A [14.2] B ( 3.2)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内横する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 スコリア におい黄褐色 普通	P1653 40% 覆土中 二次焼成
5	鉢 土師器	A [21.4] B 13.0 C 6.1	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との間に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り、内面ナデ。底面ナデ。	長石・石英・雲母 赤色 普通	P1655 60% 床面 PL157
6	高 土師器	E (11.6) E (10.0)	肩部から坏部下位片。肩部は長くわずかに圓きながら下降する。	坏部内面へウ磨き。内面黒色処理。肩部外面へウ割り、内面へナデ。外面赤彩。	長石・石英・雲母 におい赤褐色 普通	P1656 30% 覆土中
7	壺 土師器	A 12.9 B [15.1] C 6.2	体部中位欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り。内面器新刺彫。底部へウ割り。	長石・石英・雲母 赤褐色 不良	P1657 75% 覆土中 PL158
8	壺 土師器	A [15.6] B ( 6.0)	頸部から口縁部片。頸部から口縁部にかけて外反して立ち上がり、肩部はわずかに外上方向につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。頸部外面へウ割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 スコリア におい褐色 普通	P1658 30% 覆土中
9	壺 土師器	A 18.6 B (26.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との間に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へウ割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P1660 80% 床面 PL158
10	壺 土師器	B (29.6)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へウ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア におい褐色 普通	P1659 30% 床面

#### 第238号住居跡 (第381図)

位置 調査区の南部，H 2 e0 区。

重複関係 本跡は、第50号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.87m，短軸 [5.27]mの長方形である。掘り込みが浅いため、北西コーナー部から西壁にかけて削平されている。

主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は3~16cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部東側が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、長径27~35cm，短径28~30cmの楕円形，深さ61~76cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径35cmの円形，深さ28cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設され、長軸90cm，短軸61cmの長方形で、深さは63cm，断面形はU字状である。

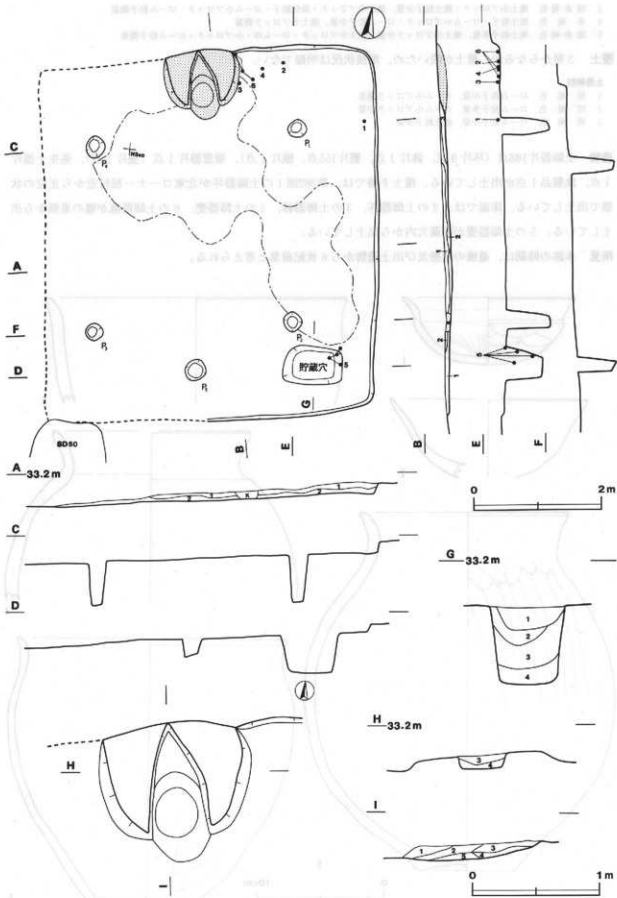
#### 貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量，ローム中・小ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量，ローム中・小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック微量

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで110cm，両袖最大幅119cm，壁外への掘り込みは8cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量，焼土中・小ブロック・ローム中・小ブロック微量



第381图 第238号住居跡实测图

图例 实际测量土山遗址剖面图 图例 实际

- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量, 焼土中ブロック・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量

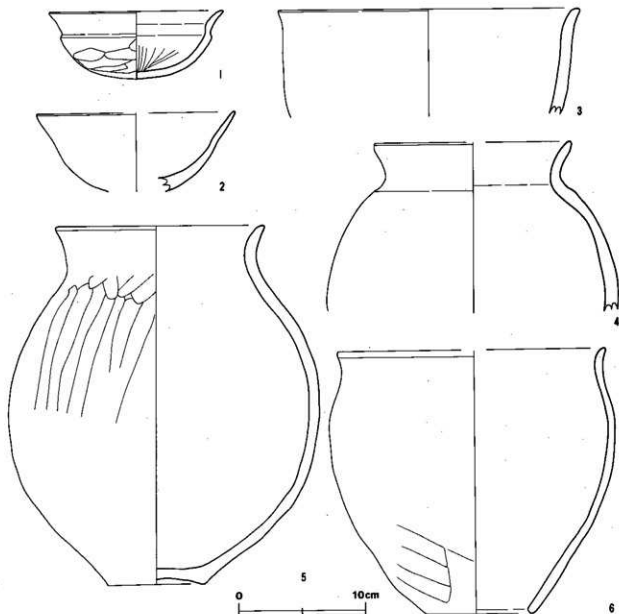
覆土 3層からなるが、覆土が浅いため、堆積状況は明確でない。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量

遺物 土師器片166点(坏片9点, 鉢片1点, 甕片155点, 甗片1点), 須恵器片1点(甕片1点), 弥生土器片1点, 鉄製品1点が出土している。覆土下層では, 第382図1の土師器坏が北東コーナー部付近から正位の状態出土している。床面では, 2の土師器坏, 3の土師器鉢, 4の土師器甕, 6の土師器甗が甕の東側から出土している。5の土師器甕が貯蔵穴内から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から6世紀前葉と考えられる。



第382図 第238号住居跡出土遺物実測図



第238号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計面積(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第282図 1	坏 土師器	A 13.7 B 5.4	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明確な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面放射状のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P1661 90% 覆土中 PL158 二次焼成
2	坏 土師器	A [15.6] B (6.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部横ナデ。体部内・外面磨面 見れ。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P1662 40% 床面 二次焼成
3	钵 土師器	A 23.9 B (8.3)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P1663 40% 床面 PL158
4	甕 土師器	A [15.6] B (13.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部内面ナデ。外面磨面摩耗。	長石・石英・雲母 明赤褐色 不良	P1664 30% 床面 PL158
5	甕 土師器	A 16.6 B 27.8 C [7.6]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P1665 80% 貯蔵穴内 PL158
6	甕 土師器	A [21.2] B 20.9 C 8.2	底部から口縁部片。無底式。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1666 45% 覆土中 PL158

第240号住居跡 (第383図)

位置 調査区の南部，H2 i7区。

規模と平面形 長軸5.37m，短軸 [5.20]mの方形である。

主軸方向 N-23°-W

壁 壁高は8~26cmで，外傾して立ち上がる。西壁は削平されている。

壁溝 削平された西側を除いて巡っている。上幅13~25cm，下幅5~10cm，深さ3~6cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は，長径63~69cm，短径50~60cmの楕円形，深さ50~76cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径26cm，短径23cmの楕円形，深さ14cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に，砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで105cm，両袖最大幅146cm，壁外への掘り込みは20cmである。袖の内壁は，火熱を受けて赤変している。火床部は，床面を6cmほど掘りくぼめており，火熱を受けわずかに赤変硬化している。煙道部は，外傾して緩やかに立ち上がる。

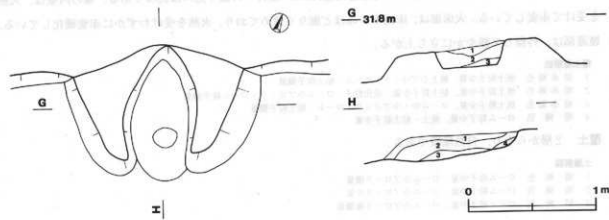
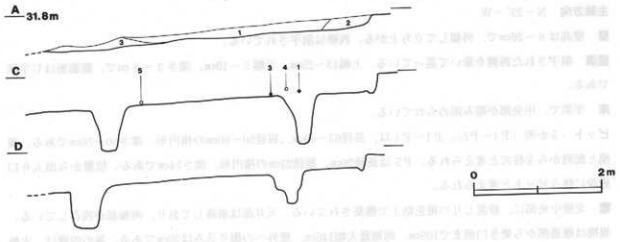
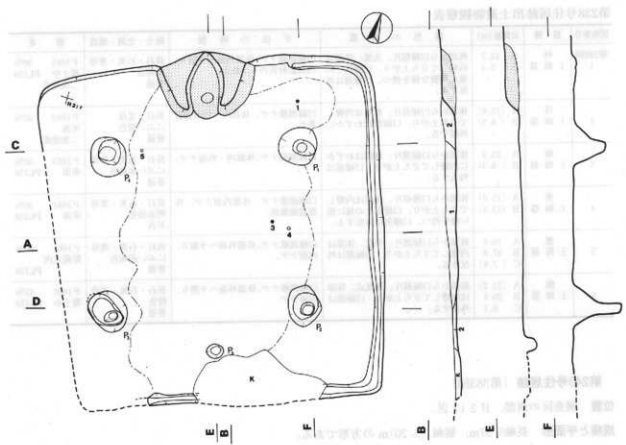
電土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量，焼土小ブロック・ローム・粘土粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子少量，ローム中・小ブロック・ローム・粘土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量，焼土・粘土粒子少量

覆土 2層からなり，自然堆積である。

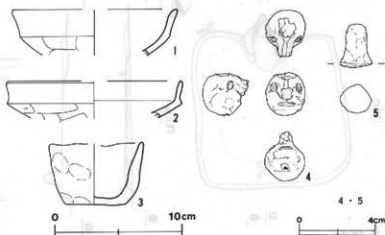
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック極微量



第383図 第240号住居跡実測図

遺物 土師器片92点(坏片46点, 堯片46点), 土製品2点, 縄文土器片1点, 弥生土器片18点が出土している。覆土下層では, 第384図1の土師器坏が北東コーナー部付近から, 4の土製人形の頭部が中央部東側から出土している。床面では, 3の土師器手握土器が中央部東側から横位の状態で, 5の土製ミニチュアの支脚が中央部北西側から出土している。覆土中では, 2の土師器坏が



第384図 第240号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から6世紀前葉と考えられる。

#### 第240号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第384図 1	土師器 坏	A [13.0] B (3.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へ丸削り, 内面ナデ。	長石・石英・雲母にふい橙色 普通	P1669 10% 覆土中 二次焼成
2	土師器 坏	A [13.8] B (2.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へ丸削り, 内面ナデ。	長石・石英・雲母にふい黄褐色 普通	P1670 10% 覆土中 二次焼成
3	手握土器 土師器	A [7.4] B 4.9 C [4.7]	底部から口縁部片。平底。体部はわずかに内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部。体部内・外面ナデ。体部外面下縁へ丸削り。外面指削痕。	長石・石英・雲母にふい黄褐色 普通	P1671 45% 床面

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
4	土製人面	2.2	2.1	-	(9.8)	覆土中	DP1128	90% PL171
5	支脚	2.3	1.7	-	4.2	床面	DP1129	100%

#### 第241号住居跡(第385図)

位置 調査区の南東部, G3 j7区。

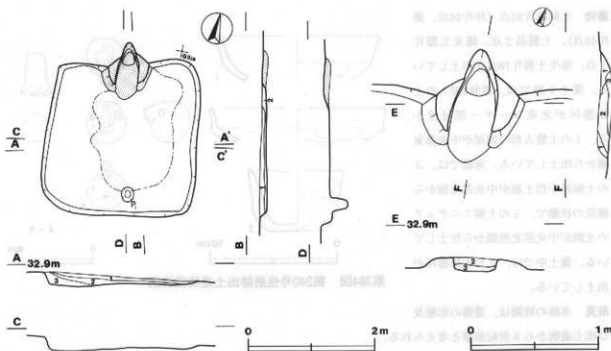
規模と平面形 長軸2.45m, 短軸2.40mの方形である。

主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は6~20cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット 1か所(P1)。P1は, 長径24cm, 短径19cmの楕円形, 深さ28cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第385図 第241号住居跡実測図

竈 北壁中央部に、砂泥じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで91cm、両袖最大幅75cm、壁外への掘り込みは37cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を6cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土粒子少量、炭化・ローム小ブロック・ローム粒子微量

覆土 3層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化物・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片22点(甕片22点)、須恵器片4点(坏片2点、甕片2点)が出土しているが、ほとんどが細片であるため、図示できるものはない。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代と考えられる。

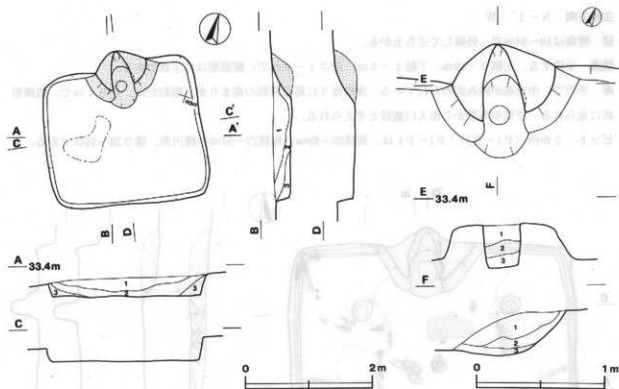
第242号住居跡(第386図)

位置 調査区の南部、H3f2区。

規模と平面形 長軸2.46m、短軸2.11mの長方形である。

主軸方向 N-27°-W

壁 壁高は22~36cmで、外傾して立ち上がる。



第386図 第242号住居跡実測図

床 平坦で、中央部の西側が一部踏み固められている。

竈 北西壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで90cm、両袖最大幅106cm、壁外への掘り込みは26cmである。袖の内壁は、火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は、床面を10cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量

覆土 3層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

遺物 土師器片66点（坏片5点、堿片61点）、須恵器片1点（坏片1点）、弥生土器片1点、含鉄滓11gが出土しているが、ほとんどが細片であるため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代と考えられる。

第243号住居跡（第387図）

位置 調査区の南部、H3 h2区。

重複関係 本跡は、第50号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.50m、短軸4.43mの方形である。

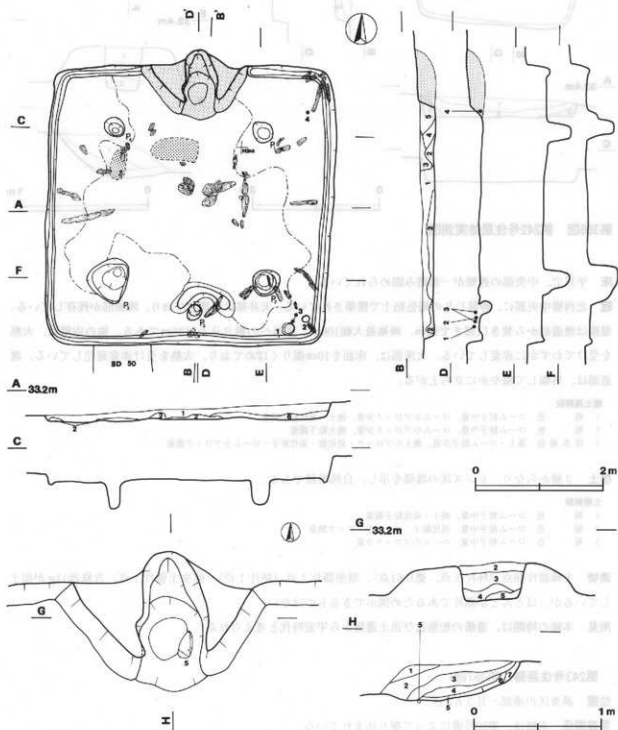
主軸方向 N-1°-W

壁 壁高は10~34cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅9~19cm、下幅4~8cm、深さ4~9cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。南壁寄りに馬の背状の高まりが、幅約32cm、高さ4cmで、馬蹄形状に見られる。位置や形態から出入口施設と考えられる。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、長径35~69cm、短径27~57cmの楕円形、深さ38~44cmである。規



第387図 第243号住居跡実測図

横と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径26cm、短径22cmの楕円形、深さ20cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**竈** 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで111cm、両袖最大幅142cm、壁外への掘り込みは28cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を10cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。火床部の東側から倒れた状態で支脚が出土している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

**竈土層解説**

- |   |      |                                |
|---|------|--------------------------------|
| 1 | 暗赤褐色 | 粘土粒子少量、焼土・炭化粒子微量               |
| 2 | 暗褐色  | 粘土粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量      |
| 3 | 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 4 | 暗赤褐色 | 炭化材多量、炭化粒子中量、焼土粒子微量            |
| 5 | 暗赤褐色 | 焼土・炭化粒子中量、炭少量、炭化物微量            |
| 6 | 暗赤褐色 | 粘土粒子中量、焼土・炭化粒子少量               |
| 7 | 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土・炭化・粘土粒子少量、炭化物微量     |

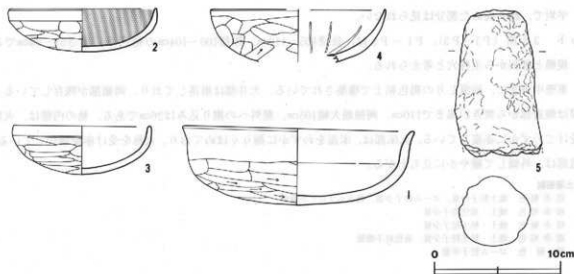
**覆土** 6層からなり、ロームブロックや焼土粒子を含む人為堆積である。

**土層解説**

- |   |     |                                     |
|---|-----|-------------------------------------|
| 1 | 褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量                    |
| 2 | 暗褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化材・ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 | 褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量                  |
| 4 | 褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック・粘土粒子少量、焼土粒子微量      |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック微量        |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量                  |

**遺物** 土師器片677点（坏片98点、高台付坏片17点、斐片562点）、弥生土器片22点、土製支脚1点が出土している。覆土下層では、第389図1、2の土師器坏が南東コーナー部から斜位の状態で、3の土師器坏が南東コーナー部から正位の状態、4の土師器坏が北東コーナー部から出土している。5の土製支脚は、竈内から出土している。

**所見** 本跡は、覆土下層に焼土塊や炭化材がみられることや、その上にローム小ブロック・ローム粒子を含む層が堆積していることなどから焼失後埋戻されたものと思われる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から7世紀中葉と考えられる。



第388図 第243号住居跡出土遺物実測図

第243号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第389図 1	坏 土師器	A 18.3 B 6.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部は外反 する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、 内面ナデ。内面一部器面荒れ。	灰石・石英・雲母 にふい橙色 普通	P1673 95% 覆土中 PL158
2	坏 土師器	A 11.4 B 3.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部は短く 直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、 内面ナデ。内面黒色処理。	灰石・石英・雲母 黒褐色 普通	P1674 95% 覆土中 PL158 二次焼成
3	坏 土師器	A 10.8 B 3.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部は短く 直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、 内面ナデ。	灰石・石英・雲母 暗褐色 普通	P1675 80% 覆土中 PL158 二次焼成
4	坏 土師器	A [13.7] B (4.1)	体部から口縁部片。体部は内壁し て立ち上がり、口縁部は短く外傾 する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、 内面放射状のヘラ磨き。	灰石・石英・雲母 暗褐色 普通	P1676 25% 覆土中 二次焼成

図版番号	器種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
5	支 脚	(11.6)	6.5	-	(394.6)	壺 内	DP1130 90%

第244 A号住居跡 (第389図)

位置 調査区の南部，I 3 a 1区。

規模と平面形 長軸 [6.77]m，短軸 (5.78)mで方形と推定される。南壁は調査区域外に及び、西側の3分の1は削平されている。

主軸方向 N-86°-W

壁 壁高は12~27cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下から東壁下にかけて巡っている。上幅15~29cm，下幅4~12cm，深さ4~14cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、踏み固めた部分は見られない。

ピット 3か所 (P1~P3)。P1~P3は、長径105~110cm，短径100~104cmの楕円形、深さ57~64cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

竈 東壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで110cm，両袖最大幅105cm，壁外への掘り込みは26cmである。袖の内壁は、火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

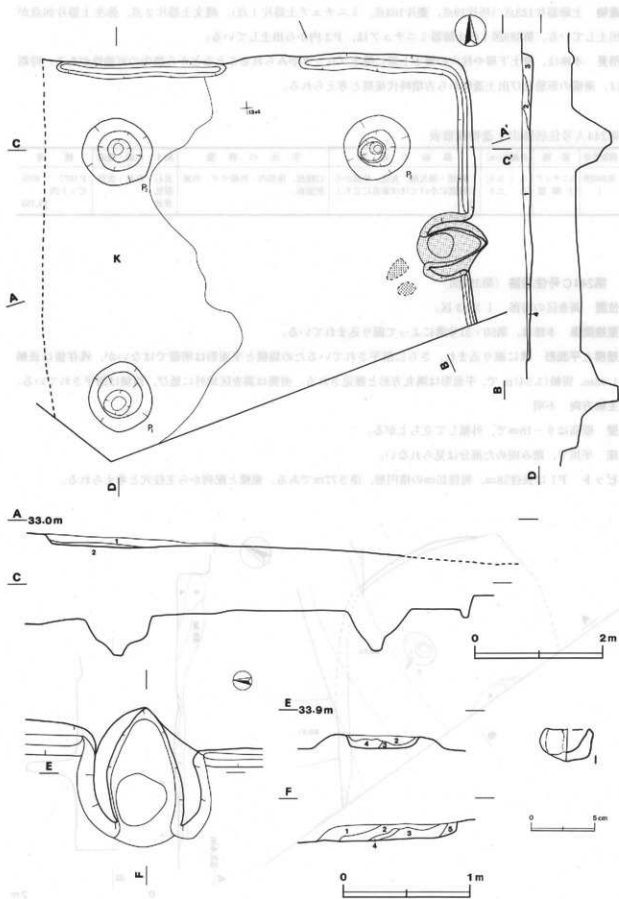
- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
- 2 暗赤褐色 焼土・炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量，炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量





第389図 第244号住居跡・出土遺物実測図

遺物 土師器片123点(坏片19点, 甍片103点, ミニチュア土器片1点), 縄文土器片2点, 弥生土器片26点が出土している。第389図1の土師器ミニチュアは, P3内から出土している。

所見 本跡は, 覆土下層や柱穴の覆土上層に焼土ブロックがみられることなどから焼失の可能性がある。時期は, 遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期と考えられる。

第244A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第389図 1	ミニチュア 土師器	A [ 3.5] B 2.6	口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけてほぼ垂直に立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ナデ。外面指頭痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P1677 80% ピット内 PL159

第244C号住居跡(第390図)

位置 調査区の南部, I3a3区。

重複関係 本跡は, 第50・51号溝によって掘り込まれている。

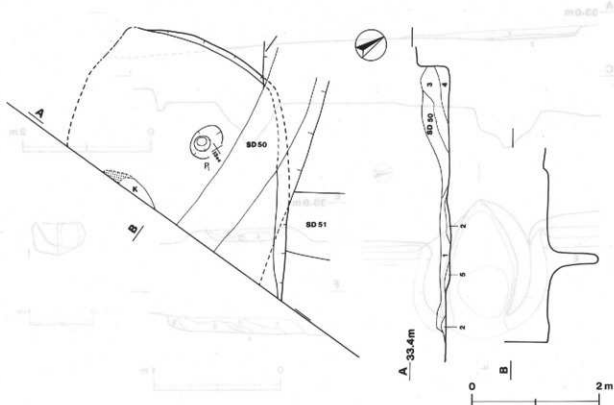
規模と平面形 溝に掘り込まれ, さらに削平されているため規模と平面形は明確ではないが, 残存値は長軸4.93m, 短軸(3.54)mで, 平面形は隅丸方形と推定される。南側は調査区域外に延び, 西側は削平されている。

主軸方向 不明

壁 壁高は9~18cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 踏み固めた部分は見られない。

ピット P1は長径58cm, 短径45cmの楕円形, 深さ77cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。



第390図 第244C号住居跡実測図

炉 調査区域外及んでおり、さらに根による攪乱もうけているため規模と平面形は明確ではない。確認範囲は長径32cm、短径20cmの楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。炉床面は、火熱を受け赤変硬化している。

覆土 4層からなり、自然堆積である。第5層は炉の土層である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量(炉土層)

遺物 弥生土器片5点が出土しているが、ほとんどが細片であるため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から弥生時代と考えられる。

第245号住居跡 (第391図)

位置 調査区の南東部、H 3 g 4 区。

重複関係 本跡が、第246号住居跡を掘り込んでいる。

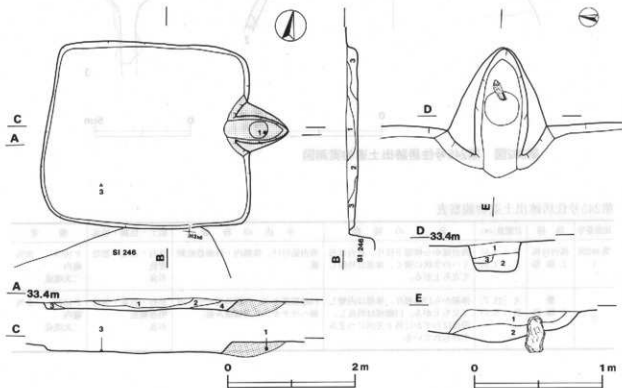
規模と平面形 長軸3.27m、短軸2.93mの長方形である。

軸方向 N-84°-E

壁 壁高は7~18cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、踏み固めた部分は見られない。

竈 東壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から吹き口部まで102cm、両袖最大幅97cm、壁外への掘り込みは67cmである。袖の内壁は、火熱



第391図 第245号住居跡実測図

を受けてわずかに赤変している。火床部は、床面を8cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。支脚に使用された雲母片岩が直立した状態で火床部に設置されている。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 焼土中・小ブロック・焼土・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム・粘土粒子微量

覆土 5層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

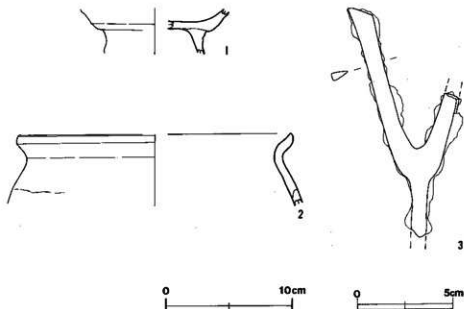
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片130点（坏片11点、高台付柄片1点、甕片118点）、須恵器片6点（坏片5点、甕片1点）、弥生土器片7点、鉄製品1点が出土している。床面では、第392図3の鉄鍔鏃が中央部南西側から出土している。

1の土師器高台付柄、2の土師器甕は竈内から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から10世紀前葉と考えられる。



第392図 第245号住居跡出土遺物実測図

第245号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第392図 1	高台付柄 土師器	B (3.6) E (1.9)	高台部から体部下位片。高台は長くハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	高台貼付け。体部内・外面器面刷磨。	長石・石英・雲母 褐色 不良	P1678 20% 竈内 二次焼成
2	甕 土師器	A (21.7) B (5.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部はわずかに内外方向につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面ナデ、内面ヘラナデ。外面輪積み痕。	長石・石英・雲母 明赤褐色 不良	P1679 5% 竈内 二次焼成

図版番号	器種	計測値				出土地点	備	考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第393図3	鉄 鍔	(12.1)	(5.9)	0.4	(22.0)	床 面	M1030	95% PL179

### 第246号住居跡 (第393図)

位置 調査区の南東部, H 3 h4 区。

重複関係 本跡は, 第245号住居跡によって掘り込まれている。

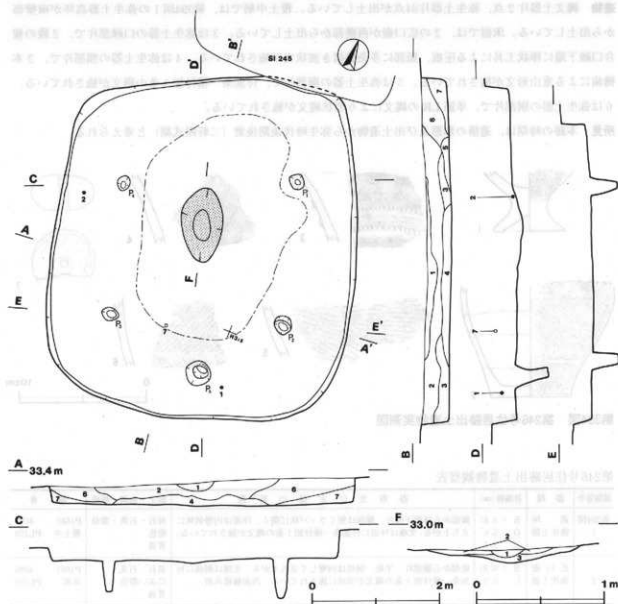
規模と平面形 長軸5.12m, 短軸4.76mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-22°-W

壁 壁高は24~43cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は, 長径24~29cm, 短径20~25cmの楕円形, 深さ38~62cmである。規



第393図 第246号住居跡実測図

横と配列から主柱穴と考えられる。P5は径40cmの円形、深さ52cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部に位置し、長径116cm、短径66cmの楕円形で、床面を11cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は、火熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化・ローム小ブロック微量
- 3 赤褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、焼土粒子微量

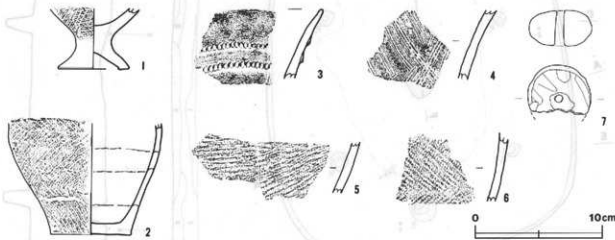
覆土 7層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、焼土・炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 6 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物 縄文土器片2点、弥生土器片84点が出土している。覆土中層では、第394図1の弥生土器高坏が南壁部から出土している。床面では、2の広口壺が西壁部から出土している。3は弥生土器の口縁部片で、2段の複合口縁下端に棒状工具による圧痕、頸部に多条櫛掻き波状文が施されている。4は弥生土器の頸部片で、3本櫛歯による重山形文が施されている。5は弥生土器の胴部片で、付加条一種付加1条の縄文が施されている。6は弥生土器の胴部片で、単節LRの縄文により羽状縄文が施されている。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から弥生時代後期後葉（二軒屋式期）と考えられる。



第394図 第246号住居跡出土遺物実測図

第246号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第394図 1	高坏 弥生土器	B (4.8) D 5.6 E 2.5	胴部から坏部下位片。胴部は短くラップ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がる。文様は坏部に付加条一種付加1条の縄文が施されている。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P1680 40% 覆土中 PL159
2	広口壺 弥生土器	B (8.8) C 6.3	底部から胴部片。平底。胴部は内彎して立ち上がる。文様は胴部に付加条一種付加1条の縄文が羽状に施されている。内面輪積み痕。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P1681 40% 床面 PL159

図版番号	部 種	計 測 値				出土地点	備 考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第395図7	鉢 鉢 車	2.8	4.9	0.6	(57.6)	覆土 中	DP1131 全面ヘラ掘り 70% PL171

### 第247号住居跡 (第395図)

位置 調査区の南東部, H 3 e 8 区。

規模と平面形 長軸3.37m, 短軸3.23mの方形である。

主軸方向 N-88°-E

壁 壁高は6~22cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。

竈 東壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで76cm, 両袖最大幅96cm, 壁外への掘り込みは16cmである。袖の内壁は, 火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は, 床面を4cm掘りくぼめており, 火熱を受けわずかに赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

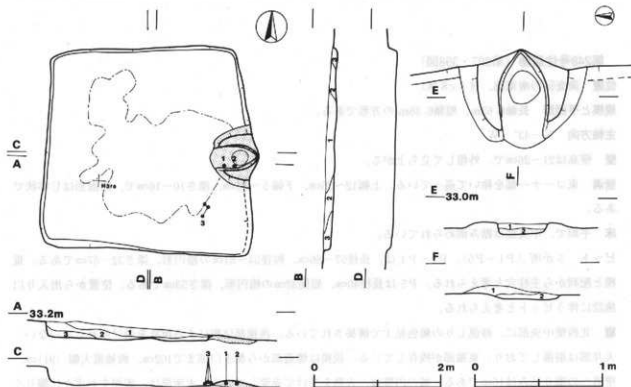
#### 覆土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土・ローム粒子微量
- 2 暗 赤 褐色 焼土・粘土粒子少量

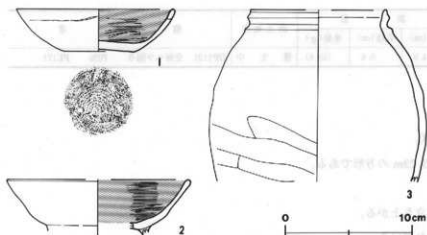
覆土 3層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物・ローム中ブロック微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量



第395図 第247号住居跡実測図



第396図 第247号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片56点(坏片15点、高台付椀片3点、羹片38点)、須恵器片2点(坏蓋片2点)、弥生土器片9点が出土している。覆土下層では、第396図3の土師器羹が南東コーナー部付近から出土している。1の土師器環、2の高台付椀は、竈内から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から9世紀後葉と考えられる。

第247号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第396図 1	土師器 環	A [12.4] B 3.4 C 5.5	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけては内彎して立ち上がる。	口縁部、体部ロクロナデ。体部内面へラ磨き。底面回転余切り後、周縁手持ちへラ削り。内面黒色処理。外面輪轆み痕。	長石・石英・雲母にふい赤褐色 普通	P1682 30% 竈内 PL159 二次焼成
2	高台付椀 土師器	A [14.4] B (4.4)	体部から口縁部片。体部から口縁部にかけては外彎して立ち上がる。	口縁部、体部ロクロナデ。体部内面へラ磨き。高台貼付け。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	P1683 20% 竈内 二次焼成
3	羹 土師器	A [10.6] B (13.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は短く外反し。踵部は外上方向につまみ上げられている。	口縁部噴ナデ。体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 褐色 普通	P1684 20% 覆土中

### 第248号住居跡 (第397・398図)

位置 調査区の南東部、H3c8区。

規模と平面形 長軸6.62m, 短軸6.36mの方形である。

主軸方向 N-43°-W

壁 壁高は21~26cmで、外傾して立ち上がる。

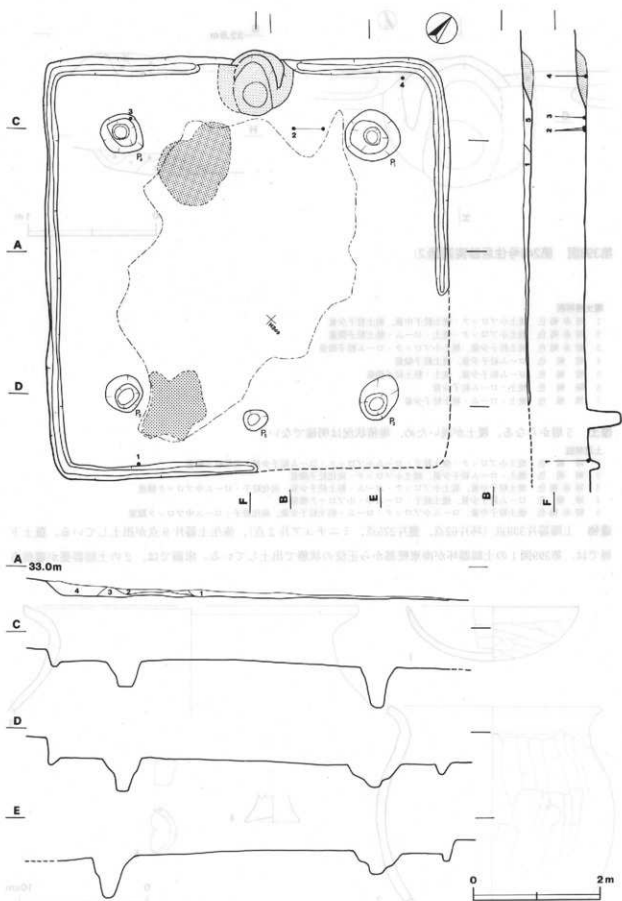
壁溝 東コーナー部を除いて巡っている。上幅12~25cm, 下幅5~11cm, 深さ10~16cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長径57~86cm, 短径54~81cmの楕円形、深さ32~67cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径40cm, 短径32cmの楕円形、深さ53cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

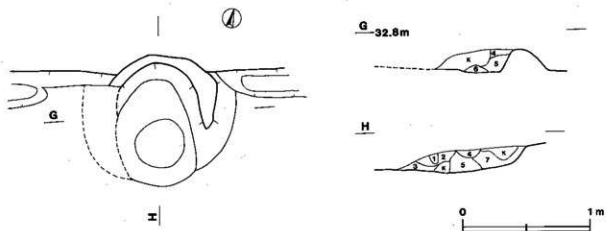
竈 北西壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。西袖部は根による攪乱を受け残存していない。天井部は崩落しており、東袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで102cm, 両袖最大幅(91)cm, 壁外への掘り込みは16cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けわずかに赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。





第397図 第248号住居跡実測図(1)

図解実跡出土報告第62号 図025版



第398図 第248号住居跡実測図(2)

覆土層解説

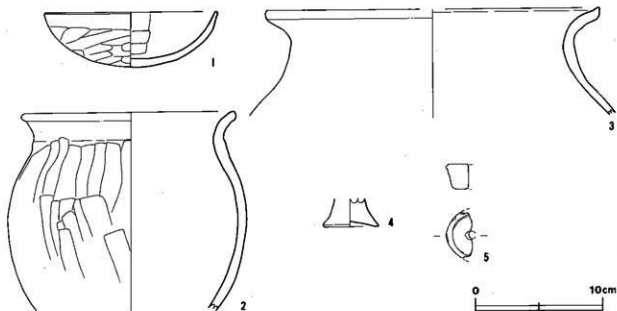
- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、粘土粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム・粘土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・粘土粒子微量
- 6 暗褐色 焼土・ローム粒子少量
- 7 黒褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量

覆土 5層からなる。覆土が浅いため、堆積状況は明確でない。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム・粘土粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・ローム中・小ブロック微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片339点（坏片62点、甕片275点、ミニチュア片2点）、弥生土器片9点が出土している。覆土下層では、第399図1の土師器坏が南東壁部から正位の状態出土している。床面では、2の土師器甕が甕前方



第399図 第248号住居跡出土遺物実測図

部から、3の土師器甕が中央部西側から、4の土師器ミニチュアの高杯が北コーナ部から出土している。覆土中では、5の土製紡錘車が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から7世紀前半と考えられる。

#### 第248号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第399図 1	坏 土師器	A 13.6 B 4.3	体部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内脣して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スクリアに多い橙色普通	P1685 80% 覆土中 PL159
2	甕 土師器	A 16.8 B (15.7)	体部から口縁部片。体部は内脣して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母に多い橙色普通	P1686 70% 床面 PL159 外面煤付着
3	甕 土師器	A [26.4] B (13.5)	体部から口縁部片。体部は内脣して立ち上がる。口縁部は外反し、踵部はわずかに外上方向につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母明赤褐色普通	P1687 10% 床面 二次焼成
4	ミニチュア 高杯 土師器	D 4.4 E (3.2)	脚部片。脚部はハの字状に開く。	脚部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母赤褐色普通	P1688 30% 床面 PL159 二次焼成

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
5	紡錘車	2.1	[4.1]	[0.5]	(16.5)	覆土中	DP132 50%

#### 第249号住居跡(第400図)

位置 調査区の南東部、H4d1区。

重複関係 本跡は、第178、250号土坑によって掘り込まれている。

規模と平面形 北東側の半分は削平されており規模と平面形は明確ではないが、残存する壁から一辺が約5.16mの方形と推定される。

主軸方向 N-12°-W

壁 壁高は5~13cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南西コーナ部から南壁下にかけて巡っている。上幅17~25cm、下幅5~9cm、深さ58~60cmで、断面形はU字状である。

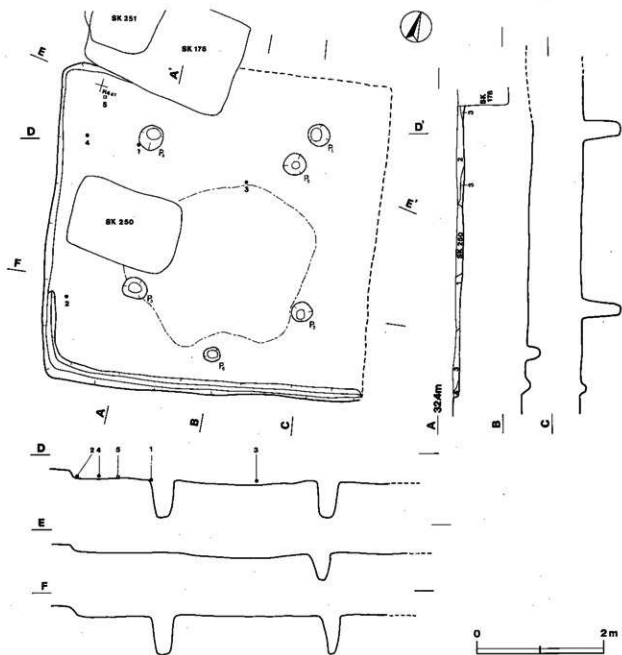
床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 6か所(P1~P6)。P1~P4は、長径32~39cm、短径31~37cmの楕円形、深さ58~60cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径36cmの円形、深さ42cmである。位置から補助柱穴と考えられる。P6は径25cm、深さ22cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層からなる。覆土が浅いため、堆積状況は明確でない。

#### 土層解説

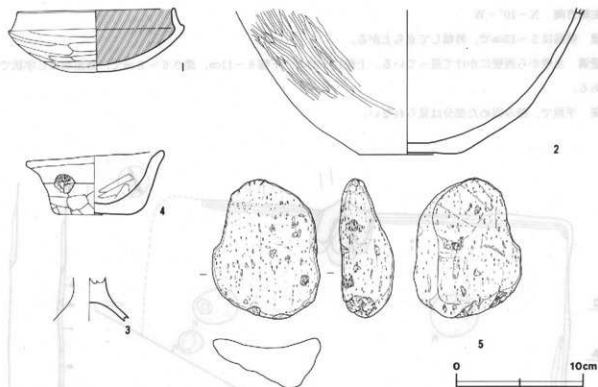
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化物微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、炭化物微量



第400図 第249号住居跡実測図

遺物 土師器片 8点(坏片 2点, 甕片 5点, ミニチュア片 1点), 弥生土器片 1点, 軽石 1点が出土している。覆土下層では, 第401図 4の土師器坏が北西コーナー付近から逆位の状態で, 3の土師器ミニチュアの高坏が中央部北東側から出土している。床面では, 1の土師器坏が中央部北西側から正位の状態で, 2の土師器甕が南西コーナー付近から出土している。覆土中では, 5の軽石が出土している。

所見 本跡の竈は第178号土坑によって壊されたものと思われる。時期は, 遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。



第401図 第249号住居跡出土遺物実測図

第249号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第401図 1	坏 土 器	A 12.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎して立ち上がり、口縁部との境 に明瞭な線を待つ。口縁部は内傾 する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・ スコリア 褐色 普通	P1689 95% 床面 PL159 二次焼成
		B 4.8				
2	羹 土 器	B (11.4)	底部から体部下位片。平底。体部 は内彎して立ち上がる。	体部内面ナデ、外面へラ磨き。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P1691 10% 床面
		C 7.7				
3	ミニチュア 高 坏 土 器	B ( 3.5)	髀部片。髀部はハの字状に開く。	髀部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1692 5% 覆土中 二次焼成
4	手捏土 土 器	A 10.9	口縁部一部欠損。平底。体部は外 傾して立ち上がり、口縁部は外反 する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、 内面へラナデ。	長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通	P1690 95% 覆土中 PL159
		B 5.0				
		C 5.5				

図版番号	器種	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
5	軽 石	11.0	8.6	3.9	30.5	流 紋 岩	覆 土 中	Q1031 PL175

第250号住居跡 (第402図)

位置 調査区の南東部、H4f1区。

重複関係 本跡は、第51号溝によって掘り込まれている。

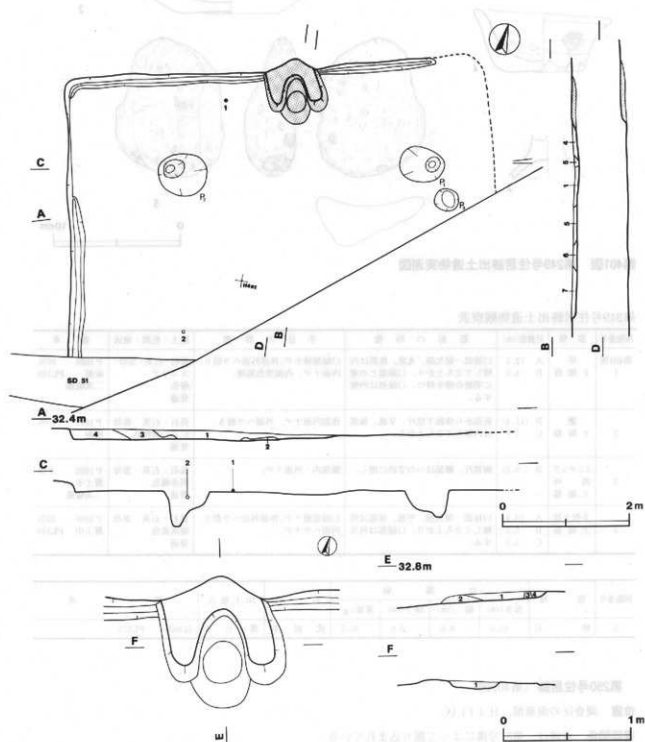
規模と平面形 南側は調査区域外に延び、東側は斜面部で削平されている。そのため規模と平面形は明確ではないが、残存する壁から一辺が約7.0mの方形と推定される。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は5~13cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁から西壁にかけて巡っている。上幅13~23cm、下幅6~11cm、深さ6~8cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、踏み固めた部分は見られない。



第402図 第250号住居跡実測図

ピット 3か所 (P1~P3)。P1~P2は、長径70~76cm、短径53~67cmの楕円形、深さ45~66cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P3は径40cmの円形、深さ20cmである。位置から補助柱穴と考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。煙道上部は、斜面部のため削平されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで102cm、両袖最大幅95cm、壁外への張り込みは18cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土・粘土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 3 明黄褐色 粘土粒子多量
- 4 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子微量

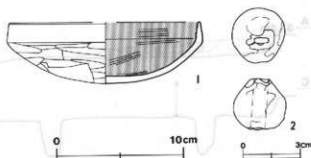
覆土 7層からなる。掘り込みが浅いため、堆積状況は明確でない。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム大・中ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片88点(坏片34点、甕片54点)、縄文土器片1点、弥生土器片14点、土玉1点が出土している。床面では第403図1の土師器が竈の西側から、2の土玉が中央部南西側から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。



第403図 第250号住居跡出土遺物実測図

#### 第250号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第403図 1	坏 土師器	A [15.1] B 4.8	底部から口縁部片。丸底。体部は内脛して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部外面ナデ、内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ磨り、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にぶい橙色 普通	P1693 50% 床面 PL159 二次焼成

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
2	土玉	2.7	2.8	0.8	19.1	床面 DP1133	100% PL169

#### 第251号住居跡 (第404図)

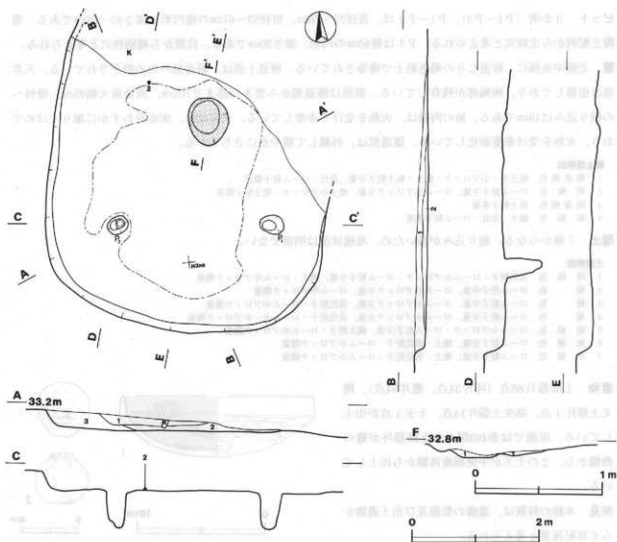
位置 調査区の南東部、H3g9区。

規模と平面形 斜面部のため北側3分の1が削平されている。長軸4.43m、短軸(4.10)mで隅丸長方形である。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は0~30cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。



第404図 第251号住居跡実測図

ピット 2か所 (P1~P2)。P1~P2は、長径34~49cm、短径29~30cmの楕円形、深さ56~58cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

炉 中央部に位置し、長径78cm、短径62cmの楕円形で、床面を12cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は、火熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック微量

覆土 3層からなる。覆土が浅いため、堆積状況は明確でない。

土層解説

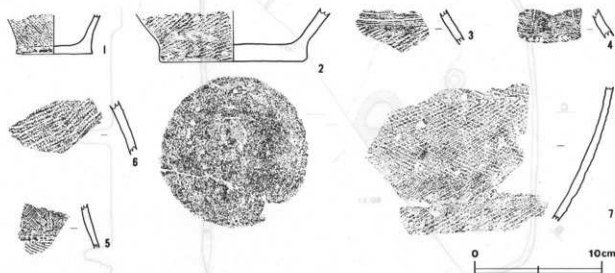
- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量  
 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量  
 3 明褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子微量

遺物 縄文土器4点、弥生土器片79点が出土している。床面では、第405図2の弥生土器広口壺が北コーナー部から出土している。覆土中では、1の弥生土器広口壺が出土している。4、5は弥生土器の頸部片で、4は縦区画充填波状文、5は縦区画充填縞状文が施されている。3、7は弥生土器の胴部片で付加条一種付加2条の縄文が施されている。7は羽状構成をとっている。6は弥生土器の胴部片で付加条一種付加一条の縄文が施



されており、流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から弥生時代後期後葉（二軒屋式期）と考えられる。



第405図 第251号住居跡出土遺物実測図

#### 第251号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第405図 1	広口壺 弥生土器	B (3.1) C 6.1	底部から胴部下位片。平底。胴部はわずかに内傾して立ち上がる。文様は胴部に付加糸一種付加1条の縄文が施されている。	長石・石英・雲母・スクリア 明赤褐色 普通	P1695 15% 覆土中 PL159
2	広口壺 弥生土器	B (4.1) C 11.4	底部から胴部下位片。平底。胴部はわずかに内傾して立ち上がる。文様は胴部に付加糸一種付加1条の縄文が施されている。底部初傾。	長石・石英・雲母・スクリア にぶい橙色 普通	P1694 15% 床面

#### 第252号住居跡 (第406図)

位置 調査区の南東部、H318区。

重複関係 本跡は、第51号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.91m、短軸(3.53)mで隅丸方形と推定される。

主軸方向 N-24°-E

壁 壁高は16~19cmで、外傾して立ち上がる。

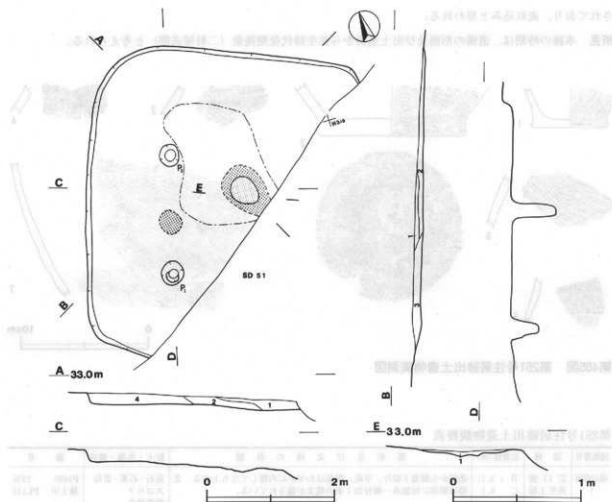
床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 2か所 (P1~P2)。P1~P2は、径35~38cmの円形、深さ46~69cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

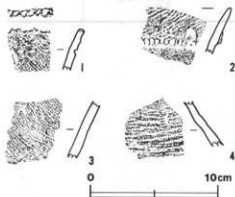
炉 中央部に位置し、長径80cm、短径61cmの楕円形で、床面を8cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は、火熱を受け赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1 暗赤褐色 ローム小ブロック、ローム粒子少量、炭化粒子微量



第406図 第252号住居跡実測図



第407図 第252号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

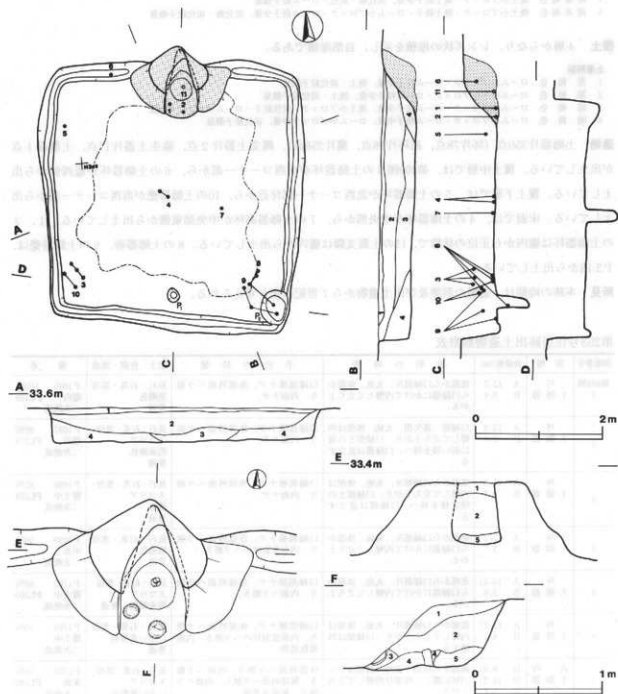
覆土 4層からなる。覆土が浅いため、堆積状況は明確でない。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量

遺物 弥生土器片4点が覆土中から出土している。第407図1は弥生土器広口壺の口縁部片で、口唇部に縄原体による押圧、地文に単節LRの縄文、刺突文が施されている。2は弥生土器広口壺の口縁部片で口縁部に付加条一種付加2条の縄文、頸部との境に縄原体による刺突が施されている。3は弥生土器の胴部片で付加条一種付加2条の縄文が羽状に施されている。4は弥生土器の胴部片で付加条一種付加1条の縄文が施されている。

第253号住居跡 (第408図) 調査区の南東部, H3d5区  
 規模と平面形 長軸4.33m, 短軸4.07mの方形である。  
 主軸方向 N-7°-E  
 壁 壁高は54~59cmで, 垂直に立ち上がる。  
 壁溝 全周する。上幅15~30cm, 下幅6~14cm, 深さ8~9cmで, 断面形はU字状である。  
 床 平坦で, 中央部は踏み固められている。



第408図 第253号住居跡実測図

ピット 2か所 (P1~P2)。P1は長径23cm, 短径18cmの楕円形, 深さ50cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は長径53cm, 短径40cm, 深さ20cmであるが, 性格は不明である。

竈 北壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで115cm, 両袖最大幅146cm, 壁外への掘り込みは30cmである。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床面は, 床面を12cm掘りくぼめており, 火熱を受け赤変硬化している。支脚は土製で火床面に直立して設置されていた。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 竈土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化・ローム粒子微量
- 3 赤褐色 焼土・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化・ローム粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化物・炭化・ローム粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量

覆土 4層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

#### 土層解説

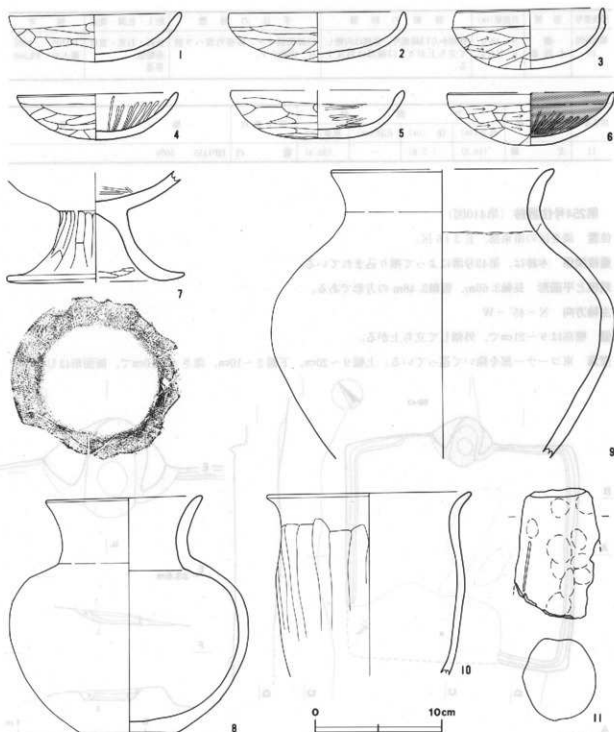
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子中量

遺物 土師器片350点 (坏片78点, 高坏片16点, 甕片256点), 縄文土器片2点, 弥生土器片17点, 土製品1点が出土している。覆土中層では, 第409図3の土師器坏が南西コーナー部から, 6の土師器坏が竈西側から出土している。覆土下層では, 5の土師器坏が北西コーナー部付近から, 10の土師器甕が南西コーナー部から出土している。床面では, 4の土師器坏が中央部から, 7の土師器高坏が中央部東側から出土している。1, 2の土師器坏は竈内から正位の状態, 11の土製支脚は竈内から出土している。8の土師器壺, 9の土師器甕は, P2内から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から7世紀初頭と考えられる。

#### 第253号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 1	坏 土師器	A 13.7	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り, 内面ナデ。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P1696 100% 竈内 PL159 二次焼成
		B 3.6				
2	坏 土師器	A 13.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に肩を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り, 内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P1697 80% 竈内 PL159 二次焼成
		B 2.9				
3	坏 土師器	A 11.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に肩を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り, 内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 暗褐色 普通	P1698 85% 覆土中 PL159 二次焼成
		B 4.7				
4	坏 土師器	A 17.2	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り, 内面放射状のへラ磨き。	長石・石英・雲母 明褐色 普通	P1699 50% 床面 二次焼成
		B 3.7				
5	坏 土師器	A [13.5]	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り, 内面へラ磨き。	長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P1700 60% 覆土中 PL160 二次焼成
		B 3.8				
6	坏 土師器	A [13.2]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外彎する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り, 内面放射状のへラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 ぶい黄褐色 普通	P1701 50% 覆土中 二次焼成
		B 4.1				
7	高坏 土師器	D [8.8]	脚部から坏部下位片。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がる。	坏部外面へラ削り, 内面へラ磨き。脚部外面へラ削り, 内面へラ削り。裾部本葉痕。	長石・石英・雲母・スコリア ぶい黄褐色 普通	P1702 50% 床面 PL160 二次焼成
		E 5.6				



第409図 第253号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 8	壺 土器	A 12.4	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、肩部に張りを持つ。口縁部は長く外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面ナデ。外面一部器面荒れ。	長石・石英・雲母にふい褐色普通	P1703 70% ビット内PL160 二次焼成
		B 18.7				
		C 7.8				
9	壺 土器	A [17.6]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部内面ナデ。内面に輪轍み痕。外面器面磨耗。	長石・石英・雲母・スコリア 褐色普通	P1704 40% ビット内PL160
		B (22.7)				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 10	甕 土師器	A 16.2 B (14.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へうけ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P1705 30% 甕土中 PL160

図版番号	器種	計測値				出土地点	備	考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
11	支脚	(10.3)	[7.8]	-	(30.9)	甕内	DP1155	50%

### 第254号住居跡 (第410図)

位置 調査区の南東部, E 3 f 6 区。

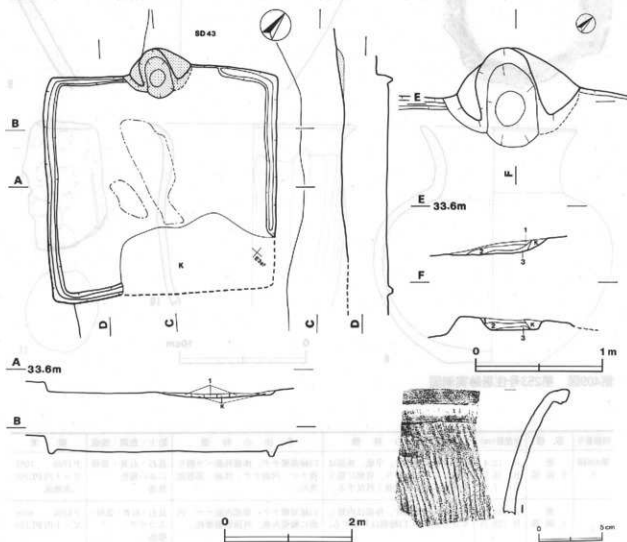
重複関係 本跡は, 第43号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.66m, 短軸3.48m の方形である。

主軸方向 N-45°-W

壁 壁高は9~21cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 東コーナー部を除いて巡っている。上幅9~20cm, 下幅2~10cm, 深さ4~10cmで, 断面形はU字状で



第410図 第254号住居跡・出土遺物実測図

ある。

床 平坦で、中央部は一部分踏み固められている。

竈 北東壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は溝によって削平され、両袖部は残存している。規模は煙道部から焚き口部まで77cm、両袖最大幅105cm、壁外への掘り込みは33cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けわずかに赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子微量

覆土 単一層であり、第43号溝によって掘り込まれているため、堆積状況は明確でない。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量

遺物 土師器片38点(坏片9点、甕片28点、手握土器片1点)、須恵器片5点(甕片5点)、鉄滓7gが出土している。第410図1は須恵器鉢の口縁部片で、体部外面に平行叩きが施されている。胎土に雲母を含む。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から9世紀代と考えられる。

### 第255号住居跡(第411図)

位置 調査区の南東部、H3 d5区。

規模と平面形 長軸3.55m、短軸3.44mの方形である。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は50~56cmで、垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅10~20cm、下幅4~11cm、深さ4~9cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 1か所(P1)。P1は、径24cmの円形、深さ24cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで113cm、両袖最大幅129cm、壁外への掘り込みは33cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

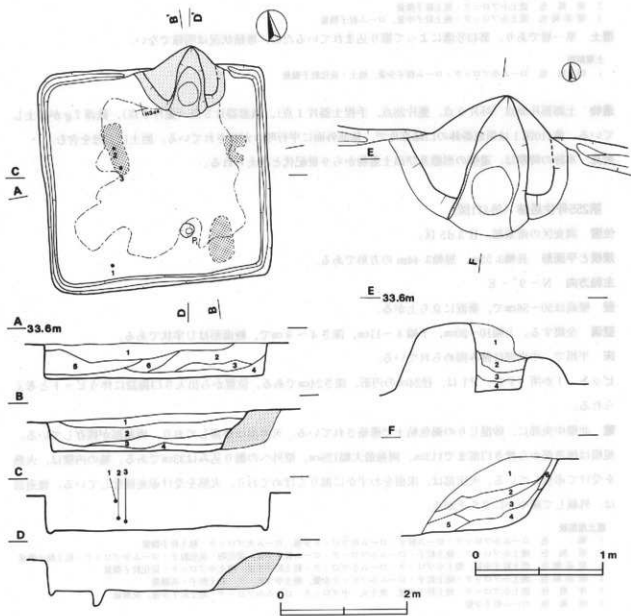
- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・粘土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量、焼土中ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量、焼土中ブロック・粘土粒子・炭酸灰
- 5 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、焼土大・中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量、炭微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量

覆土 6層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。

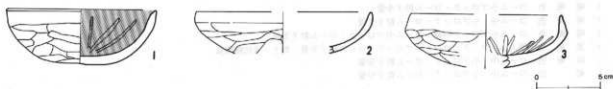
土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化物微量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量

遺物 土師器片54点(坏片6点, 甕片48点), 縄文土器片1点, 弥生土器片3点, 鉄滓9gが出土している。覆土上層では, 第412図1の土師器坏が南西コーナー部付近から出土している。覆土下層では, 2, 3の土師器坏が中央部北西側からそれぞれ出土している。当跡は, 覆土下層に焼土塊がみられること, その上にロームブロック・ローム粒子を含む層が堆積していることなどから, 焼失後埋め戻されたものと思われる。時期は, 遺構の形態及び出土遺物から7世紀前葉と考えられる。



第411図 第255号住居跡実測図



第412図 第255号住居跡出土遺物実測図



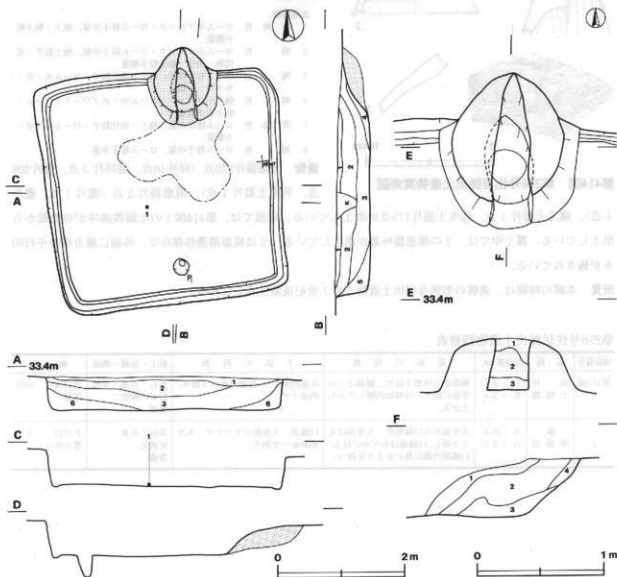
第255号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第412図 1	坏 土師器	A [11.8] B 4.3	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面放射状のへう磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・スクリア にふい黄褐色 普通	P 1706 45% 覆土中 二次焼成
2	坏 土師器	A [13.8] B (3.2)	体部から口縁部片。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スクリア 黄灰色 普通	P 1707 30% 覆土中 二次焼成
3	坏 土師器	A [12.0] B (4.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面放射状のへう磨き。	長石・石英・雲母・スクリア にふい赤褐色 普通	P 1708 20% 覆土中 二次焼成

第256号住居跡 (第413図)

位置 調査区の南東部, H 3 d 6 区。

規模と平面形 長軸3.74m, 短軸3.68mの方形である。



第413図 第256号住居跡実測図

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は46~55cmで、垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅18~22cm, 下幅5~10cm, 深さ5~7cmで、断面形はU字状である。

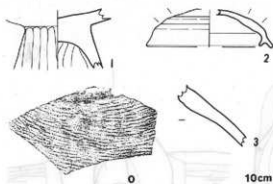
床 平坦で、竈前方部が踏み固められている。

ピット P1は、径26cmの円形、深さ35cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで122cm, 両袖最大幅104cm, 壁外への掘り込みは39cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を7cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・粘土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、粘土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量



第414図 第256号住居跡出土遺物実測図

1点, 縄土器片1点, 弥生土器片175点が出土している。床面では、第414図1の土師器高環が中央部から出土している。覆土中では、2の須恵器環蓋が出土している。3は須恵器甕体部片で、外面に横方向の平行叩きが施されている。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から7世紀後葉と考えられる。

覆土 6層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・粘土粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・炭化・粘土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、焼土・炭化粒子・ローム大・中・小ブロック微量
- 4 褐色 焼土小ブロック・ローム中・小ブロック・ローム・粘土粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子中量、ローム粒子少量

遺物 土師器片220点(坏片10点, 高坏片3点, 甕片206点, 手捏土器片1点), 須恵器片2点(蓋片1点, 甕片

第256号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第414図 1	高環土師器	B (4.6) E (3.4)	脚部から坏部下位片。脚部はハの字状に開く。坏部は内彎して立ち上がる。	坏部内面ナデ。脚部外面ヘリ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母にふい橙色普通	P1709 10% 床面
2	蓋須恵器	A [10.0] B (3.0)	天井部から口縁部片。天井部は丸く下降し、口縁部はわずかに反る。口縁部内面に長いかえりを持つ。	口縁部、天井部ロクロナデ。天井部回転ヘリ削り。	長石・石英・灰黄色普通	P1710 5% 覆土中

表2 木工台遺跡住居跡一覽表

住居跡 番号	位置	軸線方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設				出土遺物	備考		
							壁溝(ε)	土坑	土口	土口				
108	C4k1	N-10°-E	方形	3.05 × 3.50	24-32	平組	全周	-	1	1	-	自然	土師器(埴、高台付埴、甕)須磨器(埴、甕)鉄鏡	
109A	C4f11	N-90°-E	長方形	3.71 × 3.00	8-17	平組	-	-	-	1	-	自然	土師器(埴、高台付埴、甕)刀子	SI-109D-1-本跡
109B	C4f1	N-27°-W	方形	5.45 × 5.33	15-26	平組	全周	-	4	-	-	自然	土師器(埴、手捏土器)	本跡-SI-109A-SB-2
110A	C3d0	N-0°	方形	5.10 × 5.65	65-80	平組	全周	14	4	-	1	自然	土師器(埴、甕)須磨器(埴、甕、鉄鏡)石製結核車、釘、鉄鏡	SI-110C-110B-4本跡
110B	C3d0	N-0°	[矩形]	5.10 × [5.40]	65-80	平組	全周	-	4	-	1	人為	-	SI-110C-4本跡-110A
110C	C3d0	N-0°	[矩形]	5.10 × [5.22]	65-80	平組	全周	-	4	-	1	-	-	本跡-SI-110B-110A
111	D4a1	N-123°-E	長方形	4.10 × 3.72	37-40	平組	-	-	-	1	-	自然	土師器(埴、高杯、甕)	
112	E4e1	N-10°-E	方形	5.42 × 5.33	30-35	平組	全周	1	4	1	1	人為	土師器(埴、埴、鉢、高杯、甕)	本跡-SI-111-41、44
113A	E4e1	N-11°-W	方形	6.11 × 6.00	45-49	平組	全周	4	4	1	1	自然	土師器(埴、甕)須磨器(埴、甕)	SI-114-113B-1本跡
113B	E4e1	[N-11°-W]	[方形]	[6.11] × [6.00]	-	平組	-	-	4	-	-	-	-	SI-114-本跡-113A
114	E4d2	N-51°-E	方形	4.88 × 4.68	17-26	平組	-	-	4	-	1	人為	土師器(埴、甕)石製結核車	本跡-SI-113B-113A
115	F3k3	N-7°-E	長方形	10.05 × 9.00	25-45	平組	全周	1	4	1	1	自然	土師器(埴、甕、鉢、高杯、ニチュア型)須磨器(埴)石製結核車、釘、鉄鏡	本跡-SB-3・5・6・7
116A	F2g8	N-12°-W	方形	7.00 × 6.68	43-70	平組	全周	9	4	-	1	自然	土師器(埴、甕)須磨器(埴、甕、鉄鏡)土製結核車、鉄鏡	SI-116B-116C-4本跡
116B	F2g0	N-25°-W	[矩形]	4.92 × [6.20]	28-41	平組	一帯	2	-	-	1	人為	土師器(埴、甕、ニチュア型)	SI-0-0-本跡-116A
116C	F2g8	[N-12°-W]	[方形]	[7.00] × [6.68]	-	平組	-	-	4	-	1	-	-	SI-116B-4本跡-116A
118	F2j8	N-75°-E	方形	3.70 × 3.70	22-36	平組	-	-	-	1	1	自然	土師器(埴、甕)鉄鏡	
119	F2i6	N-6°-E	方形	5.77 × 5.71	47-66	平組	全周	2	4	1	1	自然	土師器(埴、甕)須磨器(埴)須磨器(埴)陶器(埴)須磨器(埴)刀子	SI-125B-1本跡
120A	F2g3	N-4°-W	方形	4.60 × 4.30	30-44	平組	全周	-	4	1	1	人為	土師器(甕)須磨器(埴、高台付埴)	SI-120D-120C-4本跡
120C	F2g4	N-16°-W	方形	5.60 × 5.50	32-44	平組	全周	-	4	1	1	自然	土師器(埴、甕)石製結核車、刀子、鉄鏡	SI-120D-120B-120A
120D	F2g4	N-30°-W	[方形]	4.80 × (7.74)	31-54	平組	全周	-	4	-	-	自然	土師器(埴、甕)	4B-0B-SI-120C-120A
120E	F2e0	N-0°	方形	6.48 × 4.40	56-69	平組	全周	-	4	1	1	人為	土師器(埴、高杯、甕、鉢、ニチュア型)	SI-120D-1本跡
121	F2d1	N-2°-W	長方形	4.40 × 3.90	10-35	平組	全周	-	-	1	1	自然	土師器(埴、高台付埴、高台付埴)埴石、鉄鏡	SI-123B-123A-4本跡
122	F2e2	N-11°-E	方形	3.95 × 3.65	45-50	平組	一帯	-	-	1	1	自然	土師器(埴、埴、鉢)甕石、刀子、門	
123A	F2e2	N-8°-W	方形	6.80 × 6.35	25-30	平組	全周	-	4	-	1	自然	土師器(埴、甕、鉢)釘	SI-123B-1本跡-121
123B	F2e2	[N-8°-W]	[方形]	[6.80] × [6.35]	-	平組	-	-	2	-	1	人為	-	本跡-SI-123A-121
124	F3j4	N-35°-W	[矩形]	(4.69) × (3.92)	10	平組	一帯	1	-	-	1	自然	須磨器(長須磨器)釘、刀子	本跡-SB-4、SI-169
125A	F2d8	[N-20°-W]	方形	4.30 × 4.10	33-40	平組	全周	6	3	-	-	自然	土師器(埴、甕)	本跡-SI-125C
125B	F2d6	N-15°-W	長方形	5.80 × 5.10	40-45	平組	全周	1	4	-	1	自然	土師器(埴、甕、ニチュア型)鉄鏡	本跡-SI-125C
125C	F2d7	N-8°-W	[矩形]	[4.30] × [3.30]	35-40	平組	一帯	-	3	1	1	自然	土師器(埴)	SI-125A-125B-本跡
126A	F2e0	N-1°-W	方形	10.25 × 10.43	51-66	平組	全周	-	4	1	1	自然	土師器(埴、高杯、甕)須磨器(須磨器)甕石、刀子	SI-126C-126B-126B
126B	F2e9	N-16°-W	長方形	6.06 × 5.32	46-50	平組	-	-	4	1	1	自然	土師器(埴、甕)須磨器(埴、甕)甕石	SI-126C-126A-4本跡
126C	F2e0	[N-1°-W]	[方形]	[10.25] × [10.43]	-	平組	-	-	4	1	1	-	-	本跡-SI-126A-126B
127A	F3c3	N-2°-W	方形	6.95 × 6.85	20-50	平組	全周	3	4	-	-	自然	土師器(埴)須磨器(埴、甕)石製結核車、甕石	SI-127D-8本跡-127B-127C-SB-8・10
127B	F3d2	N-15°-W	長方形	5.80 × 5.10	10-45	平組	-	1	4	-	1	自然	土師器(甕)	SI-127D-127A-1本跡-SI-127C-SB-3
127C	F3d2	N-72°-E	[矩形]	3.90 × (2.40)	20-25	平組	一帯	-	-	1	1	自然	土師器(高台付埴)	SI-127D-127B-1本跡
127D	F3d3	N-20°-E	[方形]	5.78 × (5.72)	15-50	平組	一帯	-	4	-	1	人為	土師器(埴、甕)	本跡-SI-127A-127B-127B-127C-127C
128A	F1k0	N-0°	方形	5.40 × 5.22	20-35	平組	-	-	4	1	1	人為	土師器(埴、甕)須磨器(甕)甕石	SI-128B-1本跡
128B	F1k0	[N-0°]	[方形]	[5.40] × [5.22]	-	平組	-	-	4	-	1	-	-	SI-128B-1本跡
129	F1j2	N-15°-W	方形	4.94 × 4.87	7-29	平組	-	-	4	1	1	自然	土師器(埴、甕)	
130	E2j4	N-9°-W	長方形	3.77 × 3.34	15-25	平組	全周	-	-	-	1	自然	土師器(埴)須磨器(埴)石製結核車、甕、須磨器	
131	F2d6	N-12°-W	方形	3.25 × 3.08	27-30	平組	全周	-	-	1	1	自然	土師器(埴)須磨器(埴)刀子、鉄鏡、釘	
132A	E2j0	N-14°-E	方形	6.00 × 5.62	14-19	平組	全周	11	4	1	1	自然	土師器(埴)須磨器(埴、高台付埴、甕)石製結核車、釘	SI-132B-1本跡
132B	E2j0	N-5°-E	方形	8.38 × 7.95	29-37	平組	全周	-	4	-	1	人為	土師器(埴、甕)	本跡-SI-133-132A
133	E2d9	N-19°-W	方形	3.72 × 3.47	21-32	平組	全周	-	-	1	1	自然	土師器(埴、甕、鉢)須磨器(埴、甕)刀子	SI-132B-1本跡-SI-132A
134A	E2i8	N-7°-E	方形	4.40 × 4.24	55-65	平組	全周	-	4	-	1	人為	土師器(埴)須磨器(埴、甕)甕石、手捏土器	SI-134B-133-1本跡-SI-134C-134C

住居形 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	高さ (m)	内部施設						備考				
						床面	壁	柱	土	土	土		土	土	土	
134B	E2 18	N-5°-E	方形	3.56 × 3.30	52-55	平	一部	-	-	-	-	-	人為	土脚器(環, 高环, 壁)	本跡→SI-134A	
134C	E2 17	N-86°-E	方形	3.46 × 3.35	15-20	平	-	-	-	1	-	-	自然	土脚器(環)	附: 135B→134A→ 134B→本跡	
134D	E2 18	N-0°	方形	2.25 × 2.15	25	平	-	-	-	-	-	-	人為	土脚器(高台付物)	SI-134A→本跡→134C	
135A	E2 27	N-0°	方形	3.46 × 3.36	55	平	全	-	-	1	1	-	自然	土脚器(環, 壁, 環) 須磨器(環, 高台付物, 壁) 土脚器(環, 壁, 環) 須磨器(環, 高台付物, 壁)	SI-135B→135C→本跡	
135B	E2 26	N-6°-W	[方形]	6.26 × [6.10]	43-55	平	一部	1	4	1	1	-	人為	土脚器(環, 高环, 壁, 壁) 石製結核車	本跡→附: 136C→ 134A→134C	
136A	E2 28	N-4°-E	正方形	3.61 × (3.27)	20-29	平	一部	-	-	-	-	-	自然	土脚器(環, 壁, ニニチュア?) 須磨器(長原側)	附: 136D→136C→ 134B→本跡	
136B	E2 19	N-10°-W	方形	4.14 × 4.10	12-23	平	全	-	-	-	-	-	自然	土脚器(環, 高台付物) 釘	SI-136B→本跡→136A	
136C	E2 28	N-4°-E	方形	5.80 × 5.70	34-57	平	全	2	4	1	1	-	自然	土脚器(環, 壁) 須磨器(環, 壁, 壁)	附: 133B→136D→ 136B→135A, 136A	
136D	E2 19	N-10°-W	[長方形]	[5.28] × 4.75	42-47	平	一部	2	4	-	1	-	人為	土脚器(環)	本跡→附: 136C→ 136A→136D	
137	E2 16	N-2°-W	方形	3.05 × 3.38	40-48	平	全	2	-	1	1	-	自然	土脚器(環, 高环, 壁) 須磨器(環) 土製結核車, 釘	本跡→本跡	
138A	E2 23	N-15°-E	長方形	3.30 × 2.92	25-35	平	全	-	-	1	1	-	自然	土脚器(環, 壁) 釘	SI-138→本跡	
138B	E2 22	N-6°-W	長方形	5.50 × 4.95	10-35	平	-	-	2	-	1	-	自然	土脚器(環, 壁)	SI-138C→本跡	
138C	E2 11	N-3°-W	方形	5.02 × 5.42	20-30	平	全	-	-	4	1	1	-	自然	土脚器(環, 壁, 壁)	本跡→SI-138B
139	E2 13	N-0°	方形	3.95 × 3.76	30-40	平	一部	-	-	-	1	-	自然	土脚器(環, 高环, 壁) 磁石	本跡→SI-138A	
140	E2 11	N-0°	方形	3.55 × 3.35	2-8	平	-	-	-	-	1	-	-	土脚器(環)	石製結核車	
141	E2 11	N-10°-W	方形	3.05 × 2.94	22-47	凸	一部	-	-	-	-	-	自然	土脚器(壁, 壁)		
142	E3 17	N-65°-W	[方形]	[3.71] × [3.71]	3-6	平	-	-	-	-	-	-	-	須磨器(環, 高台付物)		
144	E2 26	N-2°-W	方形	4.12 × 4.05	39-50	平	全	-	-	1	1	-	自然	土脚器(環, 壁, ニニチュア?) 須磨器(環, 壁, 壁)	本跡→SD-45	
145A	E2 28	N-0°	方形	6.92 × 6.91	49-70	平	全	-	-	4	1	1	-	自然	土脚器(環, 壁, 手摺上置) 須磨器(環) 磁石, 釘	SI-145B→本跡→SD-44
145B	E2 28	N-0°	長方形	6.49 × 5.23	57-72	平	全	-	-	4	1	1	-	人為	-	本跡→SI-145A
147	E2 23	N-65°-E	長方形	2.48 × [2.20]	-	平	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
148	E2 c1	N-0°	長方形	2.72 × 2.30	17-20	平	-	-	-	-	-	-	自然	土脚器(環, 高台付物, 壁)		
149	E2 22	N-5°-E	方形	3.55 × 3.22	36-48	平	全	-	-	1	1	-	人為	土脚器(環, 壁) 磁石	本跡→SD 36→53	
150A	E2 22	N-15°-W	長方形	5.16 × 4.65	53-73	平	一部	-	-	4	1	-	自然	土脚器(環, 壁) 須磨器(壁) 磁石	SI-150B→本跡	
150B	E2 23	N-24°-W	長方形	7.09 × 5.12	18-23	平	-	-	-	-	-	-	人為	土脚器(環, 高环, 壁, 壁) 磁石	SI-150A→本跡→150A 150C→SD 36→53	
150C	E2 23	N-65°-W	方形	3.96 × 3.82	29-32	平	全	-	-	-	2	-	自然	土脚器(環, 高台付物, 高台付物, 壁) 須磨器(環) 磁石	SI-150B→150B→本跡	
150D	E2 23	N-21°-E	方形	4.21 × 4.08	25-42	平	一部	-	-	-	-	-	人為	土脚器(環, 壁)	本跡→附: 150B→ 150C→SD 53	
151	E1 16	N-20°-W	方形	4.27 × 4.25	35-42	平	全	-	-	1	1	-	自然	土脚器(環, 壁)		
152	D2 11	N-8°-E	方形	5.25 × 5.17	25-40	平	一部	-	-	4	1	1	-	自然	土脚器(環, 高环, 壁) 須磨器(環) 小玉	
153	E2 28	N-9°-W	方形	4.30 × 4.28	35-45	平	全	-	-	4	-	-	自然	土脚器(環)		
154	D2 17	N-30°-W	方形	5.95 × 5.90	28-38	平	全	-	-	4	1	1	-	自然	土脚器(環, 壁)	本跡→SD-36→53
155A	D2 25	N-5°-W	方形	5.95 × 5.70	18-25	平	-	-	-	4	1	-	自然	土脚器(環, 壁) 土脚, 釘	SI-155B→本跡→SD-40	
155B	D1 25	N-7°-W	方形	5.60 × 5.10	5-13	平	全	-	-	4	1	1	-	自然	土脚器(環)	本跡→SI-154A→SD-40
156	E2 28	N-0°	方形	5.97 × 5.86	45-65	平	全	-	-	4	1	1	-	自然	土脚器(壁) 須磨器(壁) 土製均土, 磁石, 刀	本跡→SD-29→53
157	D1 20	N-25°-W	方形	6.08 × 5.53	26-37	平	一部	-	-	4	1	1	-	人為	土脚器(環, 壁, 壁)	
158	D3 12	N-9°-W	方形	6.35 × 6.15	40-53	平	全	3	4	1	1	1	自然	土脚器(環, 壁, 壁, 壁) 管土		
159	D3 14	[N-11°-W]	[方形]	[6.45] × [6.65]	5	平	-	-	-	4	-	-	-	-	-	
160	D3 22	N-3°-W	方形	4.05 × 3.95	60-65	平	全	-	-	1	1	-	自然	土脚器(環, 高环, 壁, ニニチュア?)		
161A	D3 22	N-4°-E	方形	7.81 × 7.35	37-45	平	全	-	-	4	1	1	-	自然	土脚器(環, 壁)	SI-161B→本跡→ SD-37→38→39→53
161B	D3 42	N-4°-E	方形	7.05 × 6.54	-	平	全	-	-	4	-	-	人為	-	附: 161C→本跡→161A A→SD 37→38→53	
161C	D3 42	[N-4°-E]	[方形]	[7.05] × [6.54]	-	平	-	-	-	4	-	-	-	-	-	
162	D2 10	N-15°-W	方形	7.78 × 7.70	25-55	平	全	-	-	4	1	1	-	自然	土脚器(環, 壁) 石製結核車	本跡→SI-161B→161A A→SD 37→38→53
163	C1 13	N-2°-W	方形	3.56 × 3.52	27-32	平	一部	-	-	-	-	-	自然	土脚器(環, 壁) 須磨器(壁, 長原側)	本跡→SI-163→SD-37	
164	C3 13	N-15°-E	方形	3.94 × 3.75	30-42	平	一部	-	-	4	1	1	-	自然	土脚器(環, 壁, 手摺上置)	本跡→SI-165→SD-37
165	C3 14	N-16°-W	方形	4.84 × 4.70	45	平	全	-	-	4	1	1	-	自然	土脚器(壁) 須磨器(環, 壁)	SI-164→本跡→SD-37
166A	D3 27	N-1°-E	方形	9.10 × 8.90	20-53	平	全	3	4	1	1	1	-	自然	土脚器(壁, 高环, 壁, 壁) 須磨器(環) 磁石, ニニチュア?	本跡→SI-165B

住居棟 番号	位置	主軸方向	平面形	屋敷(m) (長軸×短軸)	壁高 (m)	内部構造						備考			
						床	壁溝(ビ)	柱	梁	開口	戸		扉	窓	
106B	C3j	N-90°-E	長方形	5.42 × 3.93	20-25	平組	一部	-	-	1	1	-	自然	土師器(灰、高台付埴、小埴、甕、甕) 灰土(灰土)	SI-166 A→本跡
157	D3d	N-13°-W	長方形	3.43 × 3.05	65-68	平組	一部	-	-	1	1	-	自然	土師器(灰、甕) 須磨器(灰)	
168A	D3h	N-20°-W	方形	7.50 × 7.42	48-65	平組	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(灰、高台、埴、刀子釜)	SI-168 B→本跡
168B	D3h	N-20°-W	長方形	7.50 × 7.74	48-65	平組	全周	-	4	1	1	-	人為	土師器(灰、甕)	本跡→SI-168 A
169A	D3j	N-100°-E	方形	5.55 × 5.45	40-25	平組	全周	1	4	1	1	1	自然	土師器(灰、甕)	SI-169 B→本跡
169B	D3j	[N-100°-E]	[方形]	[5.55] × [5.45]	-	平組	-	-	4	1	1	1	-	-	本跡→SI-169 A
170	E3a	N-90°-E	長方形	3.60 × 3.00	30-35	平組	一部	-	3	-	1	-	自然	土師器(灰、高台付埴、甕) 灰土、土師器埴	
171	E3a	N-12°-E	長方形	5.29 × 4.91	46-56	平組	-	1	4	1	1	1	自然	土師器(灰、高台、埴) 磁石	
172	E3c	N-3°-E	長方形	5.72 × 5.22	36-73	平組	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(灰、甕、埴) 磁石	本跡→SD-44
173	E3a	N-30°-W	方形	3.77 × 3.50	45-60	平組	全周	-	-	1	1	-	自然	土師器(灰、高台、埴、甕) 須磨器(灰、高台付埴、灰土)	
174	C4h	N-13°-W	方形	4.75 × 4.14	50-70	平組	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(灰、高台付埴、甕) 須磨器(灰、高台付埴、灰土)	
175	E3f	N-0°	[方形]	(3.80) × (3.12)	0-8	平組	-	-	-	-	1	-	不明	土師器(灰、甕)	
176	E4a	N-51°-W	[方形]	3.50 × (3.10)	23-38	平組	-	-	-	-	1	-	自然	土師器(灰、甕) 須磨器(灰、甕)	
177	D4i	N 77°-E	方形	4.48 × 4.12	20-46	平組	一部	2	-	-	1	-	自然	土師器(灰、甕) 須磨器(高台付埴、甕、埴)	本跡→SK181, 182
178	D4e	N-12°-W	方形	5.25 × 5.10	24-60	平組	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(灰、甕) 須磨器(灰、高台付埴)	
179	D4d	N-0°	方形	7.80 × 7.75	51-55	平組	全周	-	4	2	1	-	自然	土師器(灰、高台付埴、甕) 須磨器(灰、高台付埴、灰土)	
181A	D4e	N-82°-E	長方形	5.26 × 4.65	17-29	平組	一部	-	-	-	1	-	不明	土師器(灰、高台、埴) 須磨器(灰、高台付埴、甕、埴) 土、刀子	SI-181 B→本跡
181B	D4a	N-6°-W	方形	4.10 × 3.90	55-63	平組	全周	-	-	-	1	-	人為	土師器(灰、高台、埴)	本跡→SI-181 A
182	D4e	N-9°-E	方形	5.43 × 5.33	60-68	平組	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(灰、高台、埴) 須磨器(灰、高台付埴、甕) 土、刀子	
183A	C4j	N-9°-W	方形	5.72 × 5.65	55-73	平組	全周	8	4	-	-	-	自然	土師器(灰、高台付埴、甕) 須磨器(灰、高台付埴、甕) 土、刀子	SI-183C→SI-183B
183B	C4j	N-9°-W	方形	4.78 × 4.60	10-15	平組	全周	-	4	-	1	-	人為	土師器(灰、甕) 須磨器(灰、高台付埴、甕)	SI-183C→SI-183A
183C	C4j3	[N-9°-W]	[不明]	[不明]	[不明]	平組	不明	2	4	-	[1]	-	不明	-	本跡→SI-183A
184	E3g	N-9°-E	[方形]	(4.20) × (1.60)	10-15	平組	-	-	-	-	1	-	不明	土師器(灰、高台、埴) 甕	
185A	C4k3	N-15°-E	長方形	4.80 × 4.87	30-36	平組	全周	5	4	1	1	-	自然	土師器(灰、高台付埴、甕) 須磨器(灰、高台付埴、甕) 土、刀子	SI-185B, 185C→本跡
185B	C4k2	N-4°-E	方形	5.31 × 4.99	44-50	平組	全周	3	4	-	1	1	自然	土師器(灰、高台付埴、甕) 須磨器(灰、高台付埴、甕) 土、刀子	SI-185C→本跡
185C	C4k2	N-4°-E	[方形]	[4.10] × [3.87]	[不明]	平組	-	1	4	-	1	-	不明	土師器(灰、高台、埴)	本跡→SI-185 A, B→SD-36
187	C4i8	N-71°-E	方形	4.64 × 4.43	26-36	平組	一部	3	-	-	1	-	人為	土師器(灰、高台付埴、甕) 須磨器(灰、高台付埴、甕) 土、刀子	
188A	C4k3	N-92°-E	方形	3.27 × 3.11	15-22	平組	-	-	-	-	1	-	自然	土師器(灰、高台付埴、甕) 須磨器(灰、高台付埴、甕) 土、刀子	SI-188 B→本跡
188B	C4k3	N-24°-E	方形	4.90 × 4.16	36-46	平組	全周	7	4	-	1	-	人為	土師器(灰、高台付埴、甕) 須磨器(灰、高台付埴、甕) 土、刀子	本跡→SI-188 A
190	C2i9	N-52°-E	[長方形]	(1.90) × (1.44)	-	平組	-	-	-	-	1	-	不明	-	
193A	F149	N-17°-W	方形	5.96 × 5.77	32-44	平組	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(灰、高台付埴、甕) 須磨器(灰)	SI-193B, 193C→本跡
193B	F149	N-20°-W	方形	4.80 × (2.55)	38-42	平組	全周	-	4	-	-	-	自然	土師器(灰、高台、埴) 須磨器(灰、甕)	本跡→SI-193 A, 193C
193C	F149	N-17°-W	方形	5.75 × 5.40	38-46	平組	全周	2	4	-	1	-	人為	土師器(甕)	SI-193C→本跡
194	F149	N-0°	方形	4.52 × 4.35	38-54	平組	部	-	4	1	1	-	人為	土師器(灰、甕) 須磨器(甕)	
195	E3g7	[N-0°]	[不明]	[不明]	[不明]	平組	-	-	-	-	1	-	不明	-	
198	C3c6	N-19°-E	方形	4.30 × 3.94	7-17	平組	-	-	-	-	1	-	不明	土師器(灰、甕) 須磨器(灰)	
199	C3c6	[N-0°]	方形	[2.74] × [2.35]	11-16	平組	-	-	-	-	1	-	不明	土師器(灰、高台、埴) 須磨器(灰、甕) 灰土	
200	C3e1	N-38°-W	方形	4.36 × 4.05	10-21	平組	一部	-	4	-	1	-	自然	土師器(灰、甕) 須磨器(灰、甕) 釘	
201	C2i8	N-23°-E	方形	3.56 × 3.50	19-23	平組	-	-	-	-	1	-	不明	土師器(灰、甕) 須磨器(灰、甕)	
202	D2i8	N-17°-W	方形	5.22 × 4.97	12-30	平組	-	-	4	1	1	-	自然	土師器(灰、甕)	本跡→SD-40
203A	D2g2	N-111°-E	[方形]	[3.45] × [2.83]	10	平組	-	-	-	-	1	-	不明	土師器(灰、高台付埴、甕) 須磨器(灰、甕)	SI-203B, 203D→本跡
203B	D2g2	不明	方形	[3.10] × 3.01	10	平組	-	-	-	-	1	-	不明	土師器(甕)	本跡→SI-203 A, 203B
203D	D2i2	N-28°-W	方形	5.42 × 5.01	20-40	平組	-	-	4	-	1	-	自然	土師器(灰、甕) 須磨器(灰、高台付埴、甕) 磁石	SI-203B→本跡
204	D1i0	不明	不明	7.95 × (3.90)	55-67	平組	一部	-	2	-	-	-	人為	土師器(灰、甕) 須磨器(甕) 磁石	
205	E149	N-21°-W	方形	5.30 × 4.60	45-60	平組	一部	-	4	1	1	-	人為	土師器(灰、甕) 須磨器(灰) 須磨器、磁石	本跡→SD-44
206	F140	N-6°-E	方形	2.36 × 2.31	4	平組	-	-	-	-	1	-	不明	土師器(甕)	

任務 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	採掘	内部施設					覆土	出土遺物	備考
							壁溝	土柱	土門	土	土			
207	F1 a9	N-0°	方形	(2.39)×2.26	7	平掘	-	-	-	-	-	不明	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏) 須恵器(甕) 磁石	
208	G1 a9	N-4°-E	方形	4.89×4.71	45-51	平掘	-	2	-	1	-	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏) 磁石	
209 A	G2 e1	N-7°-E	方形	6.66×6.35	26-36	平掘	全掘	1	4	1	1	人為	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏) 鉄鍬	SI-209B→本跡
209 B	G2 d2	N-3°-W	方形	4.70×4.66	35-47	平掘	全掘	-	4	1	1	人為	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏) 鉄鍬	本跡→SI-208A
210	G2 b7	N-30°-E	方形	3.88×3.85	48-56	平掘	全掘	-	4	1	1	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏) 磁石	
211	G3 e1	N-16°-W	方形	4.31×4.27	48-57	平掘	全掘	-	4	1	1	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏) 磁石	
213	G2 d9	N-12°-W	方形	3.81×3.72	40-50	平掘	全掘	-	-	-	1	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏, 甕) 石製輪軸	
214	G2 f8	N-11°-E	方形	3.34×3.19	47-54	平掘	一部	-	-	1	1	人為	土師器(坏, 甕, 高坏, 甕) 須恵器(坏)	
215	G2 f0	N-86°-E	方形	3.63×3.60	40-46	平掘	全掘	-	-	1	1	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏, 甕) 須恵器(甕) 磁石	
216	G3 l2	N-13°-W	方形	6.39×6.29	31-43	平掘	一部	-	4	1	1	自然	土師器(坏, 甕, 甕) 須恵器(坏, 甕) 石製牛車	焼失
217	G3 b1	N-20°-E	方形	3.85×3.80	30-37	平掘	一部	1	-	-	1	自然	土師器(坏, 甕, 手捏土甕)	
218 A	G2 h8	N-2°-E	方形	3.92×3.68	32-43	平掘	一部	-	-	1	1	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏, 甕, 甕)	SI-218B→本跡
218 B	G2 a7	N-12°-E	長方形	7.20×6.14	15-27	平掘	全掘	-	4	1	1	人為	土師器(坏, 甕) 磁石	焼失
219	G2 a6	N-5°-W	方形	4.33×4.11	50-52	平掘	全掘	-	4	1	1	自然	土師器(坏, 甕, 手捏土甕) 須恵器(坏, 甕, 甕)	
220	G2 a5	N-81°-E	長方形	3.65×3.82	18-24	平掘	-	1	6	-	-	自然	縄文土器(酒鉢)	
221	G2 e4	N-72°-E	方形	2.67×2.40	10-16	平掘	-	-	-	-	1	自然	土師器(坏, 高台付坏, 甕) 須恵器(坏, 甕) 刀子	
222	G2 g3	N-14°-E	方形	4.30×4.11	15-40	平掘	全掘	-	4	1	1	自然	土師器(坏, 甕, 甕) 須恵器(坏) 磁石	
223	G1 e8	N-14°-W	方形	4.58×(3.31)	23-30	平掘	一部	-	-	-	1	人為	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏)	本跡→SK-058
224 A	G1 f0	N-8°-E	[方形]	[7.72]×7.68	20-26	平掘	一部	-	4	-	1	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(甕)	本跡→SI-224B 焼失
224 B	G2 g1	N-0°-E	方形	3.82×3.36	18-20	手掘	-	-	-	1	1	自然	土師器(坏, 甕, 甕) 須恵器(坏, 甕) 磁石	SI-224A→本跡 焼失
225	G2 i4	N-30°-E	方形	8.21×(8.16)	30-50	平掘	一部	-	4	1	1	自然	土師器(坏, 甕, 甕, 甕) 須恵器(甕) 刀子, 磁石	本跡→SD-47
226	G2 j2	不明	方形	[3.50]×[3.23]	0-28	平掘	一部	-	-	-	-	自然	土師器(甕)	
228	H2 e1	N-30°-W	長方形	4.46×(3.44)	6-18	平掘	一部	-	-	1	1	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(甕) 甕	
229	H2 d5	N-28°-W	方形	4.12×(2.33)	48-64	-	-	-	-	-	1	自然	土師器(坏, 甕) 石製輪軸	
230 A	H2 b5	N-46°-W	方形	6.24×6.14	17-43	平掘	全掘	-	4	-	1	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(須恵器, 甕) 瓦, 刀子	SI-230B→本跡
230 B	H2 d6	N-35°-W	方形	5.17×(4.16)	5-28	平掘	一部	-	-	-	1	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(甕)	本跡→SI-230A, SD48
231	H2 a1	N-102°-E	方形	3.96×3.61	16-30	平掘	全掘	-	-	-	1	自然	土師器(坏, 高坏, 甕, 甕, ミニチュア)	本跡→SD-47
232	G2 j1	N-63°-E	長方形	5.06×4.53	32-44	平掘	全掘	-	4	1	1	自然	土師器(坏, 甕, 高坏, 甕, 甕)	焼失
233	H2 j1	N-3°-W	方形	4.70×4.41	52-58	平掘	全掘	-	4	1	1	自然	土師器(坏, 高坏, 甕, 甕) 須恵器(甕, 甕)	焼失
234 A	G3 i1	N-80°-E	方形	3.01×2.95	8-12	平掘	一部	-	-	-	1	自然	土師器(坏, 甕)	SI-234B→本跡
234 B	G3 i1	N-4°-W	方形	5.42×5.31	25-45	平掘	一部	-	4	-	1	自然	土師器(坏, 甕, 甕)	本跡→SI-234A 焼失
234 C	H3 j1	N-76°-E	方形	3.58×3.45	30-35	平掘	一部	1	-	-	1	自然	土師器(高台付甕) 須恵器(坏, 瓦, 須恵器, 甕)	SI-234D→本跡
234 D	G3 j4	N-18°-E	方形	3.38×3.26	42-45	平掘	全掘	-	-	-	1	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏)	本跡→SI-234C
235	H3 b5	N-4°-E	方形	4.86×4.83	38-58	平掘	全掘	-	4	1	1	人為	土師器(坏, 甕, 高坏, 甕, 甕, 甕, 手捏土甕) 須恵器(坏, 甕)	鉄砲
236 A	H3 c2	N-62°-E	長方形	[4.84]×3.16	28-38	平掘	一部	-	-	-	1	自然	土師器(坏, 高台付坏, 甕) 須恵器(甕)	SI-236B→本跡
236 B	H3 e2	N-21°-W	方形	5.78×5.62	42-52	平掘	-	-	4	1	1	自然	土師器(坏, 甕, 甕, 甕, 手捏土甕)	本跡→SI-236A
237 A	H2 e0	N-68°-W	方形	3.50×3.23	15-24	平掘	一部	3	-	-	-	自然	土師器(坏, 高台付坏, 甕) 須恵器(坏) 土師器(坏, 甕, 甕, 甕, 手捏土甕) 須恵器(坏, 甕) 須恵器(甕) 刀子, 磁石	SI-237B→本跡 塩工房
237 B	H2 b0	[N-45°-W]	[長方形]	7.28×[5.54]	7-35	平掘	-	-	-	-	1	自然	弥生土器(大口甕, 甕)	本跡→SI-237A, 237D
237 D	H2 e8	N-28°-E	長方形	5.63×5.00	15-38	平掘	一部	-	4	1	1	人為	土師器(坏, 高坏, 甕, 甕)	SI-237B→本跡 焼失
238	H2 a0	N-7°-W	長方形	5.87×[5.27]	3-16	平掘	-	1	4	1	1	不明	土師器(坏, 甕, 甕) 須恵器(甕)	本跡→SD-49
240	H2 i7	N-23°-W	方形	5.37×[5.20]	8-26	平掘	全掘	-	4	1	1	自然	土師器(坏, 甕, ミニチュア)	
241	G3 j7	N-7°-W	方形	2.45×2.40	6-20	平掘	-	-	-	1	1	自然	土師器(甕) 須恵器(坏, 甕)	
242	H3 f2	N-27°-W	長方形	2.46×2.11	22-36	平掘	-	-	-	-	1	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏)	
243	H3 k2	N-1°-W	方形	4.50×4.43	10-34	平掘	全掘	-	4	1	1	人為	土師器(坏, 高台付坏, 甕)	本跡→SD-50 焼失
244 A	I3 a1	N-66°-W	方形	[6.77]×[5.78]	12-27	平掘	一部	-	3	-	1	自然	土師器(坏, 甕, ミニチュア)	本跡→SD-51 焼失

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設				覆土	出土遺物	備考		
							壁溝	ピット	土柱	土人門				伊	電
244C	H343	不明	圓形	4.93×(3.54)	9~18	平坦	-	-	1	-	伊1	-	自然	赤生土層	本跡→SD-50, 51
245	H344	N-84°-E	長方形	3.27×2.93	7~18	平坦	-	-	-	1	-	-	自然	土師器(杯, 高台付筒, 甕)須磨器(杯, 甕)	SI-246→本跡
246	H344	N-22°-W	圓形	5.12×4.76	24~43	平坦	-	-	4	1	伊1	-	自然	赤生土層(広口甕)	本跡→SI-245
247	H348	N-88°-E	方形	3.37×3.23	6~22	平坦	-	-	-	1	-	-	自然	土師器(杯, 高台付筒, 甕)須磨器(甕)	
248	H348	N-43°-W	方形	6.62×6.36	21~26	平坦	一部	-	4	1	1	-	不明	土師器(杯, 甕, ミニチュア)	
249	H441	N-12°-W	[方形]	[5.10]×[5.16]	5~13	平坦	一部	1	4	1	-	-	不明	土師器(杯, 甕)	本跡→SK-178, 250
250	H441	N-10°-W	[方形]	[7.00]×[4.30]	5~13	平坦	一部	1	2	-	1	-	不明	土師器(杯, 甕)	本跡→SD-51
251	H349	N-15°-E	圓形	6.43×(4.10)	0~30	平坦	-	-	2	-	伊1	-	不明	赤生土層(広口甕)	
252	H348	N-24°-E	圓形	6.91×(3.53)	16~18	平坦	-	-	2	-	伊1	-	不明	赤生土層	本跡→SD-51
253	H345	N-7°-E	方形	4.33×4.07	54~59	全周	全周	1	-	1	1	-	自然	土師器(杯, 高杯, 甕, 甕)	
254	E316	N-45°-W	方形	3.66×3.48	9~21	平坦	一部	-	-	-	1	-	不明	土師器(杯, 甕, 手捏土器)須磨器(甕)	本跡→SD-43
255	H344	N-9°-E	方形	3.55×3.44	50~56	全周	全周	-	1	1	1	-	人為	土師器(杯, 甕)	
256	H346	N-10°-E	方形	3.74×3.68	46~55	全周	全周	-	-	1	1	-	自然	土師器(杯, 高杯, 手捏土器)須磨器(杯, 甕)	

## 2 鍛冶工房跡

当遺跡では4基の鍛冶工房跡が検出されている。今年度調査区南側から2基の工房跡が検出されているが、そのうち1基は住居跡として使用されているため第237A号住居跡として報告した。

### 第3号鍛冶工房跡(第415図)

位置 調査区の南部, H2f7区。

重複関係 本跡は, 第49号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 掘り込みが浅いため西側は削平され, 東側は第52号溝によって掘り込まれており, 規模と平面形は明確ではないが, 残存値は長軸(4.35)m, 短軸(2.9)mである。

主軸方向 不明

壁 壁高は5~10cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 踏み固めた部分は見られない。

ピット 2か所(P1~P2)。P1は長径66cm, 短径56cmの楕円形, 深さ35cmであるが, 性格は不明である。

P2は長軸110cm, 短軸102cmの方形で, 深さは63cm, 覆土はロームブロックを含む人為堆積である。断面形はU字状である。鍛冶炉に隣接することや羽口などが出土していることから鍛冶関連ピットと考えられる。

#### P2土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック少量, ローム粒子微量
- 4 暗褐色 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子微量

鍛冶炉 長径54cm, 短径42cmの楕円形で, 床面を約10cm掘りくはめ, 厚さ5cmほどの粘土を炉周辺に貼って構築されている。炉床面は, 火熱を受け青色を呈し硬化している。

#### 鍛冶炉土層解説

- 1 黒褐色 炭化・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒色 粘土粒子多量
- 4 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量, ローム粒子微量

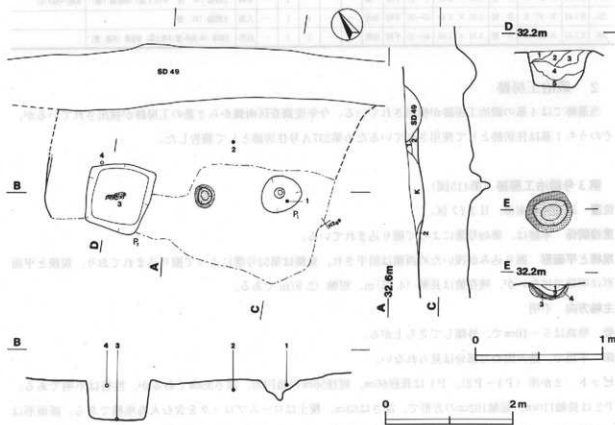
覆土 2層からなるが、覆土が浅いため、堆積状況は明確でない。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 弱褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量

遺物 土師器片37点（高台付腕片4点、甕片33点）、須恵器片6点（坏片1点、高台付坏片4点、甕片1点）、羽口2点、椀形滓1点(283g)、鉄滓622g、含鉄滓150gが出土している。第416図1の土師器高台付腕がP1、3の土製羽口がP2内から、4の土製羽口がP2の付近から出土している。2の土師器高台付腕は、覆土中から出土している。

所見 本跡は鍛冶炉が検出されていることから鍛冶工房跡と思われる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から10世紀中葉と考えられる。

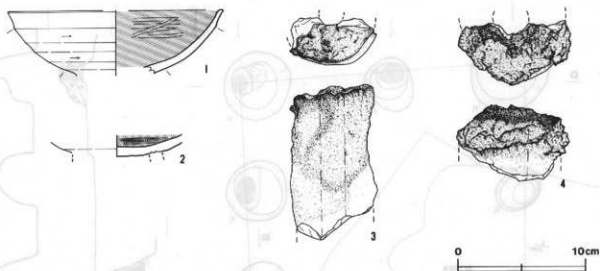


第415図 第3号鍛冶工房跡実測図

第3号鍛冶工房跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第416図 1	高台付腕 土師器	A [17.0] B (5.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部ロクロナデ。体部外面回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P1667 20% ピット内 二次焼成
2	高台付腕 土師器	B (1.7)	体部下位片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。高台貼付け。	長石・石英・雲母 にふい赤褐色 普通	P1668 20% 覆土中 二次焼成





第416図 第3号鍛冶工房跡出土遺物実測図

図版番号	部 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第416図3	羽 口	(12.2)	(6.9)	-	(241.1)	ビット内 DP1126	20% PL171
4	羽 口	(6.1)	[8.7]	[2.7]	(134.6)	覆土中 DP1127	5% PL171

### 3 掘立柱建物跡及び柱穴群

当遺跡から9棟の掘立柱建物跡が検出されている。今年度調査区の北側から1棟、中央部から8棟の掘立柱建物跡が検出されている。

#### 第2号掘立柱建物跡 (第417図)

位置 調査区の北部、C4e1, C4f1区。

重複関係 本跡は、第109A号住居跡に掘り込まれており、第109B号住居跡を掘り込んでいる。

規模 2間×3間の側柱建物跡で、桁行方向はN-13°-Eを示す。規模は、桁行5.5m、梁行4.4mである。柱間寸法は、桁行が163~212cm、梁行が189~242cmで、柱穴はほぼ規則的に配置され、柱筋はおおむね芯を通っている。柱穴掘り方は、長径73~141cm、短径57~112cmの楕円形のものとし、径98~105cmの円形を呈するものがある。深さは、いずれも42~80cmである。

覆土 柱穴掘り方内の埋め土はロームを含んだ暗褐色土と褐色土である。柱痕は、第1層が相当する。

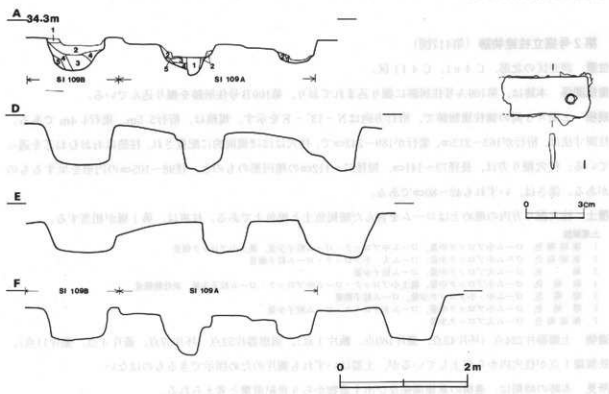
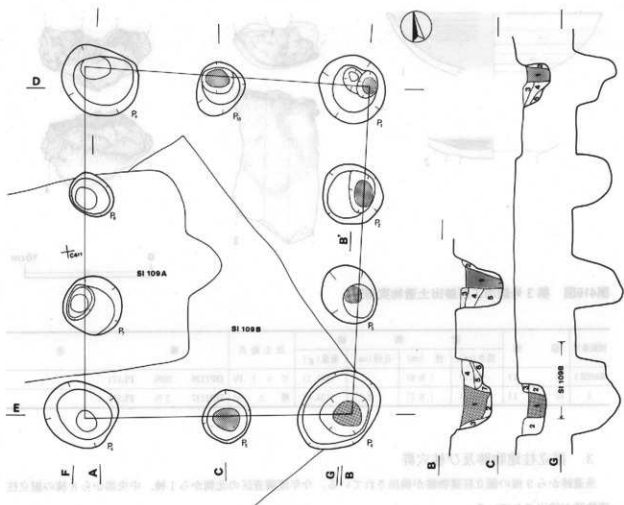
#### 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム大・小ブロック・ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム大ブロック中量、ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック少量、ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 7 極暗褐色 ローム大ブロック少量

遺物 土師器片224点(坏片43点、甕片180点、甌片1点)、須恵器片52点(坏片37点、蓋片4点、甕片11点)、

鉄製鎌1点が柱穴内から出土しているが、土器はいずれも細片のため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は、遺構の重複関係及び出土遺物から9世紀前葉と考えられる。



第417図 第2号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第417図1	鎌	(4.8)	2.6	0.3	(7.0)	ビット内	M1031 95% PL177

第3号掘立柱建物跡 (第418図)

位置 調査区の北部, F3j2, F3j2区。

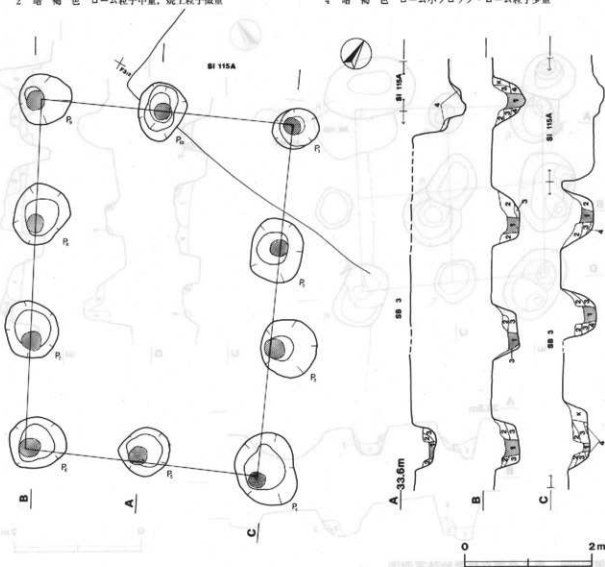
重複関係 本跡が, 第115号住居跡を掘り込んでいる。

規模 2間×3間の南北棟の側柱建物跡で, 桁行方向はN-26°-Wを示す。規模は, 桁行5.48m, 梁行4.08mである。柱間寸法は, 桁行が161~207cm, 梁行が170~207cmで, 柱穴はほぼ規則的に配置され, 柱筋はおおむね芯々を通っている。柱穴掘り方は, 長径72~114cm, 短径60~91cmの楕円形のもの, 径92cmの円形を呈するものがある。深さは, いずれも46~102cmである。

覆土 柱穴掘り方内の埋め土は, ロームを含んだ暗褐色土である。柱痕は, 1層が相当する。

土層解説

- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量 |



第418図 第3号掘立柱建物跡実測図

遺物 土師器片62点(坏片8点, 高坏片1点, 甕片53点), 須恵器片6点(坏片1点, 甕片5点), 縄文土器片3点, 弥生土器片3点が柱穴内から出土しているが, いずれも細片のため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は, 遺構の重複関係及び出土遺物から古墳時代後期以降と考えられる。

#### 第4号掘立柱建物跡(第419図)

位置 調査区の中央部, G 2 j 3, G 3 a 3 区。

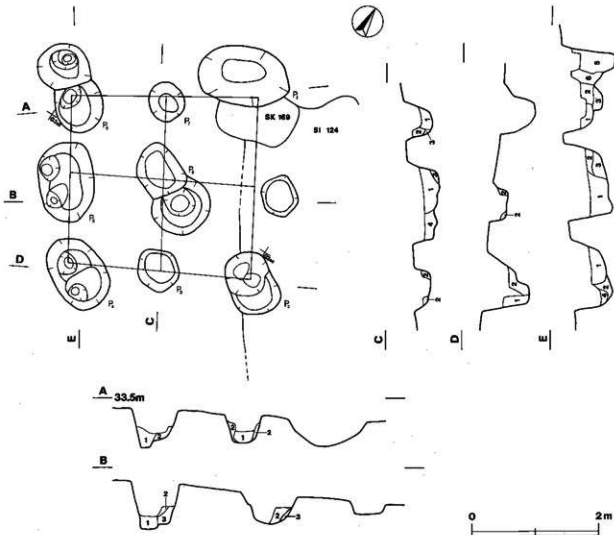
重複関係 本跡が, 第124号住居跡を掘り込んでいる。

規模 2間×2間の南北棟の総柱建物跡で, 桁行方向はN-29°-Wを示す。規模は, 桁行3.27m, 梁行2.95mである。柱間寸法は, 桁行が145~175cm, 梁行が138~150cmで, 柱穴はほぼ規則的に配置されている。柱痕は確認できなかった。柱穴掘り方は, 長径60~135cm, 短径53~94cmの楕円形を呈する。深さは, 25~85cmである。

覆土 柱穴掘り方内の埋め土は, ロームを含んだ暗褐色土, 褐色土である。

##### 土層解説

- |       |                    |       |                     |
|-------|--------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量, 焼土粒子極微量   | 5 褐色  | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子極微量   | 6 褐色  | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量 |



第419図 第4号掘立柱建物跡実測図

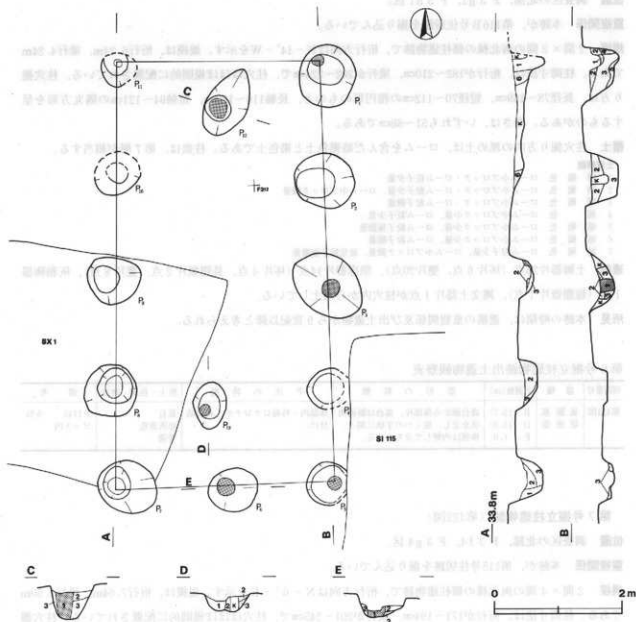
遺物 土師器片19点(壺片19点)が柱穴内から出土しているが、いずれも細片のため図示できるものはない。  
 所見 本跡の時期は、遺構の重複関係及び出土遺物から古墳時代後期以降と考えられる。

### 第5号独立柱建物跡 (第420図)

位置 調査区の北部, F3f1, F3e1区。

重複関係 本跡が, 第115号住居跡を掘り込み, 第9号不明遺構に掘り込まれている。

規模 2間×4間の南北棟の側柱建物跡で, 桁行方向は $N-0^\circ$ を示す。規模は, 桁行6.80m, 梁行4.89mである。柱間寸法は, 桁行が148~172cm, 梁行が145~169cmで, 柱穴はほぼ規則的に配置され, 柱筋はおおむね芯を通っている。柱穴掘り方は, 長径74~121cm, 短径51~90cmの楕円形のもの, 径67cmの円形を呈するものがある。深さは, いずれも29~59cmである。



第420図 第5号独立柱建物跡実測図

**覆土** 柱穴掘り方の埋め土は、ロームを含んだ暗褐色土と褐色土である。柱痕は、第1層が相当する。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子等微量
- 4 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 炭化・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量

**遺物** 遺物は出土しなかった。

**所見** 本跡の時期は、遺構の重複関係から古墳時代後期以降と考えられる。

**第6号獨立柱建物跡 (第421図)**

**位置** 調査区の北部、F3g1, F3h1区。

**重複関係** 本跡が、第116B号住居跡を掘り込んでいる。

**規模** 2間×3間の南北棟の獨立建物跡で、桁行方向はN-14°-Wを示す。規模は、桁行6.24m、梁行4.24mである。柱間寸法は、桁行が182~210cm、梁行が202~224cmで、柱穴はほぼ規則的に配置されている。柱穴掘り方は、長径78~169cm、短径70~112cmの楕円形のもの、長軸119~130cm、短軸94~121cmの隅丸方形を呈するものがある。深さは、いずれも51~88cmである。

**覆土** 柱穴掘り方内の埋め土は、ロームを含んだ暗褐色土と褐色土である。柱痕は、第7層が相当する。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量、炭化粒子微量

**遺物** 土師器片26点(坏片6点、甕片20点)、須恵器片14点(坏片4点、長頸瓶片2点、甕片8点)、灰釉陶器1点(短頸壺片1点)、縄文土器片1点が柱穴内から出土している。

**所見** 本跡の時期は、遺構の重複関係及び出土遺物から9世紀以降と考えられる。

**第6号獨立柱建物跡出土遺物観察表**

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第421図 1	長頸瓶 須恵器	B (13.7) D (11.0) E 1.0	高台部から体部片。高台は断面角状を呈し、短くハの字状に開く。体部は内壁して立ち上がる。	体部内・外周口口ロナア。高台貼付け。	長石 暗灰黄色 普通	P1745 5% ビット内

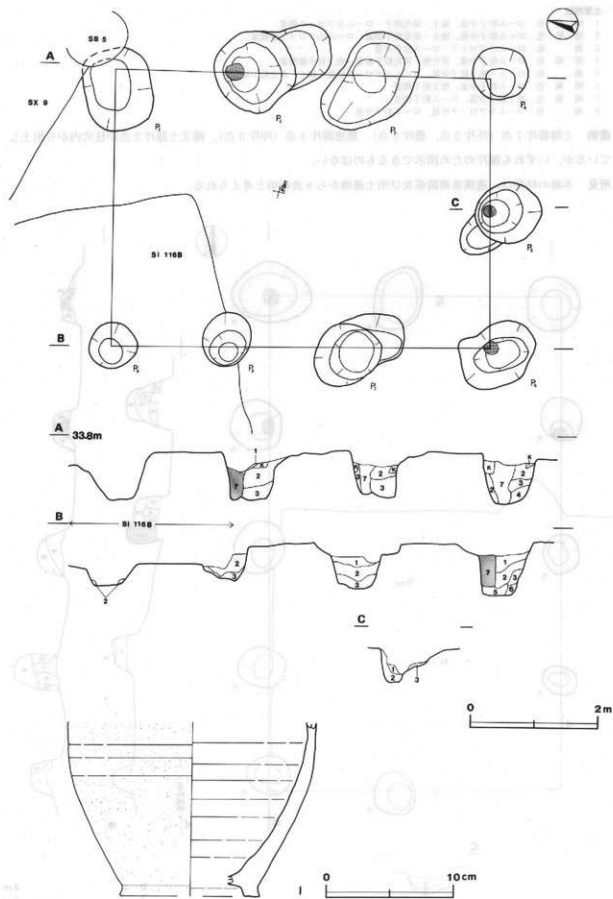
**第7号獨立柱建物跡 (第422図)**

**位置** 調査区の北部、F3f4, F3g4区。

**重複関係** 本跡が、第115号住居跡を掘り込んでいる。

**規模** 2間×4間の南北棟の獨立建物跡で、桁行方向はN-6°-Eを示す。規模は、桁行7.64m、梁行4.50mである。柱間寸法は、桁行が171~194cm、梁行が201~245cmで、柱穴はほぼ規則的に配置されている。柱穴掘り方は、長径54~128cm、短径44~100cmの楕円形を呈する。深さは、いずれも34~75cmである。

**覆土** 柱穴掘り方内の埋め土は、ロームを含んだ暗褐色土と褐色土である。柱痕は、第1層が相当する。



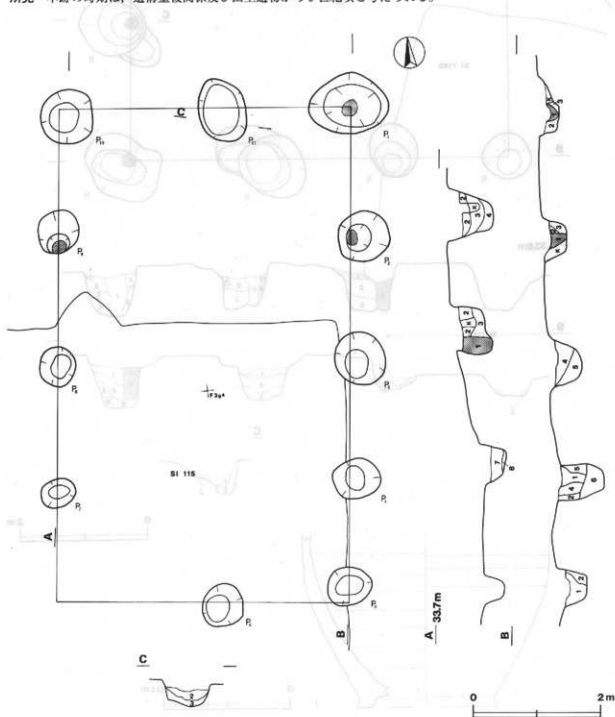
第421图 第6号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量, ローム小ブロック極微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量, 焼土粒子極微量
- 5 暗褐色 ローム・粘土粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土・炭化粒子極微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 7 暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

遺物 土師器片 7点 (坏片 2点, 甕片 5点), 須恵器片 3点 (坏片 3点), 縄文土器片 2点が柱穴内から出土しているが, いずれも細片のため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は, 遺構重複関係及び出土遺物から9世紀頃と考えられる。



第422図 第7号掘立柱建物跡実測図

岡部実徳土出・岡部實徳土出・岡部實徳土出・岡部實徳土出



### 第8号掘立柱建物跡 (第423図)

位置 調査区の北部, F3 b4, F3 c4, F3 d4区。

重複関係 本跡が, 第127A・第127D号住居跡を掘り込んでいる。

規模 3間×4間の南北棟の掘立建物跡で, 桁行方向はN-3°-Eを示す。規模は, 桁行7.56m, 梁行4.80mである。柱間寸法は, 桁行が152~221cm, 梁行が143~173cmで, 柱穴はほぼ規則的に配置されている。柱穴掘り方は, 長径79~123cm, 短径60~115cmの楕円形を呈する。深さは, いずれも24~59cmである。

覆土 柱穴掘り方内の埋め土は, ロームを含んだ暗褐色土と褐色土である。柱痕は, 第1層が相当する。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム中ブロック多量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量

遺物 土師器片5点(坏片1点, 甕片4点)が柱穴内から出土しているが, 土器は, いずれも細片のため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は, 遺構の重複関係及び出土遺物から8世紀前葉以降と考えられる。

### 第9号掘立柱建物跡 (第424図)

位置 調査区の北部, F3 b1, F3 c1, F3 d1区。

重複関係 本跡が, 第126A・127A号住居跡を掘り込んでいる。

規模 3間×4間の南北棟の掘立建物跡で, 桁行方向はN-4°-Eを示す。規模は, 桁行6.00m, 梁行4.14mである。柱間寸法は, 桁行が183~226cm, 梁行が158~238cmで, 柱穴はほぼ規則的に配置されている。柱穴掘り方は, 長径54~100cm, 短径47~87cmの楕円形を呈する。深さは, いずれも37~79cmである。

覆土 柱穴掘り方内の埋め土はロームを含んだ暗褐色土と褐色土である。柱痕は, 第1層が相当する。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 遺物は出土しなかった。

所見 本跡の時期は, 遺構の重複関係から奈良時代以降と考えられる。

### 第10号掘立柱建物跡 (第424図)

位置 調査区の北部, F3 c2, F3 d2区。

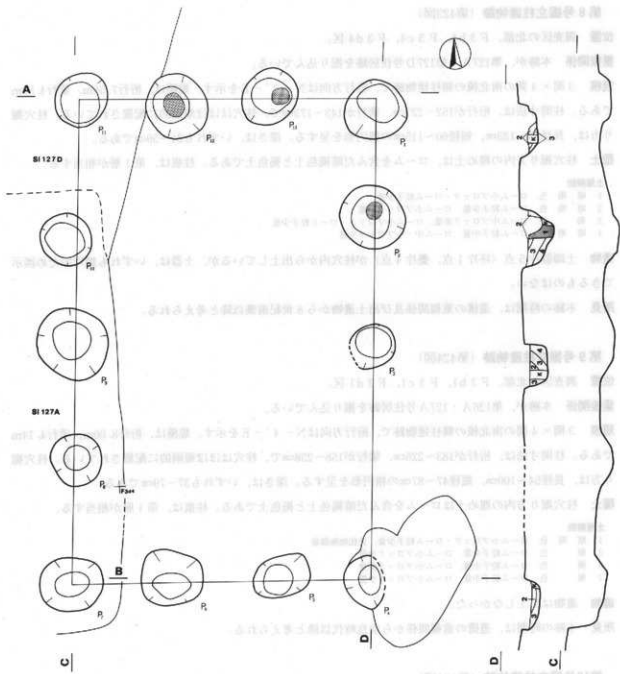
重複関係 本跡が, 第126A・127A・127B号住居跡を掘り込んでいる。

規模 2間×2間の南北棟の掘立建物跡で, 桁行方向はN-4°-Eを示す。規模は, 桁行4.32m, 梁行4.04mである。柱間寸法は, 桁行が192~239cm, 梁行が187~202cmで, 柱穴はほぼ規則的に配置されている。柱穴掘り方は, 長径84~120cm, 短径66~90cmの楕円形のもの, 径82~90cmの円形を呈するものがある。深さは, いずれも54~56cmである。

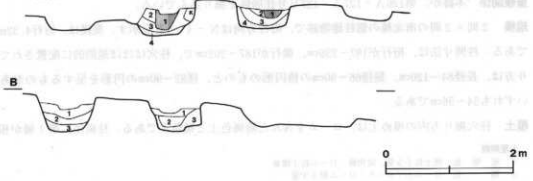
覆土 柱穴掘り方内の埋め土は, ロームを含んだ暗褐色土と褐色土である。柱痕は, 第1層が相当する。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
- 4 褐色 ローム小ブロック中量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量



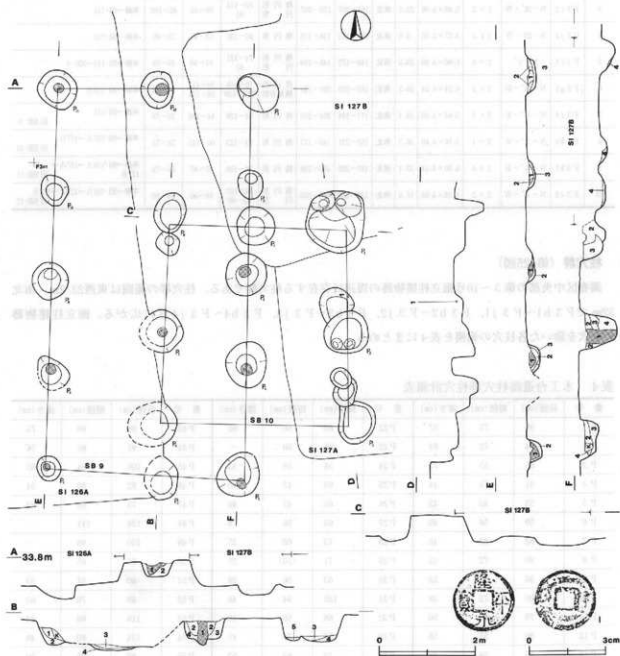
A 33.7m



第423図 第8号掘立柱建物跡実測図

遺物 土師器片3点(亮片3点), 古銭1点が柱穴内から出土している。第424図1の古銭がP2内から出土している。土器はいずれも細片のため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は、遺構重複関係及び出土遺物から9世紀後半以降と考えられる。



第424図 第9・10号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第10号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	(古銭)		初	年	出土地点	備	考
	銭	種					
第424図1	陸	平永寶	皇朝十二銭	延暦15年(896年)	ピット覆土中	M10 真書	PL179

表3 木工台遺跡掘立柱建物跡一覧表

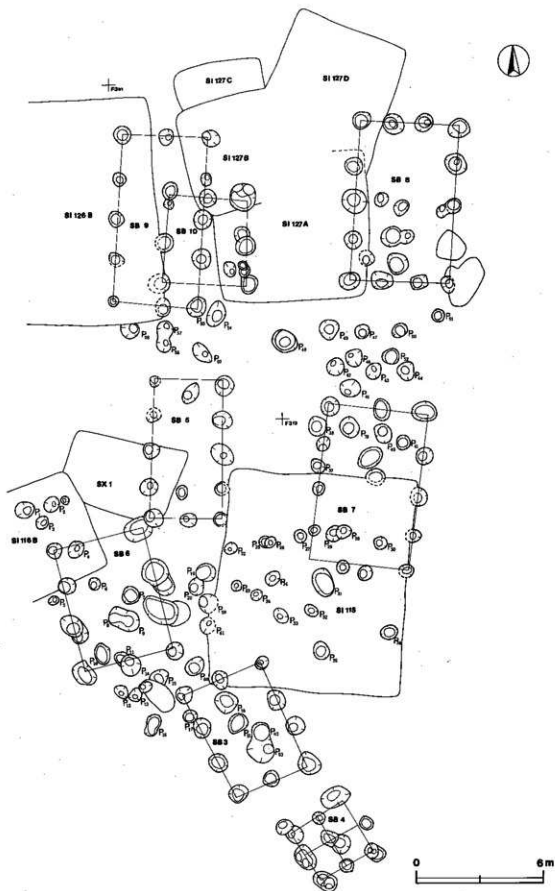
掘立柱建物跡番号	位置	方向	柱間 (桁×架)	床高 (m)	面積 (㎡)	建跡	前行柱間 (m)	後行柱間 (m)	柱				備考 新野關係 (新→旧)
									平面形	長径(横)径 (cm)	短径(縦)径 (cm)	深さ (cm)	
2	C4e1	N-13°-E	2×3	5.50×4.40	24.2	南北	163-212	189-242	楕円形 円形	73-141 96-105	57-112	42-80	SI-109A→本跡→SI-109B
3	F3j2	N-26°-W	2×3	5.48×4.08	22.4	南北	151-207	170-207	楕円形 円形	72-114 92	60-91	42-102	本跡→SI-115
4	G2j3	N-29°-W	2×2	3.27×2.95	9.6	南北	145-175	138-150	楕円形	60-135	53-94	25-85	本跡→SI-124
5	F3f1	N-0°	2×4	6.80×4.89	33.5	南北	148-172	145-149	楕円形 円形	74-121 67	51-90	29-59	本跡→SI-115-8X 9
6	F3g1	N-14°-W	2×3	6.24×4.24	26.5	南北	182-210	202-224	楕円形 隅丸方形	78-169 119-120	70-112 94-121	51-88	本跡→SI-116B
7	F3f4	N-6°-E	2×4	7.64×4.50	34.4	南北	171-194	201-245	楕円形	54-128	44-100	34-75	本跡→SI-115 旧SB-9
8	F3b4	N-3°-W	3×4	7.58×4.86	36.3	南北	152-221	143-173	楕円形	73-123	60-115	24-59	本跡→SI-127A→127D 旧SB-10
9	F3b1	N-4°-E	3×4	8.00×4.14	33.1	南北	183-226	158-238	楕円形	54-100	47-87	37-79	本跡→SI-126A→127A→127B 旧SB-11
10	F3c2	N-4°-W	2×2	4.32×4.04	17.5	南北	192-229	187-202	楕円形 円形	84-120 82-90	66-90	54-56	本跡→SI-126A→127A→127B 旧SB-12

## 柱穴群 (第425図)

調査区中央部の第3～10号掘立柱建物跡の周辺に存在する柱穴群である。柱穴群の範囲は東西22.2m, 南北32mでF3b1～F3j1, F3b2～F3j2, F3b3～F3j3, F3b4～F3j4区に広がる。掘立柱建物跡の柱穴を除いた各柱穴の規模を表4にまとめる。

表4 木工台遺跡柱穴群柱穴計測表

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 1	95	75	37	P 22	60	56	66	P 43	86	68	75
P 2	84	72	64	P 23	55	50	-	P 44	91	85	76
P 3	65	55	73	P 24	58	50	33	P 45	100	84	65
P 4	81	74	44	P 25	60	47	40	P 46	82	80	54
P 5	55	40	43	P 26	60	47	40	P 47	78	65	83
P 6	59	56	49	P 27	64	56	8	P 48	126	111	-
P 7	88	83	46	P 28	73	66	35	P 49	100	98	-
P 8	90	72	52	P 29	71	(50)	20	P 50	80	65	73
P 9	90	81	52	P 30	63	56	28	P 51	60	57	35
P 10	100	75	38	P 31	135	94	49	P 52	80	76	60
P 11	76	60	50	P 32	66	50	16	P 53	116	66	64
P 12	80	55	58	P 33	76	59	15	P 54	124	80	48
P 13	65	56	34	P 34	78	63	53	P 55	69	65	50
P 14	60	46	44	P 35	89	80	21	P 56	83	71	63
P 15	95	75	58	P 36	84	65	13	P 57	(79)	80	36
P 16	111	98	51	P 37	74	65	-	P 58	91	76	33
P 17	65	62	40	P 38	95	81	45	P 59	90	(70)	45
P 18	111	98	51	P 39	100	83	46	P 60	95	75	30
P 19	95	84	42	P 40	100	76	70	P 61	80	[72]	-
P 20	80	67	60	P 41	65	62	-	P 62	[110]	88	-
P 21	109	85	30	P 42	29	26	70	P 63	130	[120]	-



第425图 柱穴群实测图

#### 4 土 坑

当遺跡からは、土坑275基を検出した。形状、覆土の堆積状況、出土遺物等について特徴が顕著に認められるものについて検討した結果、次のように分類した。

- (1) 鍛冶関連遺物が出土している土坑……………3基
- (2) 堆積状況が人為的な土坑……………2基
- (3) 粘土貼りの土坑……………5基
- (4) 底面に小ピットを伴う土坑……………1基
- (5) 井戸状遺構……………1基
- (6) 遺物が多い土坑、堅穴住居跡に重複している土坑……………2基
- (7) その他の土坑……………261基

以下、土坑の形状、規模、覆土の状態及び出土遺物等に特徴がある(1)~(6)については文章で記載し、(7)のその他のものは一覧表で記載する。

##### (1) 鍛冶関連遺物が出土している土坑

##### 第221号土坑（第426図）

位置 調査区の北部、D3b4区。

規模と平面形 長径2.32m、短径2.00mの不整楕円形で、深さは80cmである。

長径方向 N-59°-W

壁面 ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 10層からなり、ブロック状の堆積がみられることから、人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

- 1 黒褐色 焼土中・小ブロック・炭化物・焼土・炭化・ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム大・中ブロック少量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム大ブロック微量
- 4 黒色 焼土小ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 5 黒色 焼土大ブロック・ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム中・小ブロック・炭化物微量
- 8 極暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化物・ローム大ブロック微量
- 9 極暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム大・中ブロック微量

遺物 土師器片769点（坏片120点、甕片611点、碗片36点、蓋片2点）、須恵器片44点（坏片27点、甕片11点、碗片3点、蓋片3点）、羽口2点、碗形滓157.5g、鉄滓1703.3g、含鉄滓968.3gが出土している。覆土中層では、第428図1、2の土師器小皿、3の土師器足高高台付碗、5、6の土師器甕、8の羽口が出土している。覆土下層では、7の羽口が出土している。4の土師器甕は、覆土中層と覆土下層の破片が接合したものである。所見 碗形滓、鉄滓、含鉄滓、羽口等の鍛冶関連遺物が多量に出土していることから、本跡は鍛冶関連施設と考えられる。本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から10世紀後半と考えられる。ほとんどの遺物は、出土状況から一括投棄されたと考えられる。

##### 第182号土坑（第426図）

位置 調査区の北東部、D4g5区。

重複関係 本跡が、第177号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.71m、短径1.37mの不整楕円形で、深さは71cmである。

長径方向 N-38°-W

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 凸凹がある。

覆土 5層からなり、不自然な堆積を示していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物・焼土・炭化・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム中・小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 5 明褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量

遺物 土師器片39点（坏片18点、甕片20点、碗片1点）、須恵器片2点（坏片1点、蓋片1点）、土製品、鉄製品、含鉄滓5.2gが出土している。覆土中層では、第428図9の土師器坏、14、16、19、20の土玉、22、26の管状土錘、25の鉄鉋が出土している。覆土下層では、10、11の土師器高台付碗、12、13、15の土玉、21、23の管状土錘が出土している。底面では、17、18の土玉が出土している。覆土中では、26の鉄鉋が出土している。

所見 鍛冶工具遺物である鉄鉋が出土していることから、本跡は鍛冶関連施設である可能性がある。本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から10世紀中葉と考えられる。

#### 第456号土坑（第426図）

位置 調査区の南東部、H3g8区。

規模と平面形 長軸0.86m、短軸0.78mの不整長方形で、深さは23cmである。

長軸方向 N-90°

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

覆土 2層からなり、炭化物や灰を含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化物少量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量

遺物 土師器片15点（甕片15点）、碗形滓3850.2g、鉄滓2724.2g、含鉄滓7427.9gが出土している。碗形滓は12点出土している。

所見 鍛冶関連遺物である碗形滓、鉄滓、含鉄滓が多量に出土していることから、本跡は鍛冶関連施設である可能性がある。本跡の時期は、限定できる遺物がなく不明である。

#### (2) 堆積状況が人為的な土坑

##### 第178号土坑（第426図）

位置 調査区の南東部、H4d1区。

重複関係 本跡が、第249号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸2.44m、短軸1.57mの長方形で、深さは82cmである。

長軸方向 N-86°-W

壁面 ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 5層からなり、ロームブロックを多く含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子・ローム大・中ブロック微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・ローム大ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量、焼土小ブロック微量

遺物 土師器片 6点(甕片 6点)が覆土中から出土しているが、いずれも破片である。

所見 本跡の時期は限定できる遺物がなく不明であるが、第249号住居跡(6世紀中葉)を掘り込んでいることから、6世紀中葉以降であると考えられる。

第457号土坑(第426図)

位置 調査区の南東部、H4e4区。

規模と平面形 長軸2.19m、短軸2.09mの不整形で、深さは94cmである。

長軸方向 N-59°-W

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 6層からなり、ロームブロックを多く含み、ブロック状の堆積を示していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量

遺物 土師器片 5点(坏片 1点、甕片 4点)が覆土中から出土しているが、いずれも破片である。

所見 本跡の時期は、限定できる遺物がなく不明である。

(3) 粘土貼りの土坑

第251号土坑(第426図)

位置 調査区の東部、H4c2区。

規模と平面形 長軸1.63m、短軸1.06mの不整形長方形で、深さは25cm、断面形は碗状である。粘土が12~20cmの厚さで土坑全体に貼られている。

長軸方向 N-4°-W

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 硬く締まり、平坦である。

覆土 2層からなり、ロームブロックを多く含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 明褐色 粘土粒子中量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は出土遺物がなく不明であるが、第249号住居跡(6世紀中葉)を掘り込んでいることから、6世紀中葉以降であると考えられる。



### 第252号土坑 (第426図)

位置 調査区の南東部, H4b2区。

規模と平面形 長軸1.55m, 短軸1.08mの長方形で, 深さは14cm, 断面形は皿状である。粘土が3~6cmの厚さで土坑全体に貼られている。

長軸方向 N-0°

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 硬く締まり, 皿状である。

覆土 3層からなり, ロームブロックを多く含むことから人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化物微量
- 3 にぶい黄色 粘土粒子多量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は, 出土遺物がなく不明である。

### 第450号土坑 (第426図)

位置 調査区の東部, F4f1区。

規模と平面形 長径2.34m, 短径1.05mの長楕円形で, 深さは8cm, 断面形は皿状である。粘土が5~8cmの厚さで土坑全体に貼られている。

長径方向 N-90°

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 硬く締まり, 皿状である。

覆土 2層からなるが, 覆土が浅く, 堆積状況は不明である。

#### 土層解説

- 1 にぶい褐色 粘土粒子少量
- 2 明褐色 粘土粒子中量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は, 出土遺物がなく不明である。

### 第460号土坑 (第426図)

位置 調査区の南東部, H4c1区。

重複関係 本跡が, 第178号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸1.51m, 短軸0.76mの隅丸長方形で, 深さは29cm, 断面形は碗状である。粘土が8~15cmの厚さで土坑全体に貼られている。

長軸方向 N-90°

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 硬く締まり, 平坦である。

覆土 6層からなり, ロームブロックやローム粒子を多く含むことから人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭土粒子・ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム大・中ブロック微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック少量, ローム大ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, 炭土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土粒子少量
- 6 灰白色 粘土粒子少量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は、出土遺物がなく不明である。

#### 第250号土坑 (第426図)

位置 調査区の南東部, H 4 d 1 区。

重複関係 本跡が、第249号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸1.76m, 短軸1.16mの長方形で、深さは10cm, 断面形は皿状である。粘土が8~10cmの厚さで土坑全体に貼られている。

長軸方向 N-90°

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 硬く締まり、平坦である。

覆土 2層からなり、堆積状況は不明である。

##### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 2 浅黄色 焼土・ローム粒子微量, 粘土粒子多量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は出土遺物がなく不明であるが、第249号住居跡(6世紀中葉)を掘り込んでいることから、6世紀中葉以降と考えられる。

#### (4) 底面に小ピットを伴う土坑

#### 第395号土坑 (第427図)

位置 調査区の東部, F 3 b 0 区。

規模と平面形 長軸3.10m, 短軸2.55mの長方形で、深さは119cmである。

長軸方向 N-32°-E

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦で長方形を呈している。

ピット 2か所(P1~P2)。P1は長径45cm, 短径36cmの楕円形, 深さ39cm, P2は径31cmの円形, 深さ31cmである。

覆土 6層からなり、焼土、炭化物、ロームブロックを含み、人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量
- 5 明褐色 ローム粒子中量, ローム大・中・小ブロック少量, 炭化物・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片6点(壺片6点)が覆土中から出土しているが、いずれも破片である。

所見 本跡の時期は、限定できる遺物がなく不明である。

#### (5) 井戸状遺構

#### 第1号井戸状遺構 (第427図)

位置 調査区の東部, G 3 e 0 区。

**重複関係** 本跡が、第428号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径1.08mの円形で、確認面から0.92mの深さまで急傾斜を持つ。そこから下は円筒形をしている。

**底面** 皿状である。

**覆土** 7層からなり、ロームブロックを多く含むことから人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 褐色 色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 2 暗褐色 色 ローム粒子少量
- 3 褐色 色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 4 褐色 色 ローム粒子少量
- 5 褐色 色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 7 褐色 色 ローム中ブロック多量、ローム小ブロック・ローム粒子少量

**遺物** 出土していない。

**所見** 本跡は粘土層を掘り込んでいるため、井戸状遺構と考えられる。時期は、出土遺物がなく不明である。

(6) 遺物が多い土坑、竪穴住居跡に重複している土坑

第451号土坑 (第427図)

**位置** 調査区の南東部、H 3 b0 区。

**重複関係** 本跡が、第430号土坑を掘り込んでいる。

**規模と平面形** 長軸1.00m、短軸0.72mの不整長方形で、深さは71cmである。

**長軸方向** N-90°

**壁面** 外傾して立ち上がる。

**底面** 平坦である。

**覆土** 単一層からなり、ロームブロックを多く含むことから人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 暗褐色 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

**遺物** 土師器片38点(杯片17点、甕片21点)、土製品1点が出土している。覆土上層では、第429図28、31、32の土師器杯が出土している。覆土中層では、27の土師器杯、33、34の土師器碗が出土している。29の土師器杯は、覆土上層と覆土中層の破片が接合している。30の土師器杯は、覆土中層と覆土下層の破片が接合している。35の土玉は覆土中から出土している。

**所見** 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀前葉と考えられる。

第168号土坑 (第427図)

**位置** 調査区の北部、C 4 j1 区。

**重複関係** 本跡が、第110A号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と平面形** 長径1.34m、短径1.17mの楕円形で、深さは32cmである。

**長径方向** N-6°-E

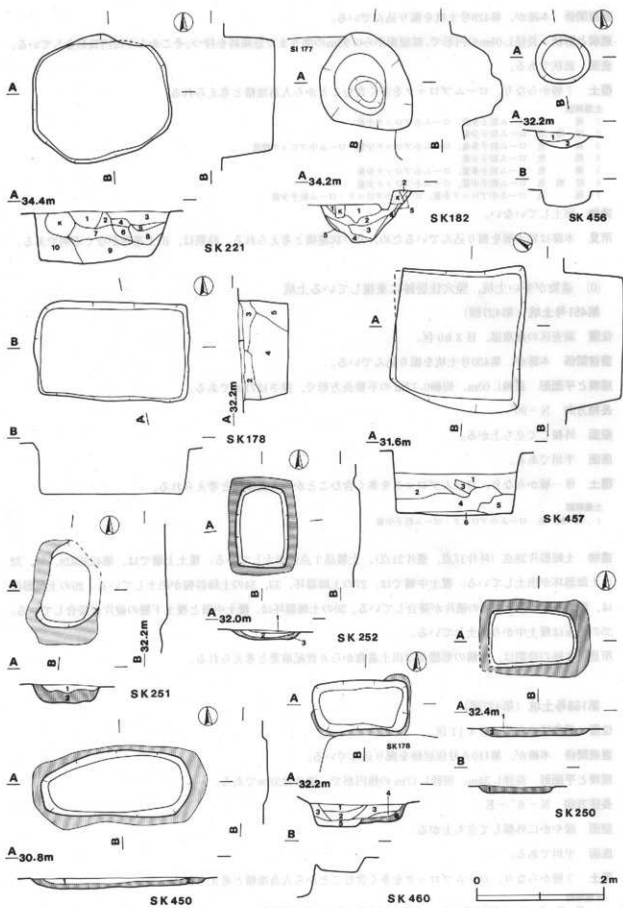
**壁面** 緩やかに外傾して立ち上がる。

**底面** 平坦である。

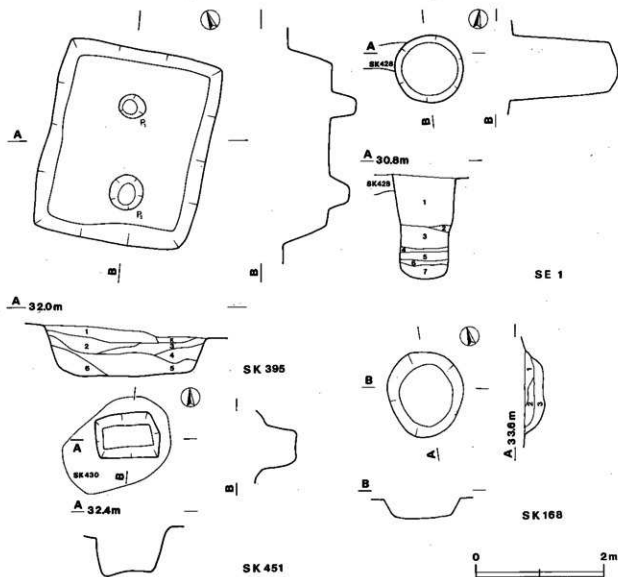
**覆土** 3層からなり、ロームブロックを多く含むことから人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 暗褐色 色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 3 褐色 色 ローム大・小ブロック多量、ローム中ブロック・ローム粒子中量



第426图 土坑实测图(1)



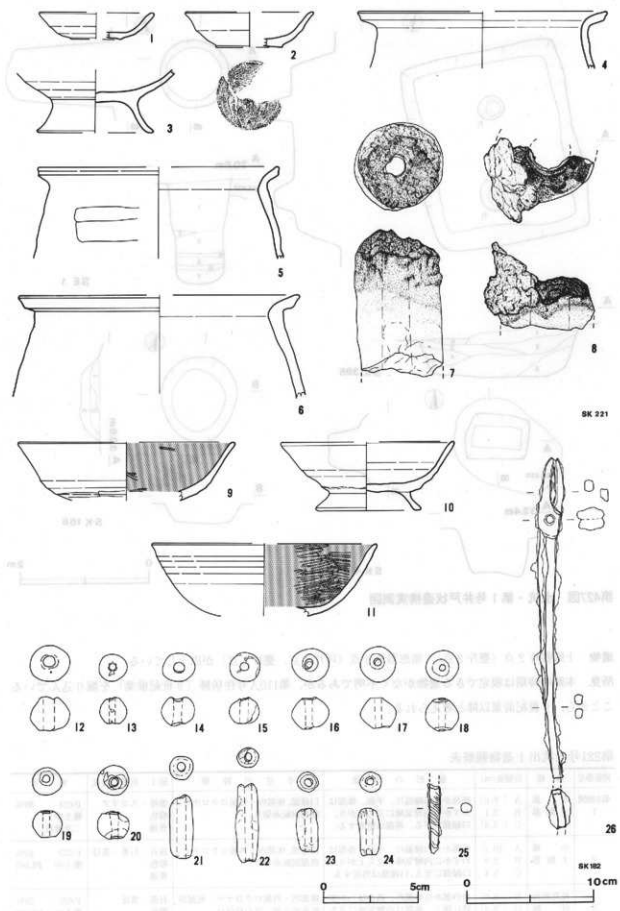
第427図 土坑・第1号井戸遺構実測図

遺物 土器器片2点(甕片2点), 須恵器片3点(坏片1点, 甕片2点)が出土している。

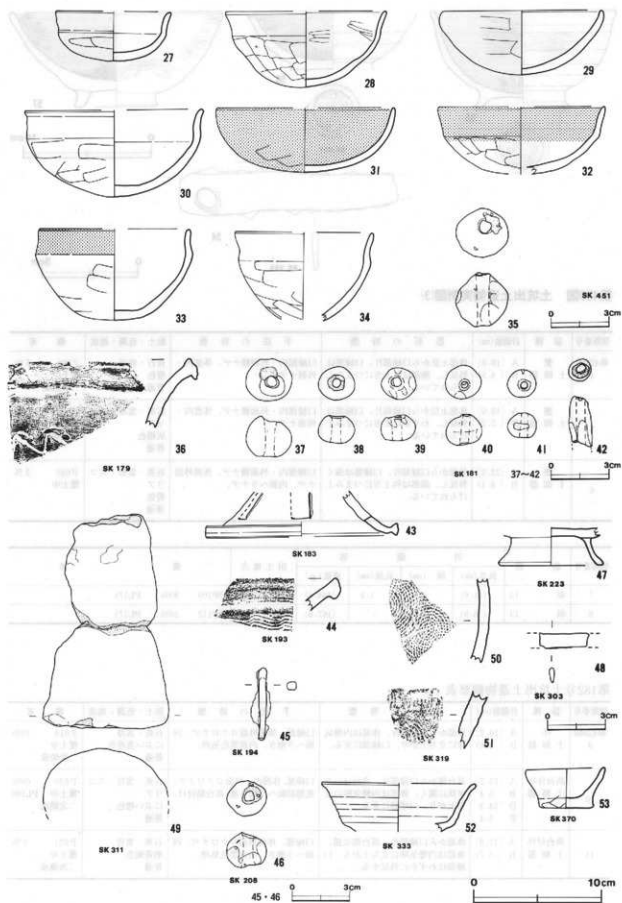
所見 本跡の時期は限定できる遺物がなく不明であるが, 第110A号住居跡(9世紀前葉)を掘り込んでいることから, 9世紀前葉以降と考えられる。

第221号土坑出土遺物観察表

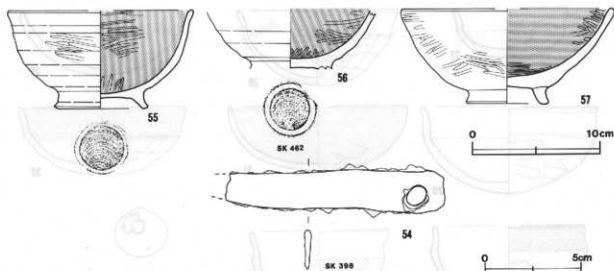
図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第428図 1	小 土 器	A [9.0]	底部から口縁部片。平底。体部は わずかに内彎気味に立ち上がり, 口縁部に至る。端部は肥厚する。	口縁部、体部内・外面ロクロナテ。 底部回転糸切り。	雲母・スコリア 褐色 普通	P 624 30% 覆土中 二次焼成
		B 2.1				
		C [3.8]				
2	小 土 器	A [10.2]	底部から口縁部片。平底。体部は わずかに内彎気味に立ち上がり, 口縁部に至る。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナテ。 底部回転糸切り。	灰石・石英・雲母 褐色 普通	P 623 45% 覆土中 PL160
		B 2.8				
		C 5.4				
3	足高合 付 土 器	B (5.0)	高台部から体部片。高台はハの字 状に開く。体部は内彎気味に立ち 上がる。	体部内・外面ロクロナテ。底部回 転糸切り後、高台貼付け。	石英・雲母 褐色 普通	P 625 20% 覆土中 PL160
		D [9.2]				
		E 2.7				



第428图 土坑出土遺物実測図(1)



第429图 土坑出土遗物实测图(2)



第430図 土坑出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第428図 4	甕 土師器	A [19.8] B (4.5)	体部上位から口縁部片。口縁部は外反し。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・雲母 褐色 普通	P626 5% 覆土中 二次焼成
5	甕 土師器	A [19.0] B (7.2)	体部上位から口縁部片。口縁部は外反し。わずかに上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・雲母・スコリア 灰褐色 普通	P627 5% 覆土中 二次焼成
6	甕 土師器	A [22.2] B (8.1)	体部から口縁部片。口縁部は強く外反し。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	石英・雲母・スコリア 褐色 普通	P645 5% 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
7	羽 口	(11.6)	7.0	1.9	(404.4)	覆土中 DP109	90% PL171
8	羽 口	(6.9)	(8.6)	-	(167.9)	覆土中 DP112	10% PL171

第182号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第428図 9	環 土師器	A [16.2] B (4.6)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部。体部外面ロクロナデ、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	石英・雲母 におい貴褐色 普通	P619 10% 覆土中 二次焼成
10	高台付 土師器	A [13.7] B 5.4 D 13.3 E 1.4	高台部から口縁部片。高台はハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部。体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼付け。	石英・雲母・スコリア におい褐色 普通	P620 65% 覆土中 二次焼成 PL160
11	高台付 土師器	A [17.8] B (5.7)	体部から口縁部片。高台部欠損。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部。体部外面ロクロナデ、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	石英・雲母 明赤褐色 普通	P621 5% 覆土中 二次焼成



図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考		
		長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)				
第428図	土 灰	1.8	2.0	0.6	6.2	覆 土 中	DP95	100%	PL169
13	土 玉	1.4	1.5	0.3	3.0	覆 土 中	DP96	100%	PL169
14	土 玉	1.5	1.7	0.6	3.5	覆 土 中	DP97	100%	PL169
15	土 玉	1.4	1.6	0.4	3.3	覆 土 中	DP98	100%	PL169
16	土 玉	1.7	2.0	0.4	5.8	覆 土 中	DP99	100%	PL169
17	土 灰	1.6	1.9	0.4	5.4	底 面	DP100	100%	PL169
18	土 玉	1.7	1.8	0.4	4.7	底 面	DP101	100%	PL169
19	土 灰	1.4	1.5	0.4	3.3	覆 土 中	DP102	100%	PL169
20	土 玉	1.4	1.7	0.5	3.6	覆 土 中	DP103	100%	PL169
21	管状土鉢	3.4	1.3	0.5	4.5	覆 土 中	DP104	100%	
22	管状土鉢	4.1	1.2	0.4	4.7	覆 土 中	DP105	95%	
23	管状土鉢	2.3	1.2	0.3	2.1	覆 土 中	DP107	80%	
24	管状土鉢	2.5	1.2	0.5	2.5	覆 土 中	DP106	90%	

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考		
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)				
25	鉄 鍍 釜	(3.7)	0.7	0.6	(2.4)	覆 土 中	M60		
26	鉄 鍍 鉢	(28.2)	2.2	1.9	(162.1)	覆 土 中	M61	PL177	

#### 第451号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第429図 27	坏 土 師 器	A [ 9.0 ] B 3.9	底部から口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に横を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り、内面ナデ。内・外面赤彩。	石英・雲母・赤褐色 普通	P 631 95% 覆土中 PL160 二次焼成
28	坏 土 師 器	A [12.8] B 6.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り、内面へつ磨き。	長石・雲母・褐色 普通	P 632 65% 覆土中 PL160 二次焼成
29	坏 土 師 器	A 12.6 B 5.1	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P 633 70% 覆土中 PL160 二次焼成
30	坏 土 師 器	A [14.2] B 6.9	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り、内面ナデ。	石英・雲母・スコリア 赤褐色 普通	P 634 45% 覆土中 PL160 二次焼成
31	坏 土 師 器	A [14.1] B 5.1	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P 635 40% 覆土中 二次焼成
32	坏 土 師 器	A [13.2] B (5.3)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り、内面ナデ。口縁部内・外面赤彩。	長石・石英・雲母・明赤褐色 普通	P 636 35% 覆土中 二次焼成
33	碗 土 師 器	A [13.8] B 7.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り、内面ナデ。口縁部外面赤彩。	石英・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	P 637 60% 覆土中 PL160 二次焼成
34	碗 土 師 器	A [11.0] B (6.8)	底部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り、内面ナデ。口縁部外面赤彩。	石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 638 50% 覆土中 PL161 二次焼成

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考		
		長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)				
35	土 玉	2.9	2.8	0.8	15.4	覆 土 中	DP111	95%	PL169

第179号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第429回 36	甕 須恵器	-	口縁部片。口縁部は緩やかに外反し、肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。口縁部外面に1本の櫛歯状文が施されている。	長石・雲母 黄灰色 普通	TP31 5% 覆土中 PL166

第181号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第439回 37	土 玉	2.1	2.4	0.7	(9.6)	覆土中	DP89	95%	PL169
38	土 玉	1.5	1.9	0.5	4.2	覆土中	DP90	100%	PL169
39	土 玉	1.4	1.8	0.5	3.2	覆土中	DP91	100%	PL169
40	土 玉	1.6	1.9	0.4	4.4	覆土中	DP92	100%	PL169
41	土 玉	1.3	1.5	0.4	2.6	覆土中	DP93	100%	PL169
42	管状土 鉢	(2.7)	1.2	0.5	(2.8)	覆土中	DP94	60%	

第183号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第429回 43	高坏 須恵器	B (3.5) D [15.3]	脚部片。脚部はラッパ状に開く。4か所に透かし孔を持つ。	脚部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 オリーブ灰色 良好	P622 5% 覆土中 PL161

第193号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第429回 44	甕 須恵器	-	口縁部片。口縁部は緩やかに外反し、肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。口縁部外面に1本2本の櫛歯状文が施されている。	長石・雲母 黄灰色 普通	TP32 5% 覆土中 PL166

第194号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第429回 45	不明鉄製品	(3.8)	0.6	0.5	(2.5)	覆土中	M62		

第208号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第429回 46	土 玉	1.9	2.1	0.6	5.4	覆土中	DP108	100%	PL169

第223号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第429回 47	足高台付土 脚器	B (2.9) D 8.1 E 2.1	高台片。高台部はハの字状に開く。	高台内・外面ロクロナデ。高台台付付。	長石・雲母・スクリア 微色 普通	P628 10% 覆土中 二次焼成

第303号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第429図48	刀子	(2.6)	0.7	0.2	(1.4)	覆土中	M63 PL178

第311号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第429図49	支脚	17.0	(10.0)	-	(562.5)	覆土中	DP110 30%

第319号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第429図50	裏須恵器	-	体部片。	体部外面同心円当て具痕、内面ナデ。	長石・雲母 黄灰色 普通	TP33 5% 覆土中 PL166
51	裏須恵器	-	体部片。	体部外面同心円当て具痕、内面ナデ。	長石・雲母 明黄褐色 普通	TP34 5% 覆土中 PL166

第333号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第429図52	坏須恵器	A [12.2] B (3.8)	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	石英 灰色 良好	P 629 10% 覆土中

第370号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第429図53	ミナコ7鉢土器	A 6.2 B 3.2 C 4.2	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。底部は突出している。	口縁部内・外面、体部内面横ナデ。体部外面ナデ。	雲母 にぶい黄褐色 普通	P 630 95% 覆土中 PL161 二次焼成

第398号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第429図54	刀子	(11.6)	2.2	0.4	(18.2)	覆土中	M64 PL178

第462号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第430図55	高台付焼土器	A [12.6] B 7.7 D 7.4 E 1.4	高台部から口縁部片。高台部はハの字状に開く。体部は内傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内・外面ヘラ磨き。底部回転糸切り。高台貼付け後、ナデ。内面黒色処理。	石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P 640 40% 覆土中 PL161
56	高台付焼土器	B (4.6)	体部片。高台剥離。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。内面黒色処理。	雲母 にぶい褐色 普通	P 641 10% 覆土中 二次焼成

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第430図 57	高台付焼土師器	A [16.6] B 7.5 D 6.4 E 1.3	高台部から口縁部片。高台部はハの字状に開く。体部は内傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内・外面へく磨き。底部回転未切り。高台貼付け後、ナデ。内面黒色処理。	雲母・スコリアに多い褐色 普通	P 639 40% 覆土中 PL161 二次焼成

## 5 地下式墳

当遺跡からは、地下式墳2基を検出した。以下、それぞれの地下式墳の特徴と出土遺物について記載する。

### 第1号地下式墳（第431図）(SK-347)

位置 調査区の東部，F3c9区。

重複関係 本跡が，第388号土坑を掘り込んでいる。

長軸方向 N-71°-W

堅坑 上面は長径1.56m，短径0.48mの楕円形である。底面は平坦で，主室まで緩やかに傾斜する。確認面からの深さは1.27mである。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

主室 底面は長軸3.28m，短軸2.64mの不整形長方形で，平坦である。確認面から底面までの深さは，1.57mである。壁面は外傾して立ち上がる。

覆土 13層からなり，1～2層はレンズ状の堆積を示していることから自然堆積，3～13層はブロック状の堆積を示していることから人為堆積と考えられる。特に，12～13層は天井部が崩落したものと思われる。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物・ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム大・中・小ブロック微量
- 3 明褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム小ブロック微量
- 4 明褐色 ローム粒子中量，ローム大・中・小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化物・ローム大ブロック微量
- 8 明褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子中量，ローム大・中ブロック少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム大・中ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
- 10 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大・中ブロック少量
- 11 褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム大・小ブロック微量
- 12 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量，炭化物微量
- 13 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大・中ブロック少量

遺物 土師器片2点（甕片2点），須恵器片4点（坏片1点，甕片3点），含鉄滓が出土している。

所見 本跡の時期は，限定できる遺物がなく不明である。

### 第2号地下式墳（第431図）(SK-455)

位置 調査区の南東部，G3j0区。

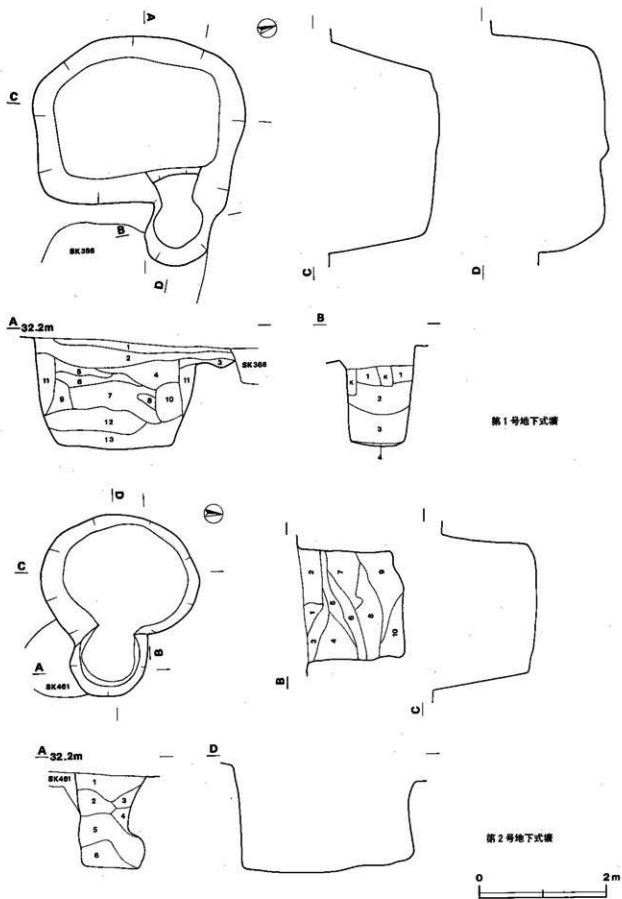
重複関係 本跡が，第461号土坑を掘り込んでいる。

長軸方向 N-79°-W

堅坑 上面は長径1.02m，短径1.00mの円形である。底面は平坦で，主室まで緩やかに傾斜する。確認面からの深さは1.36mである。壁面は外傾して立ち上がる。

主室 底面は長軸1.94m，短軸1.72mの楕円形で，平坦である。確認面から底面までの深さは，1.64mである。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

覆土 10層からなり，ブロック状の堆積を示していることから人為堆積と考えられる。



第431图 第1·2号地下式横穴测图

## 土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム大ブロック・ローム粒子中量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 6 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 8 黒褐色 ローム大・中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 9 黒褐色 ローム粒子微量
- 10 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量

遺物 土師器片27点(甕片27点)が出土している。

所見 本跡の時期は、限定できる遺物がなく不明である。

表5 木工台遺跡土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(m)					
168	C4j1	N-6°-E	楕円形	1.34 × 1.17	32	緩斜	平坦	人為	土師器(甕)須恵器(坏, 甕)	SI-110→本跡
169	G3a4	N-61°-E	楕円形	1.27 × 0.60	76	緩斜	皿状	自然		
171	C2f0	-	円形	1.00 × 0.96	82	垂直	平坦	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏, 甕, 甕)	
172	E3f0	N-20°-E	不整楕円形	0.69 × 1.55	72	外傾	凸凹	自然	土師器(坏, 甕, 甕) 須恵器(甕, 甕)	
174	E2f0	-	隅丸方形	0.71 × 0.70	74	外傾	皿状	自然		
177	E2h9	N-43°-E	楕円形	0.69 × 0.55	28	緩斜	皿状	自然		
178	H4d1	N-86°-W	長方形	2.44 × 1.57	82	垂直	平坦	人為		SI-98→4番SK-60
179	H3c9	N-20°-W	楕円形	1.83 × 1.55	55	緩斜	皿状	自然	土師器(坏, 甕)	
181	D4h4	N-6°-W	隅丸長方形	2.69 × 1.53	50	緩斜	平坦	人為		SI-177→本跡
182	D4g5	N-38°-W	不整楕円形	1.71 × 1.37	71	緩斜	凸凹	人為	土師器(碗, 高台付碗) 鉄産	SI-177→本跡 炭治
183	C4f6	N-11°-E	不定形	2.28 × 1.75	32	垂直	平坦	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏, 甕, 甕)	
184	C4f6	N-81°-W	不定形	1.03 × 0.42	32	緩斜	傾斜	自然		
185	C4f6	N-12°-E	不定形	1.31 × 0.61	52	垂直	平坦	自然		
186	C3f0	N-71°-W	楕円形	0.85 × 0.59	21	緩斜	凸凹	自然		
187	C3f0	N-3°-E	楕円形	0.96 × 0.88	55	外傾	凸凹	人為	土師器(坏, 甕)	
188	C3f0	-	円形	1.11 × 1.05	45	緩斜	傾斜	人為	土師器(坏, 甕)	
189	C3g0	-	円形	0.71 × 0.67	26	外傾	凸凹	自然		
190	C3g0	N-88°-W	不整楕円形	0.96 × 0.79	39	外傾	凸凹	人為	土師器(坏)	
191	C3g0	-	円形	0.57 × 0.55	41	外傾	皿状	人為	土師器(坏)	
192	C4g1	-	円形	0.52 × 0.50	15	外傾	凸凹	自然	須恵器(坏, 甕)	
193	C4f5	N-17°-E	不定形	0.83 × 0.52	37	外傾	平坦	人為	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏)	
194	C4f6	N-26°-E	不定形	0.61 × 0.42	54	外傾	平坦	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏, 甕) 不明鉄製品	
195	C4f6	N-21°-E	不定形	1.18 × 0.78	52	外傾	平坦	人為	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏)	
196	C4f5	N-2°-E	不定形	1.17 × 0.99	56	外傾	平坦	人為	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏, 甕)	
197	C4f5	N-22°-W	楕円形	1.36 × 1.07	51	外傾	凸凹	人為	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏, 甕)	
199	C3f0	-	円形	0.78 × 0.75	54	垂直	凸凹	人為		
200	C3f9	N-85°-W	楕円形	0.93 × 0.84	44	外傾	平坦	自然	土師器(坏, 甕)	
201	C4f6	-	不整円形	0.85 × 0.80	38	外傾	傾斜	人為	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏)	
202	C3e9	N-28°-E	楕円形	1.04 × 0.92	56	外傾	皿状	人為	土師器(甕) 須恵器(坏, 甕)	
203	C3e9	N-0°	楕円形	1.00 × 0.72	68	外傾	平坦	人為	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏)	
204	C4h7	N-36°-E	楕円形	1.20 × 0.95	36	外傾	平坦	不明	土師器(甕) 須恵器(甕, 甕)	
205	C4h5	N-60°-W	楕円形	0.90 × 0.70	80	外傾	皿状	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏, 甕)	
206	C4h6	-	不整円形	1.35 × 1.20	72	外傾	平坦	人為	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏, 甕)	
207	C3f9	N-8°-E	楕円形	1.12 × 0.82	42	垂直	凸凹	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏)	

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	版土	出 土 遺 物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(m)					
208	C4b5	-	円 形	0.60 × 0.55	56	垂直	皿状	自然	土師器(坏)須惠器(坏, 甕)	
209	C4g5	N-78°-W	楕 円 形	0.81 × 0.54	60	垂直	平坦	自然	土師器(坏, 甕)	
210	C4i4	不明	不 明	(0.98) × (0.70)	52	外傾	傾斜	人為		
211	C4b7	-	円 形	1.20 × 1.16	70	外傾	平坦	人為		
212	C4g6	N-13°-E	不整楕円形	0.80 × 0.66	76	外傾	平坦	自然	土師器(坏, 甕)須惠器(坏)	
213	C4b6	-	不整円形	0.87 × 0.70	72	外傾	平坦	自然		
214	C3e0	N-0°	楕 円 形	0.91 × 0.74	40	外傾	皿状	人為		
218	D3c9	N-14°-E	不整円形	0.95 × 0.90	16	外傾	凸凹	人為	土師器(坏, 甕)須惠器(坏, 甕)	
219	D4b1	-	円 形	1.56 × 1.45	38	外傾	平坦	自然		
220	D3f0	N-55°-W	不 定 形	2.15 × 1.17	51	外傾	平坦	自然	土師器(坏, 甕)須惠器(甕)	
221	D3b4	N-59°-W	不整楕円形	2.32 × 2.00	80	垂直	平坦	人為	土師器(坏, 甕)須惠器(坏, 甕)須惠器(坏, 甕)須惠器(坏, 甕)	焼治
222	D3b5	N-0°	楕 円 形	1.28 × 1.13	28	外傾	凸凹	自然	土師器(坏, 甕)	
223	D3c4	-	円 形	1.52 × 1.50	33	外傾	平坦	人為	土師器(坏, 甕)須惠器(坏, 甕)須惠器(坏, 甕)	
224	C4h5	-	円 形	0.50 × 0.50	65	垂直	皿状	人為		
225	D3d6	N-34°-W	不整長楕円形	3.71 × 1.47	56	外傾	凸凹	人為		
227	C3e3	-	円 形	0.95 × 0.85	39	外傾	皿状	自然		
228	C3e2	N-32°-E	楕 円 形	1.09 × 0.91	44	垂直	凸凹	自然	土師器(甕)	
229	C3f2	-	円 形	0.93 × 0.90	35	外傾	皿状	自然		
230	C4g2	不明	不 明	(1.53) × (1.45)	108	外傾	凸凹	人為	土師器(甕)須惠器(甕)	
233	C4h5	-	円 形	0.32 × 0.28	50	外傾	皿状	人為		
234	C4b6	-	円 形	0.38 × 0.36	46	外傾	皿状	人為		
235	D2d9	-	円 形	0.81 × 0.81	20	傾斜	凸凹	人為		
236	D2b7	N-56°-W	長 方 形	1.21 × 0.76	57	外傾	皿状	自然		
237	D3g4	N-76°-E	不 定 形	1.03 × 0.98	17	傾斜	平坦	自然	土師器(甕)	
238	D3g4	N-2°-E	隅丸長方形	1.98 × 1.42	19	傾斜	平坦	自然		
239	D2f0	-	円 形	1.17 × 1.07	33	外傾	凸凹	人為	土師器(甕)	
240	D2i0	N-32°-W	楕 円 形	1.32 × 1.12	29	傾斜	皿状	人為		
241	D2i0	N-28°-W	楕 円 形	0.95 × 0.73	159	内傾	凸凹	人為		
242	D3i0	-	円 形	0.73 × 0.67	54	外傾	皿状	人為		
243	D4j1	-	円 形	1.27 × 1.19	40	傾斜	平坦	人為	土師器(甕)須惠器(甕)	
244	D3j0	-	円 形	0.90 × 0.87	13	外傾	平坦	自然		
245	D3j0	N-23°-E	楕 円 形	1.59 × 0.75	29	外傾	平坦	自然	土師器(甕)	
246	D3j0	N-20°-W	不 定 形	0.58 × 0.41	74	垂直	凸凹	人為		
247	D2e0	-	円 形	0.78 × 0.74	60	外傾	平坦	自然		
248	D2e9	-	不整円形	0.94 × 0.89	69	外傾	平坦	人為	土師器(甕)須惠器(甕)	
249	E3c2	-	円 形	1.00 × 1.00	55	外傾	皿状	人為		
250	H4d1	N-90°	長 方 形	1.76 × 1.16	10	傾斜	平坦	不明		粘土器(坏)須惠器
251	H4c2	N-4°-E	不整長方形	1.63 × 1.06	25	傾斜	平坦	人為		粘土貼り
252	H4b2	N-0°	長 方 形	1.55 × 1.08	14	傾斜	皿状	人為		粘土貼り
253	C3b6	-	円 形	0.76 × 0.76	14	外傾	凸凹	人為	土師器(甕)	
254	C3b7	N-31°-W	不整楕円形	1.41 × 1.04	21	垂直	平坦	自然	土師器(甕)	
255	E3e5	-	円 形	0.86 × 0.82	21	傾斜	凸凹	自然	土師器(甕)	
256	C3b7	-	円 形	0.82 × 0.76	26	垂直	平坦	自然	土師器(坏, 甕)	
257	C3b7	-	円 形	0.45 × 0.40	33	垂直	凸凹	自然		
258	D2g7	-	円 形	1.06 × [1.02]	46	垂直	平坦	人為	土師器(坏, 甕)須惠器(坏, 甕)	
259	E3f7	N-18°-E	長 方 形	1.06 × 0.61	106	垂直	平坦	自然		
261	E3d3	N-3°-W	不整楕円形	1.14 × 1.00	31	垂直	平坦	人為	土師器(甕)須惠器(甕)	

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考
				長径 × 短径(m)	深さ(cm)					
262	E3h2	N-53°-W	楕円形	0.47 × 0.43	57	垂直	溝状	自然	土師器(甕)須恵器(坏)	
263	E3h2	N-79°-E	楕円形	0.53 × 0.39	47	垂直	平坦	自然	土師器(甕)須恵器(坏)	
264	E3h2	N-51°-W	楕円形	0.41 × 0.34	31	垂直	平坦	自然		
265	E3i2	-	円形	0.44 × 0.40	62	垂直	溝状	人為		
266	E3i2	-	円形	0.44 × 0.43	47	垂直	溝状	人為	土師器(甕)	
267	E3i3	-	円形	0.28 × 0.27	62	垂直	溝状	自然	土師器(坏)	
268	E3j3	N-77°-E	楕円形	0.47 × 0.42	40	外傾	溝状	自然	土師器(坏)	
269	E3j2	N-17°-E	楕円形	0.40 × 0.33	54	垂直	溝状	自然	土師器(甕)	
270	E1d0	N-55°-W	楕円形	1.13 × 0.93	49	傾斜	溝状	人為		
271	E1e9	-	円形	0.93 × 0.89	28	傾斜	溝状	人為		
272	E1e0	N-86°-E	不整形円形	0.58 × 0.44	58	垂直	凸凹	人為		
273	E2d1	N-24°-E	隅丸長方形	1.48 × 1.26	31	傾斜	平坦	不明		半穴?
274	E2d6	N-77°-W	楕円形	0.53 × 0.47	9	傾斜	平坦	不明		
275	E2f0	N-26°-E	楕円形	1.34 × 0.92	54	垂直	凸凹	人為		
276	E2f0	N-0°	楕円形	0.46 × 0.40	96	垂直	平坦	人為		
278	E2c4	N-83°-W	楕円形	0.90 × 0.68	48	外傾	凸凹	人為	土師器(甕)須恵器(甕)	
280	E2c5	N-21°-E	不整形円形	1.29 × 1.16	32	傾斜	平坦	人為	土師器(坏,甕,甕)須恵器(坏,甕)	
281	E2d6	-	円形	1.10 × 1.07	50	外傾	溝状	自然	土師器(坏,甕)	
282	E2d6	N-89°-E	不整形円形	0.79 × 0.58	48	垂直	凸凹	人為		
283	E2d7	-	円形	0.99 × 0.95	38	外傾	平坦	自然	土師器(坏,甕,甕)須恵器(坏,甕)	
284	E2d7	-	円形	0.90 × 0.82	46	外傾	平坦	人為	土師器(甕)	
285	E2f5	-	円形	0.84 × 0.79	57	外傾	凸凹	自然	土師器(坏,甕)須恵器(甕,甕)	
286	E2g5	N-68°-W	隅丸長方形	1.27 × 0.98	87	外傾	平坦	人為	土師器(坏,甕)	半穴?
287	E2h4	N-36°-E	楕円形	0.38 × 0.31	31	外傾	溝状	不明	土師器(甕)須恵器(坏)	
288	E2h5	N-67°-W	楕円形	0.77 × 0.58	39	外傾	平坦	自然	土師器(坏,甕)	
289	E2h5	-	円形	0.61 × 0.59	32	外傾	平坦	自然	土師器(甕)須恵器(坏)	
290	E3a6	-	[円形]	[0.72] × 0.66	22	垂直	平坦	自然		
291	E3a6	N-39°-W	[楕円形]	[0.71] × [0.63]	32	外傾	溝状	自然		
292	E2e7	-	円形	0.75 × 0.74	41	垂直	平坦	自然		
293	E2e7	N-75°-E	不整形円形	1.14 × 0.89	73	外傾	平坦	自然	土師器(坏,甕)須恵器(甕)	
294	E2e7	N-61°-W	楕円形	0.97 × 0.83	59	外傾	溝状	自然		
296	E2e8	-	円形	1.13 × 1.08	54	外傾	平坦	人為	土師器(坏,甕,甕)須恵器(甕)	
296	E2e8	N-45°-E	楕円形	1.08 × 0.88	54	外傾	平坦	人為	土師器(坏,甕)須恵器(坏)	
297	E2e8	N-9°-W	楕円形	1.04 × 0.92	47	外傾	平坦	自然	土師器(坏,甕)須恵器(坏,甕)	
298	E2h5	N-64°-E	楕円形	0.42 × 0.38	50	外傾	凹状	不明		
299	E2h5	-	円形	0.46 × 0.46	51	外傾	凹状	自然	土師器(坏,甕)	
300	E2h5	N-73°-W	[楕円形]	[0.87] × [0.70]	44	垂直	平坦	自然		
301	E2h5	N-4°-E	[楕円形]	[0.83] × [0.64]	35	外傾	傾斜	自然		
302	E2h5	-	円形	0.34 × 0.33	55	外傾	平坦	人為	土師器(坏,甕)須恵器(甕)	
303	E2h4	N-16°-W	楕円形	0.61 × 0.53	55	垂直	平坦	人為	土師器(坏,甕)刀子	
304	E2i4	-	円形	0.53 × 0.51	23	外傾	凸凹	自然	土師器(甕)	
306	E2i5	-	不整形円形	0.61 × 0.59	39	外傾	平坦	自然	土師器(坏,甕)	
307	E2i5	N-33°-E	楕円形	0.80 × 0.69	45	垂直	平坦	人為		
308	E2i5	N-34°-E	不整形円形	0.68 × 0.61	50	外傾	凹状	自然	土師器(坏,甕)	
309	E2f0	-	円形	1.09 × 1.07	38	外傾	凸凹	人為		
310	E2f0	N-89°-E	楕円形	0.98 × 0.77	36	垂直	平坦	自然	土師器(坏,甕)須恵器(坏,甕)	
311	E2j6	N-55°-W	楕円形	0.52 × 0.42	35	外傾	傾斜	自然	土製支脚	



土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考
				長径 × 短径 (cm)	深さ (cm)					
312	E 2 j7	-	円形	0.74 × 0.68	42	外傾	傾斜	自然	土師器(坏) 須惠器(甕)	
313	F 2 b7	-	円形	0.78 × 0.75	64	外傾	皿状	人為		
314	F 2 b6	N-44°-W	楕円形	1.01 × 0.79	52	傾斜	皿状	自然	土師器(坏, 甕)	
315	F 2 a6	N-69°-E	楕円形	0.53 × 0.42	37	外傾	皿状	人為		
316	F 2 a6	-	円形	0.88 × 0.80	44	外傾	平皿	人為	土師器(甕) 須惠器(坏)	
317	F 2 b6	-	円形	0.45 × 0.41	42	外傾	皿状	人為		
318	E 3 f1	-	円形	0.94 × 0.92	89	垂直	凸凹	人為		
319	E 2 f0	N-11°-W	不定形	0.80 × 0.74	52	外傾	凸凹	不明	土師器(坏, 甕) 須惠器(甕)	
320	E 2 g0	N-17°-W	楕円形	0.93 × 0.74	57	外傾	凸凹	人為	土師器(坏, 甕) 須惠器(坏, 甕)	
321	E 2 g0	-	隅丸方形	0.95 × 0.91	49	外傾	平皿	不明	土師器(甕) 須惠器(甕)	
322	E 3 f1	-	隅丸方形	1.09 × 1.08	50	外傾	平皿	人為	土師器(高坏, 甕)	
323	F 2 a8	N-52°-W	楕円形	1.73 × 1.55	20	傾斜	平皿	自然	土師器(坏, 甕)	
324	E 2 e9	N-49°-E	不定形	0.65 × 0.63	39	傾斜	皿状	自然	土師器(坏, 甕)	
325	E 2 e9	N-34°-E	楕円形	0.56 × 0.49	43	外傾	皿状	人為		
326	E 2 e9	-	円形	0.60 × 0.56	19	傾斜	平皿	人為	土師器(甕) 須惠器(甕)	
327	E 2 e9	N-53°-W	不定形	1.21 × 0.88	29	外傾	平皿	人為	土師器(甕)	
328	E 2 e9	N-79°-E	楕円形	0.71 × 0.56	44	外傾	平皿	人為	土師器(甕)	
329	E 2 e9	N-10°-W	楕円形	0.90 × 0.77	42	傾斜	凸凹	自然	土師器(甕)	
331	F 2 g0	-	[円形]	0.71 × 0.69	25	傾斜	凸凹	人為	土師器(高坏, 甕)	
332	F 2 g9	-	[円形]	0.60 × 0.59	19	外傾	傾斜	自然		
333	F 2 g9	-	円形	0.63 × 0.59	28	傾斜	凸凹	自然	土師器(坏, 甕) 須惠器(坏)	
334	F 2 d5	-	隅丸方形	0.39 × 0.38	55	外傾	皿状	自然	土師器(甕)	
335	F 2 a5	N-8°-W	楕円形	0.94 × 0.40	78	垂直	平皿	人為	土師器(坏, 甕, 甕)	
336	F 2 a5	-	不整円形	0.38 × 0.34	72	垂直	平皿	人為	土師器(甕)	
337	F 2 a5	-	不整円形	0.42 × 0.40	76	垂直	平皿	人為	土師器(坏)	
338	F 2 g0	N-23°-E	不整楕円形	1.00 × 0.90	65	垂直	平皿	自然		
339	F 2 h0	N-43°-W	不整楕円形	1.06 × 0.95	57	外傾	平皿	人為	土師器(坏, 甕)	
340	F 2 h9	N-70°-E	不整楕円形	1.72 × 1.05	40	傾斜	皿状	自然		
341	F 2 g2	N-16°-E	不整楕円形	0.81 × 0.72	90	垂直	平皿	人為		
342	F 2 g2	N-43°-W	不整楕円形	0.81 × 0.70	20	傾斜	平皿	自然	土師器(坏, 高坏, 甕) 須惠器(甕)	
343	F 2 h2	-	不整円形	0.26 × 0.25	86	垂直	平皿	自然	土師器(甕)	
344	F 2 i1	N-45°-W	不整楕円形	1.02 × 0.90	55	垂直	平皿	人為		
345	F 2 i2	N-55°-W	楕円形	0.39 × 0.24	40	外傾	平皿	自然	土製支脚	
346	F 1 i9	-	不整円形	1.30 × 1.20	70	外傾	平皿	自然	土師器(甕) 須惠器(甕)	
347	F 3 c9	N-71°-W	隅丸長方形	1.56 × 0.48	127	外傾	平皿	人為	土師器(坏, 甕) 須惠器(坏, 甕)	土師器(坏, 甕) 須惠器(坏, 甕)
348	F 2 j2	-	隅丸方形	0.38 × 0.38	36	外傾	平皿	自然	土師器(坏, 甕)	
349	F 2 j2	-	不整楕円形	0.70 × 0.64	39	外傾	平皿	人為	土師器(甕)	
350	H 2 b0	N-48°-W	[不整楕円形]	1.46 × [1.06]	32	傾斜	皿状	自然	土師器(甕)	
351	F 2 g1	-	不整円形	0.40 × 0.40	66	外傾	平皿	人為		
352	F 2 f2	N-82°-W	楕円形	0.82 × 0.62	50	外傾	皿状	自然	土師器(坏) 須惠器(坏)	
353	G 2 b6	N-70°-W	不整楕円形	0.74 × 0.52	48	垂直	平皿	自然	土師器(坏, 甕)	
354	F 2 h2	N-45°-E	楕円形	1.34 × 0.74	20	外傾	平皿	不明	土師器(坏) 須惠器(坏, 甕) 陶器	
355	G 2 b5	N-55°-W	楕円形	1.16 × 0.64	20	傾斜	皿状	自然	土師器(坏, 甕) 須惠器(坏)	
356	G 2 b5	-	円形	1.04 × 1.02	73	垂直	平皿	自然	夹生土器, 土師器(坏, 甕)	
357	G 2 b6	-	不整円形	0.50 × 0.48	54	外傾	平皿	自然	土師器(坏, 甕)	
358	G 2 b5	N-28°-W	楕円形	0.72 × 0.42	88	垂直	平皿	自然	土師器(坏, 甕)	
359	G 2 b5	N-38°-W	楕円形	0.58 × 0.50	86	垂直	平皿	自然	土師器(坏, 甕)	

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考
				長径 × 短径 (m)	深さ (cm)					
360	G2b4	-	円形	0.40 × 0.40	42	外傾	平坦	自然	土師器 (甕)	
361	F1j0	N-46°-W	不整楕円形	0.98 × 0.84	69	外傾	平坦	人為	土師器 (甕)	
362	G2b4	N-12°-E	不整楕円形	0.44 × 0.38	68	外傾	平坦	自然		
363	G2b4	N-8°-E	不整楕円形	0.44 × 0.36	76	垂直	平坦	自然		
364	G2c4	N-58°-E	不定形	1.41 × 1.10	30	傾斜	皿状	自然		
365	G2c5	N-40°-E	隅丸長方形	0.64 × 0.52	82	垂直	傾斜	自然	土師器 (坏、甕)	
366	G2c5	N-16°-E	不整楕円形	0.62 × 0.53	68	外傾	平坦	自然		
367	G2c5	N-81°-E	楕円形	1.00 × 0.74	13	傾斜	皿状	自然	土師器 (坏) 須惠器 (坏、甕)	
368	G2c5	N-48°-E	隅丸長方形	0.59 × 0.43	94	垂直	平坦	自然		
369	G2c5	N-43°-W	楕円形	0.43 × 0.35	48	外傾	皿状	自然	土師器 (坏、甕) 須惠器 (甕)	
370	G2c5	-	円形	0.52 × 0.48	80	外傾	平坦	自然	土師器 (甕) ミニチュア土師	
371	G2c6	N-40°-E	楕円形	0.90 × 0.76	78	垂直	皿状	自然	土師器 (坏、甕)	
372	G2c5	N-30°-E	楕円形	0.70 × 0.56	60	外傾	皿状	自然	土師器 (坏、甕)	
373	G2d5	N-90°-E	楕円形	0.42 × 0.29	46	外傾	凸凹	自然		
374	G2d5	-	円形	0.95 × 0.87	32	外傾	平坦	自然		
375	G2c5	-	円形	0.42 × 0.41	80	外傾	傾斜	自然		
376	G2d5	-	隅丸方形	0.42 × 0.42	90	垂直	皿状	人為		
377	G2c6	-	円形	1.10 × 0.98	74	外傾	平坦	自然		
378	G2c6	N-66°-E	楕円形	0.70 × 0.60	58	外傾	凸凹	自然		
379	G2f0	N-0°	楕円形	1.72 × 1.13	47	外傾	皿状	自然	土師器 (坏、甕)	
380	G2c6	-	円形	0.55 × 0.53	45	垂直	傾斜	自然	土師器 (甕)	
381	H3a6	-	不整円形	1.42 × 1.30	24	傾斜	凸凹	自然	土師器 (坏、甕) 須惠器 (坏)	
382	G2c9	N-76°-W	不整楕円形	1.56 × 1.02	49	外傾	平坦	人為	土師器 (坏、甕) 須惠器 (甕)	
383	G2c9	[N-66°-W]	[楕円形]	(1.00) × 1.35	34	外傾	皿状	自然		
384	G2d9	N-71°-W	楕円形	0.98 × 0.80	21	外傾	平坦	自然	土師器 (甕) 須惠器 (甕)	
385	G2c9	N-46°-E	楕円形	1.18 × 0.95	15	外傾	平坦	自然	土師器 (甕)	
386	G2e9	-	円形	0.48 × 0.47	46	外傾	皿状	自然	土師器 (甕)	
387	G2e9	-	円形	0.84 × 0.77	21	外傾	皿状	自然		
388	F3c9	-	隅丸方形	2.70 × 2.48	54	傾斜	凸凹	人為	土師器 (甕)	
389	G2d0	-	円形	0.50 × 0.49	57	外傾	皿状	人為	土師器 (坏)	
390	G2d0	-	円形	0.52 × 0.48	55	外傾	皿状	自然	土師器 (坏、甕)	
391	G2d5	-	円形	0.53 × 0.52	33	外傾	皿状	自然	土師器 (甕)	
392	G2d6	-	円形	0.55 × 0.53	54	外傾	皿状	自然		
393	G2e7	N-0°-E	楕円形	0.48 × 0.40	44	外傾	平坦	自然	土師器 (坏)	
394	G2e7	N-75°-E	楕円形	0.45 × 0.37	45	垂直	平坦	自然	土師器 (甕)	
395	F3b0	N-32°-E	長方形	3.10 × 2.55	119	外傾	平坦	人為	土師器 (甕)	
396	G2h5	N-54°-W	楕円形	1.25 × 0.95	21	傾斜	皿状	自然	縄文土器、土師器 (甕)	
397	G2f8	N-25°-E	楕円形	0.75 × 0.63	66	外傾	凸凹	自然	土師器 (甕)	
398	G2e4	-	不整円形	0.44 × 0.42	20	外傾	平坦	自然	土師器 (甕) 刀子	
399	G2e5	-	[円形]	0.88 × [0.85]	89	垂直	皿状	自然	土師器 (坏、甕)	
400	G2d4	N-15°-E	楕円形	0.50 × 0.35	40	垂直	平坦	自然		
401	G2d4	-	円形	0.47 × 0.42	72	垂直	皿状	自然	土師器 (甕)	
402	G2d4	-	円形	0.47 × 0.43	44	外傾	凸凹	自然		
403	G2e3	-	円形	0.53 × 0.51	101	外傾	平坦	人為		
404	G1a0	N-71°-W	[長楕円形]	[1.56] × 0.84	25	傾斜	平坦	自然	土師器 (甕)	
405	G1b0	N-35°-E	楕円形	1.39 × 1.02	18	外傾	平坦	人為	土師器 (甕)	
406	G3e2	N-16°-E	不定形	0.90 × 0.79	53	外傾	傾斜	人為	縄文土器、土師器 (坏、甕) 須惠器 (甕)	

土坑 序号	位置	长径方向 (长轴方向)	平面形	规 模		壁面	底面	覆土	出土遗物	备 考
				长径 × 短径(m)	深さ(m)					
407	G3e3	N-53°-E	不定形	2.97 × 1.36	122	外傾	凸凹	自然	土師器(坏)	
408	G3d3	N-2°-E	槽 凹 形	0.87 × 0.73	28	外傾	平坦	自然		
409	G3g3	N 16°-W	[不整长方形]	[1.29] × 1.04	25	緩斜	皿状	自然		
410	G2c3	-	円 形	0.98 × 0.95	12	緩斜	皿状	自然	土師器(坏, 甕)	
411	G212	-	不整円形	0.93 × 0.87	37	垂直	平坦	自然	土師器(甕) 須惠器(坏)	
412	H2a5	N-14°-E	不整槽凹形	1.34 × 1.13	129	垂直	皿状	自然	土師器(甕) 陶器	
413	H2a8	-	不整方形	1.35 × 1.32	86	外傾	平坦	自然		
414	H3b3	N-11°-W	槽 凹 形	1.15 × 0.97	28	緩斜	皿状	自然	土師器(甕)	
415	H3b3	N-39°-W	不整槽凹形	1.29 × 1.11	31	外傾	凸凹	自然	土師器(甕)	
416	H3a4	N-5°-E	槽 凹 形	1.18 × 1.02	25	緩斜	皿状	自然		
417	H3b4	-	隅丸方形	1.34 × 1.24	28	外傾	平坦	自然	縄文土器, 土師器(甕) 須惠器(坏)	
418	H3a2	N-96°-W	槽 凹 形	1.72 × 1.08	24	緩斜	皿状	自然	須惠器(甕)	
419	H3d1	N-64°-E	槽 凹 形	1.56 × 1.11	25	外傾	平坦	自然	土師器(甕)	
420	H3d3	N-59°-E	槽 凹 形	1.18 × 1.02	30	緩斜	凸凹	自然	土師器(坏, 甕)	
421	H3e3	-	円 形	0.61 × 0.51	26	外傾	平坦	自然		
422	H3e3	N-34°-E	槽 凹 形	0.85 × 0.57	19	外傾	皿状	自然	土師器(坏, 甕)	
423	H3h1	N-13°-E	不整槽凹形	0.92 × 0.78	33	外傾	皿状	自然		
424	H3f5	N-64°-W	槽 凹 形	1.01 × 0.86	30	外傾	皿状	自然		
425	H3c4	N-0°	槽 凹 形	1.16 × 0.97	28	外傾	平坦	自然	土師器(甕)	
426	G3f0	N-90°	槽 凹 形	1.70 × 0.99	23	外傾	平坦	自然	土師器(甕)	
427	G3e0	N-5°-E	不整槽凹形	2.04 × 1.22	16	緩斜	平坦	自然		
428	G3e0	N-85°-E	[長槽凹形]	[1.23] × 0.35	33	外傾	緩斜	自然		
429	H3a9	-	方 形	1.61 × 1.61	32	外傾	平坦	自然	土師器(甕)	
430	H3b0	N-59°-E	不整槽凹形	1.81 × 1.24	19	外傾	平坦	自然	土師器(甕) 須惠器(甕)	
431	H4b1	N-84°-W	不整长方形	2.06 × 1.56	14	緩斜	平坦	自然	土師器(坏, 甕) 陶器	
432	H3a0	N-4°-E	長 方 形	1.76 × 1.36	18	外傾	平坦	自然	土師器(甕)	
433	H3a9	N-76°-E	不整长方形	1.81 × 0.97	13	外傾	凸凹	自然		
434	H4a2	N-5°-E	[不定形]	1.78 × [0.76]	35	外傾	皿状	自然		
435	H4a2	[N-2°-E]	不 明	(0.54) × [0.49]	17	外傾	平坦	自然		
436	H4a2	N-9°-W	不整长方形	1.52 × 1.25	82	外傾	凸凹	自然	土師器(坏, 甕) 須惠器(甕)	
437	H4a2	[N-14°-W]	不 明	(0.37) × (0.24)	19	緩斜	皿状	自然		
438	H4a3	N-31°-E	[不整槽凹形]	(1.75) × 1.55	24	外傾	平坦	自然		
439	H4a3	N-84°-W	[不整长方形]	1.80 × (0.55)	12	緩斜	平坦	自然		
440	H3j9	N-34°-W	不整长方形	1.74 × 1.00	10	緩斜	平坦	自然		
441	H3a9	N-9°-W	長 方 形	1.98 × 0.98	10	緩斜	平坦	自然		
442	F3e7	N-70°-W	隅丸长方形	2.78 × 1.30	60	外傾	平坦	自然		
444	F3d7	N-10°-E	槽 凹 形	1.15 × 0.90	35	外傾	凸凹	自然	土師器(甕) 陶器	
445	F3d6	-	円 形	0.90 × 0.90	28	外傾	平坦	自然		
446	F3d6	N-26°-E	隅丸长方形	1.08 × 0.97	78	外傾	皿状	自然		
447	F3d6	N-22°-E	[長 方 形]	1.15 × [0.87]	65	外傾	凸凹	自然		
448	F3e7	-	[隅丸方形]	1.20 × (0.71)	45	外傾	平坦	自然		
450	F4f1	N-90°	長 槽 凹 形	2.34 × 1.05	8	緩斜	皿状	不明		粘土貼り
451	H3b0	N-90°	不整长方形	1.00 × 0.72	71	外傾	平坦	人為	土師器(坏, 甕, 甗)	
452	H4c2	N-61°-E	[不整槽凹形]	2.18 × [1.88]	35	外傾	凸凹	自然	土師器(甕)	
453	H4c2	[N-68°-E]	[槽 凹 形]	2.15 × [1.27]	33	外傾	緩斜	自然	土師器(坏, 甕)	
454	H3g0	N-72°-E	長 方 形	2.03 × 1.65	33	外傾	平坦	自然		
455	G3j0	N-79°-W	槽 凹 形	1.94 × 1.72	164	垂直	平坦	人為	土師器(甕)	地下式竈(須惠器正 土師器) 附 447

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
456	H3g8	N-90°	不整形長方形	0.86 × 0.78	23	外傾	皿状	人為	輪形漆	鍛冶
457	H4e4	-	不整形長方形	2.19 × 2.09	94	外傾	平坦	人為	土師器(坏、甕)	
458	F3d5	N-16°-E	隅丸長方形	1.48 × 1.31	121	外傾	平坦	自然		
460	H4c1	N-90°	隅丸長方形	1.51 × 0.76	29	外傾	平坦	人為		粘土盛りSK-178-4層
461	G3j0	-	不明	1.23 × (0.99)	23	傾斜	皿状	自然		
462	F3f3	N-17°-W	楕円形	0.90 × 0.70	41	傾斜	平坦	自然	土師器(高台付椀)	

## 6 溝

当遺跡から53条の溝が検出されている。そのうち今年度調査区から19条の溝が検出されている。前年度調査区検出の溝と関連があるもの、遺物が出土しているものについて報告する。その他の溝については一覧表にて報告する。

### 第35号溝 (付図・第432図)

位置 調査区の北部、C3f8～C2j0

重複関係 本跡が、第197号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北東部が調査区域外に延びているため検出部分は長さ(26.6)m、上幅78～108cm、下幅24～52cm、深さ17.0～34.0cmで、断面形はU字形である。

方向 C3e9区から北東(N-22°-E)に直線的に延びる。

覆土 4層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中・小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量

遺物 土師器片120点(坏片20点、甕片100点)、須恵器片39点(坏片26片、蓋片3点、甕片10点)、土製品1点が出土している。覆土中から第432図1の土玉が出土している。土器類はほとんどが細片であるため、図示できものはない。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代以降と考えられる。

### 第36号溝 (付図・第432図)

位置 調査区の北部、C3f8～D4a7区

重複関係 本跡が第186A、186B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南東部が調査区域外に延びているため検出部分は長さ(44.0)m、上幅73～182cm、下幅22～68cm、深さ13.0～53.0cmで、断面形は箱築研状である。

方向 D4a7区から北西(N-60°-W)に直線的に延びる。

覆土 6層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量

遺物 土師器片156点(坏片42点, 高台付坏片2点, 甕片112点), 須恵器片48点(坏片24点, 高台付坏片2点, 甕片22点)が出土している。覆土中では, 第433図2の土師質土器, 3の陶器壺が出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から中世以降と考えられる。

#### 第37号溝(付図・第432図)

位置 調査区の北西部, C3f6~D3b1区

重複関係 本跡が第161B・第163・第164・第165号住居跡を掘り込んでいる。また, 39号溝と合流するが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 確認長(35.0)m, 上幅44~108cm, 下幅22~68cm, 深さ20~56cmで, 断面形は箱薬研状である。

方向 C3f6区から南西(N-60°-W)に直線的に延び, C3b1区で2条に分岐する。そのうち1条は南西(N-14°-E)に緩やかに曲がり5.50m延び, もう1条は南(N-2°-E)に直線的に6.75m延びる。

覆土 3層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

##### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片55点(坏片4点, 甕片11点), 須恵器片1点(甕片1点)で出土しているが, ほとんどが細片のため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から平安時代以降と考えられる。

#### 第38号溝(付図・第432図)

位置 調査区の北部, D3d3~D4j5区

重複関係 本跡が第161A・161B号住居跡, 及び第42号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 確認長(54.8)m, 上幅51~130cm, 下幅16~80cm, 深さ7~21cmで, 断面形はU字形である。

方向 D3d3区から南西(N-63°-W)に直線的に延びる。

覆土 3層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

##### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック少量・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量・ローム小ブロック少量

遺物 遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は, 不明である。

#### 第41号溝(付図・第432図)

位置 調査区の北東部, D4i4~E4c1区

重複関係 本跡が第112号住居跡を掘り込んでおり, 第38号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区域外に延びているため検出部分は長さ(32.1)m, 上幅56~154cm, 下幅20~72cm, 深さ46~56cmで, 断面形は薬研状である。

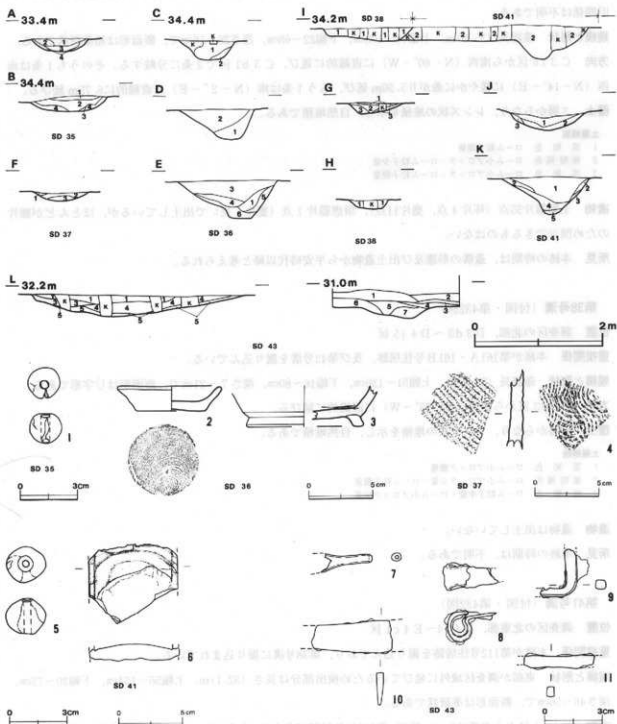
方向 E4c1区から北西に1.4m延び, 第112号住居跡で曲がり, 北東(N-24°-E)に直線的に延び, E4c1区では東(N-24°-E)に10.9m延びる。

覆土 5層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量、ローム中・小ブロック少量
- 2 極暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片5点(坏片4点, 高台付碗片1点), 須恵器片5点(蓋片1点, 甕片4点), 土製品1点, 石製



第432図 溝・出土遺物実測図

品1点が出土している。第432図5の土玉、6の石製硯は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期・性格は不明である。

### 第43号溝 (付図・第432図)

位置 調査区の北東部, E 3 e5~F 4 c3

重複関係 本跡が第254号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南東部が調査区域外に延びているため検出部分は長さ(44)m, 上幅141~364cm, 下幅68~192cm, 深さ5~28cmで, 断面形はU字形である。

方向 E 3 e5 区から南東(N-51°-W)に直線的に延びる。

覆土 4層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土小ブロック微量
- 7 灰褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 土師器片382点(坏片43点, 高台付坏片1点, 高坏片2点, 甕片336点), 須恵器片79点(坏片41点, 高台付坏片1点, 蓋片1点, 甕片36点), 弥生土器片12点, 煙管1点, 刀子1点, 不明鉄製品3点が出土している。第433図7の煙管, 10の刀子, 8, 9, 11の不明鉄製品は覆土中から出土している。

所見 当集落の中央部から谷津に向かう方向にあり, 溝の底面は, 踏み固められていることから, 道路状遺構と思われる。時期は, 古墳時代の住居跡を掘り込み, 覆土中から平安時代の遺物が出土していることから平安時代以降と考えられる。

### 第35号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第432図1	土玉	1.6	1.7	0.5	3.3	覆土中	DP1134 100% PL169

### 第36号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第432図2	小皿 土師質上層	A 8.2	平底。体部から口縁部にかけて外縁して立ち上がる。	口縁部, 体部ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・雲母・スコリア 明黄褐色 普通	P1716 100% 覆土中 PL161
		B 1.9				
		C 5.4				
3	壺 陶器	B (3.2)	高台部から体部下位片。高内は短くハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部ロクロナデ。高台貼付け。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P1717 5% 覆土中
		D [9.2]				
		E 0.8				

### 第41号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第432図5	土玉	1.9	2.1	0.4	3.3	覆土中	DP1135 100%

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第432図6	硯	(6.3)	7.0	(1.4)	(64.8)	粘板岩	覆土中	Q1032 FL175

第43号溝金属製品観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第432図7	樋管	(2.7)	(1.1)	0.4	(1.1)	覆土中	M1032 95%
8	不明鉄製品	(3.0)	1.6	0.4	(6.4)	覆土中	M1033 95%
9	不明鉄製品	(2.5)	0.6	0.5	(4.3)	覆土中	M1044 95%
10	刀子	(4.2)	1.7	0.5	(8.3)	覆土中	M1045 95% FL177
11	不明鉄製品	(2.7)	0.9	0.4	(3.0)	覆土中	M1046 95%

表6 木台遺跡跡一覧表

遺跡番号	位置	方向	形状	尺				断面	表面	覆土	出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
35	C31f-C31g	N-22°-E	直線	(26.6)	78-108	24-52	17-34	-	平直	自然	土師器片, 須恵器片	SI137→本跡 SD1
36	C31f-D4a7	N-60°-W	直線	(44.0)	73-182	22-68	12-53	-	平直	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片	SI186A, 186B→本跡 SD2
37	C31f-D3c1	N-60°-W	曲線	(35.0)	44-108	22-68	20-56	-	平直	自然	土師器片	SI161B, 163, 164, 165→本跡 SD3?
38	D3d3-D4j5	N-63°-W	直線	(54.8)	31-130	16-80	7-21	-	平直	自然		SD1A, 161B, SD12→本跡 SD5
39	D3e1-E2d1	N46°-E	曲線	(60.3)	43-180	20-99	9-24	-	平直	自然	土師器片, 鉄片	SI149, 150B, 154, 156, 151A, 161B→本跡 SD0
40	D3e3-D2g6	N50°-W	曲線	19.6	66-161	22-60	16-30	-	平直	自然		SI155A, 155B→本跡 SD7
41	D414-E4c1	N-24°-E	曲線	(32.1)	58-154	20-72	46-56	-	平直	自然	土師器片, 須恵器片, 土玉	SI112→本跡→SD38 SD8
42	E2a6-E2h3	N-17°-E	曲線	(33.1)	51-188	32-130	12-20	-	平直	自然	土師器片, 須恵器片	SI17B, SD45→本跡→SD4 SD11
43	E2e3-F4c3	N-31°-W	直線	(44.0)	141-384	68-182	5-28	-	平直	自然	土師器片, 須恵器片	SI254→本跡 SD12
44	E140-E4a5	N-85°-W	曲線	100.4	74-168	35-108	0-28	-	平直	自然	土師器片, 須恵器片	SI112, 145A, 145B, 145C, 172, 206, SD43→本跡 SD13
45	E2e2-E3f2	N-90°-E	曲線	36.6	74-110	61-64	14-22	-	平直	自然	土師器片, 須恵器片	SI144→本跡 SD45? SD14
46	G219-G315	N-86°-E	曲線	(23.6)	-	35-64	0	-	平直	自然		SI234B→本跡 SD16
47	G319-H2b1	N-82°-W	直線	(24.3)	39-81	14-58	4-20	-	平直	自然		SI231, 225→本跡 SD17
48	H2a3-H2g9	N-46°-W	直線	21.9	52-114	20-74	15-18	-	平直	自然	土師器片	SI238, 230B→本跡 SD18
49	H2f0-H2j8	N-25°-E	直線	(20.8)	114-284	83-218	14-25	-	平直	自然	弥生土師片, 土師器片	SI238→本跡 SD19
50	H2a2-1a3	N-46°-W	曲線	(12.6)	74-161	45-108	16-22	-	平直	自然		SD43, 24C→本跡 SD51? SD20
51	I3a2-H4g1	N-67°-E	曲線	(42.3)	56-210	9-66	16-35	-	平直	自然	弥生土師片, 土師器片, 須恵器片	SI244A, 244C, 252, 259→本跡 SD52, 53? SD21
52	H3e9-H2h0	N-53°-W	直線	(8.5)	102-154	74-96	9-22	-	平直	自然		SD51→本跡 SD61? SD22
53	D3d1-E2d2	N-35°-W	直線	(46.0)	36-94	20-46	8-21	-	平直	自然		SI149, 161A, 161D, 161C, 156, 154, 150D, 230D→本跡SD23

## 7 不明遺構

当遺跡から性格不明の遺構が2基検出されている。

### 第1号不明遺構(第433図)

位置 調査区の中央部, F3f1区。

重複関係 第116B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸5.20m, 短軸24.6mの長方形である。



長軸方向 N-73°-W

壁 壁高は8~24.6cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、軟弱なロームである。

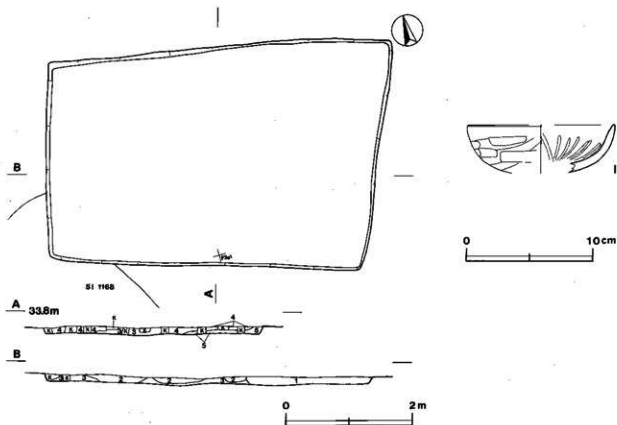
覆土 5層からなるが、掘り込みが浅く攪乱なども受けているため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック、ローム粒子少量

遺物 土師器片16点(坏片6点、甕片10点)、縄文土器片1点が出土している。第433図1の土師器坏が覆土中から出土している。その他の土器は、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、第116B号住居跡を掘り込んでいることから古墳時代後期と考えられ、遺構の性格は不明である。



第433図 第1号不明遺構・出土遺物実測図

第1号不明遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第433図 1	坏 土師器	A [12.6] B (3.8)	体部から口縁部片。体部から口縁部にかけて内傾して立ち上がる。	口縁部噴ナデ。体部外面へウ割り、内面縦粒のへウ磨き。	灰石・石英・炭母 黒褐色 普通	P1711 覆土中

第2号不明遺構 (第434図)

位置 調査区の中央部, F2j0区。

規模と平面形 掘り込みが浅く北側の壁はほとんど残存していないが, P3の位置などから長軸 [5.10]m, 短軸29.6mの長方形であると推定される。

長軸方向 N-5°-E

壁 壁高は8cmで, 外傾して立ち上がる。

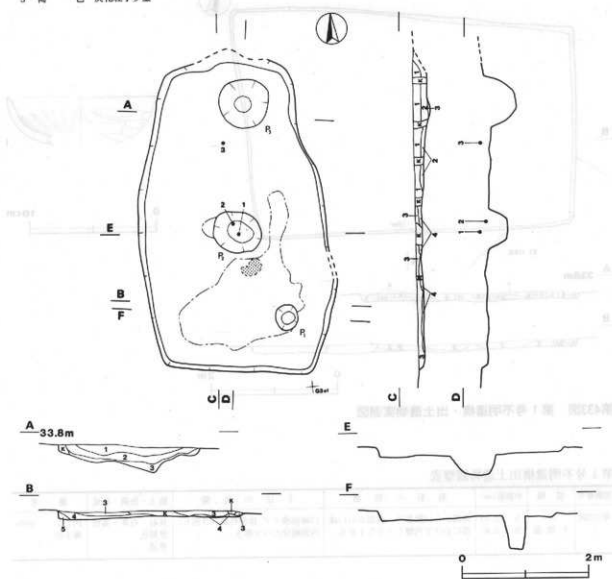
床 平坦で, P1からP2付近にかけて一部踏み固められている。

ピット 3ヶ所 (P1~P3)。P1は長径41cm, 短径36cmの楕円形, 深さ52.8cm, P2は長径78cm, 短径68cmの楕円形, 深さ29.6cm, P3は径81cmの円形, 深さ34.5cmである。P1~P3はいずれも性格不明である。

覆土 5層からなるが, 掘り込みが浅く攪乱なども受けているため, 堆積状況は不明である。

土層解説

- |   |     |  |
|---|-----|--|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 焼土・炭化粒子・ローム中ブロック極微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量              |
| 3 | 棕褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量                      |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化物微量                           |
| 5 | 褐色  | 炭化粒子少量                                   |



第434図 第2号不明遺構実測図

遺物 土師器片66点(坯片61点, 斃片5点), 灰釉陶器片1点, 含鉄滓12gが出土している。第435図3の土師器台付碗が中央部北側の覆土上層から正位の状態で出土している。1, 2の土師器台付碗がP2内から正位の状態で出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から10世紀前葉と考えられる。遺構の性格は不明である。



第435図 第2号不明遺構出土遺物実測図

#### 第2号不明遺構出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第435図 1	台付 土師器	A [15.0]	底部から口縁部片, 突出した平底。 体部は内彎して立ち上がり, 口縁 部は外反する。	口縁部, 体部ロクロナデ。底部回 転糸切り。	長石・石英・雲母 スコリア 灰黄色 普通	P1713 45% ピット内 PL160
		B 4.8				
		C 7.2				
2	台付 土師器	A [15.7]	底部から口縁部片, 突出した平底。 体部は内彎して立ち上がり, 口縁 部は外反する。	口縁部, 体部ロクロナデ。底部回 転糸切り。	長石・石英・雲母 スコリア 灰褐色 普通	P1714 65% ピット内 PL160
		B 5.6				
		C 7.2				
3	台付 土師器	A [14.5]	底部から口縁部片, 突出した平底。 体部は内彎して立ち上がり, 口縁 部は外反する。	口縁部, 体部ロクロナデ。底部回 転糸切り。	長石・石英・雲母 スコリア にぶい黄褐色 普通	P1712 45% 覆土中 PL160
		B 4.3				
		C 6.3				

## 8 遺構外出土遺物

今回調査した縄文時代から平安時代の遺構に, 旧石器時代の石器や縄文土器, 弥生土器が混入している。また, 試掘調査の際に出土した遺物もある。これらを含めて遺構外出土遺物として報告する。

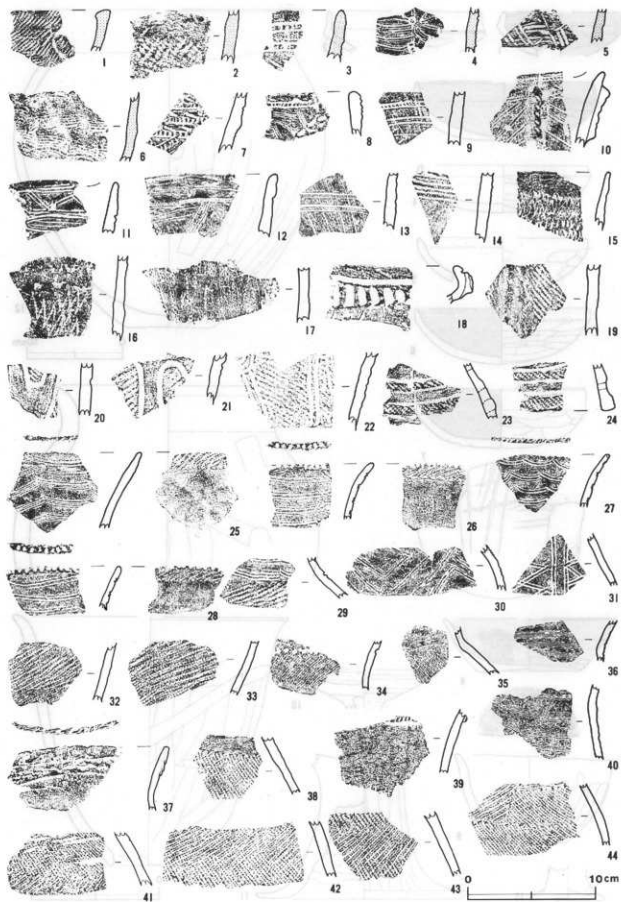
第436図1~24は縄文土器片である。1, 2は深鉢の口縁部片で単節縄文RLが施されている。3は口縁部片, 4, 5は胴部片で, 竹管による爪形文, 肋骨文, 刺突文が施されている。6は条線が横方向に施されている。1~6は胎土に繊維を含んでいる。7は胴部片で, 半截竹管による爪形文が施されている。8は口縁部片, 9は体部片で半截竹管による平行沈線, 爪形文が施されている。10~12は口縁部片である。10は口縁部直下に爪形文, キザミを入れた隆帯による縦区画をし, 平行沈線による肋骨文が施されている。11, 12は平行沈線文がランダムに施されている。13, 14は胴部片で摺糸を地文とし, 平行沈線文が施されている。15は口縁部片, 16は胴部片で, 貝殻腹縁による波状文が施されている。17は胴部片で貝殻腹縁文が施されている。18は口縁部片で直下に沈線を施し, 粘土紐を貼り付け縦位に短い沈線を施している。19は胴部片で断面三角形を呈する隆帯を施し, その両側に磨消縄文を施している。20, 21は胴部片で沈線により区画し, 磨消縄文を施している。22は胴部片で単節RLの縄文を地文にし, 沈線を施している。23, 24は台付鉢の台部片で隆起帯縄文が施されて

いる。

第436図25~44は弥生土器片である。25~28は広口壺の口縁部片で2本櫛歯による連文が施されおり、25の口唇部には付加条の縄文が回転押捺され、27, 28の口唇部には棒状工具による押圧が施されている。25, 26, 28は内面に付加条一種付加1条の縄文が施されている。29は頸部から胴部片で頸部に2本櫛歯による連文、胴部に付加条一種付加1条の縄文が施されている。30は壺の胴上部片で、2本櫛歯による重層V字文が施されている。31は壺の頸部片で、2本櫛歯による縦区画に格子状文が施されている。32, 33は胴部片で、付加条一種付加1条の縄文が施されている。34は頸部片で単節LRの縄文を施した後、刺突文を横方向に2段施している。35は頸部から胴上部片で頸部無文、体部に捲り糸が施されている。36は頸部片で3本櫛歯による横走文が施されている。38は口縁部片で3段の粘土紐積み上げ痕を残し、口唇部に付加条の縄文本体を押捺している。39は頸部から胴上部片で、頸部に5本櫛歯による縦区画、胴部との境に2条の櫛歯き横走文を施している。40は頸部片で5本櫛歯による横走文を施している。41は胴部片で付加条一種付加2条の縄文により羽状縄文を施している。42は胴部片で付加条一種付加2条の縄文により羽状縄文が施されている。43は胴部片で単節LRの縄文と付加条一種付加2条の縄文により羽状縄文を施している。44は胴部片で付加条一種付加1条の縄文を横方向に押捺しているが、部分的に縦方向に押捺しているところがある。

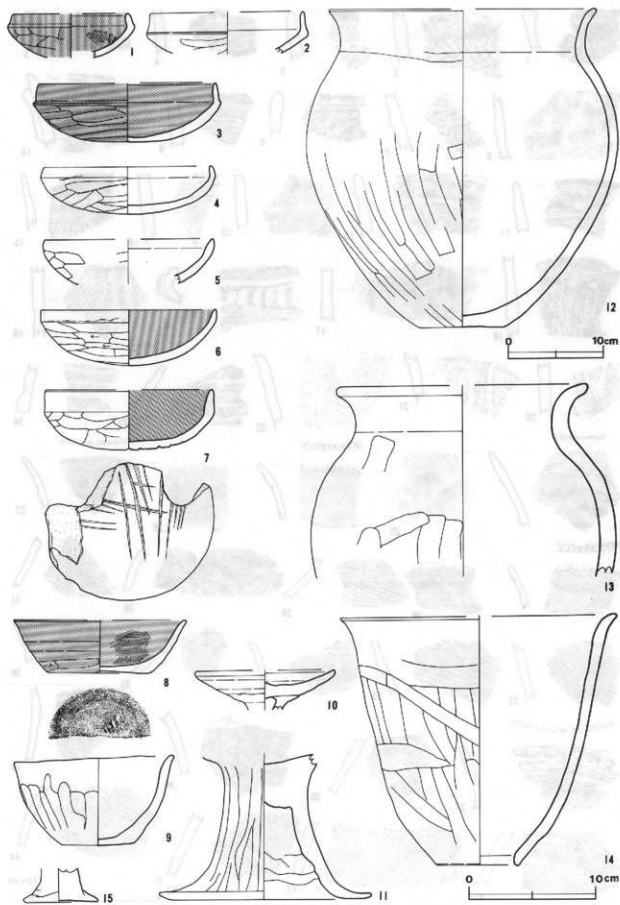
遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第437図 1	坏 土師器	A [ 9.2] B ( 3.5)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面へラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	F129 10% 覆土中
2	坏 土師器	A [12.2] B ( 3.3)	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	F1719 10% 覆土中
3	坏 土師器	A [14.0] B 4.6	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後へラ磨き。内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母 スコリア 黒褐色 普通	F1725 40% トレンチ PL161
4	坏 土師器	A 13.4 B 3.7	口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 スコリア 黄灰褐色 普通	F1723 95% トレンチ PL161
5	坏 土師器	A [13.2] B ( 3.5)	底部から口縁部片。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面ナデ。	石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	F23 40% 覆土中
6	坏 土師器	A 13.9 B 4.4	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は短く直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後へラ磨き。内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母 スコリア 黒褐色 普通	F1726 60% D 4 f 9 区
7	坏 土師器	A [13.2] B 4.8	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内面黒色処理。底部砥石転用痕。	長石・石英・雲母 スコリア 黒褐色 普通	F1724 45% 表採 PL161
8	坏 土師器	A [13.6] B 4.2 C 7.7	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部コロコロナ。体部下端平持ちへラ削り、内面へラ磨き。底部回転車切り後、回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 スコリア 明黄褐色 普通	F1715 45% 覆土中
9	輪 土師器	A 12.6 B 7.0 C 5.6	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通	F1720 100% 覆土中 PL161

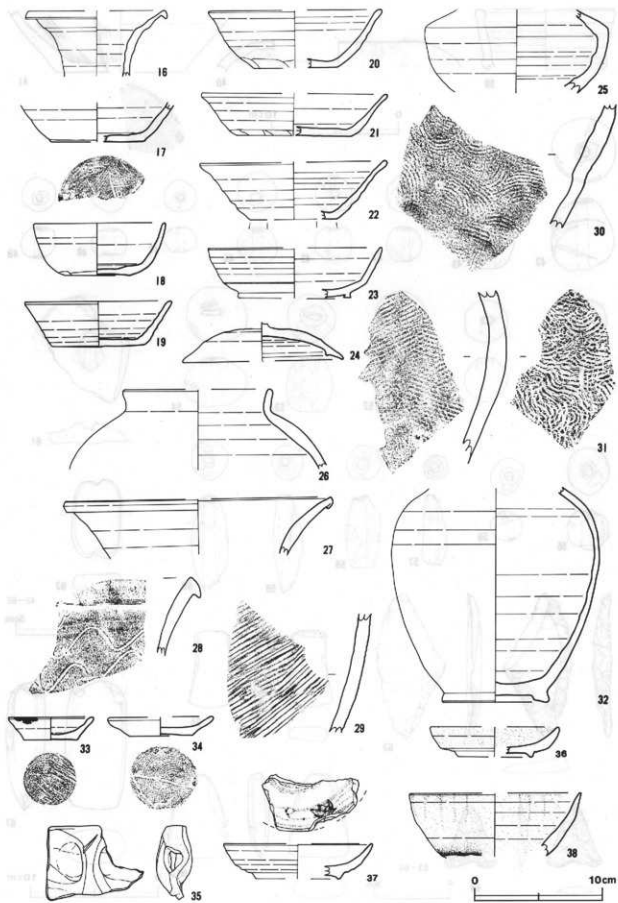


第436图 遗構外出土遺物実測図(1)

① 縄文時代の土器の遺構

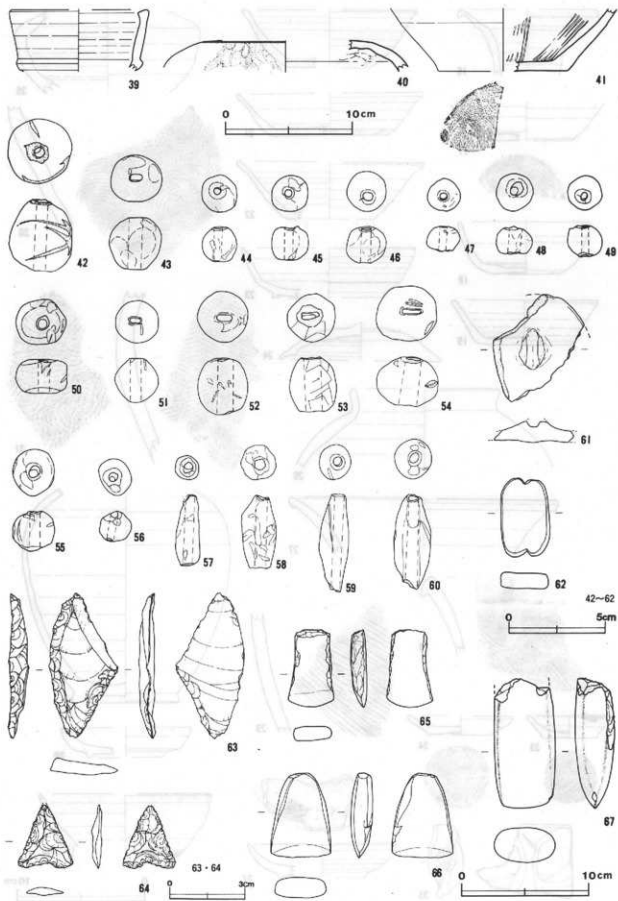


第437图 遺構外出土遺物実測図(2)



第438图 遗物出土文物实测图(3)

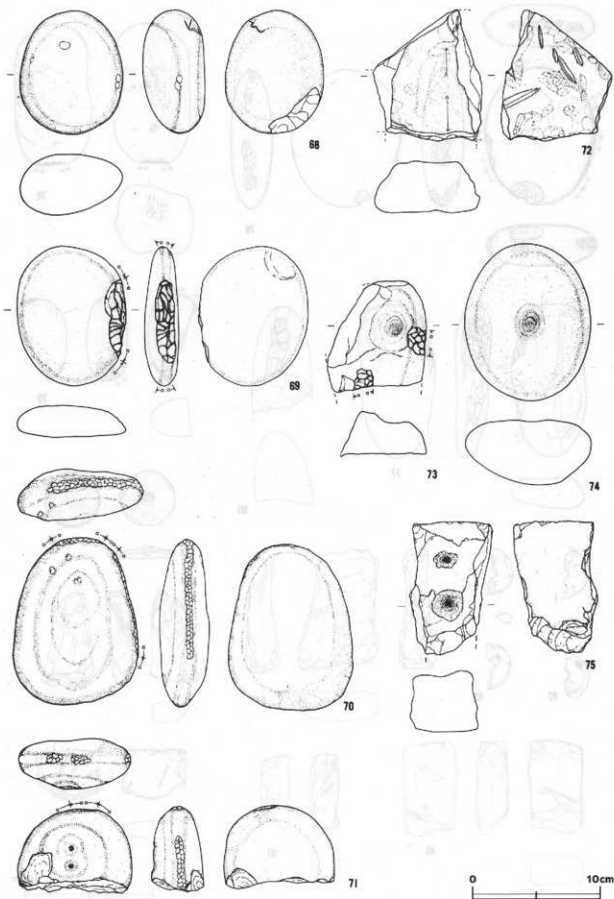
中国历史博物馆 编



第439图 遗物出土实物实测图(4)

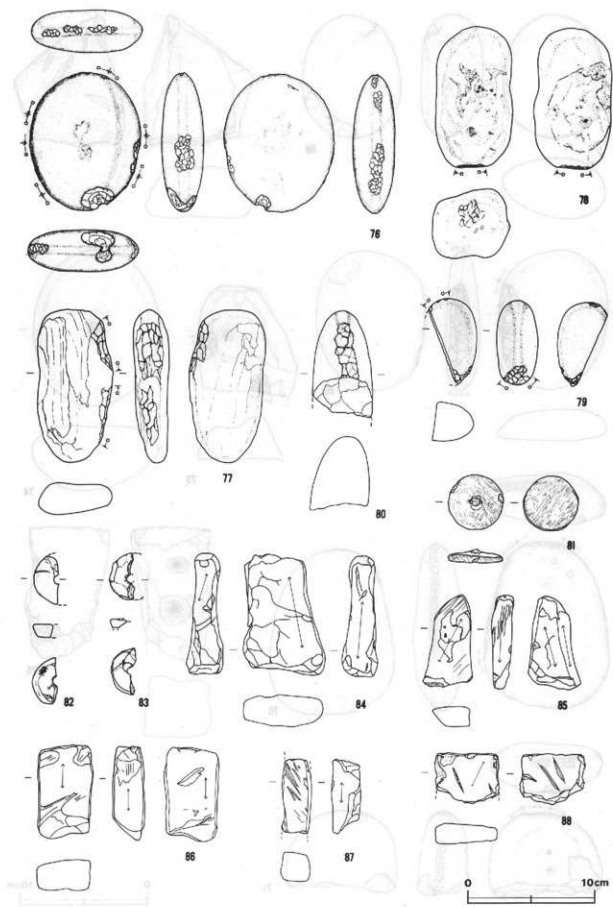
《中国新石器时代史》 图版439





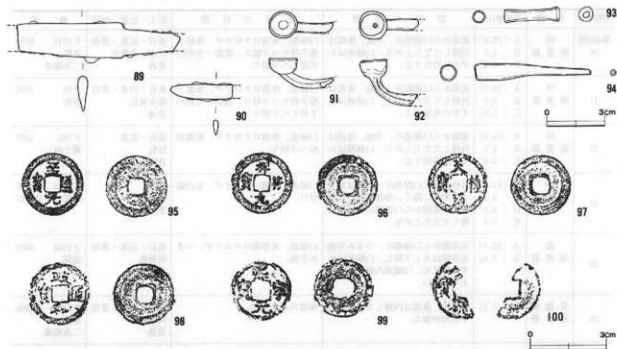
第440图 遺構外出土遺物実測図(5)

図面実測出土資料製 図144期



第441图 遺構外出土遺物実測図

元寇前其野原土出共物類 図441-1



第442図 遺構外出土遺物実測図(7)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第437図 10	高 土 器	A [11.0] B (3.2) E (0.6)	坏部片。胸部はわずかに内彎して立ち上がる。	坏部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	F1727 20% 表採
11	高 土 器	D 16.8 E (11.4)	胴部片。胸部は太くラップ状に開く。	胴部内・外面ヘラ削り。内面輪積み痕。	長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通	F1721 50% 覆土中 二次焼成
12	壺 土 器	A [28.0] B 33.6 C [ 8.8]	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し。肩部は外上方向にわずかにつまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面中位から下位にかけて縦位のヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通	F1722 45% 覆土中 PL161
13	壺 土 器	A [20.0] B (15.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し。肩部はわずかに外上方向につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・石英・雲母 スコリア にぶい褐色 普通	F1728 20% F1区表採 PL161
14	甗 土 器	A [21.6] B 19.6 C 6.6	底部から口縁部片。無底式。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・雲母・スコリア ・白色針状物 にぶい褐色 普通	F1729 60% トレンチ PL161
15	ミニチュア 高 土 器	B (2.7) D 5.8	胴部片。胸部は柱状を呈し、腹部は開く。	胴部内・外面ナデ。腹部粘土貼付け。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	F1748 30% 表採
第438図 16	壺 須 志 器	A [10.8] B (5.1)	頸部から口縁部片。口縁部は外反する。肩部は外方に突出する。	口縁部。頸部ロクロナデ。	石英・雲母 にぶい褐色 普通	F229 10% 覆土中
17	坏 須 志 器	B (3.1) C [ 7.4]	底部から体部片。平底。体部はわずかに内彎して立ち上がる。	体部ロクロナデ。底部ヘラ記号。	長石・石英・白色 針状物 灰黄色 普通	F1730 25% トレンチ
18	坏 須 志 器	A 10.5 B 4.1 C 5.2	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部。体部ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、周縁手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	F1731 80% トレンチ PL161
19	坏 須 志 器	A 11.6 B 3.6 C 7.4	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外彎して立ち上がる。	口縁部。体部ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、周縁手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通	F1732 80% トレンチ PL161

図番	器種	寸法 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第438図 20	坏 須恵器	A [3.8] E B 4.5 C [6.4]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部ロクロナデ。体部下端手持ちへつ削り。底部一方の手持ちへつ削り。	長石・石英・雲母にふい赤褐色 普通	P1734 25% 表採 二次焼成
21	坏 須恵器	A [4.7] E B 3.4 C [9.0]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部ロクロナデ。体部下端手持ちへつ削り。底部一方の手持ちへつ削り。	長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通	P18 30% 表採
22	坏 須恵器	A [4.8] E B 4.5 C [6.8]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部ロクロナデ。底部回転へつ削り。	長石・石英 灰色 良好	P390 10% 覆土中
23	坏 須恵器	A [3.8] E B 3.9 D [9.0] E 0.4	高台部から口縁部片。高台は狭くハの字状に開く。体部下位に絞を持ち、体部から口縁部にかけて外彎して立ち上がる。	口縁部、体部ロクロナデ。高台貼付け。	長石 黄灰色 普通	P1733 30% 表採 PL161
24	蓋 須恵器	A [2.7] B (3.0)	天井部から口縁部片。つまみ欠損天井部は丸く下降し、口縁部はわずかに反る。口縁部内面に長いかえりを持つ。	口縁部、天井部ロクロナデ。つまみ欠損。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P1736 10% 表採
25	長須 須恵器	B (6.1)	体部片。体部は内彎して立ち上がり唇部が張る。	体部ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P1735 10% 表採 二次焼成
26	短須 須恵器	A [11.9] B (6.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は近く外反する。	口縁部、体部ロクロナデ。体部外面自然釉。	長石・小礫 灰白色 普通	P1738 10% トレンチ
27	甕 須恵器	A [20.9] B (4.6)	口縁部片。口縁部は外反する。底部は下端が突出する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	長石 黄灰色 普通	P1118 5% 覆孔
28	壺 須恵器	-	口縁部片。口縁部は外反する。底部下端が突出する。	欄干1本1条による波状文を2段に施している。外面自然釉。	長石・石英 灰色 普通	T P186 5% 表採
29	壺 須恵器	-	体部片。	体部外面に平行叩き。	長石・石英 灰色 普通	T P143 5% 表採
30	壺 須恵器	-	体部片。	体部外面に同心円状叩き。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	T P26 5% 表採
31	壺 須恵器	-	体部片。	体部外面平行叩き、内面同心円状当て具痕。	長石・石英 灰色 普通	T P187 5% 表採
32	長須 灰胎陶器	B (16.9) D 8.3 E 0.6	高台部から体部片。高台部は断面角状を呈し、狭くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面灰釉掛け掛け。底部回転糸切り後、高台貼付け。	長石 灰ノープ色 普通	P1747 30% トレンチ PL161 黒鉄90号窯式
33	小須 土質土器	A 6.8 B 1.8 C 4.2	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。口縁部に黒付着。	長石・石英・雲母 黒褐色 不良	P1117 85% 攪乱
34	小須 土質土器	A [8.4] B 1.5 C 5.0	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部まで内彎して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母・スコリア 褐色 普通	P1746 60% 表採
35	内耳土器 土質土器	-	内耳部片。	内耳部内・外面ナデ。	長石・雲母 にふい赤褐色 普通	P1739 5% 表採 外面灰付着
36	丸須 陶器	A [10.2] B 2.4 D [5.8] E 0.4	高台部から口縁部片。高台は断面三角形の輪高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部成形。体部内・外面灰釉施釉。	長石 胎土色 浅黄色 にふい黄褐色 普通	P1744 10% トレンチ
37	鉄絵丸須 陶器	A [11.8] B 2.8 D [6.7] E 0.2	高台部から口縁部片。高台は輪高台。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部成形。体部内面輪付鉄絵。内・外面灰釉施釉。	長石 胎土色 浅黄色 灰白色 普通	P1743 10% 表採

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第438図 38	天目茶碗 陶 器	A [13.4] B (4.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部ロクロナデ。外面鉄胎輪軸。	長石 胎土色 灰黄色 黒色 普通	P1741 10% トレンテ
第439図 39	香 陶 器	A [11.0] B (4.9)	体部から口縁部片。体部下端に明瞭な稜を持ち、体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部ロクロナデ。内・外面緑胎輪軸。	長石 胎土色 灰黄色 褐色 普通	P1740 10% トレンテ
40	瓶 陶 器	B (2.5)	肩部片。肩部は内彎して立ち上がる。	ロクロ成形。体部外面緑胎輪軸、内面泡瀬痕。	長石 胎土色 灰黄色 灰白色 普通	P1742 5% 表採
41	楕 陶 器	B (5.0) C [10.2]	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部ロクロナデ。体部内面5条1単位の横り目。糸切り底。鉄胎。	長石 胎土 にぶい黄橙色 にぶい橙色 普通	P1737 10% G3e6区

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
42	土 玉	3.8	3.4	0.6	43.6	表 採 DP1148 95% PL169	
43	土 玉	1.8	2.6	0.7	19.1	表 採 DP1144 100% PL169	
44	土 玉	1.8	1.8	0.4	6.6	表 採 DP1139 100% PL169	
45	土 玉	1.7	1.9	0.4	5.5	表 採 DP1140 100% PL169	
46	土 玉	1.9	2.1	0.6	7.0	表 採 DP1141 100% PL169	
47	土 玉	1.3	1.7	0.4	3.6	表 採 DP1136 100% PL169	
48	土 玉	1.4	1.9	0.7	4.8	表 採 DP1138 100% PL169	
49	土 玉	1.6	1.8	0.4	4.7	表 採 DP1137 100% PL169	
50	土 玉	1.8	2.6	0.6	10.6	表 採 DP1142 100% PL169	
51	土 玉	2.3	2.2	0.6	11.1	表 採 DP1143 100% PL169	
52	土 玉	3.0	2.6	0.8	19.2	表 採 DP1145 100% PL169	
53	土 玉	3.0	2.6	0.9	18.8	表 採 DP1146 100% PL169	
54	土 玉	2.7	3.2	0.9	24.8	表 採 DP1147 100% PL169	
55	土 玉	2.2	2.5	0.6	10.6	表 採 DP1150 100% PL169	
56	土 玉	1.7	2.0	0.5	4.2	表 採 DP1149 100%	
57	土 玉	3.8	1.3	0.5	4.1	表 採 DP1151 100%	
58	土 玉	3.8	1.9	0.5	10.3	表 採 DP1152 100%	
59	土 玉	5.1	1.8	0.4	10.6	表 採 DP1153 100%	
60	土 玉	4.9	2.1	0.6	13.2	表 採 DP1154 95%	

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	径 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
61	鏡	4.8	-	(1.1)	(19.3)	SH170 DP85 40% PL171	
62	土器片鏝	5.1	2.6	0.9	13.3	表 採 DP25 100% PL171	

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	径 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
63	ナイフ形石器	5.7	2.6	0.7	6.3	頁 岩 表 採 Q1025 PL176		
64	石 鏝	2.5	2.1	0.4	(1.3)	石英燧文岩 表 採 Q1022 PL176		

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	出土地点	備 考	
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第439回65	磨製石斧	6.1	3.4	1.4	46.2	蛇紋岩	SI136C	Q26	PL176
66	磨製石斧	6.6	4.7	1.7	92.0	蛇紋岩	SI115	Q 4	PL176
67	磨製石斧	(10.3)	4.8	3.1	(248.0)	安山岩	SI126A	Q32	PL176
第440回68	磨石	9.8	8.1	4.8	474.1	緑色凝灰岩	SI204	Q1011	PL174
69	磨石	11.0	8.7	2.7	367.4	砂岩	表	探	Q34
70	磨石	13.2	9.8	3.8	694.3	砂岩	SI216	Q1016	
71	砥石	( 6.5)	8.8	3.8	(310.4)	砂岩	SD 2	Q1040	
72	砥石	(10.4)	( 9.6)	( 4.2)	(470.7)	砂岩	SI219	Q1021	PL175
73	凹石	( 8.7)	7.8	( 3.3)	(329.1)	ホルンフェルス	表	採	Q27
74	門石	12.4	9.9	5.1	907.8	砂岩	表	採	Q31
75	砥石	(10.4)	6.9	4.9	421.9	砂岩	SI218B	Q1019	PL175
第441回76	砥石	10.9	8.1	3.3	435.5	砂岩	SI218B	Q1018	PL175
77	砥石	12.0	4.9	2.8	286.4	緑色凝灰岩	SI115	Q 5	
78	砥石	11.1	5.9	4.9	563.3	緑色凝灰岩	SI218B	Q1020	PL175
79	砥石	( 6.7)	( 3.9)	3.3	(91.4)	砂岩	表	採	Q17
80	砥石	( 8.4)	4.7	4.5	(258.4)	砂岩	表	採	Q28
81	双孔円板	4.4	0.8	0.3	25.8	滑石	SI183A	Q1006	PL173
82	紡錘車	( 1.1)	[ 3.7]	0.7	( 7.1)	滑石	表	採	Q1033
83	紡錘車	( 2.0)	( 3.7)	( 0.6)	( 5.7)	滑石	表	採	Q1034
84	砥石	9.5	6.5	2.5	196.9	砂岩	表	採	Q1039
85	砥石	( 7.5)	4.0	1.6	(55.3)	凝灰岩	表	採	Q1037
86	砥石	( 7.4)	4.3	2.6	(120.1)	凝灰岩	表	採	Q1038
87	砥石	( 5.9)	( 2.3)	( 2.2)	(40.9)	緑色凝灰岩	表	採	Q1035
88	砥石	( 3.9)	4.9	1.7	(46.6)	凝灰岩	表	採	Q1036

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考		
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第442回89	刀 子	4.4	0.4	0.5	( 2.9)	表	採	M34	95%
90	不明鉄製品	( 3.3)	0.8	0.2	( 2.1)	表	採	M26	95%
91	煙 管	1.5	3.4	0.6	( 3.0)	表	採	M1035	95%
92	煙 管	( 3.3)	1.5	-	( 3.5)	SI110	M 5	M 5	95%
93	煙 管	( 2.9)	-	0.8	( 2.9)	表	採	M1036	95%
94	煙 管	( 6.1)	0.8	0.3	( 3.2)	表	採	M1037	95%

図版番号	(古 銭) 鏡 種	初 鑄 年		出土地点	備 考		
		時 代	年号 (西暦)				
95	平造元寶	北 宋	平造元年 ( 995年)	表	採	M1043真書	PL179
96	祥符元寶	北 宋	大中興符元年 (1009年)	表	採	M1042真書	PL179
97	天禧通寶	北 宋	天禧元年 (1017年)	表	採	M1041真書	PL179
98	咸和通寶	北 宋	咸和元年 (1111年)	表	採	M1039真書	PL179
99	熙寧元寶	北 宋	熙寧元年 (1068年)	表	採	M1040真書	PL179
100	□ □ 元寶	不 明	不 明	表	採	M1038	PL179

## 第4節 まとめ

### 1 はじめに

木工台遺跡は、北浦町の北東部、行方台地東部の標高31～35mの台地縁辺部から南に伸びる舌状台地上に位置している。その東側には北浦が湖水を湛えている。

当遺跡の周辺には、北西方向1.25kmに6世紀後葉の礼場古墳群が、北西方向0.64kmに7世紀中葉から8世紀初頭にかけての成田古墳群が存在している。

当遺跡からは、2年次にわたる調査で竪穴住居跡301軒、鍛冶工房跡3軒、掘立柱建物跡10棟、土坑394基、地下式竈2基、不明遺構2基が検出された。竪穴住居跡の時代別内訳は縄文時代前期1軒、弥生時代中期5軒、古墳時代後期112軒、奈良・平安時代170軒、時期不明13軒である。

遺物は、古墳時代後期から奈良・平安時代の土師器や須恵器等で、竪穴住居跡の覆土及び床面から出土している。また、鉄製品のほか、羽口、鉄滓等も出土している。

この木工台遺跡は縄文時代前期（黒浜式期）、弥生時代中期末葉（銚子市佐野原遺跡併行）、及び古墳時代後期（6世紀前葉）から平安時代（10世紀後葉）まで集落として存在したことが明らかになった。ここでは出土土器によって時期区分し、集落変遷について述べて、まとめとする。

### 2 木工台遺跡の時期区分について

当遺跡の出土土器については、下記の1～17期に分けることができる。

#### 木工台1期

第220号住居跡の土器が該当し、縄文時代前期の黒浜式土器である。

#### 木工台2A期

第237B号住居跡の土器が該当し、弥生時代中期末葉の弥生土器広口壺、甕が該当する。広口壺は口縁部に2本歯歯による連弧文、胴部には付加条一種付加1条の縄文が施されているものと、搬入品と思われる南関東系のものが共存して出土している。

#### 木工台2B期

第256号住居跡の土器が該当し、弥生時代後期後葉の弥生土器広口壺、高坏等が該当する。広口壺の頸部には簾状文、胴部には付加条一種付加2条の縄文が施されている。二軒屋式土器と思われる。

#### 木工台3期

第158号住居跡の土器が該当し、土師器坏類は須恵器坏蓋の模倣坏が主体をしめ、口縁部が外反する形態（舞台式類似）のもの（1）と口縁部が直立する形態のもの（5、6）とがある。法量は口径12.2～15.1cmである。技法は、内・外面に磨きが施され、赤彩されている。

甕類は胴部が胴形をしたものが主体をしめる。長胴化傾向の甕（14）も一部に見られる。技法は胴部へラ削り後、丁寧なナアが施されている。

甕類は鉢形を呈し、口縁部はわずかに外反する。技法は胴部に縦位または斜位のへラ削りが施されている。

#### 木工台4期

第112号住居跡の土器が該当し、土師器坏類は須恵器坏身の模倣坏と坏蓋模倣坏が混在する。坏身模倣坏は体部との境に明瞭な稜を持ち、口縁部が内傾（1～3）する。坏蓋模倣坏は口縁部が外反する形態（7、8）と直立する形態（5）のものがある。

甕類は最大径が胴部上位にあり、前期に比べ長胴化の傾向にある。技法は、胴部に斜位のへラ削りが施される。

#### 木工台5期

第179号住居跡の土器が該当し、土師器環類は須恵器環身の模倣環が主体をしめ、大型化する。坏蓋模倣環は少なくなる。技法はヘラ磨きが施され、内・外面黒色処理されたものが大部分を占める。

鉢類は、横ナデにより幅広い口縁部を持つ。

甕類は、口縁部と体部との境に明瞭な稜を持つものと、口縁端部を外上方につまみ上げた常総型甕がある。

#### 木工台6期

第225号住居跡の土器が該当し、土師器環類は須恵器環身の模倣環が主体をしめる。坏身模倣環は、口縁部と体部との境の稜が弱くなり、口縁部が屈曲する形態（4，6）で、法量は口径12.6～14.8cmである。また従来の坏身模倣環と同じであるが小型化するものがある。法量は10.3～12.7cmである。技法はヘラ磨きが施され、内・外面黒色処理が大部分をしめる。

甕類は、口縁端部がつまみ上げられる常総型甕である。技法は体部中位から下位にかけてヘラ磨きが施される。

飯類は、常総型甕の影響を受け口縁端部がつまみ上げられている。また、口縁部と体部との境に明瞭な稜を持つ。技法は体部にヘラ削りが施されている。

#### 木工台7期

第181B号住居跡の土器が該当し、土師器環類は6期と同じく口縁部が屈曲する環（1，6）が残る。新しく体部から口縁部にかけて丸みを持つ環（2，5，7）が出現する。技法は坏身模倣環は内・外面黒色処理が施され、丸みを持つ環は内面に放射状のヘラ磨きが施される。

飯類は口縁端部がつまみ上げられており6期と変化はないが、体部にヘラ磨きが施される。

小形甕類は、口縁端部がつまみ上げられ常総型甕の影響を受けている。法量は口径14.1cm、器高14.9cm、底径8.6cmで口径に比べ底径が大きい。技法は内・外面に丁寧なナデが施されている。

#### 木工台8A期

第216号住居跡の土器が該当し、土師器環類は、7期で丸みを持つ環が半球形の形態になる。法量は、口径10.3～11.2cmの小型のもの、口径13.6cm前後の中型のものがある。技法は内面に放射状のヘラ磨きが施されている。

甕類は常総型甕が主体をしめ、7期に比べ口縁端部のつまみ上げがより明確になり、体部下半にヘラ磨きが施される。

この時期になると在地の須恵器が共存するようになる。

#### 木工台8B期

第133号住居跡の土器が該当し、土師器環類は須恵器坏蓋の模倣環の稜の名残が見られ、口縁部が短く外反する。

須恵器環は、平底で体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる形態である。法量は口径12.1～13.8cm、器高3.5～4.0cm、底径6.4～8.0cmである。技法は体部下端、及び底部に回転ヘラ削り調整が施されている。胎土に雲母を含んでいる。

須恵器坏蓋はボタン状の扁平なつまみが付き、口縁部内面に短いかえりが付けられている。法量は口径13.0～13.8cmである。胎土に雲母を含んでいる。須恵器は器形や胎土から新治村新治産地と思われる。

#### 木工台9期

第87号住居跡の土器が該当し、土師器環類は丸底で弱い稜を持ち、口縁部が短く外反する。



土師器甕類は常総型甕主体である。

須恵器坏類は平底の小形坏と丸底気味の大形坏がある。法量は口径10.2cm、器高5.0cm、底径5.4cmの小形の坏(10)、口径14.8cm、器高4.2cm、底径11.2cmの大型の坏(11)がある。技法は、底部調整が手持ちヘラ削り(10)と回転ヘラ削り(11)に分かれる。11は胎土に雲母を含んでいる。

須恵器坏蓋類はボタン状のつまみを有し、口縁部内側に短いかえりを持っている。法量は口径14.6cmの小型蓋(14)、16.1cmの大形蓋(15)がある。胎土に雲母を含んでいる。

#### 木工台10期

第41号住居跡の土器が該当し、須恵器坏類が主体になる。

須恵器坏類は平底で底径が広く、器高が低い。法量は口径13.8~14.2cm、器高3.6~4.3cm、底径8.6~9.0cmである。技法は、底部手持ちヘラ削り調整(10~12)と、底部周縁のナデ(13)が施されているものがある。胎土には雲母(10~11)と白色針状物(13)を含むものがある。

須恵器坏蓋類は擬宝珠のつまみを持ち、口縁部は短く折り返し、内面にかえりを持つ坏蓋は見られなくなる。坏蓋の法量は、口径20.2cmと大形である。胎土には雲母を含んでいる。

土師器甕類は常総型甕が主体で、9期に比べ口縁端部のつまみ上げが強くなる。

#### 木工台11期

第100号住居跡の土器が該当し、器種は須恵器の坏、高台付坏、甕、高盤、蓋、鉢、土師器の常総型甕である。

須恵器坏類が主体をしめる。法量は口径12.4~14.8cm、器高3.7~5.3cm、底径5.8~9.1cmで、10期よりも口径が大きく、器高が高くなっている。技法は、底部回転ヘラ削り(9、16)と底部手持ちヘラ削り(8、10~14)である。胎土は雲母(12、15)と白色針状物(10)を含むものがある。

須恵器高台付坏類は大形、小形のものがある。

須恵器蓋類は口径13.4cm前後のものと16.2~19.7cmのもの2種類に分けることができ、胎土には雲母(28)、白色針状物(26)を含むものがある。

須恵器盤類は口径19.2~20.0cmで、中形の盤である。

須恵器鉢類は、外面に横位の平行叩きが施されている。

これらの須恵器は胎土に雲母や白色針状物を含む物があり、特に雲母を含むものが多い。

#### 木工台12期

第1号住居跡の土器が該当し、器種は土師器の坏、高台付坏、常総型甕、須恵器の坏、高台付坏、甕である。土師器坏は法量が口径26.0cm、器高5.7cm、底径8.2cmと大型である。技法はロクロ整形で内面ヘラ磨き、内面黒色処理が施されている。

土師器高台付坏の法量は、口径14.8cm、器高5.5cmである。技法は土師器坏と同じである。この時期に須恵器の高台付坏を模倣したものが出現する。

須恵器坏類は法量が口径13.0~13.4cm、器高4.2~4.3cm、底径7.7~7.9cmで、11期に比べ器高が高く、底径が小さくなっている。技法は底部手持ちヘラ削りが大部分をしめるが、体部下端が回転ヘラ削り(4)と、手持ちヘラ削り(5)のものがある。

須恵器高台付坏は、法量が口径12.0~13.0cmと17.1cm前後の2種類があり、胎土に白色針状物を含むものがある。

#### 木工台13期

第13号住居跡の土器が該当し、器種は土師器の高台付碗、常総型甕、須恵器の坏、高台付坏、鉢である。

土師器高台付碗は法量が口径13.6cm、器高4.5cmである。技法はロクロ整形で内面へラ磨き、内面黒色処理が施されている。

須恵器坏類は、法量が口径13.0~14.1cm、器高3.8~4.9cm、底径5.0~7.2cmで、11期に比べ底径が小さくなっている。技法は、底部手持ちへラ削りが大部分をしめるが、体部下端が回転へラ削り（3）、手持ちへラ削り（4、5）のものもみられる。

須恵器高台付坏類は、2種類の大きさのものがある。

須恵器鉢類は、外面に擬格子目叩きが施されている。

これらの須恵器は胎土に雲母を含む物がある（3、4、6、7、8）。

#### 木工台14期

第135A号住居跡の土器が該当し、器種は土師器の坏、常総型甕、須恵器の坏、高台付坏、鉢、灰釉陶器碗、長頸瓶である。土師器坏が主体である。

土師器坏は法量が口径12.4~13.6cm、器高3.9~4.5cm、底径5.4~6.4cmである。技法はロクロ整形で内面へラ磨き、内面黒色処理、底部回転へラ削りが施されており、胎土に雲母を含むもの（1、2、4）がある。

須恵器坏類は法量が口径12.4~13.1cm、器高4.0~4.4cm、底径5.4~6.4cmで、底径が小さく、体部に丸みを持っている。技法は体部下端回転へラ削り（8）、手持ちへラ削り（9、10）の調整の違いをもつものがある。

須恵器鉢類は、外面に縦位の平行叩きが施されている。

灰釉陶器は碗（13）、長頸瓶（14）共に黒径の90号窯式である。

#### 木工台15期

第135A号住居跡の土器が該当し、器種は土師器の坏、高台付碗、足高高台付碗、甕である。土師器坏が主体で、足高高台付碗を伴っている。

土師器坏は法量が口径13.2~13.6cm、器高3.5~3.9cm、底径4.6~6.8cmで、14期に比べ口径が大きく、器高が低い。技法はロクロ整形、底部糸切り不調整である。内面へラ磨き、内面黒色処理が施される坏は少なくなる。胎土に雲母を含むもの（1、2、3）がある。

土師器高台付碗は法量が口径14.0cm、器高5.8cmである。技法はロクロ整形で内面へラ磨き、内面黒色処理が施されている。

土師器足高高台付碗は法量が口径15.2cm、器高7.0cm、底径8.6cm、高台高2.4cmである。技法はロクロ整形のみで、胎土に雲母を含むもの（4、5）がある。

土師器甕は、小形化し、口縁部が短く外反し、口縁端部が丸くなる。

#### 木工台16期

第109A号住居跡の土器が該当し、器種は土師器の坏、高台付碗、甕である。土師器坏が主体である。ロクロ整形で器高の低くなった土師器坏と高台付碗を伴っている。

土師器坏は法量が口径10.9~11.6cm、器高3.1~3.5cm、底径5.4~5.7cmで、15期に比べ口径が小さく、器高が低くなる。技法はロクロ整形、底部糸切り不調整である。内面へラ磨き、内面黒色処理が施される坏（4）は少なくなる。胎土に雲母を含むもの（1、4、5、6）がある。

土師器高台付碗は法量が口径13.9~16.5cm、器高6.0~6.8cm、高台径6.9~7.7cm、高台高1.4~1.5cmである。技法はロクロ整形で不調整のもの（8、9）と内面へラ磨き、内面黒色処理が施されているもの（7、10、11）があり、胎土に雲母を含むもの（7、10、11）がある。

#### 木工台17期

第236A号住居跡の土器が該当し、器種は土師器の小皿、高台付碗、足高台付碗である。土師器小皿と高台付碗が主体で、小皿と足高台付碗が共存している。

土師器小皿は法量が口径9.5~11.0cm、器高2.1~2.5cm、底径5.6~6.4cmである。技法はロクロ整形、底部糸切り不調整である。すべての胎土に雲母を含んでいる。

土師器高台付碗は法量が口径14.8~16.8cm、器高5.0~6.1cm、底径6.8~8.4cm、高台高0.8~1.0cmで、高台が短くなる。技法はロクロ整形で内面へら磨き、内面黒色処理が施されている。胎土に雲母を含んでいる。

土師器足高台付碗は法量が口径15.6cm、器高6.0cm、底径9.5cm、高台高2.3cmで、15期のものよりも体部は丸味を持って立ち上がる。技法はロクロ整形のみで、胎土に雲母を含んでいる。

### 3 集落について

#### (1) 集落の立地について

当遺跡は、南北に入り込んだ小支谷を囲む台地上に形成されている。

#### (2) 集落の変遷と特色について

#### 木工台1期

本期にあたる住居跡は1軒(第220号住居跡)で、小支谷西側の舌状台地の中央部に位置している。平面形は隅丸方形で、規模は一辺約3.9mである。主軸方向はN-81°-Eである。

#### 木工台2期

本期にあたる住居跡は5軒で、西側の舌状台地中央部の標高約33m付近に集中して位置している。平面形は隅丸方形2軒、方形1軒、楕円形1軒である。規模は、長軸4.4~7.3m、短軸3.5~5.8mの範囲である。主軸方向はN-45°-W~N-24°-Eの範囲である。

#### 木工台3期

本期にあたる住居跡は7軒である。そのうち、4軒は西側の舌状台地中央部の緩斜面に集中し、3軒は散在している。平面形は方形で、一辺が5.2~6.3mとはほぼ同規模である。主軸方向はN-4°~35°-Eの範囲にあり、北方向を意識して構築されたと考えられる。貯蔵穴をもつ住居跡が3軒(第15、158、238号住居跡)みられ、北東コーナー部や南東コーナー部に付設されている。

#### 木工台4期

本期にあたる住居跡は21軒で、3期の約4倍の住居跡が検出されている。住居跡の分布も広がり、西側の舌状台地中央部からその基部にかけての南北約200mの範囲に弧を描くように形成されている。平面形は、方形または長方形である。規模は、長軸または一辺が4.0~6.3mで、3期と比べてそれほど違いはない。主軸方向はN-28°-W~N-31°-Eとはほぼ北方向のものが16軒と大半を占めているが、東方向のものが5軒みられる。

#### 木工台5期

本期にあたる住居跡は31軒で、4期より増加している。住居跡の分布は小支谷を囲むようにして、西側の舌状台地の地形に沿うように弧を描いて形成されている。その中心には、他の住居跡と距離を置き、大形の住居跡(第115、120D、126A・C、132B号住居跡)がみられる。平面形は、方形または長方形である。規模は4期より大形化の傾向にある。長軸または一辺が10m以上のものが2軒、5~10mのものが24軒、5m未満のものが5軒である。主軸方向はN-46°-W~N-30°-Eの範囲であるが、その中でもN-15°-W~N-15°

- Eのものが多い。第235号住居跡は竈側から土器が一括投棄されており、祭祀的要素が強いと考えられる。

#### 木工台6期

本期にあたる住居跡は17軒で、5期より減少している。住居跡の分布状況に特徴は認められず、台地の中央部及び西側の舌状台地中央部と基部に散在している。平面形はほとんどが方形である。規模は、一辺5m未満のものが半数以上となり、再び小形化してくる。主軸方向は、 $N-43^{\circ}-W \sim N-9^{\circ}-E$ の範囲であるが、ほとんどが北方向に竈をもつ。覆土が人為堆積である住居跡が6軒確認された。

#### 木工台7期

本期にあたる住居跡は11軒で、そのほとんどが西側の舌状台地中央部と基部に散在している。平面形はすべて方形で、規模は一辺が3.6~7.2mとばらつきがある。主軸方向は、 $N-30^{\circ}-W \sim N-21^{\circ}-E$ の範囲である。

#### 木工台8期

本期にあたる住居跡は14軒で、そのうち11軒が西側の舌状台地中央部及び基部に、3軒が東側の舌状台地の基部に位置している。平面形は長方形または方形である。規模は、長軸または一辺が3.4~6.6mの範囲にあり、7期とほぼ同規模である。主軸方向は $N-32^{\circ}-W \sim N-10^{\circ}-E$ の範囲にあり、北方向を意識して構築されたと考えられる。

#### 木工台9期

本期にあたる住居跡は32軒で、5期に次ぐ軒数である。しかし、5期の住居跡が西側の舌状台地に集中していたのに対して、本期の範囲は台地中央部と東側の舌状台地にまで広がりをみせている。西側の舌状台地の住居跡は15軒、台地中央部の住居跡は6軒、東側の舌状台地の住居跡は11軒である。平面形は長方形または方形である。規模は2.1~8.6mの範囲にあり、大きさに統一性はないが、4~6mのものが多い。主軸方向は $N-30^{\circ}-W \sim N-14^{\circ}-E$ の範囲にあるが、1軒だけ $N-113^{\circ}-E$ で東に竈をもつ住居跡がみられる。

#### 木工台10期

本期にあたる住居跡は7軒で、9期に対して著しく減少している。住居跡は散在している。平面形は方形である。規模は3.7~4.8mの範囲にあり、9期よりわずかに小形化している。主軸方向は $N-16^{\circ}-W \sim N-26^{\circ}-E$ の範囲にある。鍛冶工房跡が、東側の舌状台地の基部から1軒検出されている。

#### 木工台11期

本期にあたる住居跡は30軒で、西側の舌状台地から7軒、台地中央部から4軒、東側の舌状台地の基部から19軒が確認されている。このことから、これまでどちらかという集落の中心が西側の舌状台地にあったのが、東側へ移行したのではないかと考えられる。平面形は長方形または方形である。規模は2.5~5.7mの範囲にあり、10期とほぼ同規模である。主軸方向は $N-34^{\circ}-W \sim N-30^{\circ}-E$ の範囲にあるが、1軒だけ $N-102^{\circ}-E$ で東に竈をもつ住居跡がみられる。

#### 木工台12期

本期にあたる住居跡は26軒で、西側の舌状台地から6軒、台地中央部から12軒、東側の舌状台地から8軒確認されている。また、この3か所の住居跡は、それぞれまとまって分布している。平面形は長方形または方形である。規模は、長軸または一辺が2.7~6.5mの範囲にあるが、ほとんどが3.5~4.5mの範囲にある。それに対し、西側の舌状台地の住居跡(第126B, 127B, 132A, 145B)は5.8~6.5mの範囲にある。主軸方向は $N-68^{\circ}-W \sim N-82^{\circ}-E$ の範囲であるが、その中でも $N-16^{\circ}-W \sim N-14^{\circ}-E$ のものが多い。東に竈をもつ住居跡が2軒みられる。

#### 木工台13期

本期にあたる住居跡は16軒で、馬蹄形の台地上に散在している。平面形は長方形または方形である。規模は、長軸または一辺が2～4mで、小形の住居跡が大部分であり、最大のもので一辺が約6.1mである。主軸方向はN-56°-W～N-103°-Eの範囲である。東に竈をもつ住居跡は、12期と同じく2軒みられる。

#### 木工台14期

本期にあたる住居跡は21軒で、そのうち9軒が西側の舌状台地中央部に集中している。平面形は長方形または方形である。長軸または一辺が2～4mの小形の住居跡が16軒と多い。主軸方向はN-32°-W～N-92°-Eの範囲である。主柱穴をもたない住居跡が多くなる。

#### 木工台15期

本期にあたる住居跡は17軒であるが、集落分布に特徴はみられない。平面形は長方形または方形である。規模は、長軸または一辺が2～4mで、小形の住居跡が多い。主軸方向はN-2°-W～N-111°-Eの範囲であるが、特にN-66°～111°-Eの範囲の東に竈をもつ住居跡が11軒と半数以上みられるようになる。

#### 木工台16期

本期にあたる住居跡は13軒である。東側の舌状台地の基部に6軒が集中しているが、その他は散在している。平面形は長方形または方形で、規模は2～4mで小形の住居跡が多い。主軸方向はN-10°-W～N-97°-Eの範囲であり、ほとんどが東に竈をもつ住居跡である。鍛冶工房が東側の舌状台地の基部から1基、西側の舌状台地の中央部から2基検出されている。

#### 木工台17期

本期にあたる住居跡は2軒である。平面形は長方形で、規模は長軸が約5mである。主軸方向はN-82°-W～N-90°-Eの範囲であり、2軒とも東に竈をもつ住居跡である。

## 4 おわりに

木工台遺跡について出土土器を基に時期区分し、集落の変遷を考えてみた。その成果と今後の問題点について取り上げる。

### (1) 成果について

弥生時代については、中期末葉の弥生土器がセットで出土しており、それが南関東系の搬入品と共伴していることから貴重な資料を得ることができた。

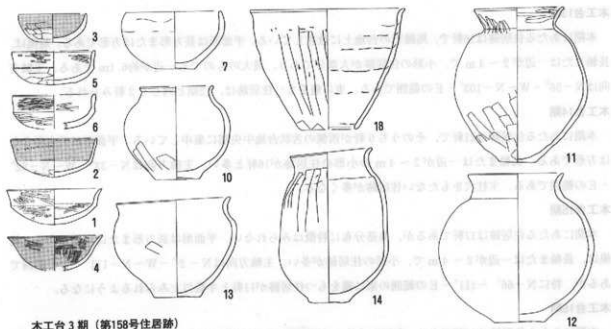
古墳時代後期については、大きく6区分したが、後期前葉から後葉にかけて継続する遺跡であるため、各地域の土器編年と対比することにより相対的な時期区分がおこなえた。

奈良・平安時代については、出土した須恵器の胎土に雲母や白色針状物が混入していることから、新治窯産、木葉下窯産の須恵器が出土していることにより、須恵器を基準に時期を区分することができた。

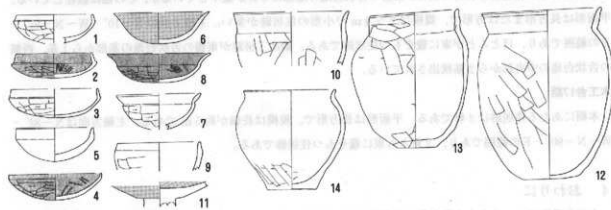
### (2) 今後の問題点について

当集落と隣接する礼場古墳群、成田古墳群との関係について、さらに分析が必要である。この時期において祭祀的要素が強い遺構（第235号住居跡）が検出されており、その大量の遺物廃棄状況や遺物の内容についても詳細に調べることで、大量の遺物廃棄の目的などにせまりたい。

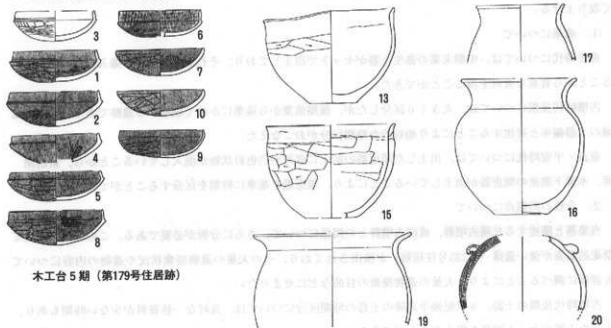
古墳時代後期の土器、9世紀後半以降の土器の時期区分については、良好な一括資料が少ない時期もあり、十分な土器のセット関係を捉えることができなかった。



木工台 3期 (第158号住居跡)

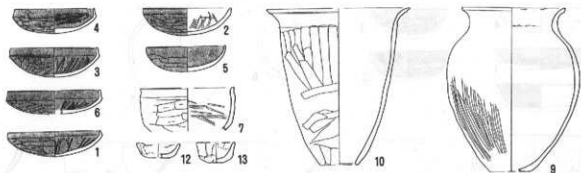


木工台 4期 (第112号住居跡)

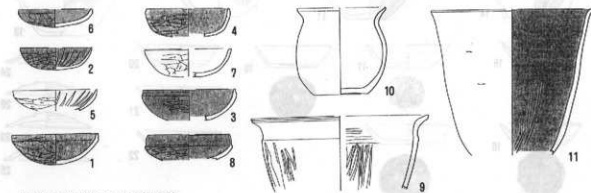


木工台 5期 (第179号住居跡)

第443図 木工台 3～5期の土器群

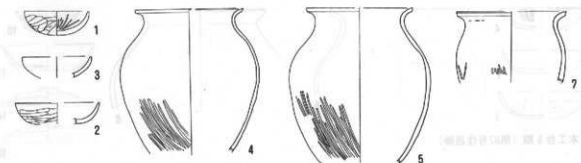


木工台6期(第225号住居跡)

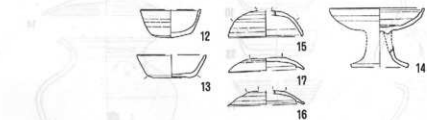


木工台7期(第181B号住居跡)

(複製の字は打点) 複製は台工本



(複製の字は打点) 複製は台工本

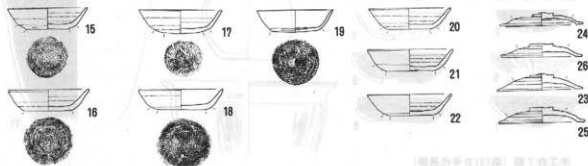
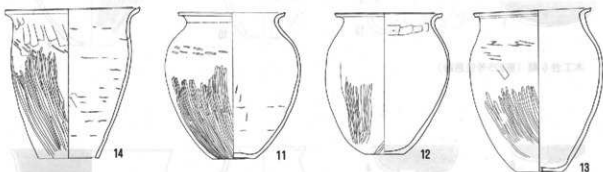
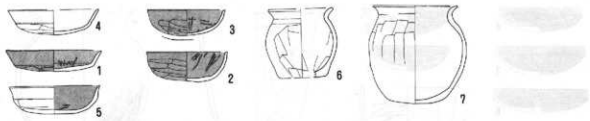


木工台8A期(第216号住居跡)

(複製の字は打点) 複製は台工本

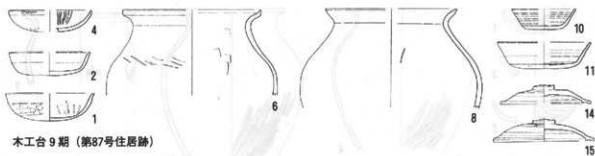
第444図 木工台6～8A期の土器群

複製土の原01～03台工本 図244類

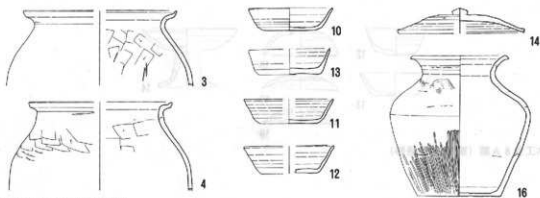


木工台 8 B 期 (第133B号住居跡)

〔新石器時代(旧石器) 第1号住居跡〕



木工台 9 期 (第87号住居跡)

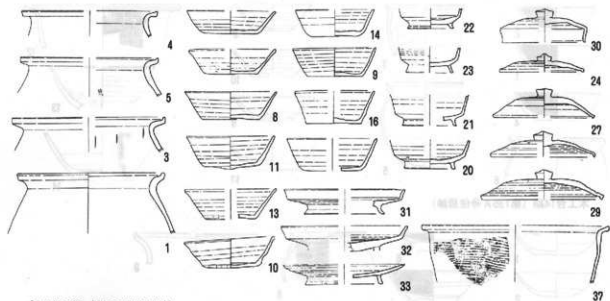


木工台10期 (第41号住居跡)

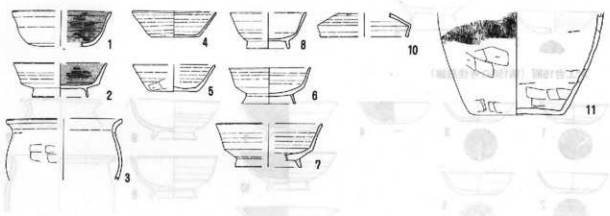
第445図 木工台 8 B ~10期の土器群

新石器時代の土器 A 6-8 号 木工台 第445図

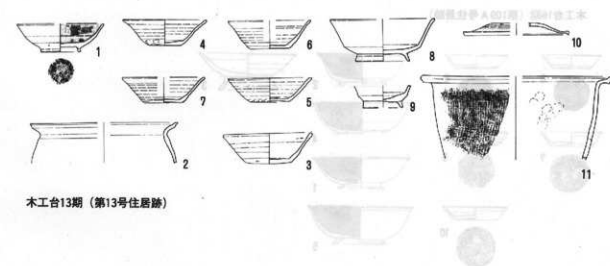




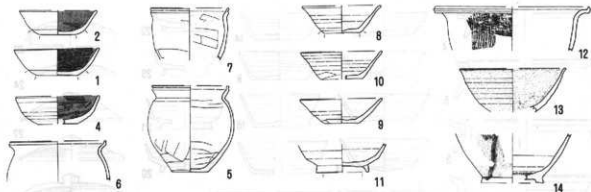
木工台11期 (第100号住居跡)



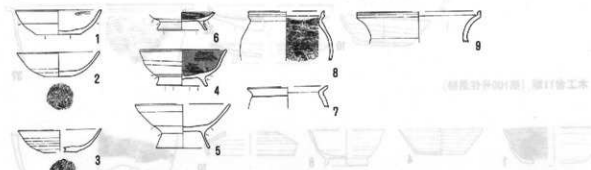
木工台12期 (第1号住居跡)



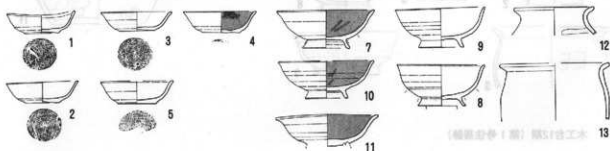
木工台13期 (第13号住居跡)



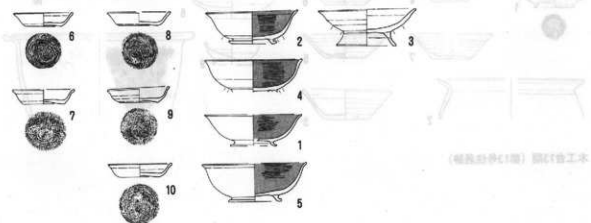
木工台14期 (第135A号住居跡)



木工台15期 (第150C号住居跡)



木工台16期 (第109A号住居跡)



木工台17期 (第236A号住居跡)

第447図 木工台14~17期の土器群

新石器時代の土器群 図447



第448図 木工台遺跡集落平面図1



第449图 木工台遺跡集落変遷図2

参考文献

- (1) 茨城県教育財団「北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 炭焼遺跡 礼場古墳群 三和貝塚 成田古墳群」『茨城県教育財団文化財調査報告』第130集 1998年3月
- (2) 茨城県教育財団「北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 木工台遺跡1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第140集 1998年9月
- (3) 小玉 秀成「常陸地域における弥生土器編年の大枠」『霞ヶ浦沿岸の弥生文化』霞ヶ浦町郷土資料館 1998年
- (4) 茨城県『茨城県史料 考古史料編 弥生時代』1991年3月
- (5) 佐々木義則「木葉下窯跡群出土坏・盤類の法量分化について」『婆良岐考古』第11号 婆良岐考古同人会 1981年
- (6) 東国土器研究会【特集 黒色土器—展開と終焉】東国土器研究会 第3号 1990年
- (7) 東国土器研究会【特集 東国における律令制成立までの土器様相とその歴史的動向】東国土器研究会 第4号 1995年
- (8) 浅井 哲也「茨城県内における奈良・平安時代の土器(Ⅰ)」『研究ノート』創刊号 茨城県教育財団 1992年
- (9) 浅井 哲也「茨城県内における奈良・平安時代の土器(Ⅱ)」『研究ノート』2号 茨城県教育財団 1993年
- (10) 櫻村 宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』2号 茨城県教育財団 1993年
- (11) 櫻村 宣行・浅井哲也「常陸地域の鬼高式土器」『考古学ジャーナル』NO.342号 1992年
- (12) 川井 正一「茨城県域における須恵器窯跡出土資料について」『茨城県史研究』第75号 1995年
- (13) 吹野富美夫「常陸南部における古墳時代後期の土器様相」『列島の考古学』1998年
- (14) 荒井 保雄「大宮町下村田遺跡周辺の奈良平安時代の土器様相」『研究ノート』6号 茨城県教育財団 1996年



# 付 章

## 木工台遺跡から出土した炭化材の樹種

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

木工台遺跡では、これまでに行われた発掘調査で古墳時代～平安時代の集落が検出されている。住居跡の中には、焼失家屋も多数認められており、住居構築材などと考えられる炭化材も出土している。焼失家屋から出土した炭化材については、これまでに樹種同定が行われており、コナラ節、アカガシ亜属、クリ、スダジイなど、落葉広葉樹と常緑広葉樹が混在する樹種構成が確認されている（未公表資料）。

本報告では、住居構築材と考えられる炭化材の樹種を明らかにし、前回の結果と比較しながら用材に関する検討を行う。

### 1 試 料

試料は、SI-157から出土した炭化材5点（試料番号23～26, 29）である。

### 2 方 法

木口（横断面）・柀目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

### 3 結 果

樹種同定結果を表1に示す。炭化材は広葉樹3種類（コナラ属コナラ亜属クスギ節・クリ・ムクロジ）に同定された。各種類の解剖学的特徴などを、以下に記す。

・コナラ属コナラ亜属クスギ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*)      プナ科

環孔材で孔圏部は1～3列、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち、漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと同複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)      プナ科クリ属

環孔材で孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

表1 炭化材の樹種同定結果

遺 構 名	試料番号	用 途 等	樹 種
SI-157	23	住居構築材（部位不明）	コナラ属コナラ亜属クスギ節
	24	住居構築材（垂木）	ムクロジ
	25	住居構築材（垂木）	ムクロジ
	26	住居構築材（垂木）	コナラ属コナラ亜属クスギ節
	29	住居構築材（垂木）	クリ

・ムクロジ (*Sapindus mukorossi* Gaertn.)      ムクロジ科ムクロジ属

環孔材で孔部は、1～3列、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～2細胞幅、まれに3細胞幅、1～40細胞高。柔組織は周囲状～連合翼状、帯状およびターミナル状。

#### 4 考 察

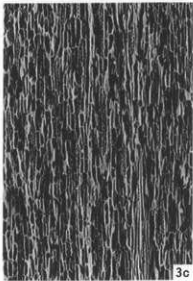
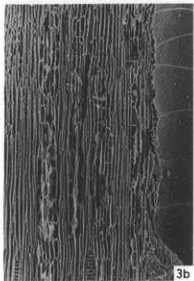
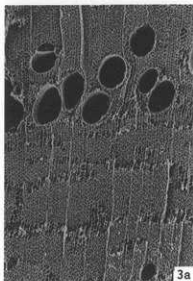
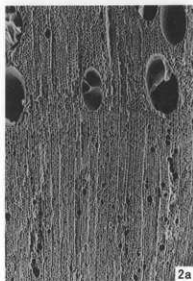
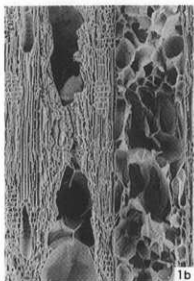
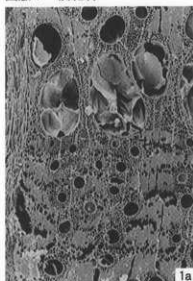
住居構築材と考えられる炭化材には、合計3種類が確認された。本遺跡で前回行われた住居構築材の樹種同定結果では、コナラ節・アカガシ亜属・クリ・スタジイ・エノキ属など、7種類の広葉樹が認められている(未公表資料)。今回の結果により、さらにクヌギ節やムクロジも利用されていたことが明らかになった。住居構築材は、基本的に遺跡周辺に生育していた樹木を利用したと考えられている(高橋・植木, 1994)。前回の結果から、遺跡周辺には落葉広葉樹と常緑広葉樹が生育していたことが指摘されている。今回の結果についても、ムクロジが暖温帯常緑広葉樹林の構成種であり、同様の植生が推定される。

#### 引用文献

高橋 敦・植木 真吾 (1994) 樹種同定からみた住居構築材の用材選択. PLYNO, 2, p. 5-18.



図版1 炭化材



1. コナラ属コナラ亜属クヌギ節
2. クリ (SI-157 No.29)
3. ムクロジ (SI-157 No.24)

a : 木口, b : 柀目, c : 板目

200 μm : a  
200 μm : b, c



掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可



掲載不可

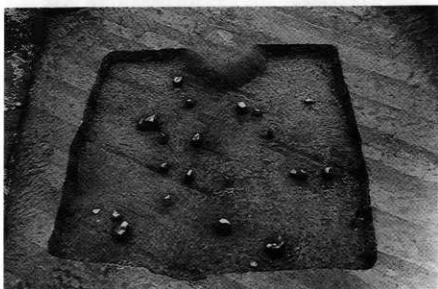
掲載不可

# 写 真 图 版





第108号住居跡



第108号住居跡遺物出土状況



第109A号住居跡



第109A号住居跡遺物出土  
状況



第109B号住居跡



第109B号住居跡遺物出土  
状況



第110A号住居跡



第110A号住居跡遺物出土状況



第110A号住居跡竈遺物出土状況

第110B号住居跡



第111号住居跡



第111号住居跡遺物出土状況







第112・113・114号住居跡



第112号住居跡



第112号住居跡遺物出土状況



第112号住居跡遺物出土状況



第112号住居跡壙



第112号住居跡遺物出土状況



第113号住居跡



第114号住居跡遺物出土状況